クボタコンバイン

取扱説明書

エアロスターラクリード

ER320・323

1ARADBOAP0010

OPERATOR'S MANUAL

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	ホーン
	エンジン回転数［**低回転**］
	エンジン回転数［**高回転**］
	ウインカランプ
1	ヘッドランプ
2	ヘッドランプと作業灯
STOP	エンジン停止
	燃料

専門用語の説明

用語	説明
● 予熱（グロー）	エンジンの始動を容易にするための補助装置
● SF ワンレバー	機体の操向操作と刈取部の昇降を行なうレバー
● デバイダ	こくかんを分けすくい上げる部分
● ドレーン（プラグ）	エンジンオイル・トランスミッションオイルの排油栓，ラジエータの水を抜く栓
● HST	油圧式の無段変速装置
● アジャスト	調節を意味する
● 主変速レバー	［前進］［後進］の切換え及びそのスピードをコントロールするレバー
● スローブローヒューズ	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
● １番スクリュ	精選されたこく粒を横搬送するスクリュコンベア
● ２番スクリュ	粗選されたこく粒やわらくずを横搬送するスクリュコンベア
● チャフシーブ（選別板）	こく粒を粗選する桟状の板
● トウミ	選別風を発生させるファン
● グレンシーブ	こく粒を精選するあみ体
● 送じん調節レバー	こぎ胴内の作物移動速度を調節するレバー
● 排じん調節	選別されたわらくずの排出に抵抗をかける板
● こぎ胴	脱こくするドラム
● フィードチェーン	稲を挟持搬送するチェーンコンベア
● 縦スクリュ	精選されたこく粒を縦搬送するスクリュコンベア
● こぎ胴オープン	こぎ胴を上に上げる機構
● 揺動板（シーブケース）	揺動運動してこく粒を選別する装置
● アンローダ	グレンタンクからもみを排出する筒

は じ め に

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法,簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安 全 第 一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお,⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では,特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危 険	注意事項を守らないと,死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警 告	注意事項を守らないと,死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注 意	注意事項を守らないと,ケガを負うおそれのあるものを示します。
重 要	注意事項を守らないと,機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補 足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲･麦の刈取り･収穫用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明は**［ER323 仕様］**を基本とし，**［ER323 仕様］**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って，機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

［例］　　ER323 G M W2
　　　　　①　 ②③④

①エンジン出力（刈取条数）によって ...... ［ER320］（3 条刈り）／［ER323］（3 条刈り）

②グレンタンク仕様 .... ［G 仕様］

③自動車体水平制御装置付き（片側モンロー） .... ［M 仕様］

④クローラによって......

種　類	リンク数	仕　様
360幅ワイドエリアクローラ	39	W仕様
400幅ワイドエリアクローラ	39	W2仕様

諸　装　置			
自動化装置	自動こぎ深さ制御		○
	刈取オートクラッチ［刈取部上昇時搬送駆動停止装置］		○
	自動脱こく制御		○
	アンローダ	自動旋回装置	○
		排出位置選択	○
	自動エンジン停止装置		○
刈取突込み防止装置			○
左分草かん開閉装置			○
枕こぎオートプレート			○
アンローダリモコン			△
パワークラッチ［刈取・脱こく］			○
パワークラッチ［もみ排出］			△
集中注油装置			○
刈取防じんカバー			△

○：標準装備　△：オプション（後付け可）

目　次

⚠安全に作業するために

サービスと保証について

装置の名称と取扱い

運転のしかた

収穫作業のしかた

メンテナンス

目　次

コンバインの不調と処置

付表

索引

⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください

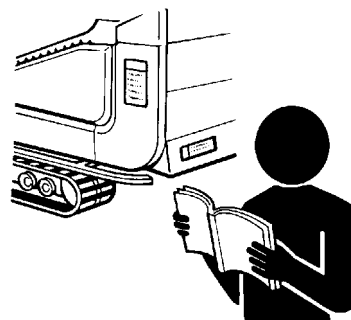
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

◆ 一般的な注意事項

⚠取扱説明書及び機械に貼付けている⚠表示ラベルをよく読み，正しい運転，作業方法を覚える。

- 本書記載事項以外についても，安全には細心の注意を払ってください。警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。

[守らないと]
死亡又は傷害を負うおそれがあります。

1BBAAAAAP0280

⚠体の状態が悪いときには運転操作をしない。

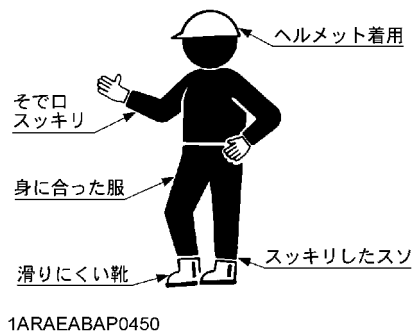
- 運転操作には的確な判断が必要です。下記状態の方は，機械の運転操作を行なわないでください。
  - **・お酒を飲んでいる方　・睡眠不足の方**
  - **・妊娠中のご婦人　　　・過労，病気の方**
  - **・16 歳未満の方**

[守らないと]
思わぬ事故の原因になります。

1ARAEABAP0420

⚠作業時には運転者，補助者とも作業に適した服ならびにヘルメット，滑りにくい靴を着用する。

- だぶついた服は着用しない。
- そで口はきっちりと止める。
- はち巻き，首巻き，腰タオルは着用しない。
- サンダル，スリッパなどの履物は着用しない。
- 必要に応じて安全靴，保護メガネや手袋などを着用する。
- 点検整備には帽子と安全な服装を着用する。
  作業内容によってはヘルメット，安全靴，保護メガネ，防塵マスク，防音具，保護手袋などの保護具を着用する。
  各保護具は使用前に機能を確認する。

ヘルメット着用
そで口
スッキリ
身に合った服
スッキリしたスソ
滑りにくい靴
1ARAEABAP0450

[守らないと]
レバーや作動部に引っ掛かったり，滑ったりして，傷害を負うおそれがあります。

⚠取扱説明書及び⚠表示ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させない。

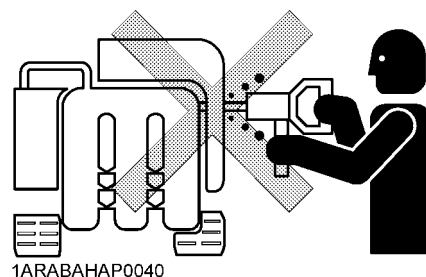
- 機械を他人に貸すとき，運転させるときは，取扱説明書を読ませるとともに，取扱方法や安全な使いかたを説明して，安全な作業ができるよう指導する。

[守らないと]
死亡又は傷害をまねくおそれがあります。

⚠注意
1AAACAAAP008A

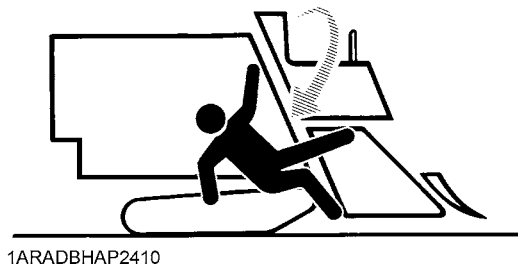
⚠機械を改造しない。

[守らないと]
安全性をそこない，思わぬ事故の原因になります。

1ARABAHAP0040

運転席に乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしない。

- 平坦な場所でハンドルをしっかり握り，すべらないようにステップに足をしっかり掛けて乗り降りする。

[守らないと]
転倒・転落し，傷害を負うおそれがあります。

1ARADBHAP2410

運転者以外は機械に乗らない。

- 動いている機械に飛び乗ったり，飛び降りたりしない。

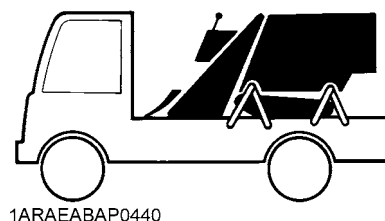
[守らないと]
振り落とされたり，ひかれたりして，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

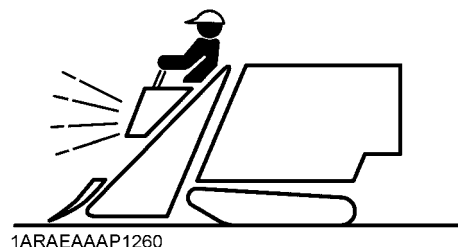
1ASABAAAP3730

公道を走行するときは交通法規や安全ルールを守る。

- 公道を走行する場合は，所定の手続きと運転免許証が必要です。
- 公道を走行できない機械は，トラックで運搬する。

[守らないと]
交通事故をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0440

夜間の作業や移動走行は避ける。

- やむをえず夜間作業を行なうときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯する。
- やむをえず夜間に移動走行するときは，必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯させる。

[守らないと]
交通事故や転倒・転落をまねき，死亡又は傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP1260

◆ 作業前の注意事項

⚠屋内で運転するときは，排気ガスに注意して適切な換気をする。

- 排気管を屋外に延長するか，ドアや窓を開け外気がじゅうぶん入るようにする。

［守らないと］
エンジンの排気ガスは有毒です。中毒を起こし死亡事故にいたるおそれがあります。

1ARAEAAAP0560

⚠燃料補給中は火気厳禁。くわえタバコや裸火照明は近づけない。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
- 燃料やオイルをこぼしたときは，きれいにふきとる。

［守らないと］
火災の原因になります。

1AAACAAAP001A

⚠機械を動かすときは周囲の安全に気をつける。

- ■ **エンジンを始動するときは，運転席に座って，主変速レバー，副変速レバーを［N］（中立）位置にし，駐車ブレーキを踏込み，ホーンを鳴らすなどの合図をする。**
- ■ **機械を発進するときや作業スイッチを押すときは，ホーンを鳴らすなど合図してから行なう。**

［守らないと］
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP0780

- ■ **初めて運転する人は，操作になれるまで低速で運転する。**

［守らないと］
思わぬ事故の原因となります。

1ARAEABAP0580

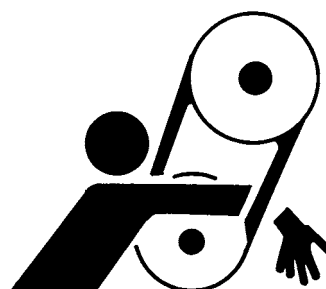
作業前点検（日常点検）を実施する。

■ 運転の前には点検項目（25 ページ参照）の点検を行なう。異常があれば整備してから運転する。

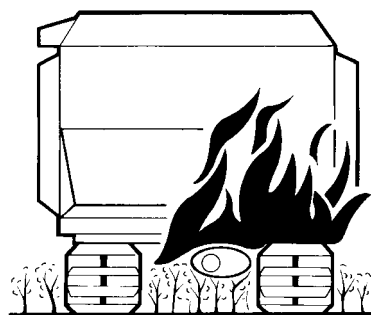
[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0460

■ 点検・整備・掃除・給油するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。
■ 取外した安全カバー，保護カバーは必ずもとどおりに取付けて作業する。

[守らないと]
回動部に巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

1AAAAABAP0180

■ マフラ周辺部，ベルトカバー内，バッテリ周辺にたまっているわらくずはきれいに取除く。

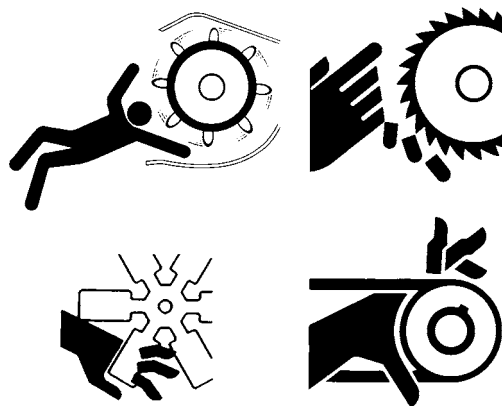
[守らないと]
火災の原因になります。

1ARAEABAP0600

■ 点検整備中及び作業中は機械に子供を近づけない。

[守らないと]
回転物に巻込まれたり，挟まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP0780

⚠刈取部，こぎ胴，カッタ，結束機，エンジンルーム，グレンタンクを開閉するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- 各部の開閉やグレンタンクの取外しは平たんな場所で行なう。
- こぎ胴，カッタ，結束機を開いたときは，ストッパを掛ける。
- 開いたままやグレンタンクを取外したままエンジンを始動しない。

1ARAAAAAP1130

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

◆ 移動走行・ほ場の出入り・駐車時の注意事項

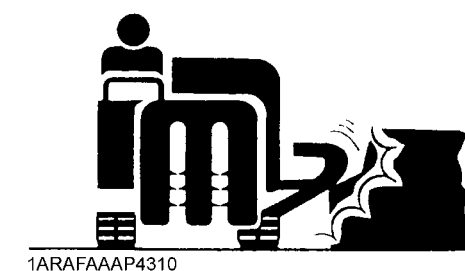
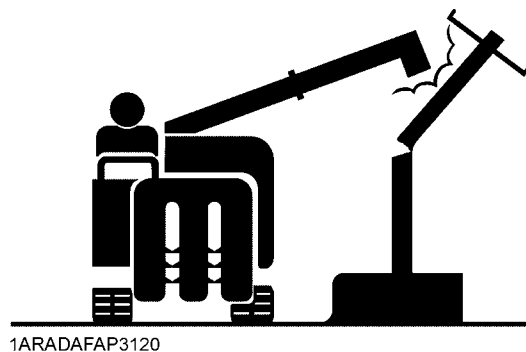
移動走行するときは，次の事項を守る。

- 作業スイッチを［切］（消灯），もみ排出クラッチを［切］位置にし，運転者以外に人を乗せない。
- もみはすべて排出する。
- 刈取部のデバイダ先端にはデバイダキャップを取付ける。
- 左分草かんを収納して，機体幅を狭くする。
- アンローダを下げ, 折りたたんでからアンローダ支えに収納してバンドを掛ける。

1ARADAFAP3120

- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。［M 仕様］

［守らないと］
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

1ARAFAAAP4310

移動走行時は急旋回をしない。

- 方向を変えるときは，走行速度を落として（低速にして），SF ワンレバーをゆっくり倒して旋回する。

［守らないと］
機械から振り落とされたり, 転倒するおそれがあります。

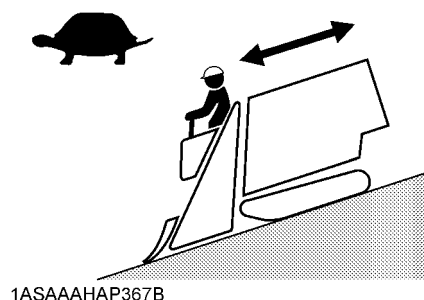
1ARAEAAAP0870

右又は，左方向の傾きがある傾斜地は走行しない。

- 坂道（傾斜地）やほ場の進入路では，上り又は，下り方向に低速でゆっくりと走行する。
- 坂道（傾斜地）では，右又は，左に傾いた方向に走行しない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回をしない。

［守らないと］
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

1ASAAAHAP367B

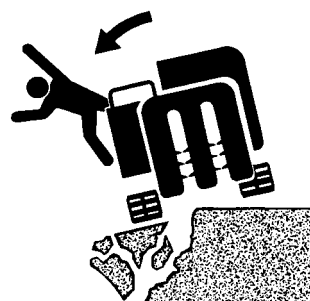
1ASAAAHAP368B

⚠坂道（傾斜地）では走行速度を落とす。

- もみは全て排出する。
- 坂道（傾斜地）では，走行速度が変わる副変速レバーの操作，進路方向が変わる急な SF ワンレバーの操作，エンジン回転数が自動上昇する作業スイッチの操作をしない。
- 坂道（傾斜地）では，斜め走行や旋回はしない。

1ARAEAAAP0860

［守らないと］
暴走したり，転倒するおそれがあります。

⚠道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）は，走行しない。

- 溝のある農道や，両側が傾斜している農道は路肩に注意する。
- 溝，穴，土手の近くは走行しない。
- 水溜まりや草のおい茂ったところなど，地面のよく見えないときは，事前に降車してよく確かめる。

1ARAEABAP0500

［守らないと］
機体のバランスをくずして転倒・転落するおそれがあります。

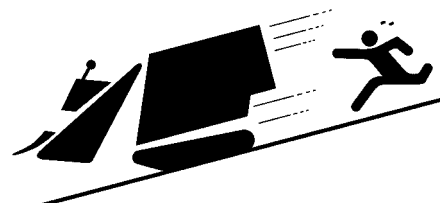
⚠ほ場の出入りで，あぜなど段差のあるところではあゆみ板を使う。

- 10cm以上の段差のあるところでは,段差の４倍以上の長さで基準に合ったあゆみ板を使う。
- あゆみ板は段差に直角に置く。
- もみはすべて排出又は，降ろす。

1ASABAAAP3710

［守らないと］
機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

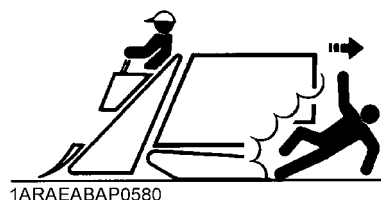
⚠駐車するときや運転席を離れるときは，平たんな場所に止め，副変速レバーを［作業］又は，［移動］位置にし，駐車ブレーキを掛け，刈取部を地面に当たるまで降ろして，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- やむをえず坂道（傾斜地）で駐車するときは，さらに木片などで確実に車止めをする。

1ARAEAAAP1290

［守らないと］
機械が暴走し，思わぬ事故のおそれがあります。

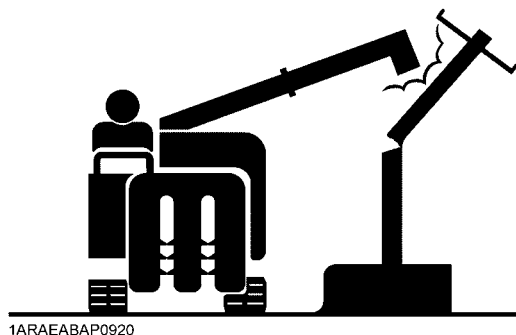
◆ 作業時の注意事項

共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なう。

- エンジン始動時，及び各作業のクラッチやスイッチを入れるときは，ホーンなどで合図し，必ず補助者の OK をもらう。
- 補助者が機械に近づくときは，運転者に知らせることを徹底させる。

[守らないと]
補助者は運転席からみえにくい位置にいることがあり，思わぬ事故を起こすおそれがあります。

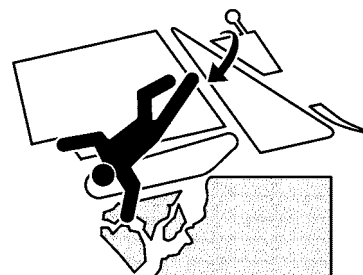
1ARAEABAP0580

アンローダを動かすときは，旋回範囲に人や障害物がないことを確認する。

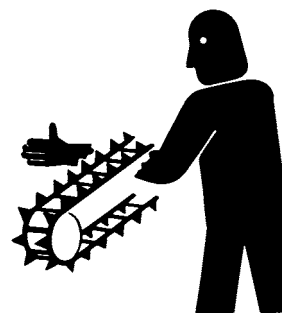
- 旋回範囲に人がいたり，障害物があるときは，アンローダを動かさない。
- 折りたたみ式のアンローダを伸ばして作業するときは，周囲に人や障害物がないことを確認する。
- アンローダは，アンローダ支えに収納した状態で作業を行なう。

[守らないと]
人や物を傷つけたり，機体のバランスをくずして転倒するおそれがあります。

1ARAEABAP0920

すみ刈りを行なうときは後方をじゅうぶん確認する。

[守らないと]
後退し過ぎると，転倒・転落するおそれがあります。

1ARAEAAAP1300

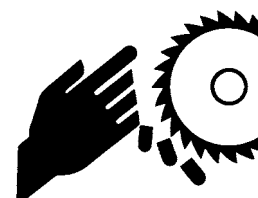
⚠手刈脱こく作業するときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側にして，少量ずつ供給する。

- 機械は平たんな場所に止めて，刈取部を止め，駐車ブレーキをかける。
- そで口はきっちり止めて，手袋・はち巻き・首巻き・腰タオルは着用しない。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。**[M 仕様]**
- 刈取防じんカバー付きの機械は，刈取防じんカバーを開ける。
- 主変速レバーを **[N]（中立）** 位置にして刈取部の回転が停止し，枕こぎプレートを下げた状態で，プレートの上にわらを乗せて手刈り脱こくを行なう。
- 脱こく部入り口にたまった，わらやもみなどを脱こく部に入れるときは，チェーンに手や腕が巻込まれないように，少量ずつ行なう。

[守らないと]
チェーンに巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0570

⚠異常に気づいたら，すぐエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

- わらの巻付きや詰まりを取除くときや，もみの点検・掃除をするときは，各作業クラッチレバーを **[切]** 位置にし，エンジンを必ず止めて処置する。
- カッタに詰まったわらなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除く。
- 素手で刃先には触らない。

[守らないと]
カッタ刃やチェーンなどの作動部に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP0460

1ARAEABAP0550

⚠点検や掃除で外したカバーは，必ず取付けること。

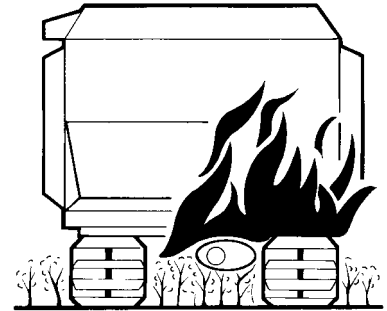
- ベルトやチェーンのカバー，及び掃除口や点検窓のカバーなどを外したままで運転しない。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

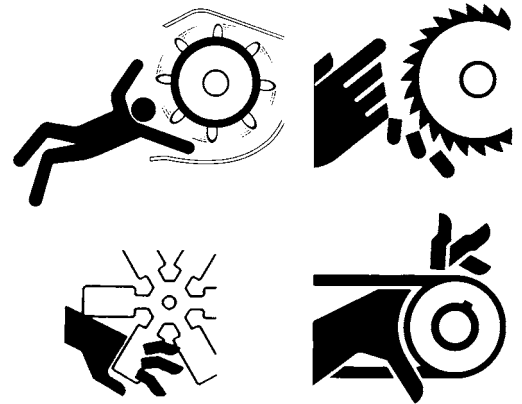
1ARAEAAAP0460

◆ 作業後・格納時の注意事項

わらくずや枯れた雑草の上に機械を止めない。

[守らないと]
わらくずや枯れた雑草は燃えやすく，火災が発生するおそれがあります。

1ARAEABAP0600

点検・掃除する前に，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜く。

[守らないと]
機械に巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAAAAAP1130

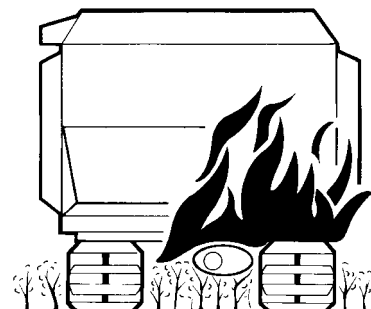
⚠点検・掃除は，エンジン停止後，各部が冷えてから行なう。

- エンジン本体・マフラ・排気管は，エンジン停止直後は触れない。

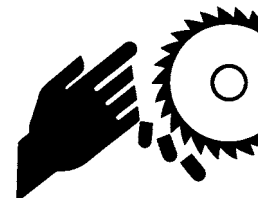
[守らないと]
やけどを負うおそれがあります。

1AKADACAP1390

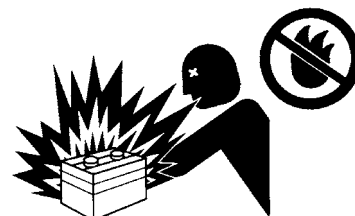
⚠エンジン本体，マフラ周辺，ベルトカバー内，配線部，バッテリ周辺のわらくずを点検し，きれいに取除く。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。

1ARAEABAP0600

⚠掃除するときは，刈刃やカッタの刃先に触らない。

[守らないと]
刃先で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0550

⚠バッテリの近くに裸火（マッチ，ライタ，タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルをショートさせない。

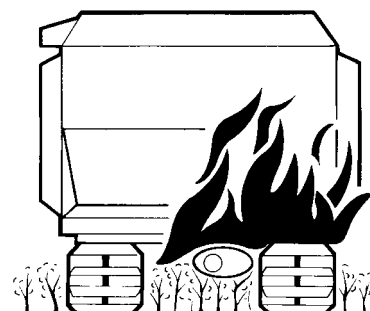
[守らないと]
バッテリからは水素ガスの発生があり，引火爆発のおそれがあります。

1ARAEABAP0110

⚠ワイヤハーネスやバッテリコードなど電気配線に被覆の破れや，挟み込みがないか点検する。

[守らないと]
ショートによる火災発生のおそれがあります。

1ARAEAAAP0410

⚠機体にカバー（おおい）をかけるときは，エンジン，マフラが冷えてから掛ける。

[守らないと]
火災が発生するおそれがあります。

1ARAEABAP0600

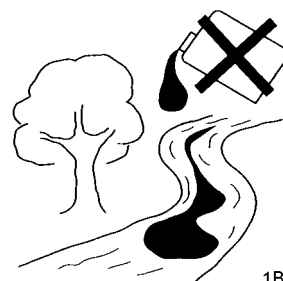
◆ 点検整備時の注意事項

⚠定期点検整備を行ない，各部の保守をする。

[守らないと]
整備不良による事故で傷害を負うおそれがあります。

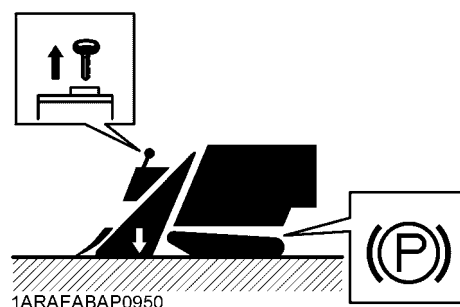
1ARAEABAP0460

⚠廃棄物をみだりに捨てたり，焼却しない。

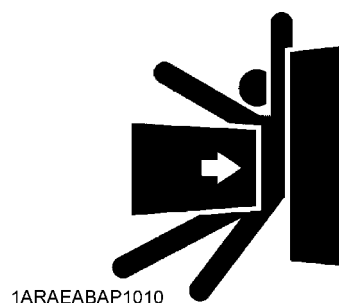
- 機械から廃液を抜く場合は，容器に受ける。
- 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしない。
- 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理する。

[守らないと]
環境汚染につながります。

1BJABAAAP0180

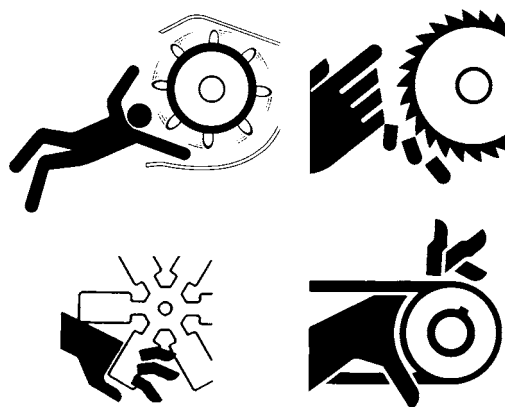
⚠各部の点検・整備・交換・掃除を行なうときは，平たんな場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜き，各クラッチを［切］位置にして，駐車ブレーキを掛ける。

[守らないと]
機械に挟まれたり，巻込まれて傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0950

刈取部，こぎ胴，カッタ，結束機，グレンタンクを開いたときは，ストッパで固定する。

[守らないと]
機械に挟まれて傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP1010

刈取部，こぎ胴，カッタ，結束機，グレンタンクを開いたままやグレンタンクを取外したままエンジンを回さない。

[守らないと]
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAAAAAP1130

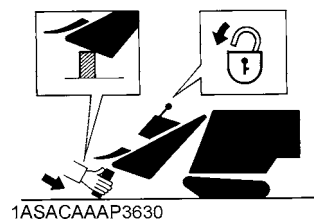
シーブケースやカッタ，結束機など重量物の脱着作業は，２人以上で行なう。

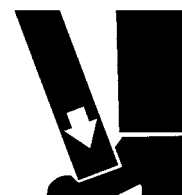
[守らないと]
不意の落下により，傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0910

⚠刈取部を上げて点検・整備・掃除するときは，刈取部をロックするとともに，落下防止の歯止めをする。

- 作業前に，エンジンを必ず止めて，駐車ブレーキを掛ける。
- 刈取部の下へもぐったり，足や手をつっこんだりしない。

1ASACAAAP3630

［守らないと］
機械にはさまれて，傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0910

⚠刈刃，カッタ刃，わら切刃を調整・交換するときは，手袋を着用し，直接刃先に触らない。

［守らないと］
刃先で傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0550

⚠取外したカバー類は，必ず取付ける。

［守らないと］
内部の回転物に接触したり，巻込まれて重大な傷害を負うおそれがあります。

1ARAEAAAP0460

⚠バッテリを取外すときは，最初にマイナス（－）側のケーブルを取外す。

- バッテリの近くに裸火（マッチ・ライタ・タバコの火など）を近づけたり，バッテリケーブルのショートによるスパークをさせない。
- バッテリを取付けるときは，最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付ける。

1ARAEABAP0110

［守らないと］
ヤケドや発火爆発のおそれがあります。

バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしない。[補水タイプ]

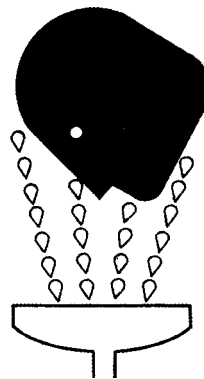
- バッテリ液が不足していれば，すぐにUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水する。
- 充電は機械から取外して行なう。
- 充電は風通しのよい所で行なう。
- 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従う。

1ARAEABAP0130

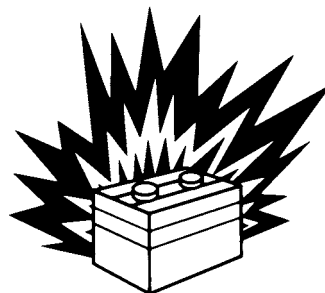
[守らないと]
LOWER（下限）以下で使用や充電を続けると，爆発の原因となることがあります。

バッテリ液（希硫酸）を体に付着させない。

- 目に入ったときや飲込んだときは，すぐ水でよく洗った後，医師の治療を受ける。
- 皮ふ，衣服についたときは，すぐ水でよく洗う。

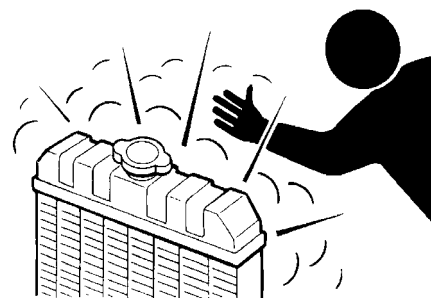
[守らないと]
失明やヤケドのおそれがあります。

指定外のバッテリは使わない。

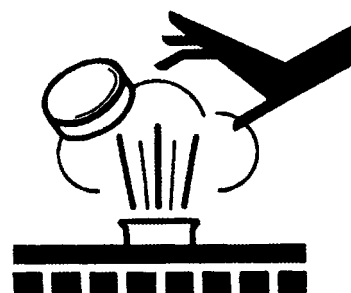
- 取扱説明書で指定しているバッテリを使用する。

[守らないと]
思わぬ事故が発生するおそれがあります。

1ARAEABAP0120

1ARAEABAP0620

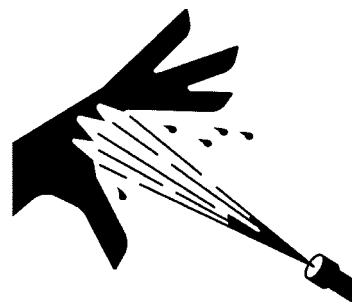
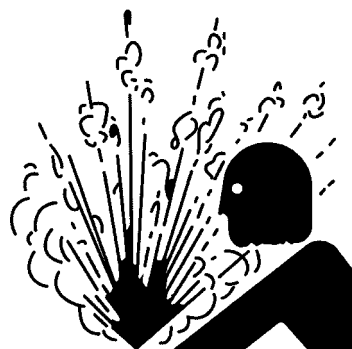
ラジエータの圧力キャップやリザーブタンクは，エンジンが冷えてから開ける。

- エンジン停止後，３０分以上経過してからラジエータの圧力キャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから開ける。

1ARAEABAP0050

[守らないと]
熱湯や蒸気が吹き出して，ヤケドや傷害を負うおそれがあります。

1ARAEABAP0160

燃料ホース，ラジエータホース，オイルドレーンホースは，２年ごとに交換する。

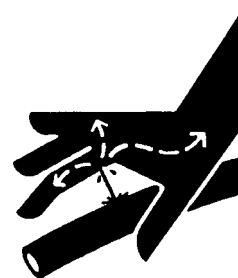
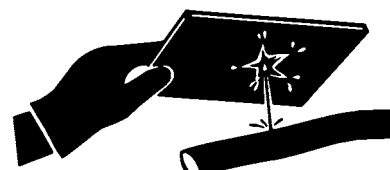
- ゴム類は時間がたつと劣化するので，定期的に交換する。

[守らないと]
燃料や熱湯がもれて，火災やヤケドを負うおそれがあります。

1AAAAABAP0240

1AAAAABAP0250

燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは，厚紙や板などを使って点検する。

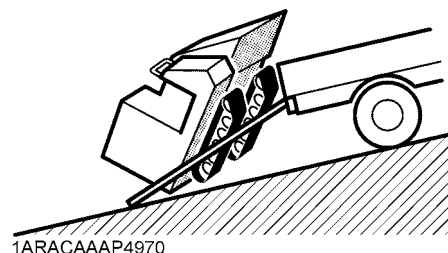
- 高圧噴油に直接手を触れない。もし，触れた場合は，直ちに医者の診断を受ける。

1BAACAAAP0100

[守らないと]
油が皮ふに侵入して，強度のアレルギーや感染症を引起す可能性があります。

1ARAEABAP0060

◆ 運搬時の注意事項

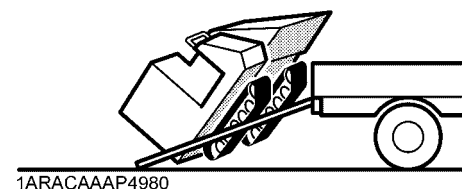
⚠トラックへの積込み・積降しは平たん地で行なう。

- 機械の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選ぶ。
- トラックの駐車ブレーキを掛け，トラックの変速レバーを**R（後進）**又は，**1速**に入れたあと，さらにタイヤに車止めを行ない，トラックが動かないようにしっかり固定する。
- できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行なう。
- 周囲に人を近づけない。

1ARACAAAP4970

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，トラックが動いたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降しには基準に合ったあゆみ板を使う。

- あゆみ板の基準

長　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	50cm 以上
数　量	２枚
強　度	１枚が 1200kg 以上に耐えうる

- あゆみ板はフック，すべり止めがついているものを使う。
- あゆみ板はトラックの荷台に平行に確実に掛ける。

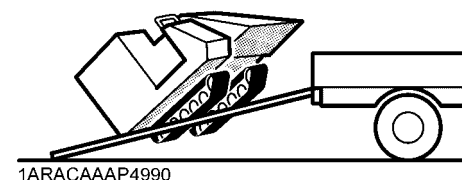
1ARACAAAP4980

[守らないと]
あゆみ板がずれたり，外れたりして機械が落下するおそれがあります。

⚠積込み・積降し前に，もみはすべて排出，又は降ろす。

- アンローダを下げ，アンローダ支えに収納してバンドを掛ける。
- アンローダは，折りたたんで収納する。
- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。**[M 仕様]**

1ARACAAAP4990

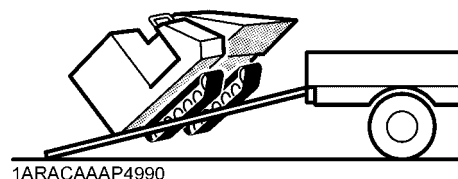
[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

⚠トラックへの積込み・積降しは最低速で行なう。

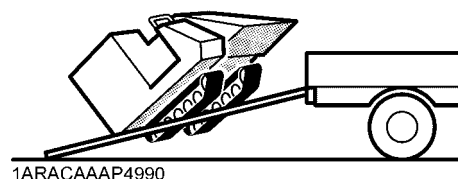
1ARACAAAP4990

- 作業スイッチを **[切]（消灯）**，もみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にする。
- 積込みは前進で，積降しは後進で行なう。
- 結束機付きの場合は，積込みは後進で，積降しは前進で行なう。

[守らないと]
バランスがくずれて，転倒・転落するおそれがあります。

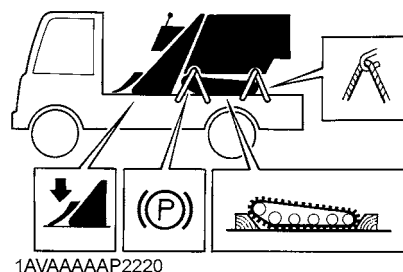
⚠あゆみ板の上では方向修正しない。

1ARACAAAP4990

- あゆみ板を走行するときは，機体から降りる。
- あゆみ板の上では，SF ワンレバー，副変速レバーは操作しない。
- 方向を変えるときは，いったん地上又は，荷台にもどって方向を修正し，再度やり直す。

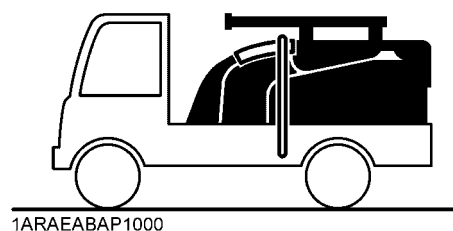
[守らないと]
急旋回したり，暴走して落下するおそれがあります。

⚠トラックの上では，刈取部を床に当たるまで降ろして，駐車ブレーキを掛ける。

1AVAAAAAP2220

- 自動車体水平制御は，機体を一番下げた状態にする。
[M 仕様]
- 副変速レバーを **[作業]** 又は，**[移動]** 位置にし，駐車ブレーキを掛ける。
- 所定の **[ロープ掛けフック（４箇所）]** にロープを掛けてしっかり床に固定する。
- 車止めをする。

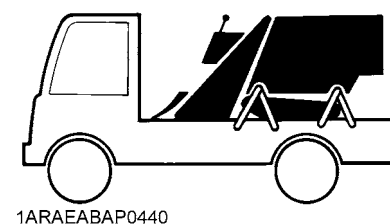
[守らないと]
機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

⚠トラックに積んだときは，機体の各カバーを固定する。

- 樹脂カバー，着脱の簡単なカバー，折りたたみ部品などは, ロープで確実に固定するか, 外して荷台に置く。
- 防じんカバーは閉じる。**[防じんカバー付]**

1ARAEABAP1000

[守らないと]
輸送中に風圧で破損，脱落のおそれがあります。

⚠輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回は避ける。

[守らないと]
輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。

1ARAEABAP0440

安全作業するための表示ラベル

■表示ラベルの内容・貼付位置

①品番　5K190-6432-1

注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADBEAP341J

②品番　5H601-4344-1

注意　人に当たりケガをさせるおそれがあるので、
移動するときは必ず収納すること。

1ARADBEAP342J

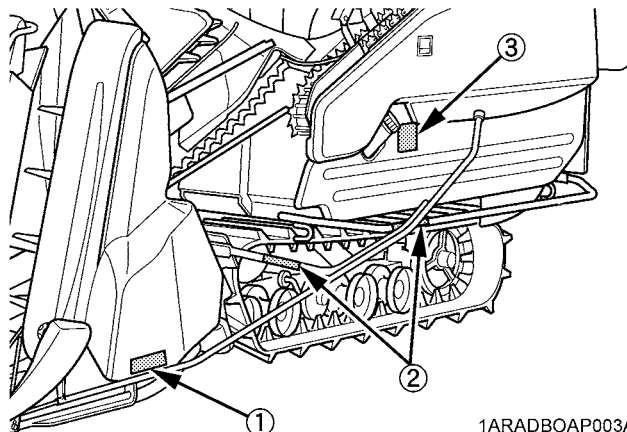
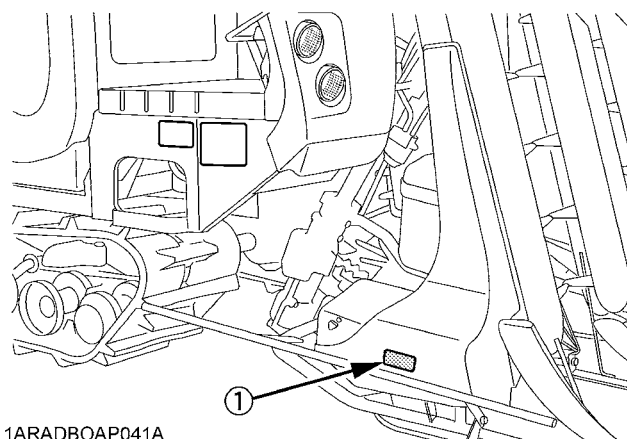
③品番　5K200-6212-1

注　意

火気厳禁

・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めること。

ディーゼル軽油

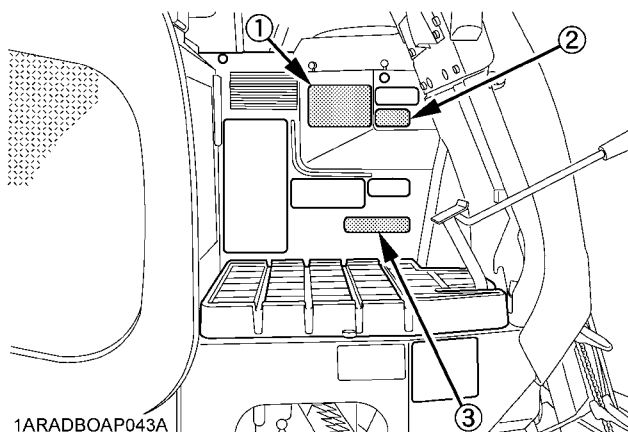
1ARADBEAP361J

1ARADBOAP003A

1ARADBOAP041A

①品番　5H540-4325-1

⚠注意	積込み、積降ろし、坂道走行中に楽刈ボタンを押すと、エンジン回転が上がり急に速度が変化して、転倒・転落のおそれがあるので、楽刈ボタンを押さないこと。

楽刈ボタン（作業クラッチ）

脱こく・刈取クラッチの「入」「切」、及びエンジン回転数を刈取作業可能状態に自動調整するボタンです。
ボタン「切」消灯状態のときにボタンを押すと、ブザーが３回鳴り、ボタン「入」点灯状態になります。同時にエンジン回転数がセットされ、脱こくクラッチ「入」状態になり、脱こく部が回転します。さらに刈取クラッチが「入」状態になり、主変速レバーを前進側に操作すると刈取部が回転します。

1ARADBOAP086J

①
②
③
1ARADBOAP043A

②品番　5H570-4389-1

⚠注　　意
旋回できない場合がある為 走行時はエンジン回転数を 2000rpm以上にすること。

1ARADBOAP078J

③品番　5H583-4333-1

⚠注意	デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ずデバイダキャップを取り付けること。

1ARADBIAP2720

①品番　5H570-4331-1

注　意

作業前
1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2. エンジンを始動するときは、各クラッチを「切」にし、主変速レバーを［N］（中立）にすること。
3. 屋内は排気ガスが溜まりやすく、ガス中毒のおそれがあるので、換気すること。
4. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。

移動・作業中
1. 発進するときや脱こく部・刈取部を作動させるときは、周囲の安全を確かめ、合図をして、機械に人を近づけないこと。
2. 走行を停止するときは、主変速レバーを操作して［N］（中立）の位置にすること。
3. 転倒・転落事故のおそれがあるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・がけぎわなどは走行しないこと。また、移動走行で旋回するときは、必ず減速すること。
4. 急発進・暴走のおそれがあるので、副変速を切換えるときは、平坦な場所で、主変速レバーを［N］（中立）にし、ブレーキペダルをいっぱい踏み込むこと。
5. 刈取作業時以外（あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は「もみ」はすべて排出または降ろして、各作業クラッチを「切」にすること。M仕様（車体水平制御）は、機体を一番下げた状態にすること。

積込み・積降し・あぜ越え
転倒・転落事故のおそれがあるので、車への積込みおよびあぜ越えをするときは以下を守ること。
① 上がるときは前進で、降ろすときは後進で行う。結束機付きの場合は、上がるときは後進で、降ろすときは前進で行うこと。
② 副変速レバーを［作業］にし、エンジンの回転を落として（2000rpm以上）、主変速レバーを低速にすること。
③ 運転者は機械から降りて操作すること。
④ パワーステアリングレバーを操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って向きを正し、再度やり直すこと。
⑤ あゆみ板は、段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、基準に合ったものを使うこと。

駐・停車
1. 火災のおそれがあるので、機械を停止するときは、切りわらや雑草の上に止めないこと。
2. 機械から離れるときは、エンジンを止めて「始動キー」を抜き、駐車ブレーキを必ずロックすること。また、坂道で駐車するときは、車止めをして暴走を防ぐこと。

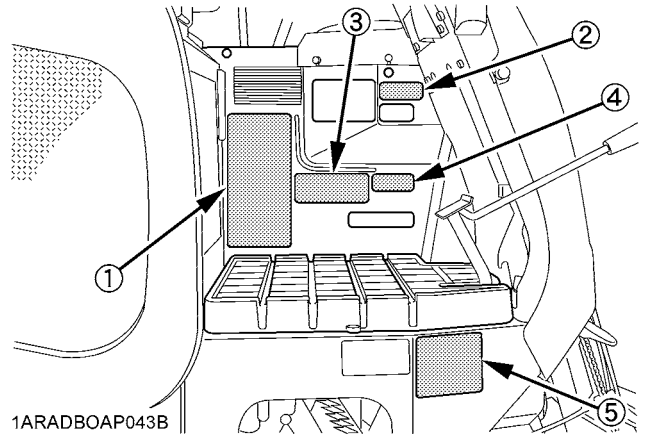
1ARADBOAP077J

②品番　5K190-6432-1

注　意

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADBEAP341J

③ ② ④ ① ⑤

1ARADBOAP043B

③品番　5H601-4354-1

注　意

坂道で副変速レバーを操作すると機械が、暴走するおそれがあるので、絶対に操作しないこと

副変速レバー

1ARADBEAP348J

④品番　5H540-4324-1

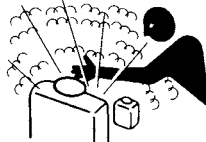
注　意

エンジンを始動するときは、主変速レバーを「N」（中立）にし駐車ブレーキを「入」にし各作業クラッチを「切」にすること。

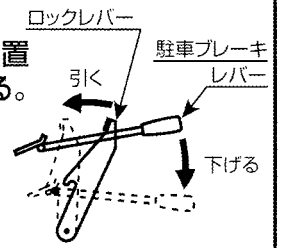
1ARADBOAP085J

⑤品番　5H570-4333-4

注　意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。
1. 駐車するときは、車止めをすること。
2. 駐車ブレーキを解除するときは、副変速を「作業」にし、主変速を「N」にすること。

駐車ブレーキの操作方法

① 主変速レバーを「N」位置にしエンジンを停止する。
② 駐車ブレーキレバーを下げながら、ロックレバーを引いてフックを引っ掛ける。
③ ロック解除は、レバーを下げる。

ロックレバー
駐車ブレーキレバー
引く
下げる

1ARADBHAP2040

①品番　5H215-3515-1

注　意

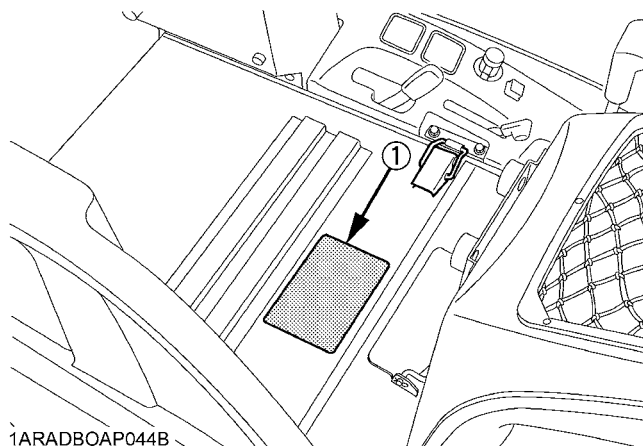
エンジンを回転したままエンジンルームを開けるとファンやベルトでケガをするおそれがあるのでエンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

注　意

エンジンルームをオープンし点検調整後は、必ず「クランプ」で確実にロックすること。ロックしないと走行中に不意にオープンすることがあり危険です。

注　意

オーバヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。
1. エンジンを止める。
2. 必ず停止後30分以上経過してから、エンジンルームを開けること。
エンジンが冷えていないときは、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがある。

1ARADAKAP2240

②品番　5H550-4334-1

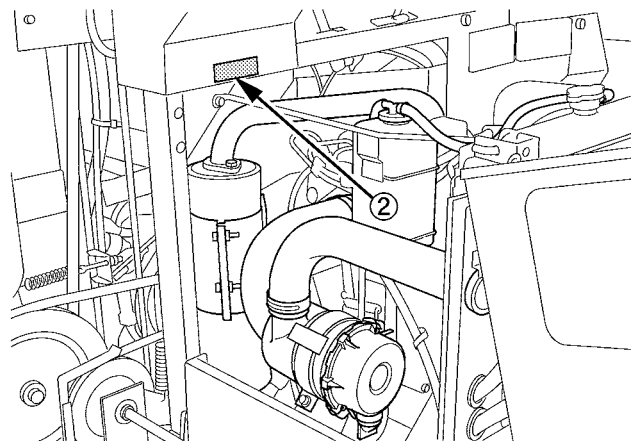
注意

マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

1ARADBOAP079J

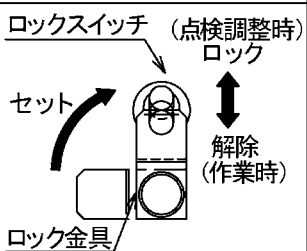
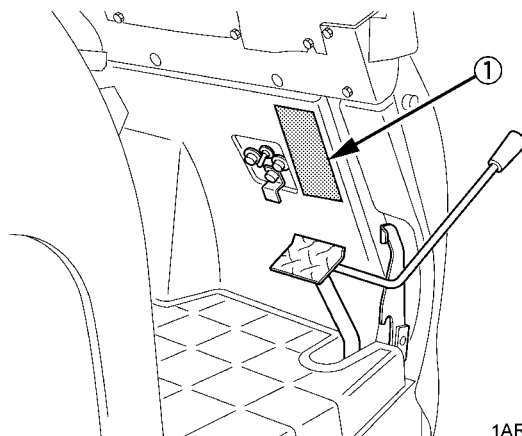
①

1ARADBOAP044B

②

1ARADBIAP008E

①品番　5H570-4332-1

注　意

刈取部を上昇して、点検調整を行うときには、ロックスイッチを「ロック」位置にし、ロック金具をセットすること。

1ARADBOAP080J

1ARADBIAP282A

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

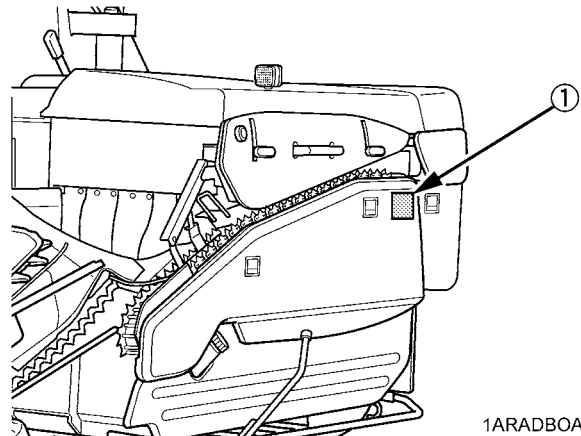
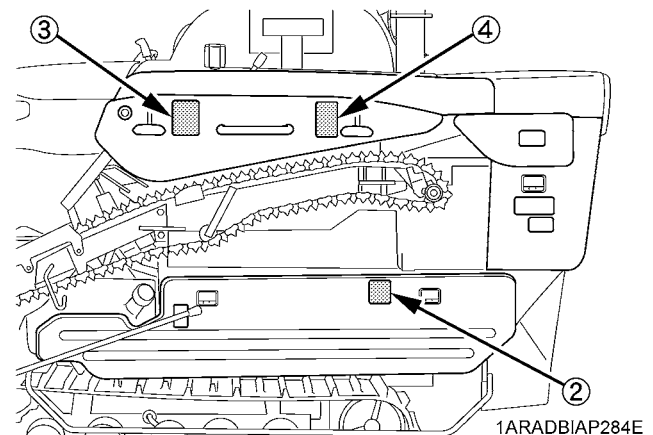
①品番　5K275-6434-2
②品番　5K275-6433-1

注意		
		1．回転物に接触するとけがをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。 2．点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。
	ロックハンドル 開 閉	1．カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。 2．ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

1ARADBLAP2740

①

1ARADBOAP003B

③ ④ ②

1ARADBIAP284E

③品番　5K279-6418-2

開

扱胴オープン

扱胴をセットするときはアームを「閉」の位置に合わせてください

閉

⚠ 警告

1．ワラなどの巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。
2．手扱き作業で、手・腕をチェンに挟まれてけがをする恐れがあるので、下記を守ること。
・平坦な所で走行部・刈取部を止めること。
・手・腕をチェンの外側に位置させ、わらを少しずつ送り込むこと。

1ARADBLAP2750

④品番　5K279-6425-2

⚠ 警告

中で扱歯が高速で回転しており、接触するとケガをする恐れがあります。
扱胴オープンするときにはエンジンを必ず止めること

開

扱胴オープン

扱胴をセットするときはアームを「閉」の位置に合わせてください

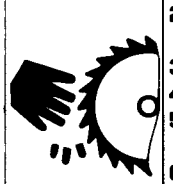
閉

1ARADBOAP087J

①品番　53981-6188-2

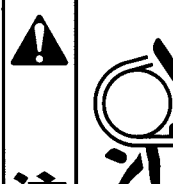
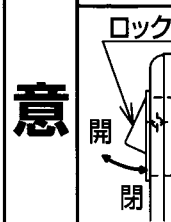
警告
1.カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないこと。
2.ワラ・雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

1ARADBEAP358J

②品番　5K275-6442-2

警告
1.カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので，手を絶対に入れないこと。
2.チェーン・ベルトに接触すると，手をケガするので，手を絶対に入れないこと。
3.カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。
4.カッタをオープンしたまま運転しないこと。
5.点検・調整，ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
6.点検・調整などが終わったら，カバーを元通りに必ず取り付けること。

1ARADBEAP359J

③品番　5K275-6434-2

注意
1.回転物に接触するとけがをする恐れがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2.点検・調整時はエンジンを必ず止めること。終了後はカバーを必ず取付けること。

ロックハンドル
開
閉

1.カバーを閉じるときロックハンドルを必ず閉の位置にすること。
2.ロックが確実にされていないと、落下して危険です。

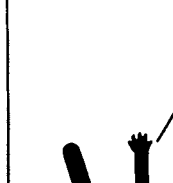
1ARADBLAP2740

①
②
③

1ARADBIAP284B

④

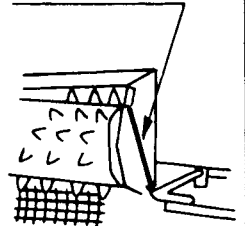
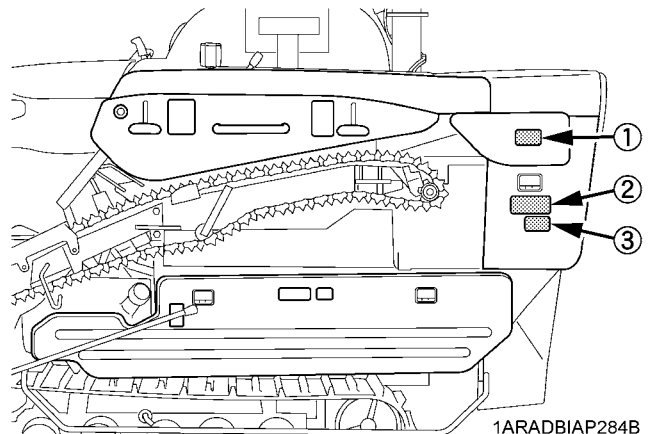
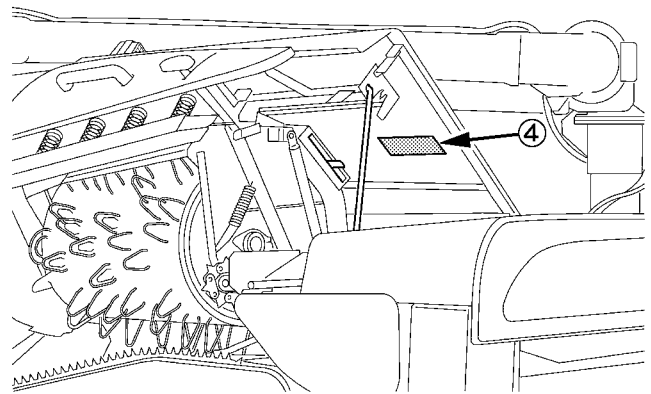
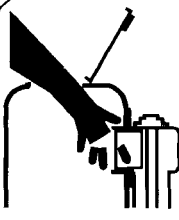
1ARADBIAP285A

④品番　53981-6416-3

警　　告
1.扱胴オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。
2.扱胴をオープンして、受網の脱着や扱室の掃除をするときは扱胴が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定すること。
3.パワーアップ扱胴仕様には、ストッパの必要がない為、装備していません。

ストッパ

1ARADBEAP362J

①品番　5H250-5338-1

⚠ 警　告

1. タンクの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。
2. 手を入れるときは必ずエンジンを停止すること。

変形や落下のおそれがあるので、タンクの上に物を載せないこと。

1ARADBEAP363J

1ARADBOAP057A

②品番　5G067-8113-3

⚠ 注　意

タンクを外すときは、中に回転物がありケガをするおそれがあるので、必ずもみ排出クラッチを切り、エンジンを止めること。

グレンタンクの脱着・ホッパ開閉のしかた

◆ タンク内の「もみ」はすべて排出します。
◆ 主変速レバー及び副変速レバーを「N」（中立）位置にし、各作業クラッチ（刈取、脱こく、もみ排出）レバーを「切」位置にします。
① アンローダをアンローダ受けに収納し、エンジンを停止します。
② カプラとコードバンドを外し、タンク上部のロックを外します。
③ カバー（G）とカバー（リア）を外します。

1.グレンタンクの外しかた

④ タンク上部のトッテを手前に引きタンクが地面に接するまで倒します。
⑤ タンク後ろのトッテを持ってタンクを外します。

2.ホッパの開きかた

⑥ ホッパ固定ボルトを外します。
⑦ ホッパを手前に引いて開きます。
◆ホッパにタンクを乗せた状態で開くときはタンクが落ちないようにゆっくりと開いてください。

カバー（リア）　トッテ　ブラケット　平座金　カバー（G）　ホッパ　六角軸

3.グレンタンクの取付、ホッパの閉じ方

⑧ グレンタンクの外しかた、ホッパの開きかたと逆の手順で組付します。
◆タンクのブラケットをホッパの平座金の間に入るように組んでください。
◆六角軸がギヤケースの六角穴に入らないときは、エンジンルームをオープンし、六角軸を手で回しながらグレンタンクを押して閉じてください。
⑨ ③、② の手順で組付します。

1ARADBOAP081J

1ARADBOAP011A

③品番　5K190-6432-1

⚠ 注　意

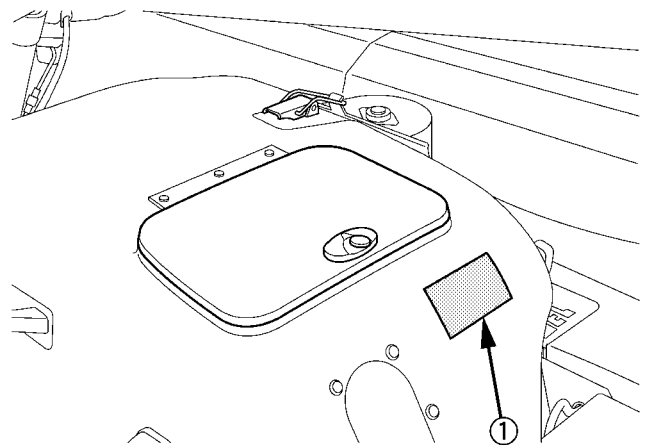
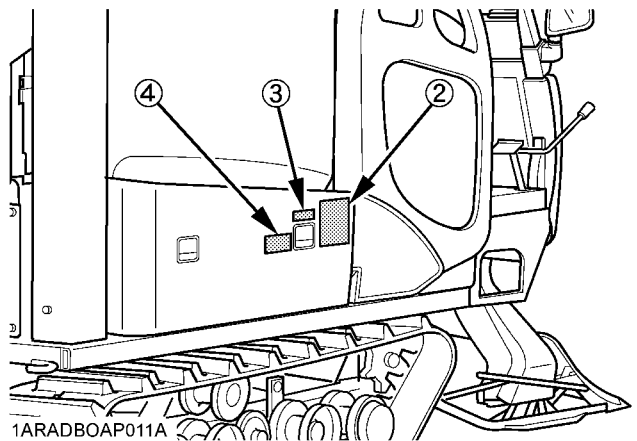
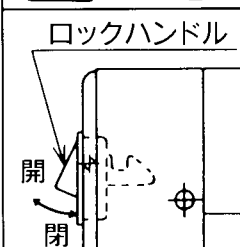
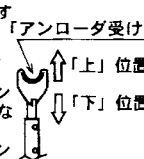
中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

1ARADBEAP341J

④品番　5K190-6433-1

⚠ 注意

ロックハンドル

開　閉

1.このカバーを閉じる場合、ロックハンドルを必ず閉位置にすること。
2.ロックが確実にされていないと、落下し危険です。

1ARADBEAP360J

①品番　5G021-1713-2

注　意

手をはさみ、ケガをするおそれがあるので、「アンローダ受け」に手を置かないこと。	アンローダ先端が大きく動き、ケガをするおそれがあるので、アンローダの作用範囲に人がいるときはアンローダを動かさないこと。	アンローダが自然に動きケガをするおそれがあるので、アンローダを伸ばしたり、折りたたんだりするときはアンローダを水平の状態にしエンジンを止めること。	あぜ越え・移動時およびトラックで輸送する場合、アンローダが人・物にぶつかる危険があるので下記を守ること。 1. 「アンローダ受け」を「下」位置にする。 2. アンローダを収納する。 3. アンローダを折りたたむ。 4. アンローダを浮き上がらないようにバンドで固定する。

「アンローダ受け」の取扱い

アンローダからの「もみ」こぼれをなくすために下記を守ってください。

1. 作業時は「アンローダ受け」を「上」位置にしてください。
2. 「もみ」の排出を途中で止めて、アンローダを「アンローダ受け」に戻さないでください。
3. アンローダを折りたたむときは、アンローダをいったん最上位まで上昇させた後、「アンローダ受け」に戻してから折りたたんでください。

「アンローダ受け」
「上」位置
「下」位置

1ARADBEAP365J

②品番　5G021-1714-2

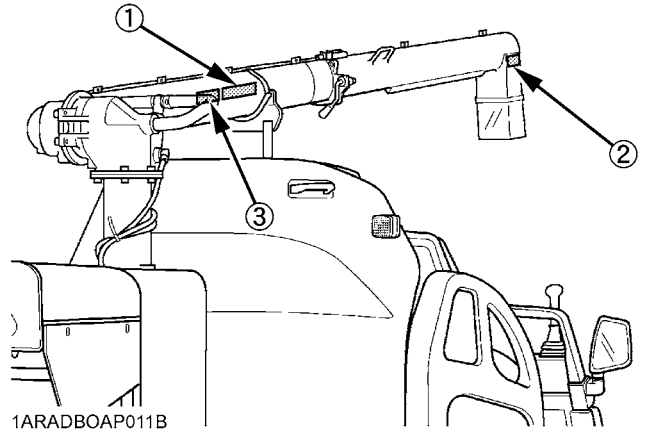
注　意

アンローダの中に回転物がありケガをするおそれがあるので、運転中は絶対に手を入れないこと。

余裕

袋詰め時、余裕を持って排出クラッチを切ること。アンローダが詰まると、駆動系統の故障の原因になります。

1ARADAKAP2400

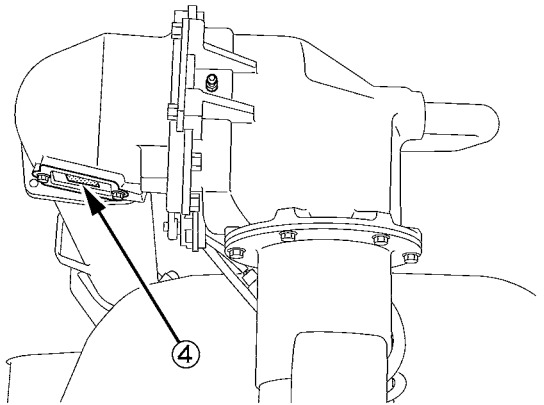
①
②
③

1ARADBOAP011B

③品番　5G054-8141-2

注　意

アンローダが自然に動き、人、物にぶつかるおそれがあるので、アンローダを折りたたんだときには、ロック金具が、フックに確実にかかっていることを確認すること。

1ARADBOAP082J

④

1ARADBIAP014A

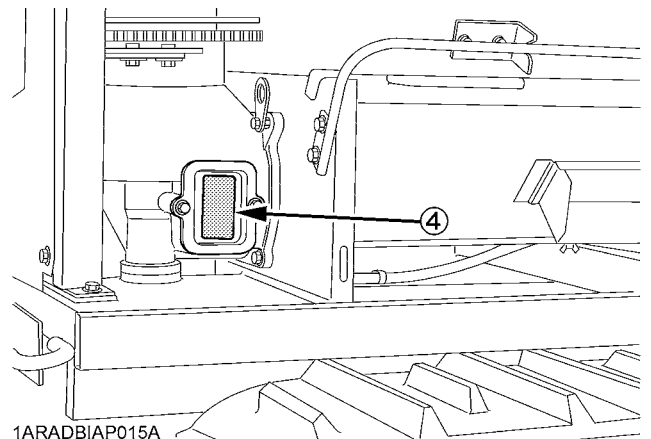
④品番　58071-8174-1

注　意

掃除口

中に回転物がありケガをするので，清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADBEAP368J

④

1ARADBIAP015A

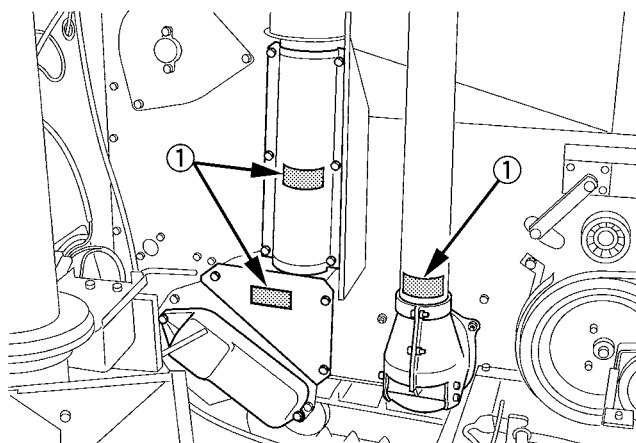
①品番　5K190-6461-1

掃除口

注意

中に回転物がありけがをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

1ARADBEAP370J

①

1ARADBIAP016F

①品番　5K250-6412-4

注意

掃除口　中に回転物がありけがをするので、清掃時はエンジンを必ず止めること。清掃後はフタを必ず閉じること。

スクリュケースの掃除

閉
開

- 掃除口を開ける時はレバーを「開」の方へ倒し、閉じる時は「閉」の方へもどしてください。
- レバーは必ず穴に固定してください。

注意

- 掃除口を開ける時は、事前に必ず3分間脱こく部の空運転をしてください。
- 湿田で作業した後は必ずクローラ部分の泥を取り除いてからレバーを動かしてください。
- 掃除が終わった時は必ず2、3回レバーを動かして、掃除口に籾の付着がないことを確かめてから掃除口を閉じてください。
- スクリュの掃除口レバーを「開」の位置のままで、走行しないでください。

チャフ（選別板のすきま）調節

AR218,221
ARN219,222
チャフ調節レバー
「閉」
差込み
「開」
点検蓋
ナット
AR（N）320,323
ER 320,323

1. ナット2個を外し、点検蓋を外してください。
2. チャフ調節レバーは図の位置が基準固定位置です。
3. わらくず、切れわら、小枝梗が多いときは、チャフ調節レバーを「閉」の方向に移動して固定してください。
4. ロス、脱ぷが多いときは、チャフ調節レバーを「開」の方向に移動して固定してください。
5. 点検蓋を取りつけるときは、下部の差込み部をソクバンに掛けてから、ナットを締めてください。

1ARADBOAP083J

①

1ARADAFAP147B

①品番　58071-8175-2

1ARADBEAP369J

②品番　5H700-4329-1

1ARADBEAP367J

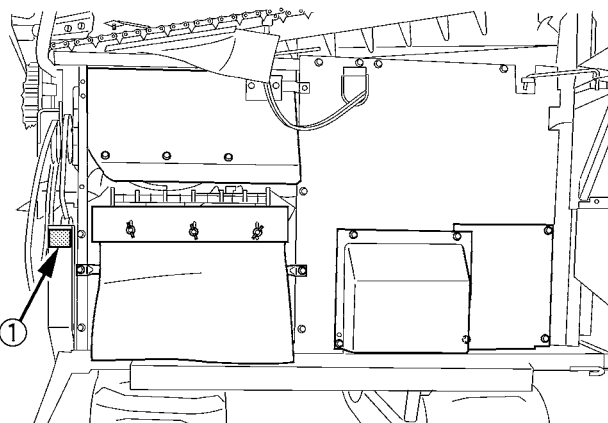
1ARADBIAP017A

①品番　5K250-6427-1

注　意

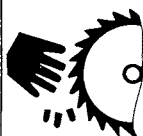
中に回転物がありケガをするおそれがあるので，運転中は絶対に手を入れないこと。

1ARADBOAP084J

①

1ARADBIAP018A

---

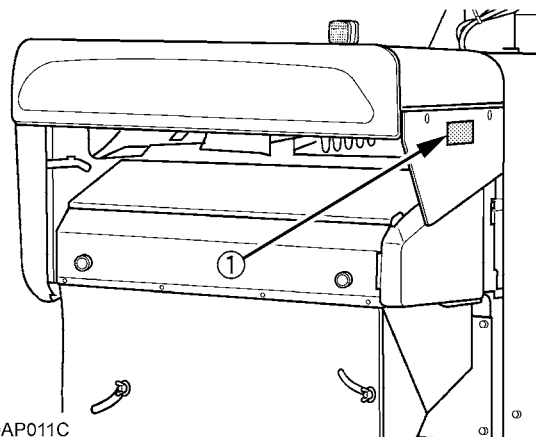
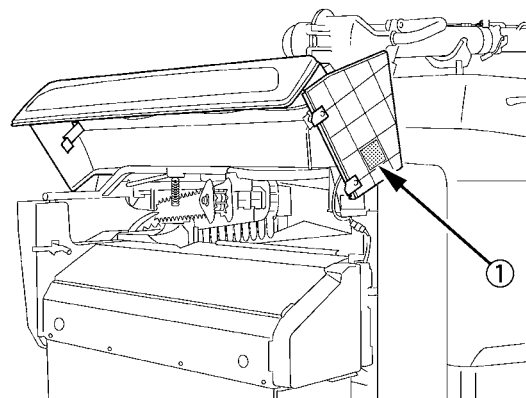
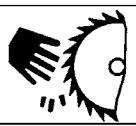
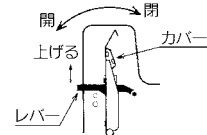
①品番　53981-6191-1

警告

1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

1ARADBEAP371J

①

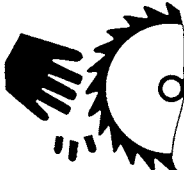
1ARADBOAP011C

①

1ARADBOAP068A

①品番　5F619-7113-1

警告

1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対にいれないこと
2. 点検・調整、わら・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること
3. 点検・調整などが終わったら、危険ですのでカバーを元通りに必ず戻すこと

開　閉　上げる　カバー　レバー

1. このカバーを開く場合、カバーを押さえながらレバーを持ち上げます
2. カバーを閉じる場合、カバーを押しこむとレバーで固定されます
3. カバーを開いた状態でエンジンをかけ、脱こくクラッチを入れると、エンジンが停止します

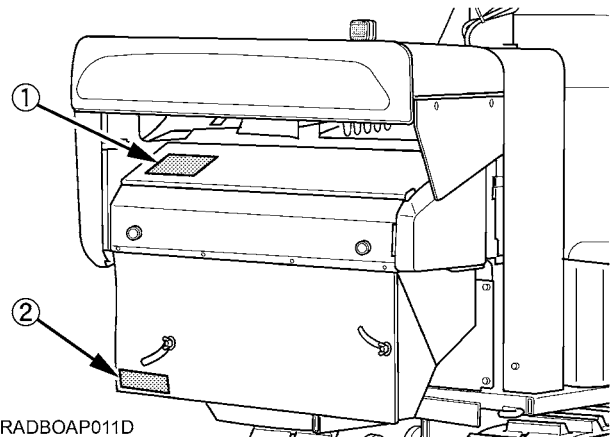
1ARADBIAP2460

②品番　57691-5315-1

警告

1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

1ARADBEAP373J

①
②

1ARADBOAP011D

---

①品番　57745-5124-1

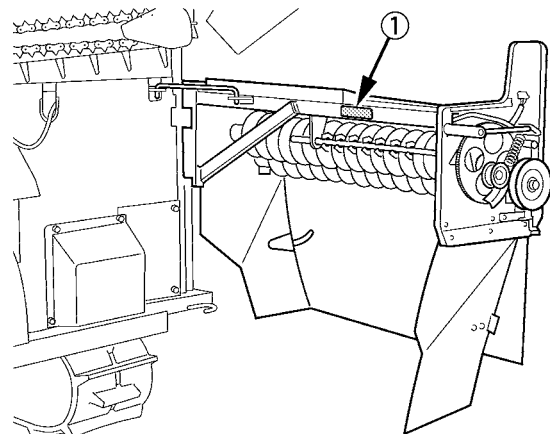
注意

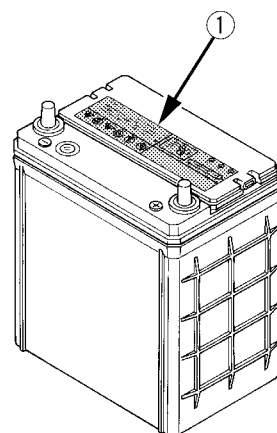
1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。

1ARADBEAP374J

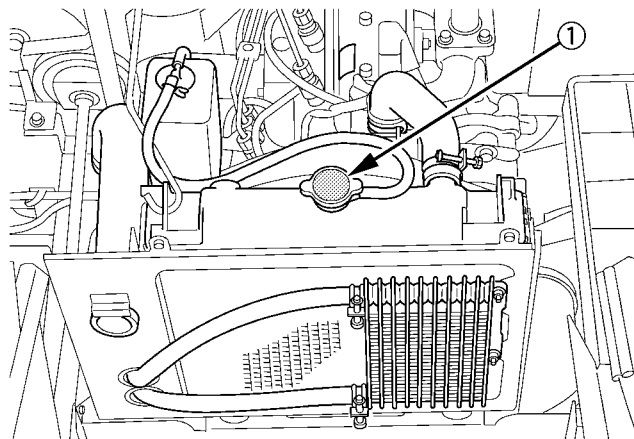
①

1ARADBIAP022A

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

①品番　5H522-4112-1

1ARADBEAP375J

1ARADAFAP399A

①品番　16667-8724-1

1ARADBEAP376J

1ARADBIAP020A

表示ラベルの手入れ

■表示ラベルをよく読み理解して，安全注意事項を守る

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにする。
- 表示ラベルがよごれた場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふく。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがあります。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあるので，高圧水を直接ラベルにかけない。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替える。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼る。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換する。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

◆ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先へお気軽にご相談ください。
その際，
1．販売型式名（商品名）・区分と車台番号
2．エンジンの型式名（model）と番号（serial）
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

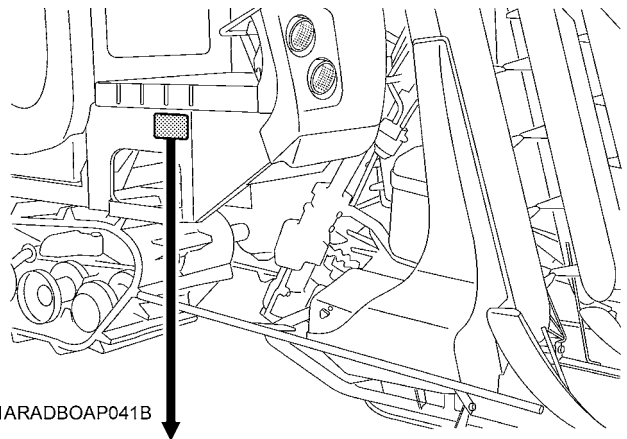
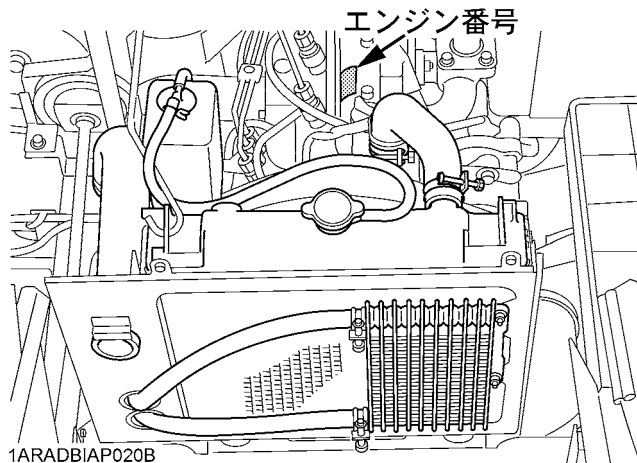
* **機械の改造は危険ですので，改造しないでください。**

重　要

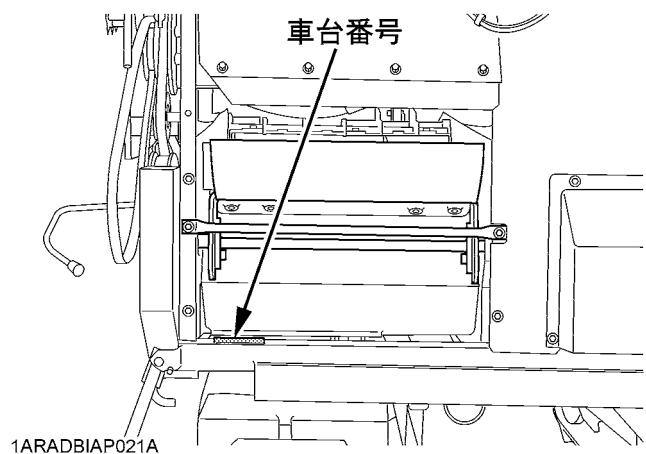
* 機械を改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

エンジン番号

1ARADBIAP020B

1ARADBOAP041B

農業機械の種類	コンバイン（自脱型）
型　式　名	クボタ
販売型式名	
区　　分	
車両型式名	クボタ
車台（製造）番号	
製造会社	株式会社クボタ

車台番号

1ARADBIAP021A

サービスと保証について

◆ 認定番号
安全鑑定・型式検査（国検）の農機型式名及び認定番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

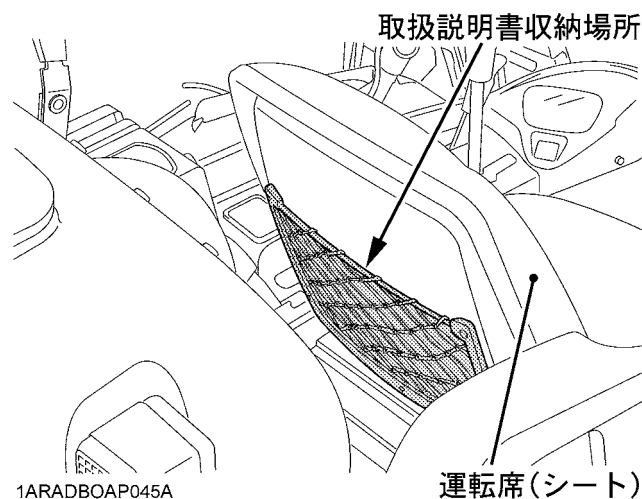
商品名	農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車		摘　要
			車両型式名	型式認定番号	
ER320G	クボタ R1003	35157	クボタ C320	ー（農 3075 改造型）	グレンタンク仕様
ER323G	クボタ R1002	35156	クボタ C320	ー（農 3075 改造型）	グレンタンク仕様

補　足

＊ 届出には型式認定番号が必要ですが，車台番号（打刻）で代用することができます。
＊ 詳しくは，購入先に連絡してください。

◆ 補修用部品の供給年限について
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

◆ 取扱説明書の収納場所について
本冊子を付属部品のビニール袋にいれたあと，運転席（シート）裏側にある取扱説明書収納場所に本冊子を収納して，常時携帯してください。（出荷時は取扱説明書がビニール袋に入っています。）

取扱説明書収納場所
運転席（シート）
1ARADBOAP045A

補　足

＊ 取扱説明書収納場所は，デバイダキャップの保管場所としても使用してください。（43 ページ参照）

小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の農耕作業用小型特殊自動車に該当します。

警告

＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。

補足

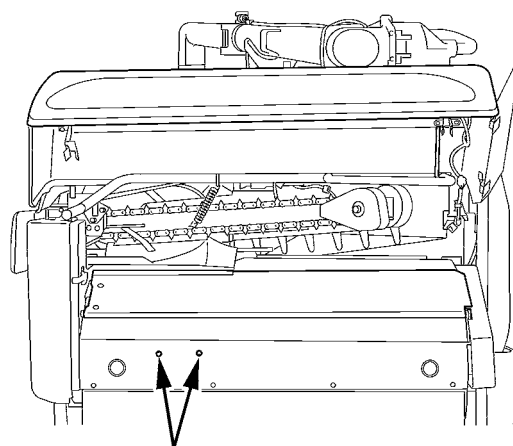
＊ 作業灯は **［道路運送車両法の保安基準］** 第42条（灯火の色等の制限）において，**［走行中に使用しない灯火］** とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

＊ このコンバインは，小型特殊自動車で道路運送車両法の保安基準が適用されます。下記のうち一つでも条件を満足しないと保安基準に適合しませんので特にご留意してください。

1. 認定を受けたエンジン以外は搭載して走行することはできません。
2. エンジン及び本機で封印されているところはさわらないでください。封印が外されたと認められる場合は，一切の保証はいたしません。
3. 認定時の構造を変更した状態では，道路走行することはできません。
4. 結束機，スイスイデバイダなどを装着した場合は公道を走ることができません。装着した状態で移動するときは，トラック輸送（39ページ参照）してください。（カッタ，ドロッパは，装着したままで走行できます。）

◆ 小型特殊自動車取得の届出と標識（ナンバプレート）の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得を市町村役所に届け，標識（ナンバプレート）の交付を受けなければなりません。
手続きは市町村により多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

1. 小型特殊自動車取得の証明書など（購入先で発行）に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
2. 届出が済むと標識（ナンバプレート）が交付されます。
3. 標識（ナンバプレート）を車体の取付け位置に取付けてください。

標識（ナンバプレート）取付位置

1ARADBOAP088A

◆ 損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

◆ 運転免許証の携帯

公道走行時は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は，図示の通りです。

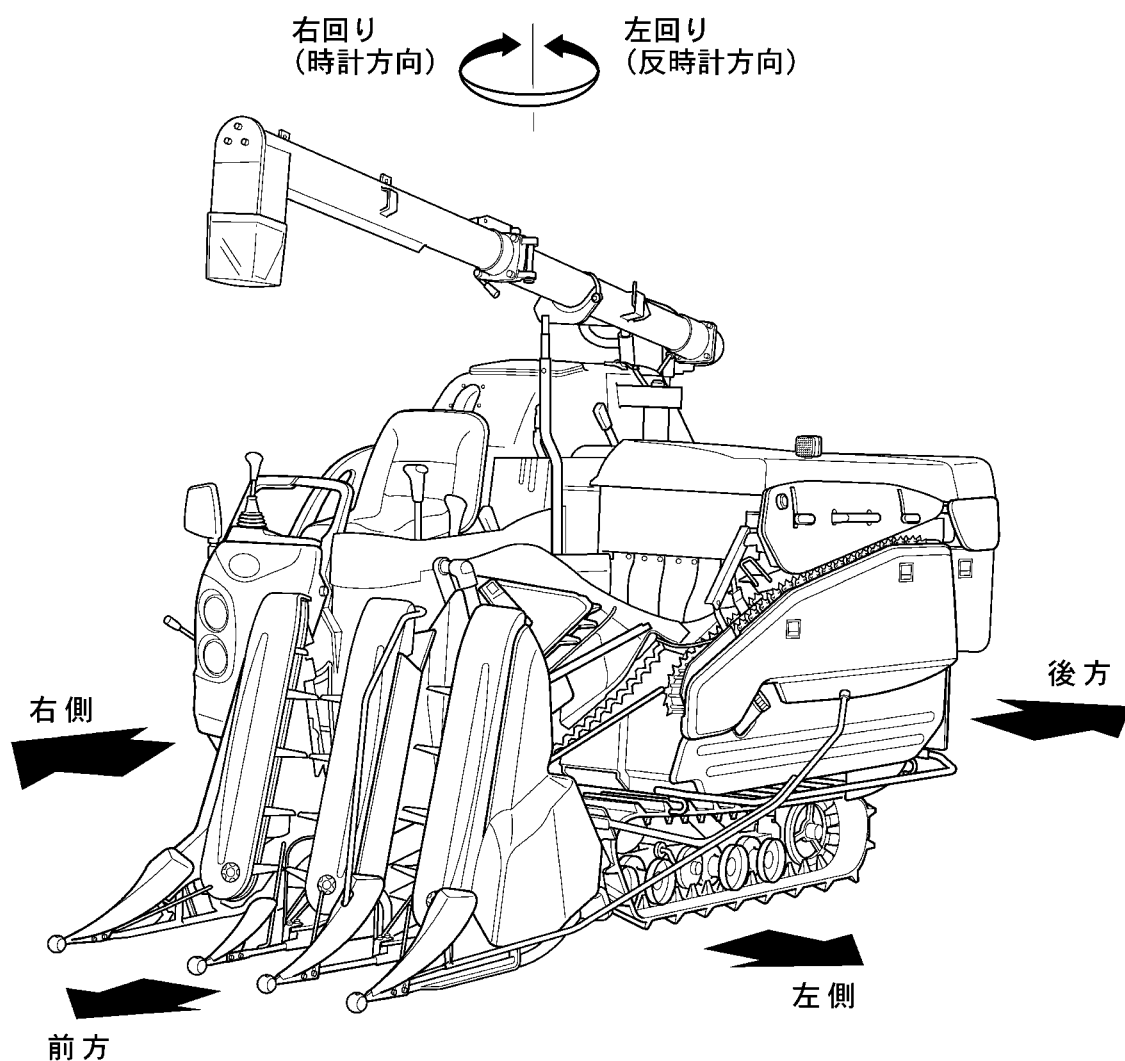
右回り
（時計方向）

左回り
（反時計方向）

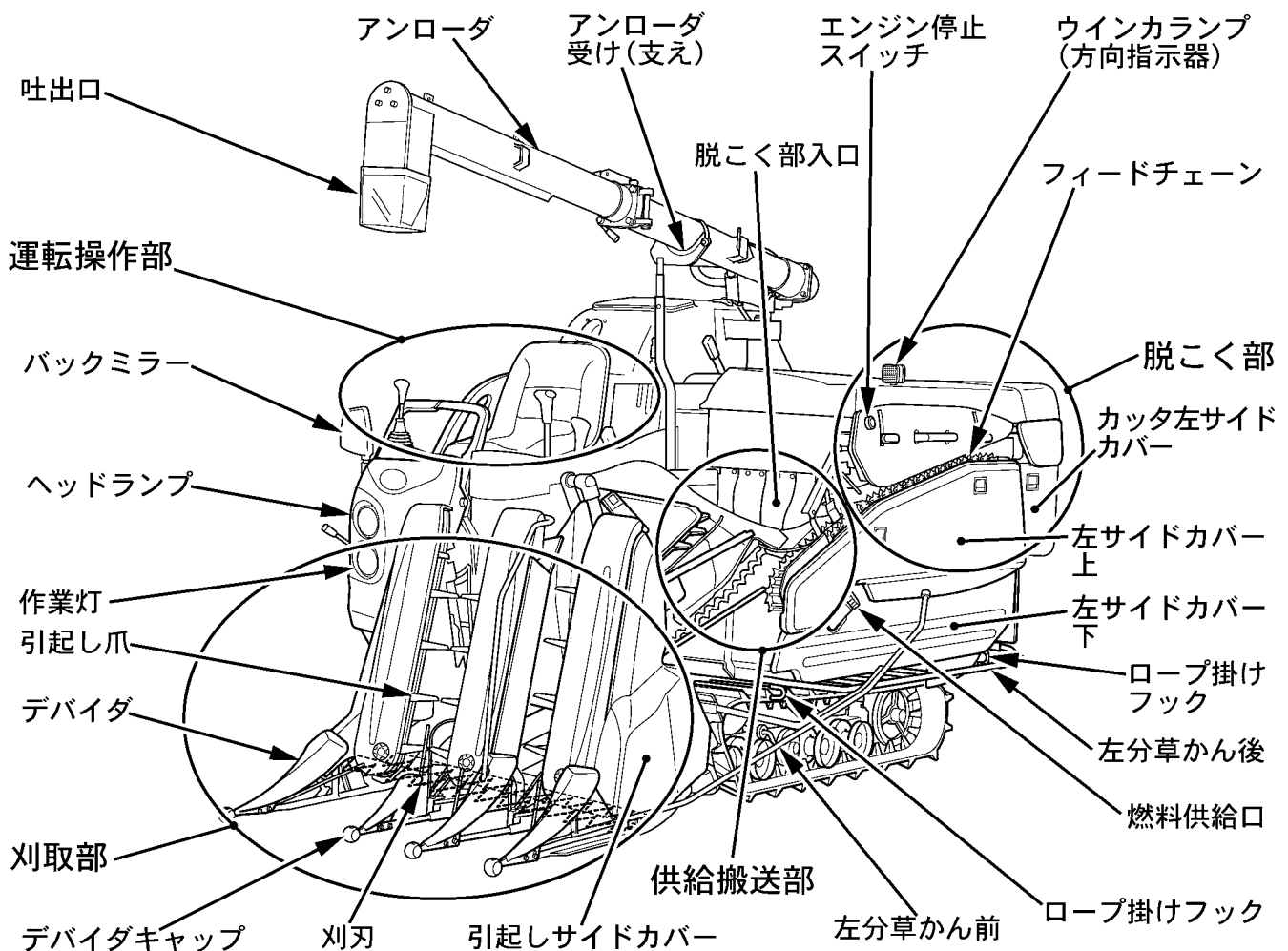
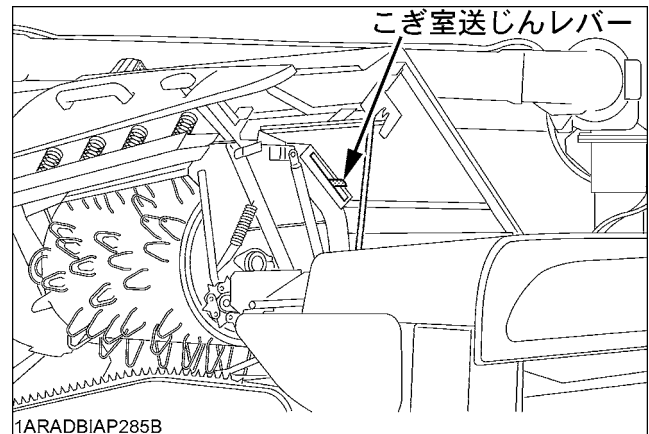
右側

後方

左側

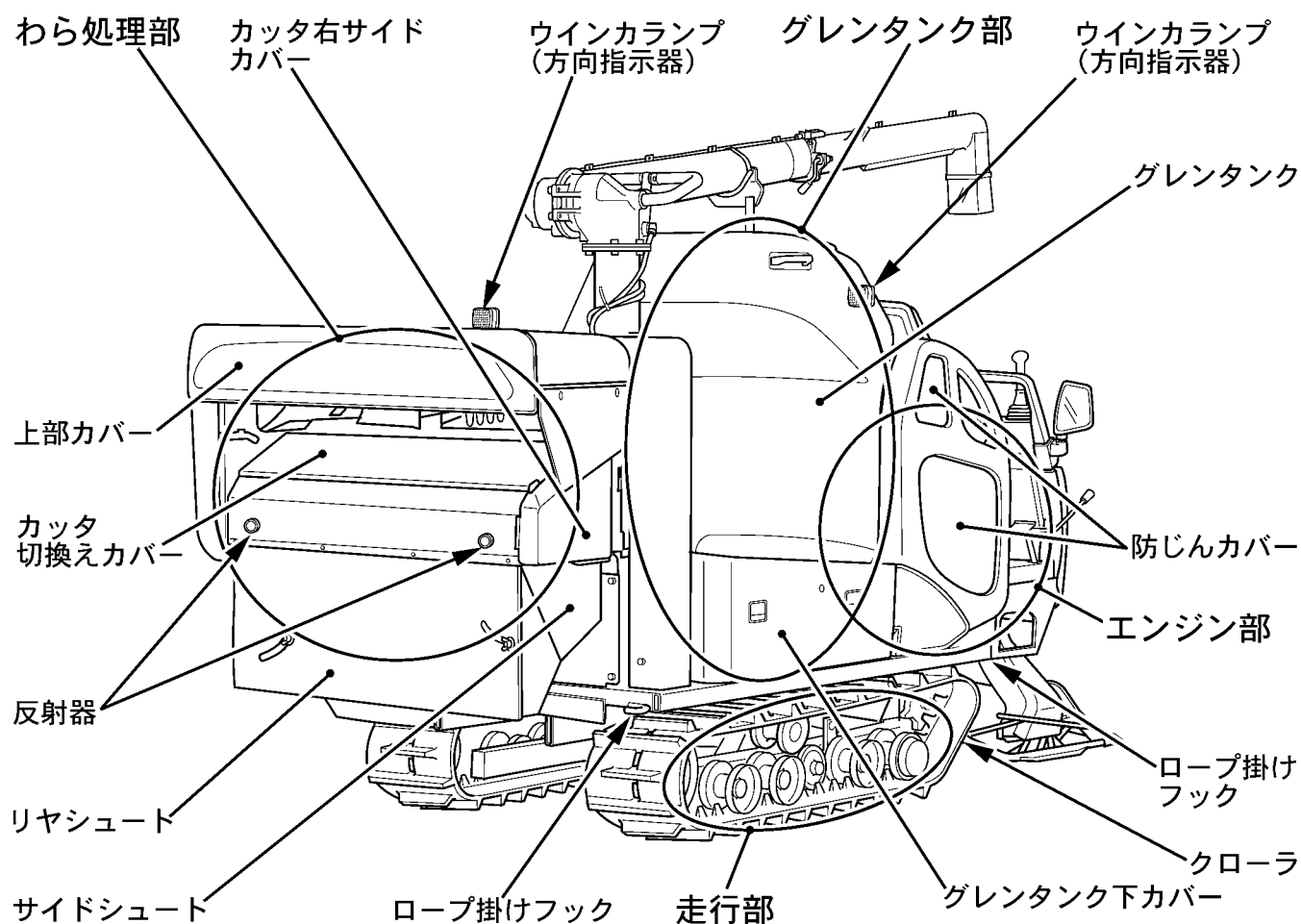
前方

1ARADBOAP003F

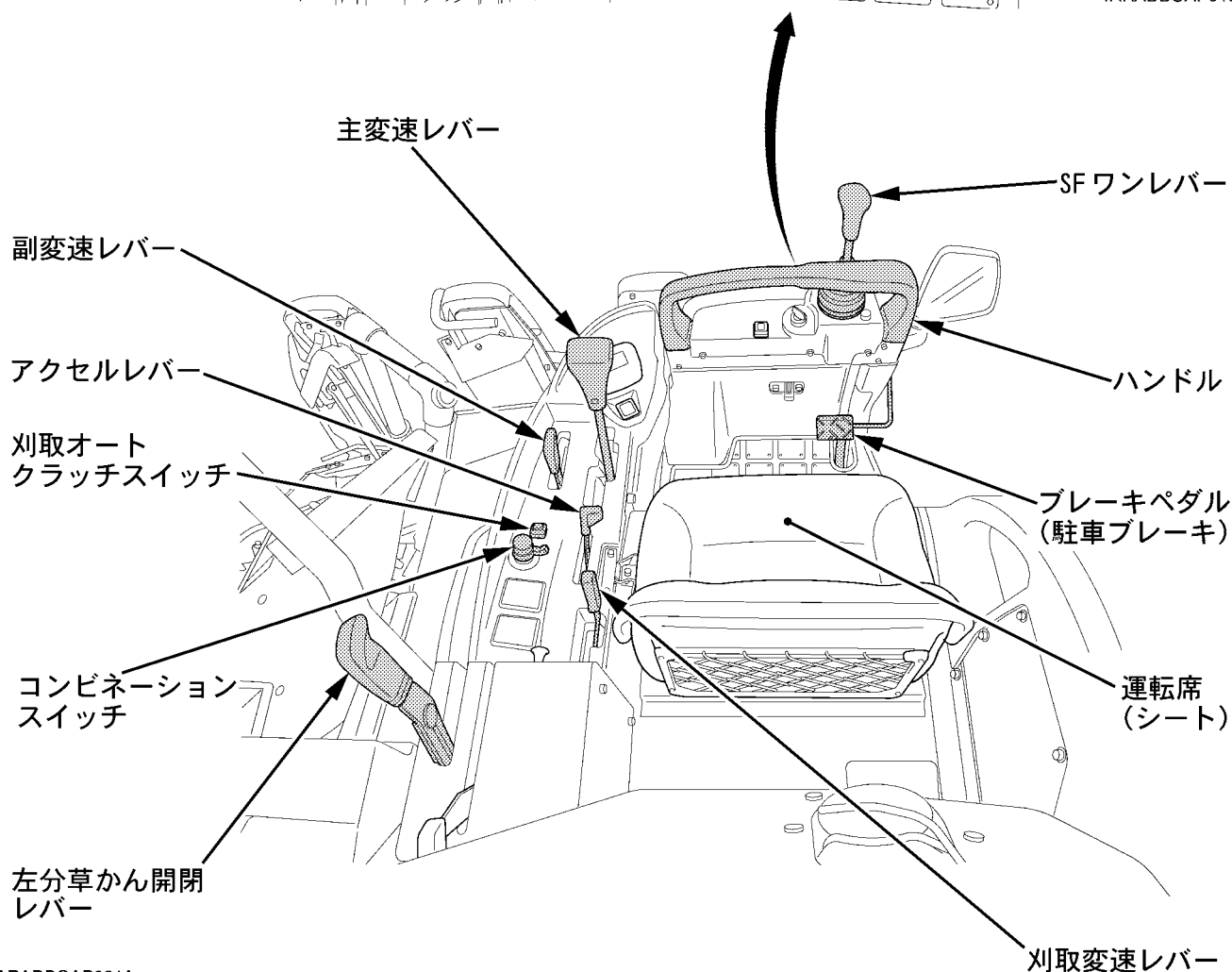
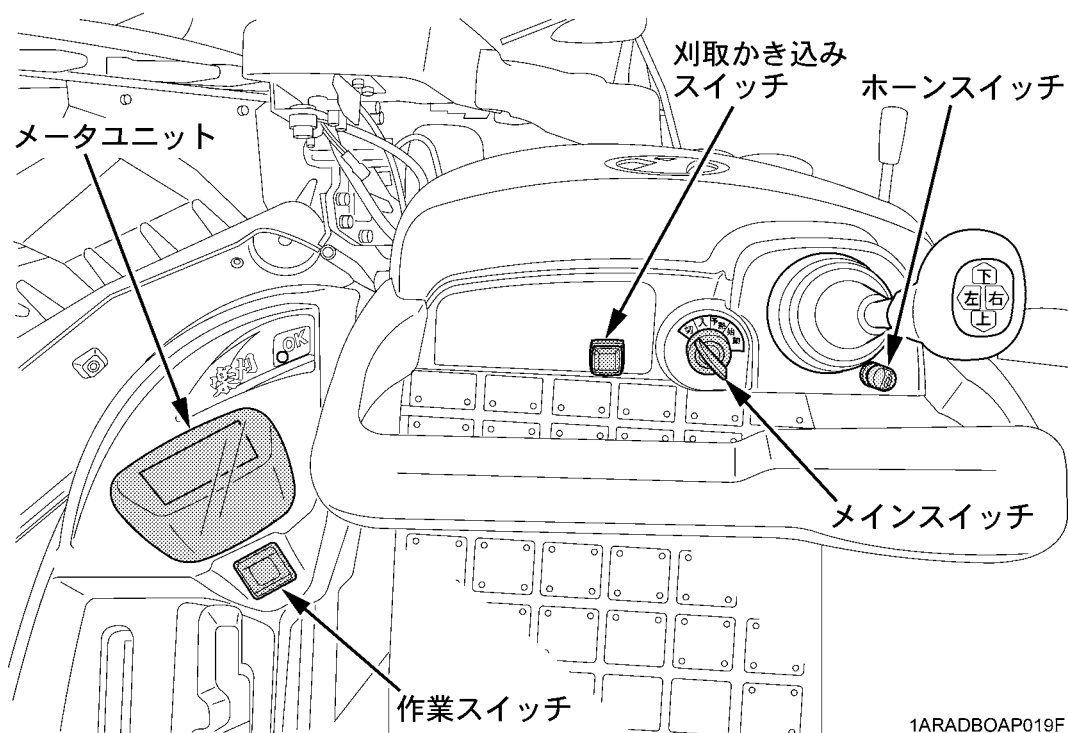
装置の名称とはたらき

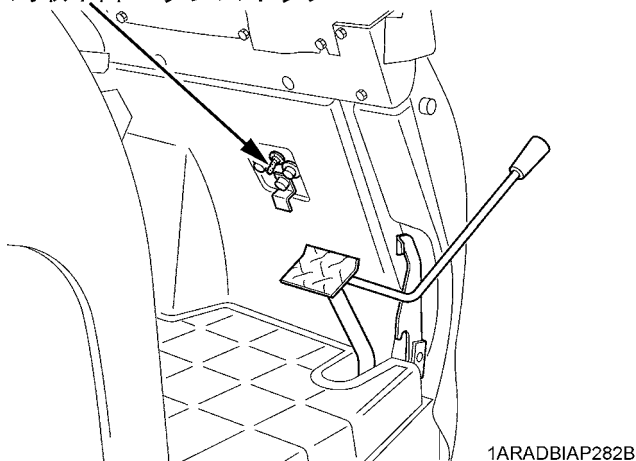
1ARADBIAP285B

1ARADBOAP003G

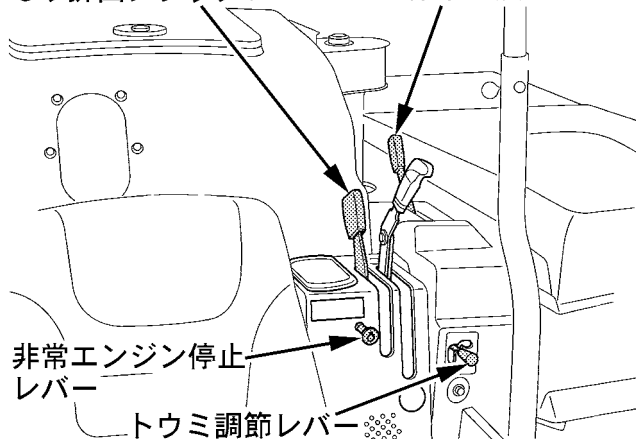
- **運転操作部**……………………エンジンの始動・停止や移動走行・刈取作業の運転操作を行なうところ
- **刈取部**…………………………作物の引起しと刈取を行なうところ
- **供給搬送部**……………………刈取った作物を脱こく部へ搬送するところ
- **脱こく部**………………………作物の脱こくを行なうところ
- **アンローダ**……………………グレンタンクからもみを排出する筒

装置の名称と取扱い

わら処理部
カッタ右サイドカバー
ウインカランプ（方向指示器）
グレンタンク部
ウインカランプ（方向指示器）
グレンタンク
上部カバー
カッタ切換えカバー
防じんカバー
エンジン部
反射器
ロープ掛けフック
リヤシュート
クローラ
サイドシュート
ロープ掛けフック
走行部
グレンタンク下カバー

1ARADBOAP011J

- **エンジン部**…………運転席下部にある動力装置
- **走行部**………………クローラにより走行を行なうところ
- **グレンタンク部**……脱こくで精選されたもみを一時貯蔵したあとアンローダで排出を行なうところ
- **わら処理部**…………わらの切断やばら落しなどわらの処理を行なうところ

刈取かき込み
スイッチ
ホーンスイッチ
メータユニット
メインスイッチ
作業スイッチ
1ARADBOAP019F
主変速レバー
SFワンレバー
副変速レバー
ハンドル
アクセルレバー
刈取オート
クラッチスイッチ
ブレーキペダル
(駐車ブレーキ)
コンビネーション
スイッチ
運転席
(シート)
左分草かん開閉
レバー
刈取変速レバー
1ARADBOAP021A

刈取下降ロックスイッチ

1ARADBIAP282B

もみ排出クラッチレバー　わら作業切換えレバー

非常エンジン停止レバー

トウミ調節レバー

1ARADBOAP049C

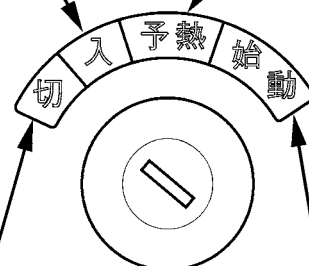
◆ **エンジン操作関係**

■メインスイッチ

コンバインの電源の**入・切**，及びエンジンの**始動・停止**を行なうスイッチです。

電気（電装）装置がはたらく位置

エンジンの燃焼室内が予熱される位置

切　入　予熱　始動

メインスイッチのキーが抜き差しできるエンジン停止中の位置

セルモータが回転し，エンジンが始動する位置

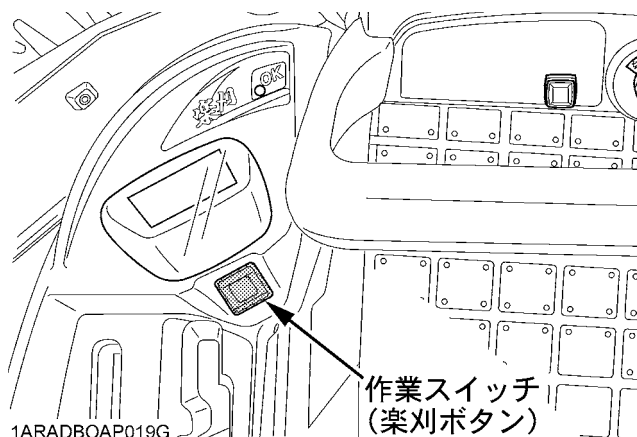
1ARADBEAP060E

補　足

＊ エンジン始動後，メインスイッチのキーから手を離すとキーは，［**入**］の位置に戻ります。

■作業スイッチ（楽刈ボタン）

脱こく部，刈取部各動力の**入・切**及びエンジン回転数を，刈取作業時の回転数に自動調整するスイッチです。

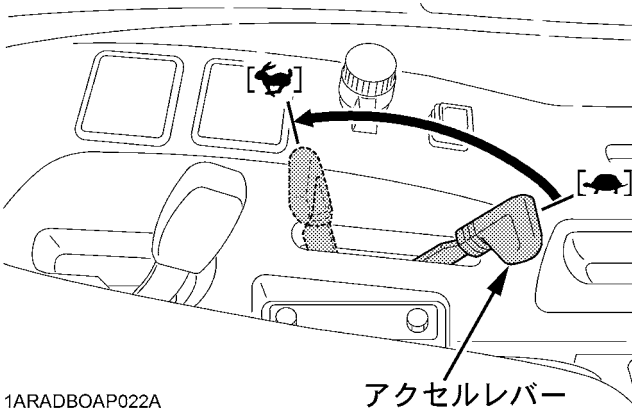
作業スイッチ（楽刈ボタン）

1ARADBOAP019G

補　足

＊ 刈取・脱こくの各クラッチが［**入**］の状態で，エンジンをいったん停止したあと，再度エンジンを始動するときは，約５秒間待ってから始動してください。刈取・脱こくの各クラッチが切れていないため，メインスイッチのキーを［**始動**］位置にしてもエンジンは始動しません。また，このとき，作業スイッチのランプが**点灯**状態となります。

＊ エンジン始動後，作業スイッチが消灯状態のとき，作業スイッチを押すと，ブザーが３回鳴り作業スイッチのランプが**点灯**すると同時に，アクセルレバーが［🐇］方向いっぱいまで自動的に動いて刈取作業時のエンジン回転数となります。
また，脱こく及び刈取りのクラッチが［入］の状態となります。

1ARADBOAP022A

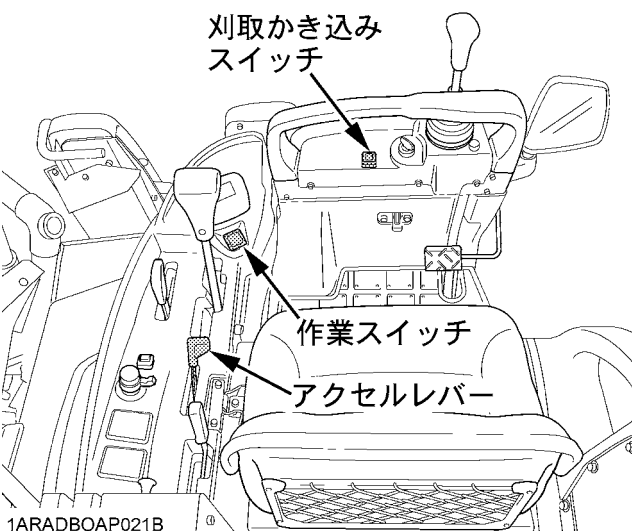
アクセルレバー

＊ 変速レバーが［N］（中立）又は，［後進］位置のときは，作業スイッチを［入］にしても刈取部は作動しません。変速レバーを前進側に操作すると，機体が前進すると同時に刈取部が作動します。

＊ エンジン停止中でメインスイッチのキーが［入］の状態のとき，作業スイッチを押したままの状態で刈取かき込みスイッチを押すと，脱こくクラッチが［入］の状態となります。そのあと，刈取かき込みスイッチを押すと刈取クラッチが［入］の状態となります。このとき，作業スイッチのランプは**点灯**，刈取かき込みスイッチのランプは**点灯**状態となります。メンテナンスのベルトの点検・調整などで使用してください。

刈取かき込み
スイッチ

作業スイッチ

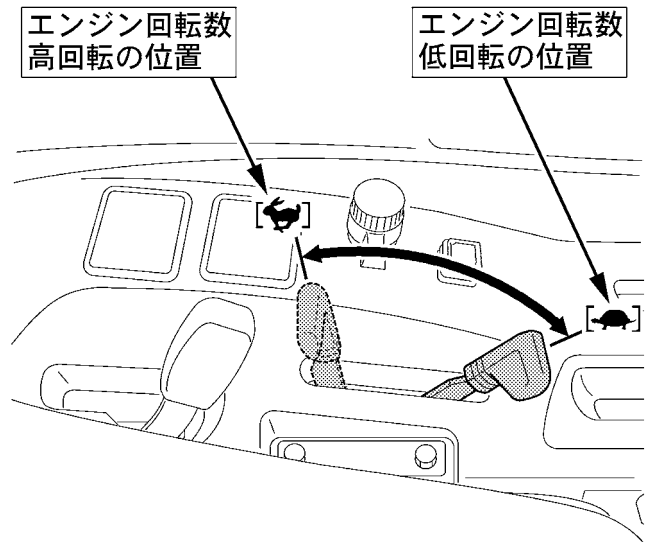
アクセルレバー

1ARADBOAP021B

■アクセルレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。レバーを後方に引くと回転数が上がります。

エンジン回転数
高回転の位置

エンジン回転数
低回転の位置

1ARADBOAP022B

補　足

＊ エンジン始動後，作業スイッチが消灯状態のとき，作業スイッチを押すと，作業スイッチのランプが**点灯**すると同時にブザーが３回鳴り，アクセルレバーが［🐇］方向いっぱいまで自動的に動いて刈取作業時のエンジン回転数となります。

＊ エンジン回転計は，16 ページを参照してください。

■非常エンジン停止レバー

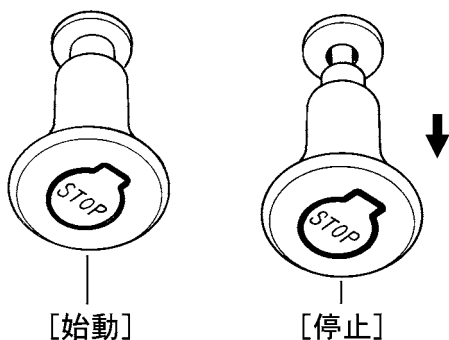
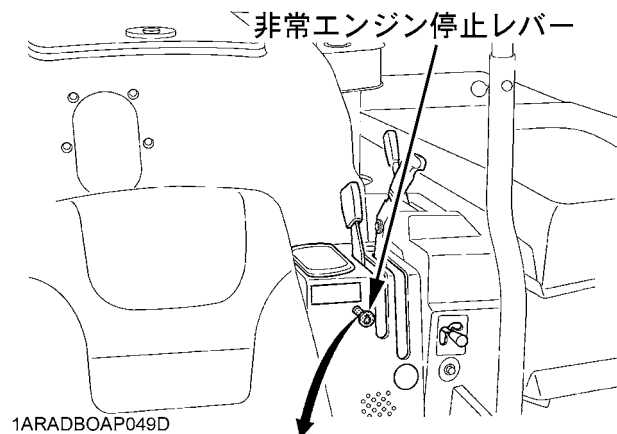
メインスイッチのキーを **[切]** 位置にしてもエンジンが止まらないときなど**非常時**に，エンジンの停止を行なうレバーです。

非常エンジン停止レバー

1ARADBOAP049D

STOP STOP

［始動］ ［停止］

1ARADAFAP051B

補　足

＊ レバーが停止状態では，エンジンは始動しません。

◆ **走行操作関係**

■主変速レバー，副変速レバー

移動走行時や刈取作業時に変速をするレバーです。

［作業］・［移動］の２段階

機体の前進・後退を無段階で操作できる

副変速レバー

［作業］

［N］（中立）

［移動］

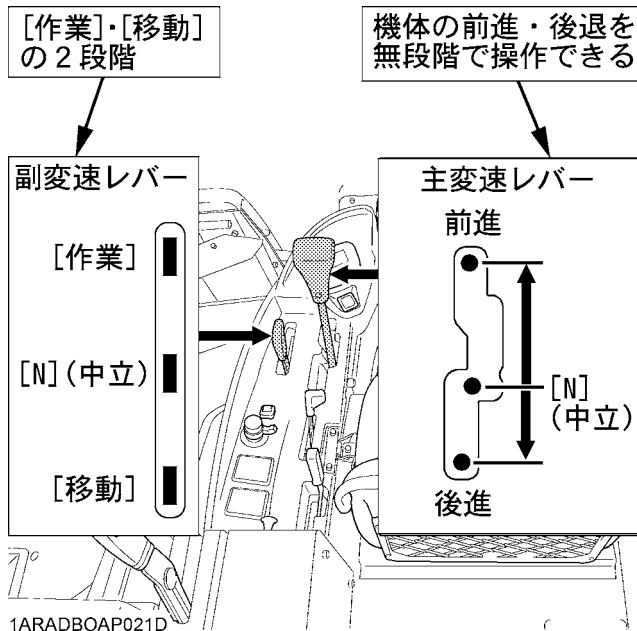
主変速レバー

前進

［N］（中立）

後進

1ARADBOAP021D

重　要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

補　足

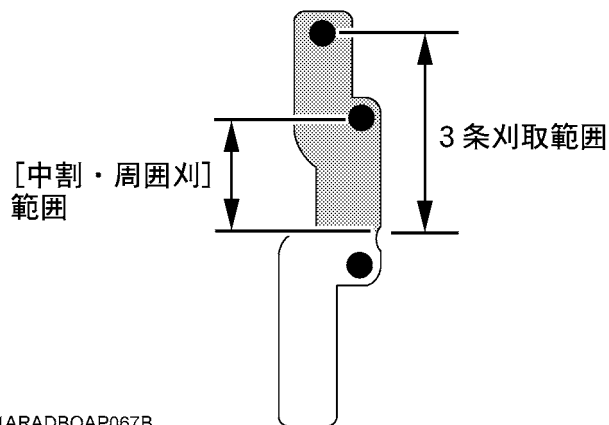
＊ ブレーキペダルを踏込む又は，駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**［N］（中立）** 位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。

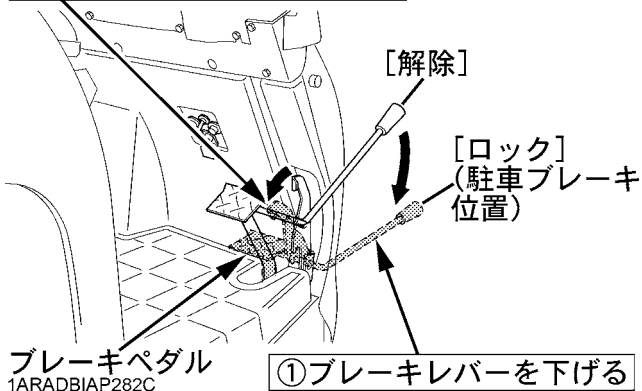
＊ **［後進］** 位置にするとバックブザーが鳴ります。

＊ 刈取作業を行なうとき，作物やほ場の状態に合わせて，主変速レバーを **［中割・周囲刈］範囲**又は，**３条刈取範囲**の範囲内で刈取速度の調整を行なってください。（60 ページ参照）

［中割・周囲刈］範囲

３条刈取範囲

1ARADBOAP067B

■ブレーキペダル（駐車ブレーキ）

レバーを下げるとブレーキが掛かり，ロックレバーで駐車ブレーキレバーをロックすると駐車ブレーキが掛かります。
駐車ブレーキを解除するときは，ブレーキペダルを強く踏込む又は，ブレーキレバーを押下げてロックを解除してください。

補　足

* 駐車ブレーキレバーを押さえると，減速すると同時に主変速レバーが **[N]（中立）** 側に戻ります。
* 駐車ブレーキを掛けると主変速レバーは，**[N]（中立）** 位置に固定され，主変速レバーを操作しても動きません。
* 駐車ブレーキペダルを踏込まないと，エンジンは始動しません。

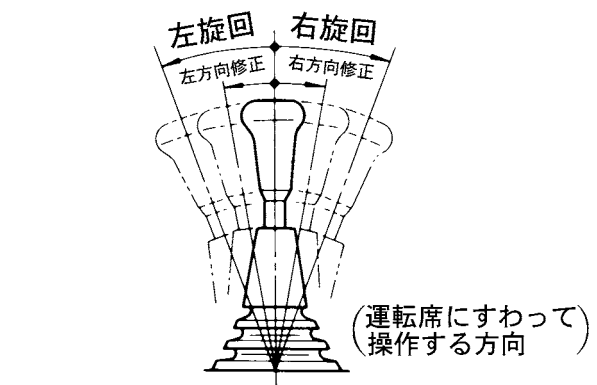
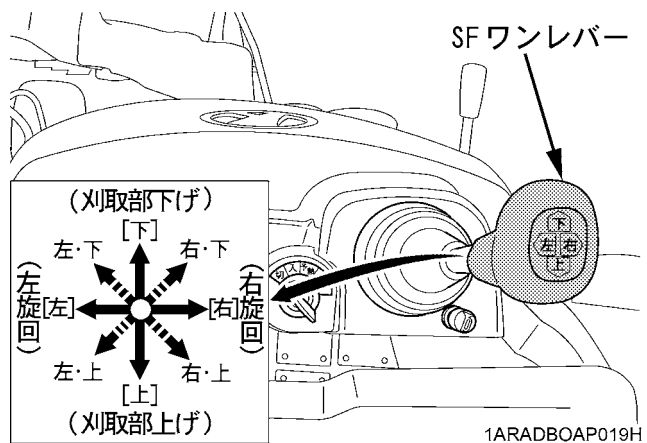
■ SF ワンレバー

SF ワンレバーは，機体走行時の進路変更と刈取部の昇降の操作を行なうレバーです。

● SF ワンレバー

[左] ⟷ [右] …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わります。倒す角度に応じて進路の方向修正から旋回を行ないます。

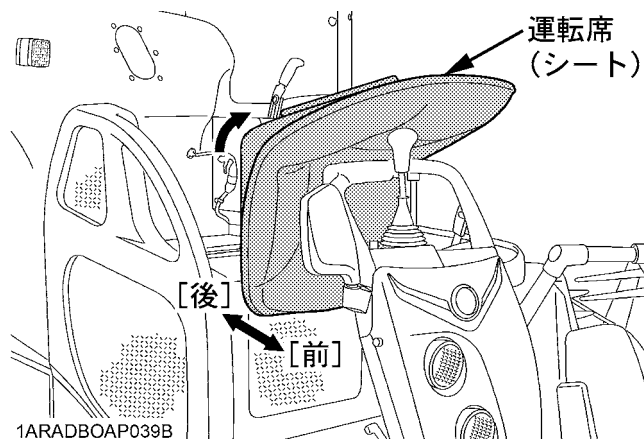
[下げ] ↕ [上げ] …… レバーを倒した方向に刈取部が上下に動きます。

左・下 右・下 左・上 右・上 …… レバーを倒した方向に機体の進路が変わると同時に，刈取部が上下に動きます。

補　足

* エンジンが停止中で，刈取部が上がっているときに SF ワンレバーを前方（**[下]** 方向）に倒しても刈取部は下がりません。

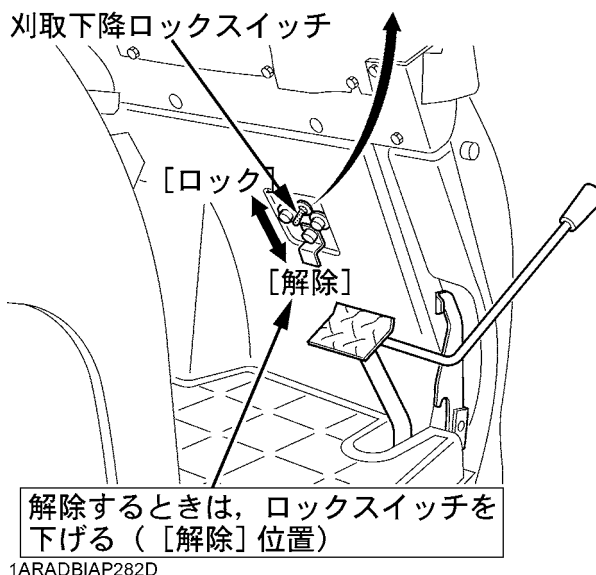
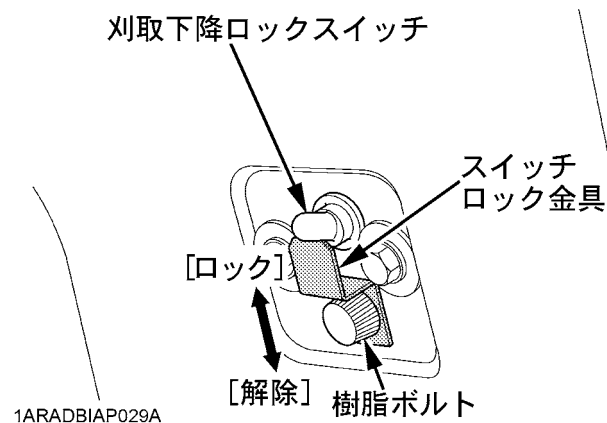
■**運転席（シート）**

運転席（シート）を前方に倒しながら，**前**・**後**に調節が行なえます。

運転席（シート）
［後］
［前］
1ARADBOAP039B

■**刈取下降ロックスイッチ**

刈取部の下降防止を行なうロックスイッチです。ロックスイッチを上げる（**［ロック］**位置）と SF ワンレバーを操作しても刈取部は下降しません。

刈取下降ロックスイッチ
スイッチロック金具
［ロック］
［解除］
樹脂ボルト
1ARADBIAP029A

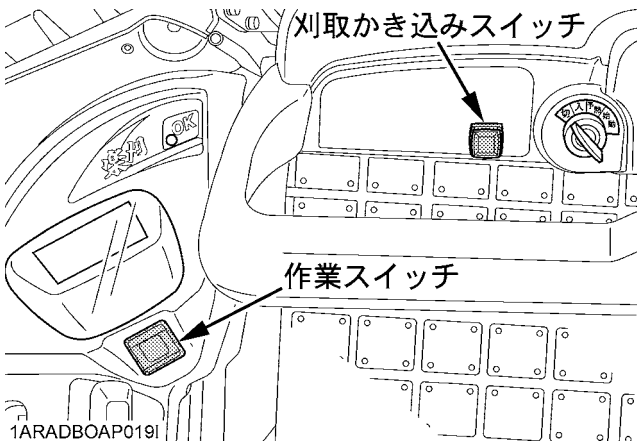
刈取下降ロックスイッチ
［ロック］
［解除］
解除するときは，ロックスイッチを下げる（［解除］位置）
1ARADBIAP282D

補　足

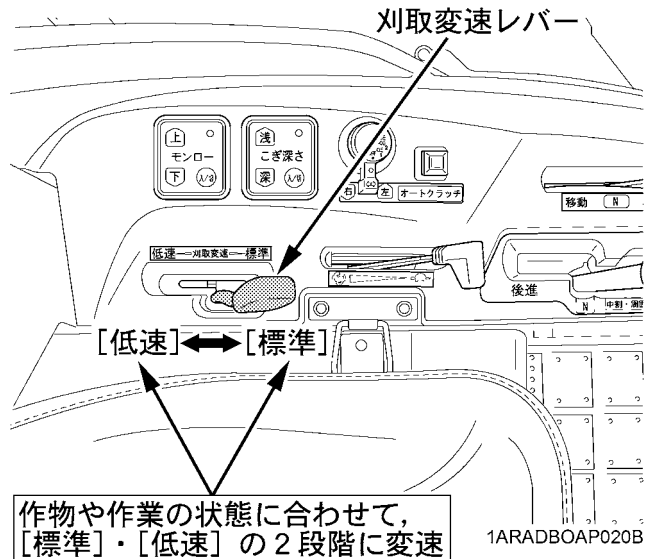
＊ ロックスイッチを上げたときは，必ずスイッチロック金具でロックスイッチを固定し，解除防止を行なってください。スイッチロック金具は樹脂ボルトをゆるめて動かしてください。
＊ エンジンを始動しないと刈取部は上昇，下降しません。
＊ メンテナンスなどで，刈取部を上げた状態で点検・調整などの作業を行なうときは，刈取下降ロックスイッチを上げてください。

◆ 刈取・脱こく関係

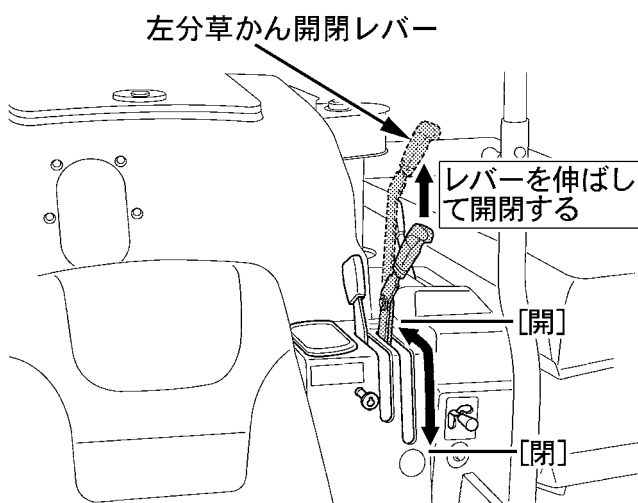
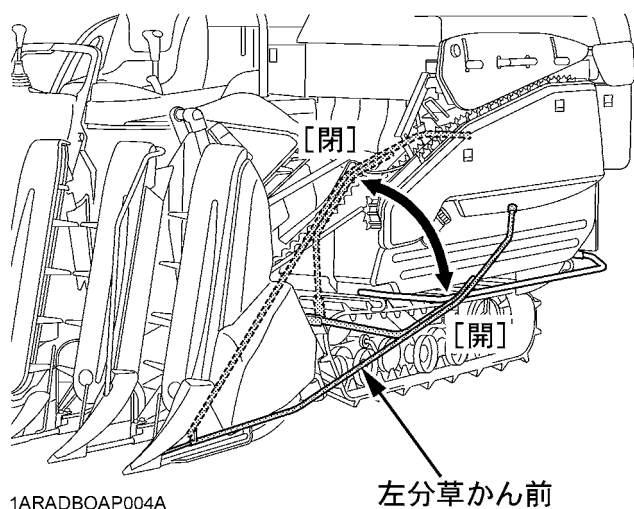
■刈取かき込みスイッチ
あぜぎわなどで前進しながら刈取作業が行なえないとき，機体の走行を停止した状態で作物の刈取りを行なうときに，刈取部を作動させるスイッチです。

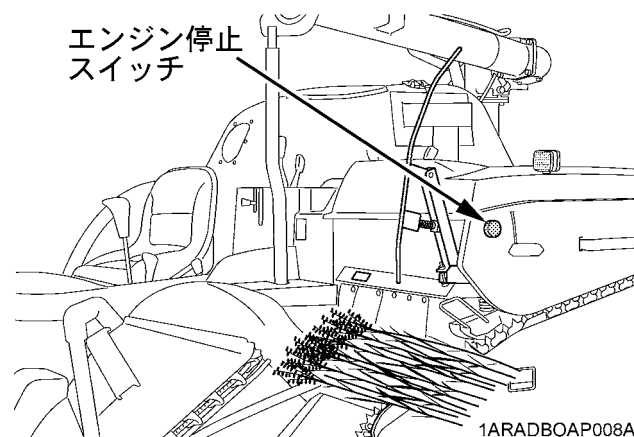
変速レバーが［N］（中立）位置で，機体の走行が停止しているとき，作業スイッチを押して［入］にし，脱こく部が作動している状態で刈取かき込みスイッチを押すと刈取部が作動します。

刈取かき込みスイッチ
作業スイッチ
1ARADBOAP019I

補　足
＊ 刈取オートクラッチが［入］の状態で，刈取部が**最上昇位置**にあるときには，刈取かき込みスイッチを押しても刈取部は作動しません。
＊ エンジン停止中でメインスイッチのキーが［入］の状態のとき，作業スイッチを押したままの状態で刈取かき込みスイッチを押すと，脱こくクラッチが［入］の状態となります。そのあと，刈取かき込みスイッチを押すと刈取クラッチが［入］の状態となります。このとき，作業スイッチのランプは**点灯**，刈取かき込みスイッチのランプは**点灯**状態となります。メンテナンスのベルトの点検・調整などで使用してください。

■刈取変速レバー
刈取部の速度を変えるレバーです。作物や作業の状態に合わせて，［標準］と［低速］の２段階に変速できます。

刈取変速レバー
［低速］⟷［標準］
作物や作業の状態に合わせて，
［標準］・［低速］の２段階に変速
1ARADBOAP020B

■左分草かん開閉レバー

左分草かん前を開閉するレバーです。

■エンジン停止スイッチ

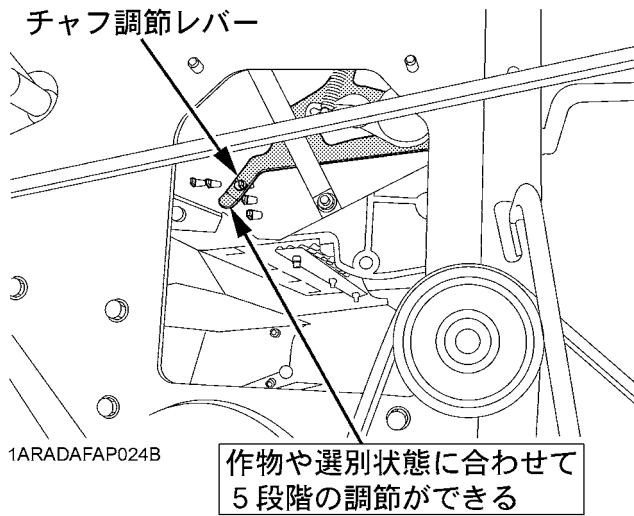
エンジンを停止するスイッチです。エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。

補　足

＊ メインスイッチのキーを［切］位置にするとブザーは止まります。
＊ メインスイッチのキーを［切］位置に戻してからエンジンを再始動してください。

■トウミ調節レバー

トウミの風力調節を行なうレバーです。

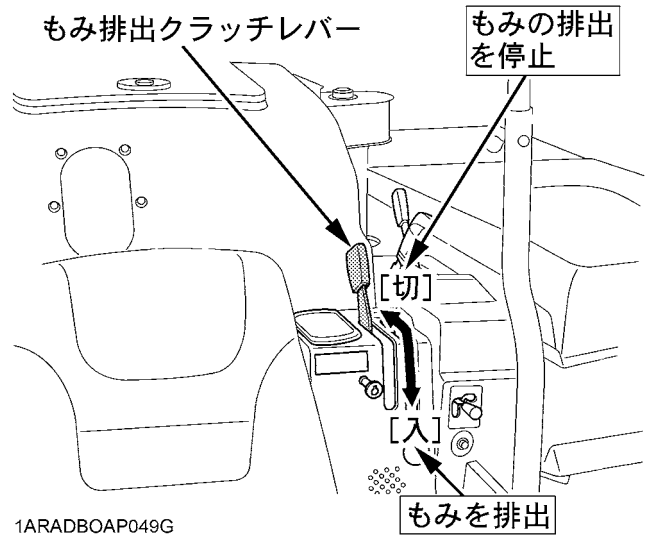
■チャフ調節レバー

シーブケースにある選別板のすき間（開度）の調節を行なうレバーです。

補　足

＊ チャフ調節レバーは，左サイドカバーを取外し，脱こく部左の掃除口カバーを取外すとあります。

◆ グレンタンク関係

■もみ排出クラッチレバー

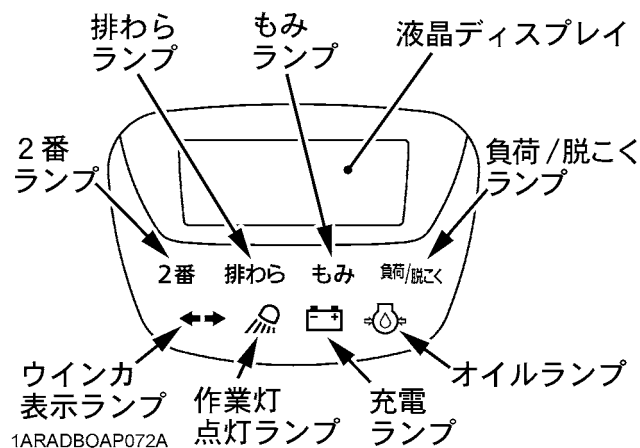
グレンタンク内のもみ排出操作を行なうレバーです。

補　足

＊ もみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にしないと，エンジンは始動しません。

◆ 電装関係

■メータユニット

液晶ディスプレイは，機械の状態や状況（エンジン始動前や始動後，異常発生のときなど）に応じて，必要な情報をマイコンが判断し，液晶ディスプレイに表示します。

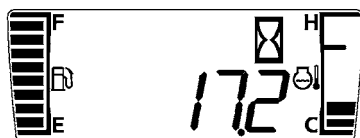
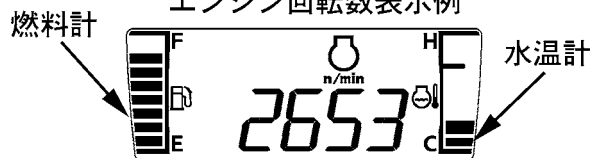
排わら
ランプ
もみ
ランプ
液晶ディスプレイ
２番
ランプ
負荷 / 脱こく
ランプ
2番　排わら　もみ　負荷/脱こく
ウインカ
表示ランプ
作業灯
点灯ランプ
充電
ランプ
オイルランプ

1ARADBOAP072A

［液晶ディスプレイ表示パターン］

アワメータ表示例

F H E C 17.2

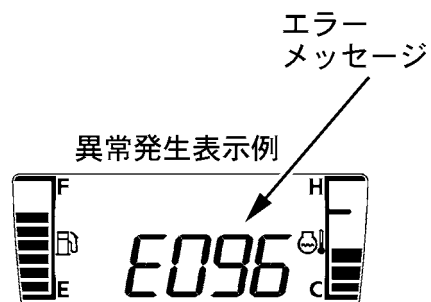
エンジン回転数表示例

燃料計
水温計
F H E C n/min 2653

1ARADBOAP064A

補　足

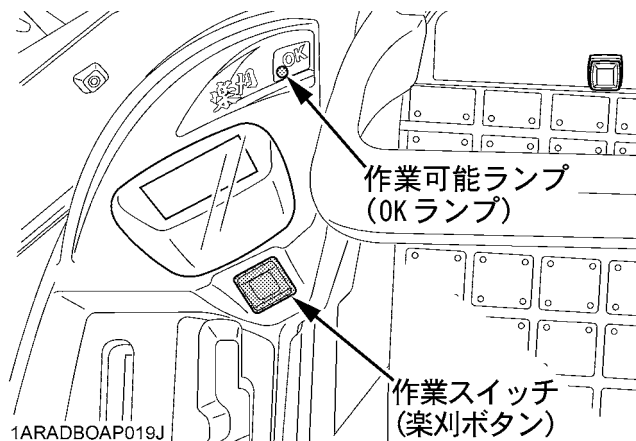
＊ 異常が発生すると，メータユニットの液晶ディスプレイに異常のエラーメッセージを表示します。故障によるエラーメッセージが表示されたときは刈取作業を中止し，購入先に連絡して処置してください。

エラー
メッセージ
異常発生表示例

F H E C E096

1ARADBOAP106A

＊ 液晶ディスプレイに異常のエラーメッセージが表示されたとき，警報ブザーは鳴りませんので注意してください。ただし，異常が同時に発生したときは，警報ブザーが鳴ります。
＊ 機械に異常が発生すると，液晶ディスプレイにエラーコードとエンジン回転数を交互に表示します。（作業可能ランプ**点滅**）

作業可能ランプ
（OK ランプ）
作業スイッチ
（楽刈ボタン）

1ARADBOAP019J

◆ 各メータ

● 燃料計（常時表示）

燃料の残量を液晶の目盛り（８段階）で表示します。

● 水温計（常時表示）

エンジンの冷却水温を目盛り（７段階）で表示します。
エンジンの冷却水温が高温になると水温計の目盛が全て**点滅**し，警報ブザーが鳴ります。**（水温警報）**

● アワメータ（単位：h［時間］）

エンジン停止中（メインスイッチ［入］時），エンジン運転時間の積算使用時間を表示します。

● エンジン回転数表示（単位：n/min[rpm]）

エンジン作動中，１分間のエンジン回転数をデジタル表示します。

◆ 各ランプ

補　足

＊ 処置については，71 ページを参照してください。
＊ エンジンが停止しているとき，メインスイッチのキーを［入］位置にすると，充電ランプ・オイルランプが点灯しますが異常ではありません。

● 充電ランプ

充電系統に異常が発生すると点灯します。**(充電警報)**

● オイルランプ

エンジンオイルの圧力が，異常に低下すると点灯します。**(油圧警報)**

● ２番ランプ

２番処理ケース内又は，２番縦スクリュケース内が詰まると点滅し，ブザーが鳴ります。**(２番警報)**

● 作業可能ランプ（OK ランプ）

作業スイッチが押され，作業可能状態（エンジン回転数（**作業範囲**），脱こく・刈取クラッチ［入］）になると**点灯**します。作業可能ランプが**点灯**したのを確認してから，刈取作業を開始してください。

補　足

＊ 警報・異常が発生したときは，作業可能ランプが**点滅**します。（油圧警報・充電警報除く）

● 作業灯点灯ランプ

コンビネーションスイッチを**［ヘッドランプ・作業灯点灯位置］**にすると，作業灯が**点灯**すると同時に，作業灯ランプが**点灯**します。

注　意

＊ やむをえず夜間に移動走行するときは，必ずヘッドランプを点灯し，作業灯は消灯してください。

● 排ワラランプ

フィードチェーン終端部及びわら処理（カッタ）部にわらが詰まり，エンジンが自動停止**（エンジン自動停止装置）**すると点滅し，ブザーが鳴ります。**（排ワラ警報）**

補　足

＊ 排ワラランプ表示は，**［結束機付き仕様］**の場合，わら詰まり・ひも切れ・ひも詰まりでも点滅します。

● モミランプ

グレンタンク内のもみが満杯になると点滅し，警報ブザーが鳴ります。**（もみ満杯警報）**

● 負荷・脱こくランプ

エンジンに負荷が掛かってくるとランプが点滅し，警報ブザーが鳴ります。**（負荷警報）**また，脱こく機のシーブケース上で詰まりが発生するとランプが点滅し，警報ブザーが鳴ります。**（シーブ警報）**

補　足

＊ エンジン回転数は，負荷が大きくなるほど下がります。負荷・脱こくランプ表示で以下のようになります。

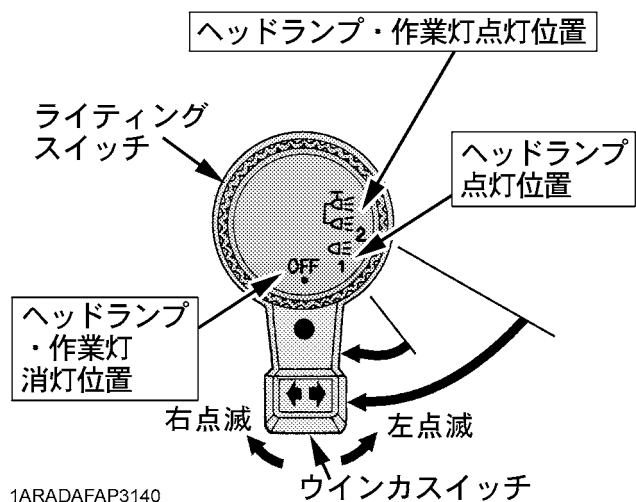
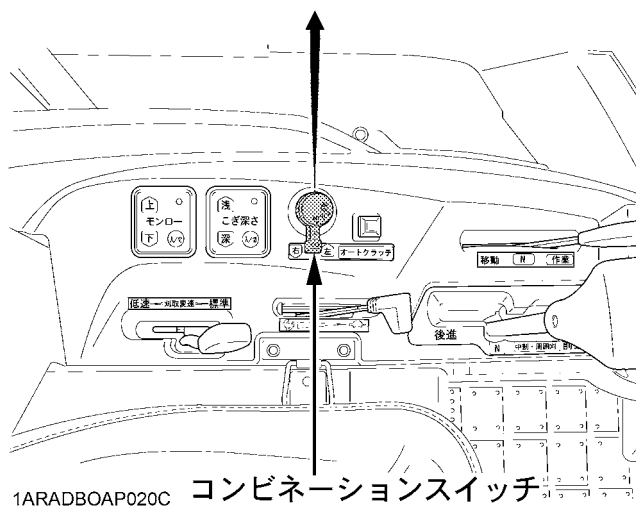
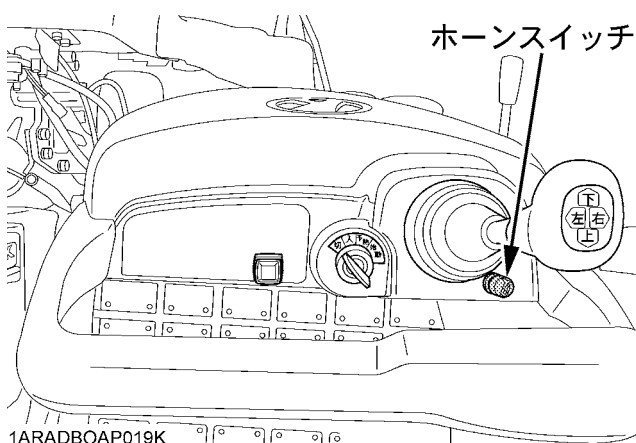
適正範囲……… ランプ**点滅**

⬇

即時減速……… ランプ**点滅**
警報ブザーが長い間隔で断続的に鳴る

⬇

即時作業停止… ランプ**点滅**
警報ブザーが短い間隔で断続的に鳴る

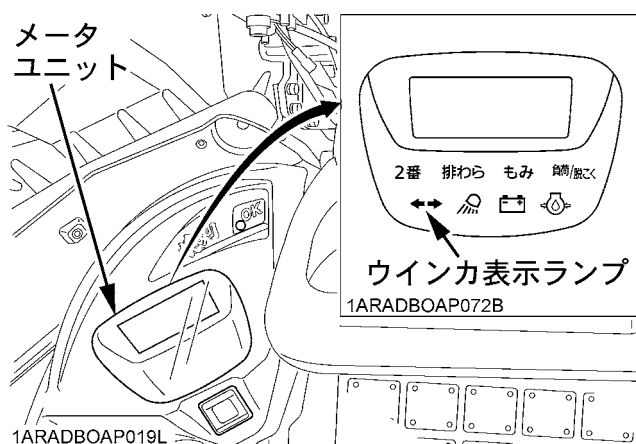
■コンビネーションスイッチ，ホーンスイッチ

1ARADAFAP3140

1ARADBOAP020C

1ARADBOAP019K

● **ライティングスイッチ**
スイッチを操作するとランプが点灯します。

補　足

＊ 作業灯はオプション部品です。

● **ホーンスイッチ**
ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

● **ウインカスイッチ**
旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅すると同時にメータユニット内のウインカ表示ランプが点滅します。

1ARADBOAP072B

1ARADBOAP019L

自動化装置の名称とはたらき

刈取オートクラッチスイッチ

自動車体水平制御装置

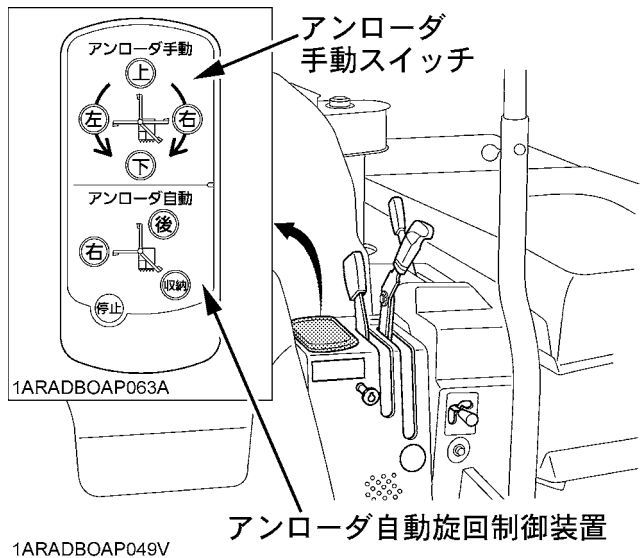
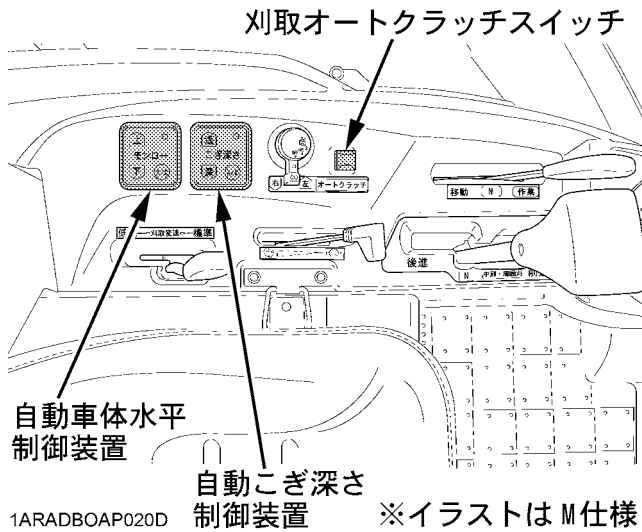
自動こぎ深さ制御装置

1ARADBOAP020D　※イラストはM仕様

アンローダ手動スイッチ

アンローダ自動旋回制御装置

1ARADBOAP063A

1ARADBOAP049V

■自動車体水平制御装置（モンロー）

[M仕様]

自動車体水平制御装置は，脱こく部が作動しているときに機体が右に傾くと，自動的に機体を水平状態に修正・保持する装置です。

● 水平自動スイッチ

自動車体水平制御の**入／切**をするスイッチです。

自動車体水平制御［入］…… ランプが点灯し，自動車体水平制御が作動します。

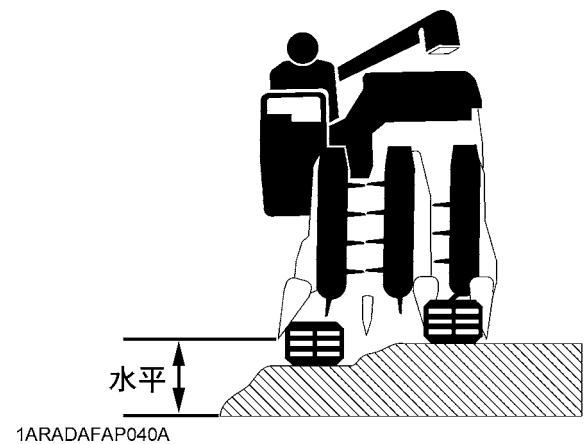
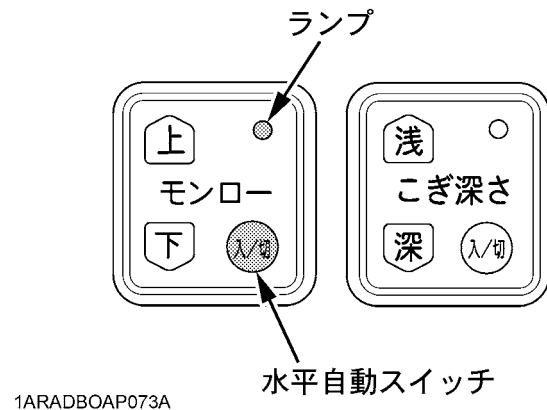
自動車体水平制御［切］…… ランプが消灯し，自動車体水平制御が解除されます。

ランプ

水平自動スイッチ

1ARADBOAP073A

水平

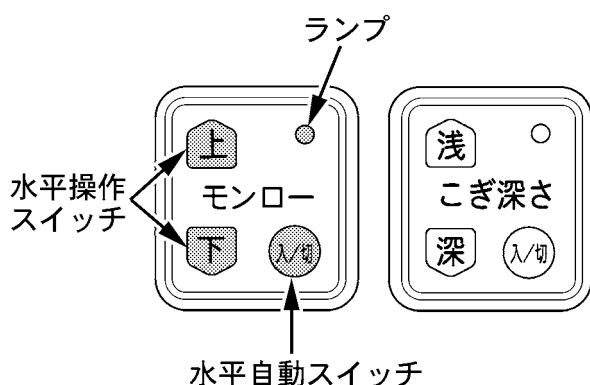
1ARADAFAP040A

補　足

＊ 作業スイッチを**［切］（消灯）**にするか，又は水平自動スイッチを**［切］**にすると，機体はいったん一番下まで下がります。また，下降中に，水平操作スイッチを操作すると下降が停止します。
＊ 水平自動スイッチを**［入］**位置にしたとき，ランプが点滅しているときは，システム異常を起こしていますので購入先に連絡してください。

［M 仕様］

■水平操作手動スイッチ

［M 仕様］

車体右側の**上昇⟷下降**を行なう手動操作スイッチです。

1ARADBOAP073B

スイッチの操作方向	機体の動き
上	右側上昇
下	右側下降

補　足

＊ 自動車体水平制御がはたらいているときでも，水平操作スイッチによる操作が優先されます。
＊ 傾斜地では操作しないでください。
＊ モンロー操作時（特に全上昇，全下降）は，エンジン回転数を上げてください。

［M 仕様］

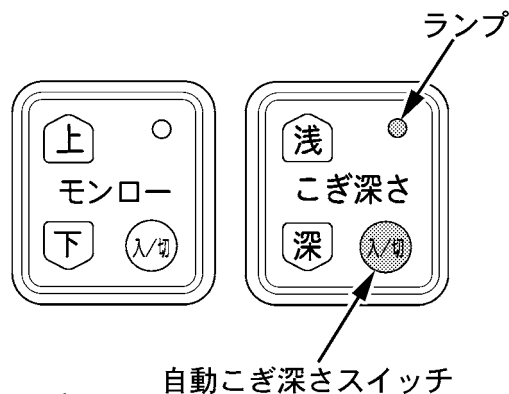
■自動こぎ深さ制御装置

自動こぎ深さ制御装置は，作物の長さに応じて，適正なこぎ深さを保つ装置です。

● 自動こぎ深さスイッチ

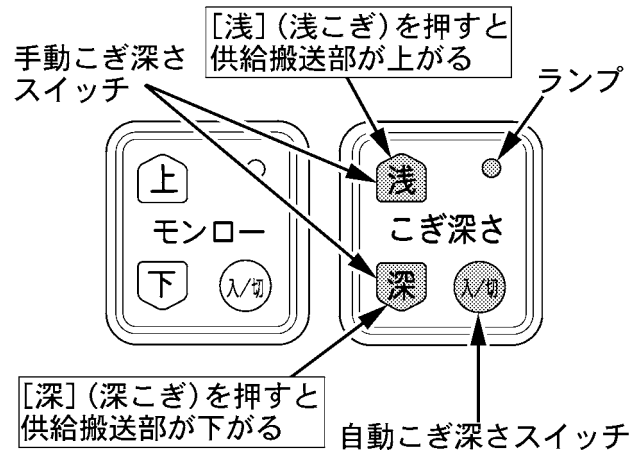
自動こぎ深さ制御の**入／切**をするスイッチです。

自動こぎ深さ制御［入］…… ランプが点灯し，自動こぎ深さ制御が作動します。

自動こぎ深さ制御［切］…… ランプが消灯し，自動こぎ深さ制御が解除されます。

1ARADBOAP073G

■手動こぎ深さ制御装置

● **手動操作時**

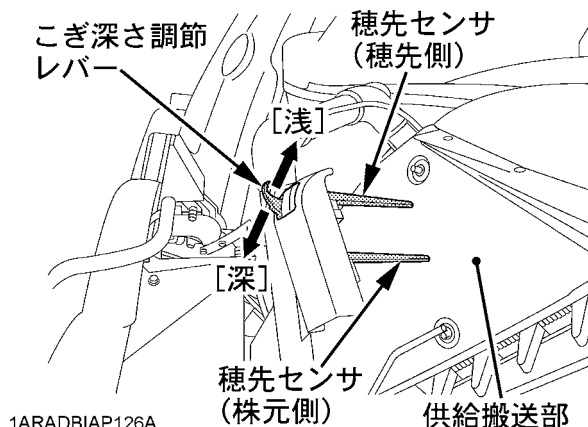
こぎ深さを手動で行なう場合は，自動こぎ深さスイッチを **[切]（ランプ消灯）** にしてください。

1ARADBOAP073H

スイッチの操作	供給搬送部の動き
深	下がる
浅	上がる

補　足

＊ 自動制御が，はたらいているときでも手動スイッチによる操作が優先されます。

● **穂先センサの位置調節について**

通常は **[ほぼ中央]** に合わせてください。調節は，こぎ深さ調節レバーを **[深]** の方向に倒すと，深こぎ気味に保持され，こぎ深さ調節レバーを **[浅]** の方向に倒すと，浅こぎ気味に保持されます。

1ARADBIAP126A

補　足

＊ 穂先センサ（株元側，穂先側）に浮わらや雑草が引っ掛かると，正常な自動制御ができませんので取除いてください。

＊ 下記のときは，手動で操作してください。
- 長かん作物（約130cm以上）を刈取るとき
- 遅れ穂が多く，こぎ残しの出るとき
- 極端に作物の長さが不揃いのとき
- 作物よりも長い雑草が多いとき
- 倒伏作物を刈取るとき

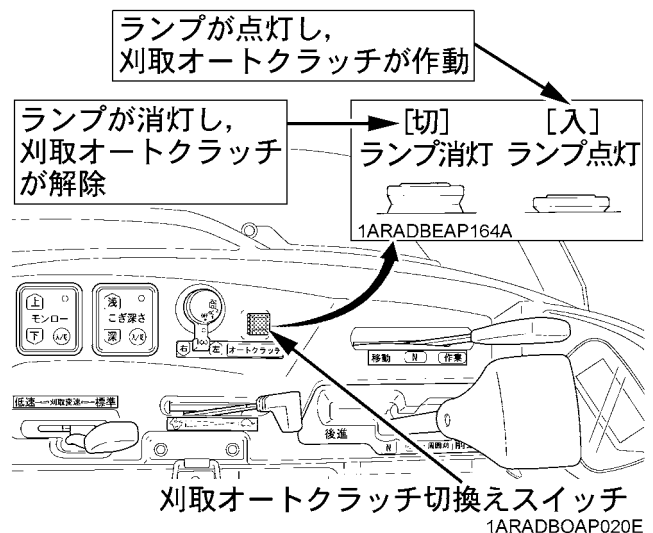
■刈取オートクラッチ

刈取オートクラッチは，刈取部及び脱こく部が作動中にSFワンレバーを操作したとき，刈取部が地面から一定の高さまで上昇すると刈取搬送部が停止し，一定の高さまで下降すると再度動き出す自動クラッチです。

● **オートクラッチ切換えスイッチ**

刈取オートクラッチの**入／切**をするスイッチです。

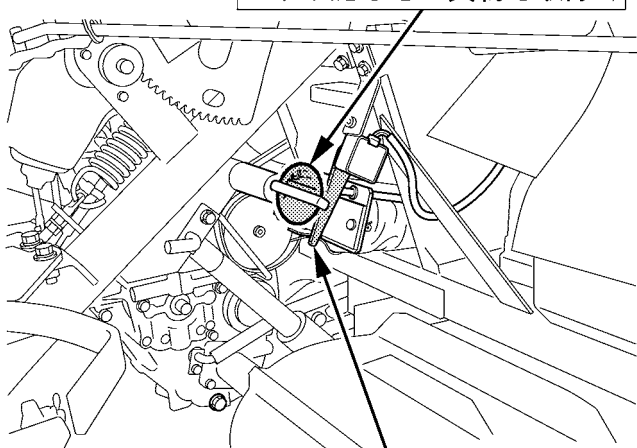
オートクラッチ［入］… ランプが点灯し，刈取オートクラッチが作動します。

オートクラッチ［切］… ランプが消灯し，刈取オートクラッチが解除されます。

1ARADBOAP020E

補　足

＊ 刈取オートクラッチ切換えスイッチ［入］（ランプ点灯）で，刈取搬送部が停止しているとき，切換えスイッチを［切］（ランプ消灯）にすると刈取搬送部を再度動かすことができます。

＊ 刈取作業中に刈取部を上昇してもオートクラッチが切れない（作物の搬送が停止しない）ときは，センサ部に溜まっている泥やゴミを掃除して取除いてください。

ごみや泥などの異物を取除く

1ARADBOAP032B　刈取オートクラッチセンサ

■アンローダ自動旋回制御装置

アンローダ自動旋回制御装置は，スイッチの操作により，アンローダが**収納位置⟷排出位置**に自動旋回する装置です。

- **アンローダ自動旋回（右・後・収納）スイッチ収納位置**

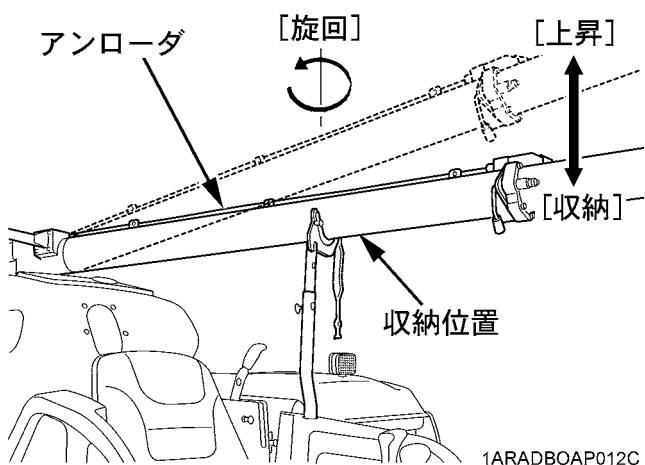
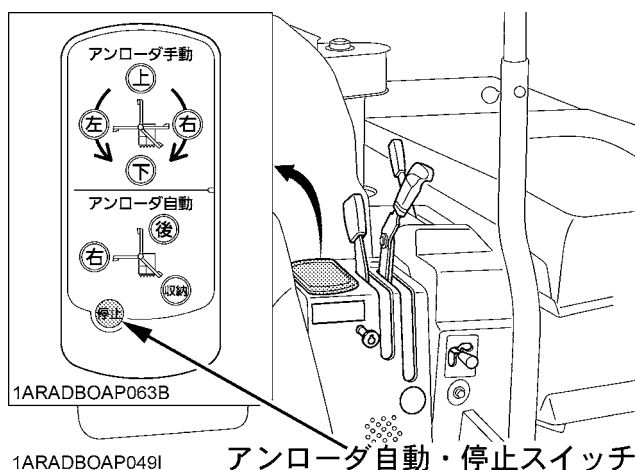
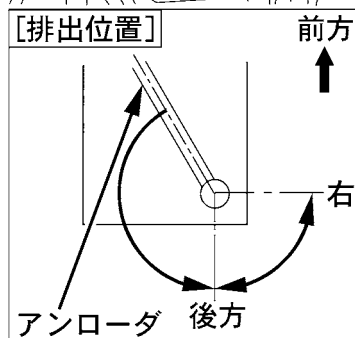
（アンローダ受けに収納状態）にあるときに，自動［右］・［後］方旋回スイッチを押すと，アンローダが選択した位置まで自動旋回します。収納位置以外にあるときに，自動［収納］スイッチを押すと，収納位置まで自動的に戻ります。

- **停止スイッチ**

アンローダ自動旋回中に［停止］スイッチを押すと，その位置でアンローダが停止します。

アンローダ手動
上
左
右
下
アンローダ自動
後
右
収納
停止
1ARADBOAP063B

1ARADBOAP049I　アンローダ自動・停止スイッチ

アンローダ
［旋回］
［上昇］
［収納］
収納位置
1ARADBOAP012C

［排出位置］
前方
右
アンローダ
後方
1ARADAFAP045H

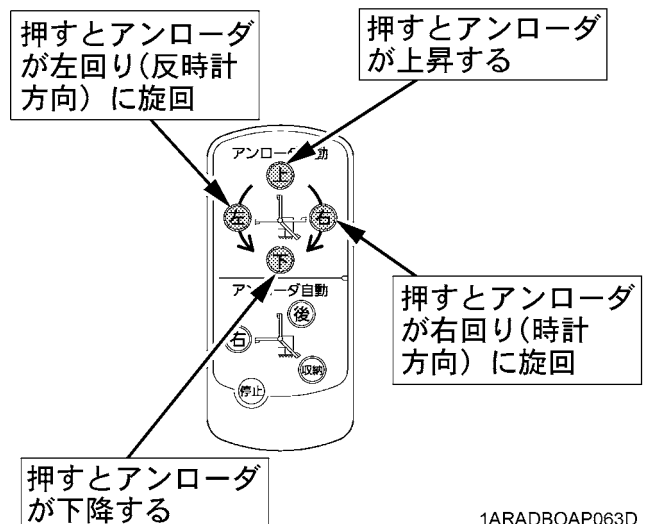
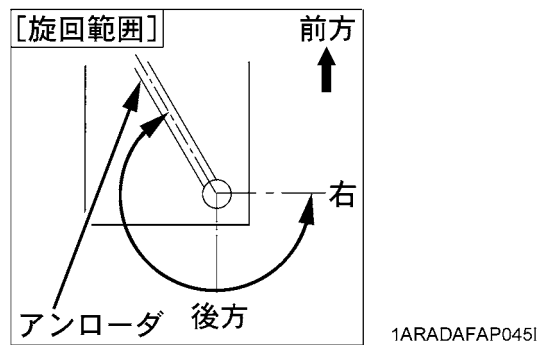
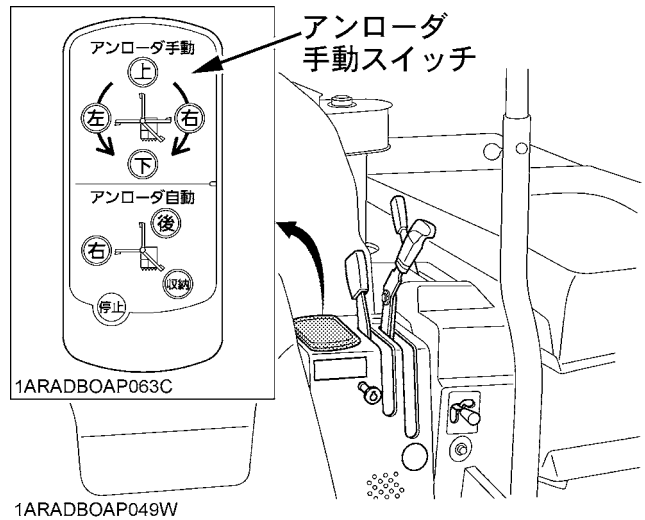
重　要

＊ エンジン停止中でもメインスイッチのキーが**［入］**の位置で旋回操作はできますが，長時間エンジンを停止した状態で操作すると**バッテリ上り**の原因となりますので，操作するときは，エンジンを必ず始動して行なってください。

補　足

＊ 自動旋回中でも手動スイッチ操作が優先され，その後の自動旋回は停止します。
＊ 自動旋回スイッチ**［収納］**でアンローダが収納位置に戻った直後に，再度自動旋回スイッチ**［右］・［後］**を押しても，作動しません。10秒程度待ってから，押してください。

■アンローダ手動スイッチ

アンローダの旋回及び上昇・下降の操作を行なう手動の操作スイッチです。

アンローダ手動スイッチ

1ARADBOAP063C

1ARADBOAP049W

［旋回範囲］ 前方 右 アンローダ 後方

1ARADAFAP045I

押すとアンローダが左回り（反時計方向）に旋回
押すとアンローダが上昇する
押すとアンローダが右回り（時計方向）に旋回
押すとアンローダが下降する

1ARADBOAP063D

補　足

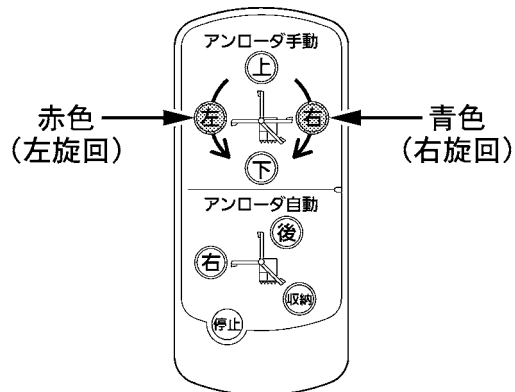
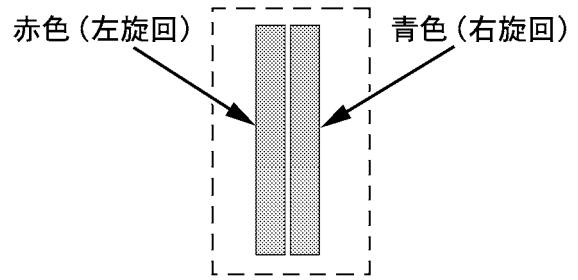
＊ アンローダ手動スイッチとアンローダに貼付している操作方向認識ラベルを確認し，アンローダ手動スイッチを操作してください。アンローダ手動スイッチを**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダ手動スイッチを**青色**方向に操作するとアンローダは右旋回（ラベル青色方向）します。

赤色（左旋回）
青色（右旋回）
アンローダ手動
上
左
右
下
アンローダ自動
後
右
収納
停止

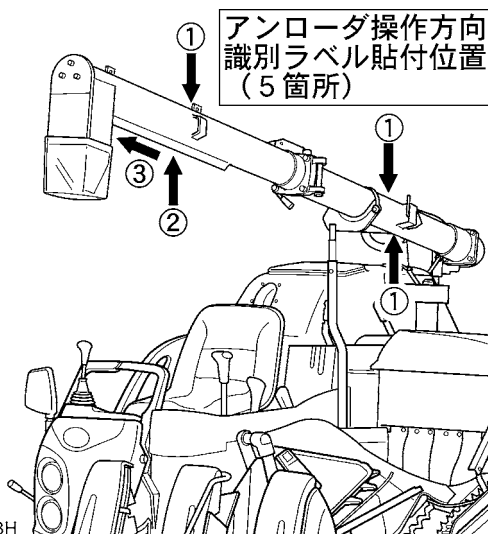
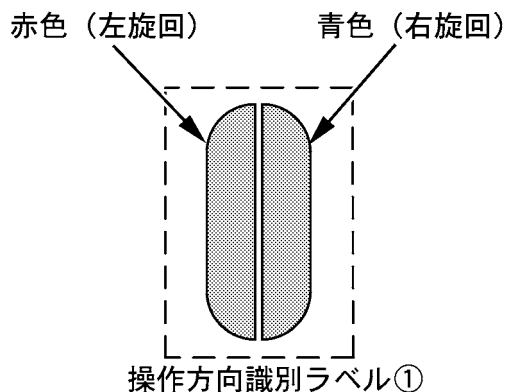
1ARADBOAP063E

アンローダ操作方向識別ラベル貼付位置（５箇所）
①
②
③

1ARADBOAP003H

赤色（左旋回）
青色（右旋回）
操作方向識別ラベル①

1ARADAKAP280B

赤色（左旋回）
青色（右旋回）
操作方向識別ラベル②

1ARADAFAP478A

赤色（左旋回）
青色（右旋回）
操作方向識別ラベル③

1ARADAFAP479A

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。(点検・調整方法の詳細は，75 ページ以降を参照)

警 告

＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを始動してからの確認作業以外は，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜き，駐車ブレーキを必ず掛けてから行なってください。
＊ バッテリの点検･充電･交換中は火気厳禁です。
＊ 各部の調整･点検･交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，外したままでは衣服などを巻込むおそれがあり危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊ 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
＊ 運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊ 使用前にはオイル，燃料が規定量入っているか必ず点検してください。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重 要

各部への給油と交換
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するエンジンオイル，ミッションオイル，グリースは，必ず指定の**［クボタ純オイル・クボタ純グリース］**を使用してください。
＊ 燃料補給の際は，ゴミや水が混入しないようにしてください。

◆ 前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

◆ コンバインの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 油もれや水もれなどないか点検します。
4. 機体各部にわらくずがたまっていないか点検します。

■日常点検項目

＜ここを＞ ➡	＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参照ページ
機体の回りを歩いて			
機体各部	1. 損傷や変形はないか。 2. ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。 3. 油もれや水もれはないか。 4. わらくずがたまっていないか。 5. 安全ラベル（⚠表示ラベル）の損傷やはがれはないか。	1. 修理又は，交換する。 2. 補充，増締めをする。 3. ホースやパイプの取付部の締付け又は，部品交換をする。 4. 掃除する。 5. 新しいラベルに貼替える。	- - 124 92,169 ⚠-23
刈刃，わら切刃，カッタ刃	・刃の損傷はないか。	・交換する。	143, 147,151
受あみ，こぎ歯	・極端な摩耗や破損はないか。 （摩耗量の確認）	・組換え又は，交換する。	83，146
クローラ	・たるみや損傷はないか。	・調整又は，交換する。	164
防じんあみ	・詰まりはないか。	・掃除する。	125
反射器	・汚れや損傷はないか。	・掃除又は，交換する。	164
エンジンルームを開けて			
エンジンオイル	・油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	・規定量まで補給する。 ……クボタ純オイル D10W-30	116
ラジエータ冷却水	・リザーブタンクの水量は規定量（タンクの **FULL 線と LOW 線の間**）あるか。	・清水を規定量まで補給する。	121
ラジエータフィン オイルクーラフィン	・詰まりはないか。	・掃除する。	125
エアクリーナ	・エレメントが汚れたり，ほこりが詰まっていないか。	・掃除又は，エレメントを交換する。	123
ファン駆動ベルト	・たるみはないか。 ・損傷はないか。	・調整する。 ・交換する。	134
ホース，パイプ	・油もれ，水もれはないか。	・取付部の締付け又は，交換する。	
配線コード	・コネクタなどの外れやゆるみ又は，被覆の損傷はないか。	・取付け又は，交換する。	161
運転席に座りメインスイッチを入れて			
燃料計	・作業に必要な燃料はあるか。	・ディーゼル軽油を補給する。	115
各ランプ	・各スイッチを操作すると点灯又は，点滅するか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。 又は，購入先へ連絡してください。	161,163
ホーン	・スイッチを押すと鳴るか。		
バックブザー	・主変速レバーを【**後進**】位置にするとブザーが鳴るか。		
バッテリ	・エンジンは始動するか。	・充電又は，交換する。	157

＜ここを＞ ➡		＜点検し異常があれば＞ ➡	＜こうする（処置）＞	参照ページ
エンジンを始動して				
メータユニット	充電ランプ	・各ランプは消灯するか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付をする。	161
	オイルランプ		・エンジンオイルを規定量まで補給する。 ……クボタ純オイル D10W-30	16,116
警報パネル			・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。	161
エンジン（マフラ）		・異音はしないか。 ・排気ガスの色に異常はないか。	・購入先へ連絡してください。	－
刈刃，各チェーン		・注油後の動きに異常はないか。	・調整又は，交換する。	140,143
駐車ブレーキ		・駐車ブレーキは効くか。	・調整する。	128
各レバー		・各レバーの作動に異常はないか。	・調整又は，購入先へ連絡してください。	129 ～ 131
こぎ深さ制御（供給搬送部）		・手動こぎ深さスイッチを操作したときに，供給搬送部の作動（上昇 ⟷ 下降）に異常はないか。	・スライドガイドにグリースを塗布する。 ・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	97 161
エンジン停止スイッチ		・スイッチを押すと，ブザーが鳴りエンジンが停止するか。	・ヒューズ切れ，配線コードの外れを調べ交換又は，取付けをする。又は，購入先へ連絡してください。	14,161

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスがコンバインの寿命に影響を及ぼします。新車のコンバインは厳重な検査のもとに出荷されていますがコンバインの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はコンバイン各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で，過負荷となる刈取作業は避けてください。
コンバインの性能を最大に発揮させたり，長期にわたる耐久力を維持させるためには，適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

■ならし運転について

＊ 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
＊ 寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
＊ エンジンは規定刈取作業回転数以上に回さないでください。
＊ 高速での刈取作業は避けてください。
＊ 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが，新車時は特に注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

警 告

＊ エンジン排気ガスによる，排気ガス中毒をさけるため，換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。

注 意

＊ この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業をするために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。
＊ コンバインに貼ってある警告・注意ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ コンバインに乗り降りするときは，飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。
＊ 始動操作は，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

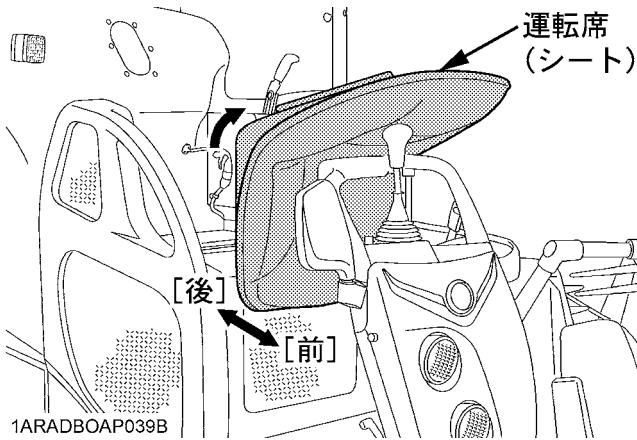
■始動のしかた

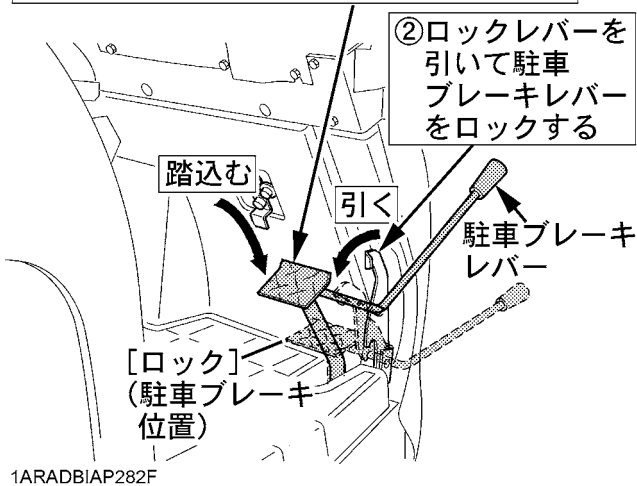
1. ハンドルをしっかりと握り，補助ステップに確実に足を掛けてすべらないように注意しながら運転席に座ります。

重 要

＊ 運転席へ乗降りするときは，ハンドル以外は握らないでください。特に SF ワンレバーを握って乗降りすると，変形したり，破損する原因となります。また，SF ワンレバーが変形したり破損すると，正常なコンバインの運転が行なえなくなるおそれがあります。

2．運転のしやすい位置に運転席（シート）を調整します。

運転席（シート）
［後］
［前］
1ARADBOAP039B

3．駐車ブレーキを掛けます。

①ブレーキペダルをロック位置まで踏込む
②ロックレバーを引いて駐車ブレーキレバーをロックする
踏込む
引く
駐車ブレーキレバー
［ロック］（駐車ブレーキ位置）
1ARADBIAP282F

補　足

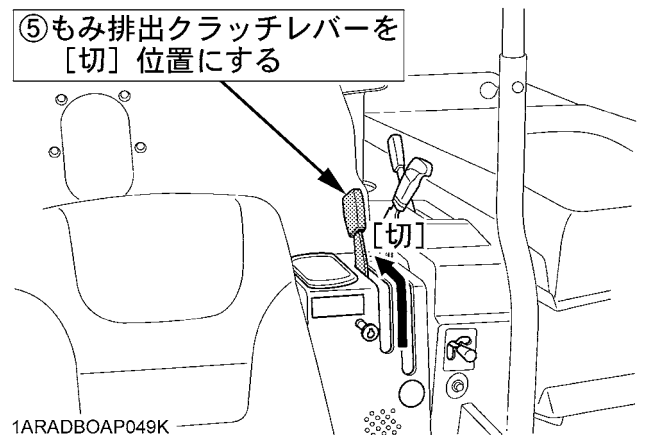
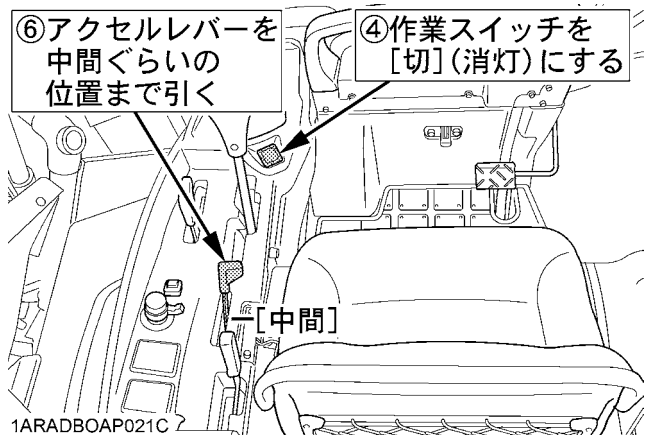
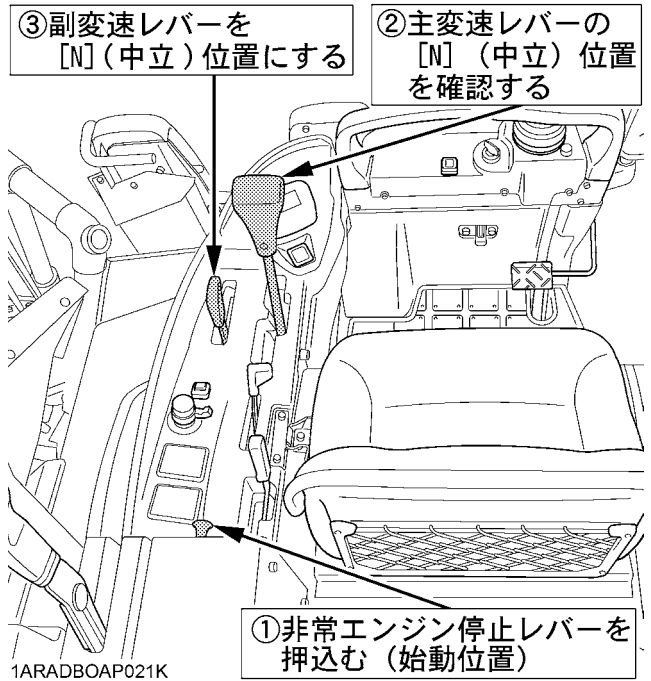
＊ ブレーキペダルをいっぱいまで踏むと主変速レバーが **［N］（中立）** 位置に戻ります。また，駐車ブレーキが掛かっているときには，主変速レバーは動きません。

＊ 駐車ブレーキを掛けていないときは，ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンは始動しません。

4．各レバー位置の確認をします。

③副変速レバーを［N］（中立）位置にする
②主変速レバーの［N］（中立）位置を確認する
①非常エンジン停止レバーを押込む（始動位置）
1ARADBOAP021K

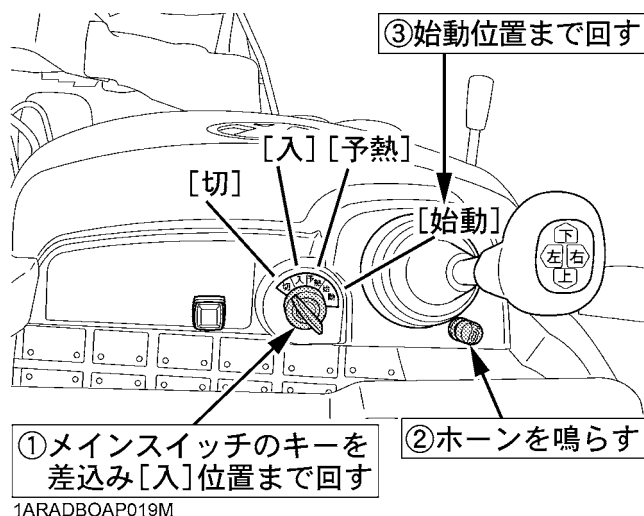
⑥アクセルレバーを中間ぐらいの位置まで引く
④作業スイッチを［切］（消灯）にする
［中間］
1ARADBOAP021C

⑤もみ排出クラッチレバーを［切］位置にする
［切］
1ARADBOAP049K

重　要

＊ ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーを前・後進方向に操作できません。
無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。

5．エンジンを始動します。

③始動位置まで回す
[入][予熱]
[切]
[始動]
①メインスイッチのキーを差込み[入]位置まで回す
②ホーンを鳴らす

1ARADBOAP019M

重 要

＊ メインスイッチのキーを**[始動]**位置に回して10秒たっても始動しないときは，いったんメインスイッチのキーを**[切]**位置にして，30秒ほど休止してから，エンジンを再始動してください。10秒以上の使用は故障の原因になります。
＊ エンジン回転中に，メインスイッチのキーを**[始動]**位置に回すと故障の原因になります。
＊ エンジン始動後，オイルランプ，充電ランプが**消灯**しないときは，購入先へ連絡してください。

補 足

＊ メインスイッチのキーを**[始動]**位置まで回したとき，各レバー・ペダル・スイッチが下記始動条件を満たしていない場合，**ピッ**と警告音が鳴ります。また，警告音が鳴ったときは，始動条件を満たすように処置してください。
- ブレーキペダルをいっぱいまで踏込んで駐車ブレーキを掛ける。
- 主変速レバーを**[N]（中立）**位置にする。
- 作業スイッチを**[切]（消灯）**にする。
- もみ排出クラッチレバーを**[切]**位置にする。

＊ ホーンを鳴らすなどして始動の合図を周囲の人に送ります。

■暖機運転について

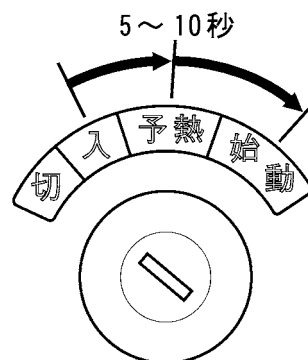
エンジン始動後，エンジン回転数を約1500n/min(rpm)に合わせて約5～10分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。

重 要

＊ オイルを各部にじゅうぶんゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。

■寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にメインスイッチのキーを**[予熱]**位置で5～10秒間予熱したあと**[始動]**位置に回してください。

5～10秒
切 入 予熱 始動

1ARADBEAP060B

重 要

＊ 寒冷時は暖機運転を怠るとSFワンレバーの操作できなくなったり，ブレーキが効かなくなるなど**油圧系統の故障**につながりますので，下記の表を目安に暖機運転を行なってください。

気 温	暖機運転時間
0℃～-10℃	約10分
-10℃～-15℃	10～15分
-15℃～-20℃	15～20分
-20℃以下	20分以上

■燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は,

1. 作業スイッチを **[切] (消灯)**,メインスイッチのキーを **[切]** 位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. **始動のしかた**の **1 ～ 4** を確認後,メインスイッチのキーを **[入]** 位置に保持し,そのあと **[始動]** を2～3回繰返します。

補　足

＊ メインスイッチのキーを **[入]** 位置にすると約 30 秒で自動的にエア抜きされます。

■バッテリが上がったときの始動のしかた

危　険

＊ **バッテリの近くに裸火(マッチ,ライタ,タバコの火など)を近づけたり,(+)端子と(−)端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**

バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは,バッテリの補充電又は,交換を行なってください。(157 ページ参照)
補充電や交換がすぐに行なえないときは,救援車のバッテリにブースタケーブルを接続してください。

重　要

＊ 接続するバッテリは,必ず 12V のものを利用してください。故障の原因となります。
＊ バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。
＊ 充電異常による場合(充電ランプ点灯)は購入先に連絡してください。

補　足

＊ ブースタケーブルの取扱いは,ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。

1. ブースタケーブル(赤)をコンバイン側と救援車側のバッテリの **(+)端子**にそれぞれ接続したあと,ブースタケーブル(黒)を救援車側のバッテリの **(−)端子**に接続し,コンバイン側はバッテリから離れたところの金属部で塗装がされていないところに接続します。
2. 利用するバッテリが車などの場合は,エンジン回転を上げます。
3. コンバインのエンジンを始動します。
4. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取外します。

■停止のしかた

1. 作業スイッチを **[切]（消灯）** にします。
2. アクセルレバーを **[🐢]**（低回転）位置にします。
3. メインスイッチのキーを **[切]** 位置にしてエンジンを停止します。

重 要

＊ エンジン停止中でメインスイッチのキーが **[入]** 位置の状態のまま長時間放置すると**バッテリ上り**となります。

＊ メインスイッチのキーを **[切]** 位置にしてもエンジンが停止しないときは**非常エンジン停止レバー**を引いてください。そのあと，購入先へ連絡してください。

移動走行について

⚠ 注 意

＊ グレンタンク内に残っているもみはすべて排出してください。

＊ 安全のためヘルメットを着用してください。

＊ 運転者以外の人は乗せないでください。

＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。

＊ 水平操作スイッチで機体をいっぱい下げた状態にしてください。[M 仕様]

＊ あぜごえや傾斜地（坂道やあゆみ板を使うとき）での走行は，副変速レバーを［作業］位置にし，低速で走行してください。走行途中に停止するときは，主変速レバーを操作して停止してください。

＊ あゆみ板を使うときや，前後左右とも 10 度をこえる傾斜地（坂道）を走行するときは，速度を最低速にし機械から降りて操作してください。また，走行速度が変わる副変速レバーの操作，進路方向が変わる急な SF ワンレバーの操作，エンジン回転数が自動上昇する作業スイッチの操作をすると，機械の移動方向が変化したり，急降下，落下するおそれがありますので操作しないでください。

＊ あゆみ板を使うときや坂道を走行するときは，速度を最低速にし，あぜや傾斜方向に対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。

＊ 下記のようなところは，転倒しケガをするおそれがあるので走行しないでください。

- **両側が傾斜していたり，溝のある道路の路肩**
- **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
- **路肩の弱い道路**
- **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良くみえないところ**

＊ アンローダは必ず折りたたんでください。

＊ 移動走行時は，エンジン回転数を 2000rmp 以上にしてください。

重　要

＊ 路面の凹凸（溝や穴など）や荒れた路面上は走行しないでください。クローラの破損や早期摩耗の原因となります。
＊ アンローダ受けにアンローダを必ず収納してください。

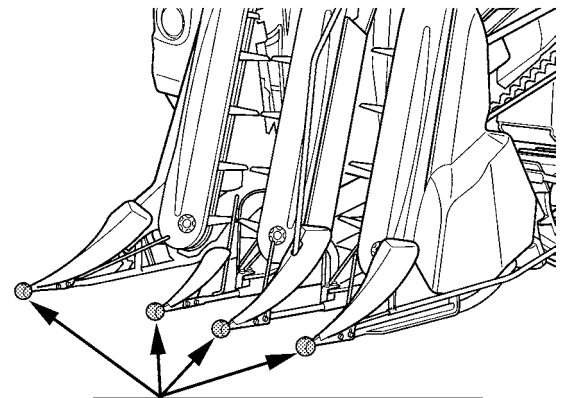
補　足

＊ 結束機などを装着している場合は，**［道路運送車両法］**の違反となりますので公道を走行できません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。
＊ **［道路運送車輌法］**の**［保安基準］**に抵触するおそれがあるため，公道走行する前には必ず下記項目を確認し，異常があるときは購入先に連絡して処置を行なってください。また，異常があるときは必ずトラック輸送を行なってください。
  - 機械の周囲を回って油もれ，水もれ，燃料もれが発生している場所
  - エンジン音に異常がある場合
  - 旋回異常がある場合
  - ブレーキ，各変速，各クラッチに異常がある場合
  - 各警報（ブザー），灯火装置（スイッチ，ランプ）に異常がある場合

■移動走行前の準備

注　意

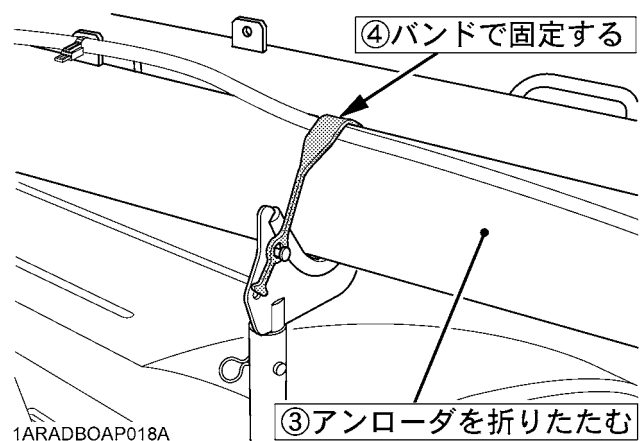
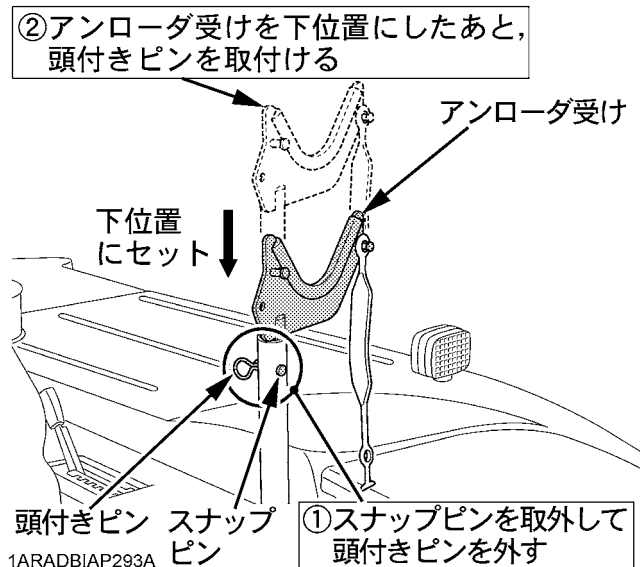
＊ **平たんな場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。**
＊ **木や電線に接触して破損したり，周囲の人にケガをさせるおそれがあるのでアンローダを収納状態にしてください。**
＊ **取外したカバー類は必ず取付けてください。**

1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。（61 ページ参照）
2. デバイダキャップを取付けます。

1ARADBOAP003I

3. アンローダを折りたたんでアンローダを固定します。(47 ページ参照)

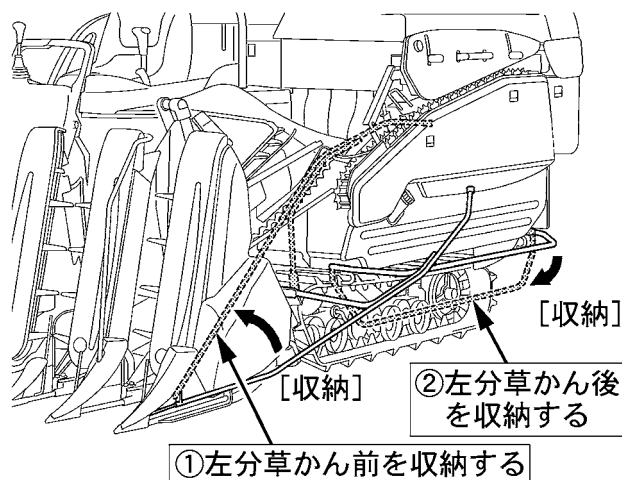
1ARADBIAP293A

1ARADBOAP018A

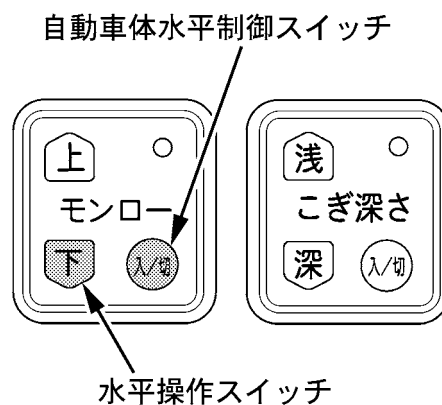
補　足

＊ アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

4. 左分草かん開閉レバーを操作して，左分草かん前を収納したあと，左分草かん後を収納します。

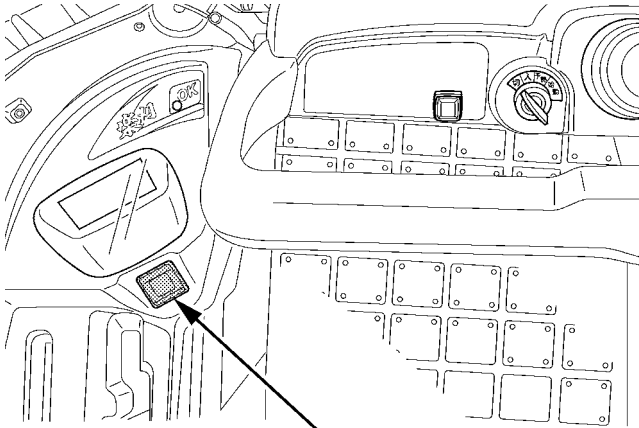
1ARADBOAP004B

補　足

＊ 左分草かん後は手動で収納してください。

[M 仕様]

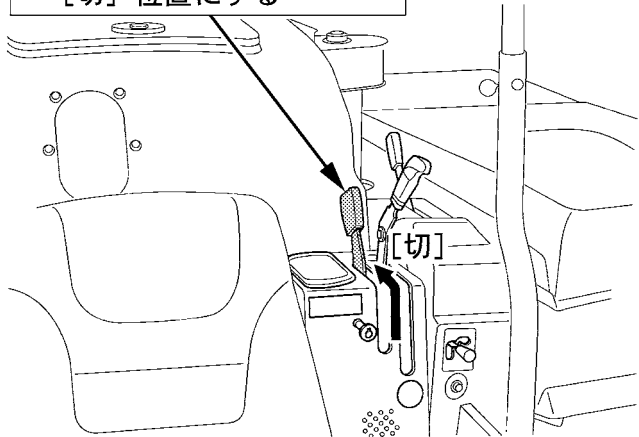
5. 自動車体水平制御スイッチを **[切]** にし，水平操作スイッチで機体をいっぱいまで下げます。

1ARADBOAP073E

[M 仕様]

6. 作業スイッチを **[切]（消灯）**，もみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にします。

①作業スイッチを［切］（消灯）にする

1ARADBOAP019O

②もみ排出クラッチレバーを［切］位置にする

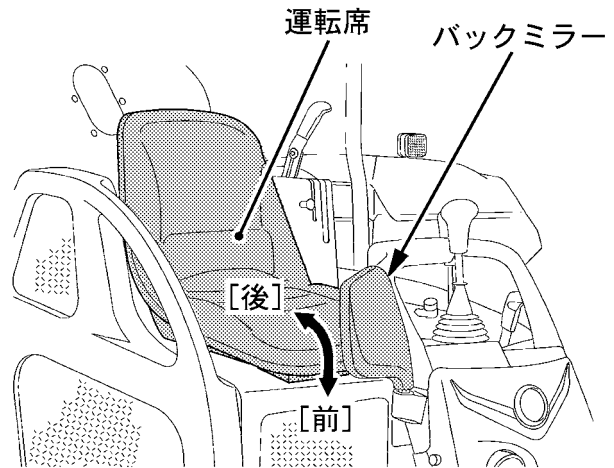
［切］

1ARADBOAP049N

■発進のしかた

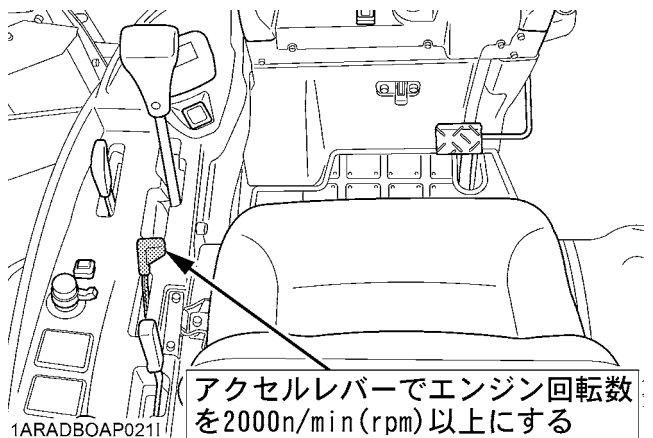
注 意

＊ 発進をするときは，周囲の安全を確かめてホーンなどで合図を行なってから発進してください。
＊ 急発進は危険ですので，ゆっくりと発進してください。

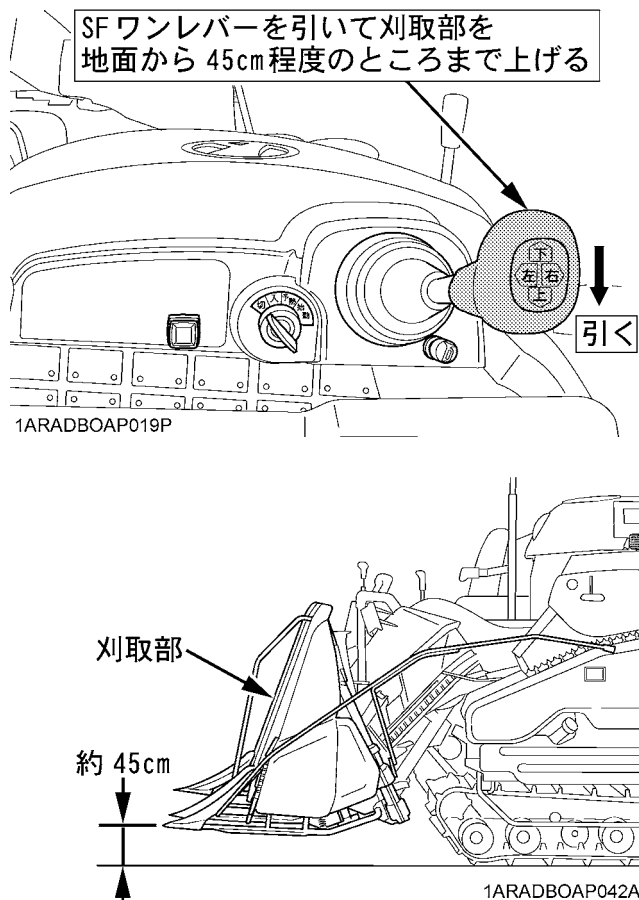
1. 運転席，バックミラーの調整を行ないます。

運転席
バックミラー
［後］
［前］

1ARADBOAP038B

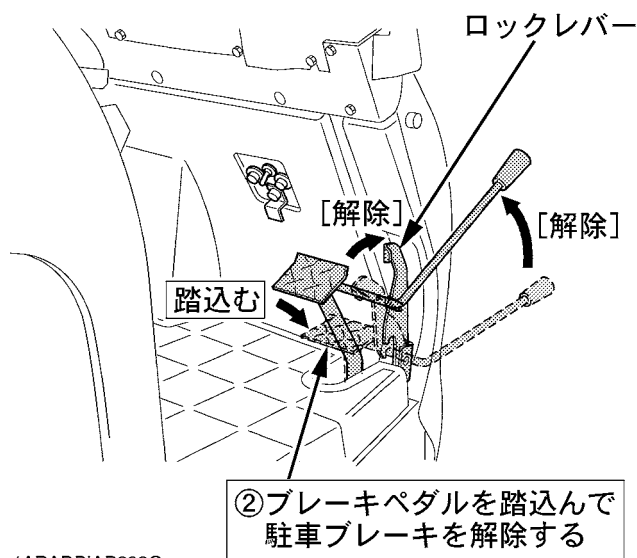
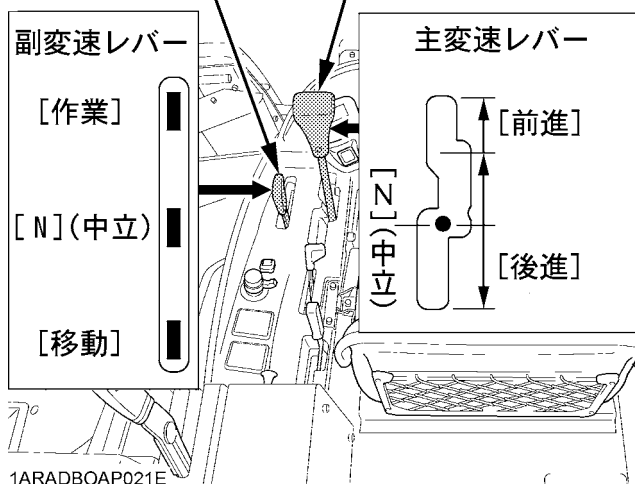
2. アクセルレバーを操作します。

エンジンを始動したあと，アクセルレバーを操作します。

アクセルレバーでエンジン回転数を2000n/min(rpm)以上にする

1ARADBOAP021I

3. 刈取部を上げます。

4. 走行速度を選んで発進します。

ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除したあと，主変速レバーを **[N]（中立）** 位置より前に押すと**前進**し，後ろに引くと**後進**します。

重　要

* 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。
* 副変速レバーの切換えは平たんな場所で主変速レバーを **[N]（中立）** 位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

■旋回のしかた

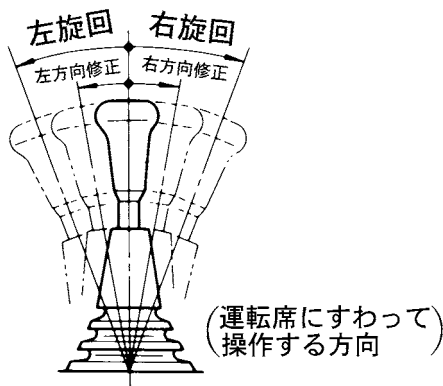
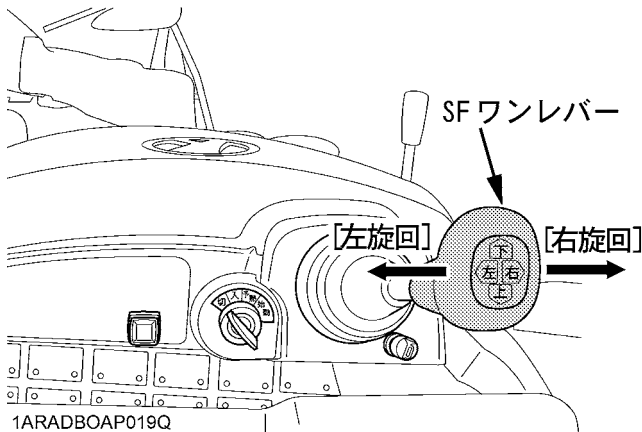
注 意

＊ 高速走行時，SF ワンレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので，旋回前に必ず減速してください。

SF ワンレバー
[左旋回]
[右旋回]

1ARADBOAP019Q

左旋回　右旋回
左方向修正　右方向修正
(運転席にすわって操作する方向)

1ARADAFAP345A

重 要

＊ 砂利道での急旋回は，クローラに石がかみこみ故障するおそれがありますので避けてください。

■停車・駐車のしかた

注 意

＊ コンバインを離れるときは，平たんで安全な場所に置き，刈取部を降ろして駐車ブレーキを掛け，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ やむをえず坂道で駐車するときは，木片などで車止めをし，暴走を防いでください。

1. 主変速レバーを **[停止]** 位置にします。
2. 駐車ブレーキを掛けます。

重 要

＊ 駐車ブレーキが掛かっているときは，主変速レバーを動かさないでください。無理に動かすと故障の原因となります。

3. アクセルレバーを **[🐢]（低回転）** 位置にします。
4. 副変速レバーを **[N]（中立）** 以外の位置にします。
5. 刈取部を降ろして地面に接地します。
6. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。

■道路走行について

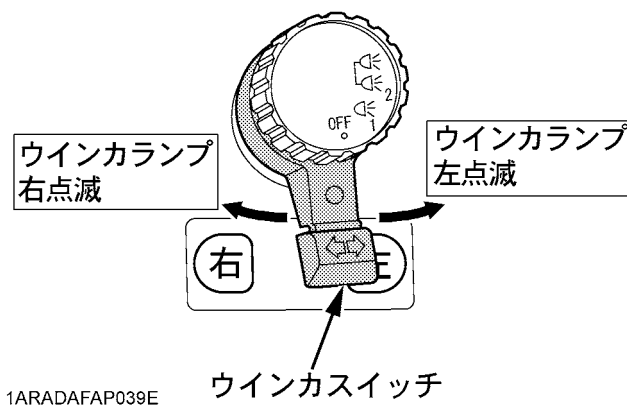
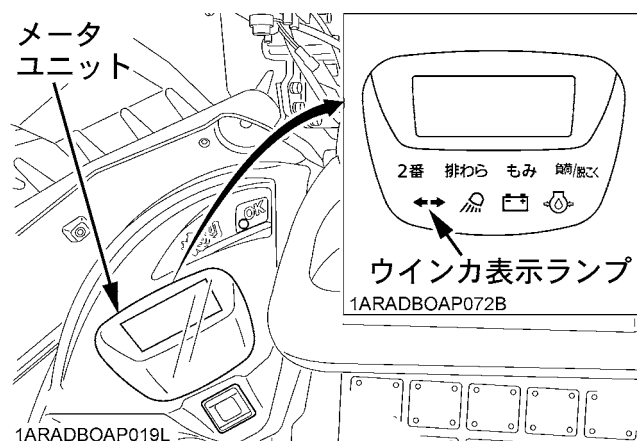
注 意

＊ 結束機［結束機付き仕様］を装着した状態で移動するときは，トラック輸送してください。
＊ 夜間など暗いときに移動走行するときは，ヘッドランプを必ず点灯し，作業灯は必ず消灯してください。

補 足

＊ 道路を走行するときは，小型特殊自動車の運転免許証を必ず携帯し，小型特殊自動車の法規を守り安全運転をしてください。
＊ 作業灯は**［道路運送車両法の保安基準］**第42条（灯火の色などの制限）において，**［走行中に使用しない灯火］**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

道路走行中，進路方向を変えるときは，ウインカ（方向指示器）で進路方向を他の自動車に知らせてください。

● **ウインカスイッチ**
旋回方向に操作すると，ウインカランプが点滅し，メータユニット内のウインカ表示ランプが点滅します。

補 足

＊ 旋回が終わるとウインカスイッチを中央に戻してください。

輸送について

■トラックとあゆみ板の準備

注　意

＊ 積込み・積降しは平たん地を選び，トラックの駐車ブレーキを掛け，トラックの変速レバーを R（後進）又は，1 速に入れたあと，さらにタイヤに車止めを行ない，トラックが動かないようにしっかりと固定してください。
＊ あゆみ板はフックが付いているもので，じゅうぶんな強度，幅（50cm 以上），長さ（高さの 4 倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。
＊ あゆみ板を荷台に掛けるときは，段差がなく平行で，左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。

あゆみ板の基準

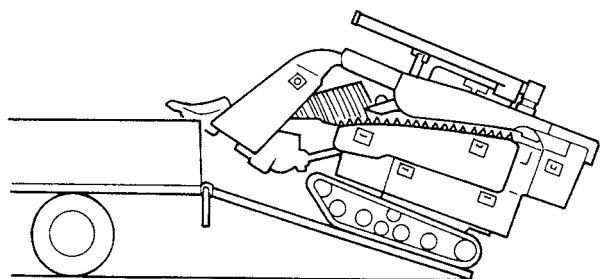
長　さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	50cm以上
数　量	2 枚
強　度	1枚が1200kg以上の重量に耐えうる

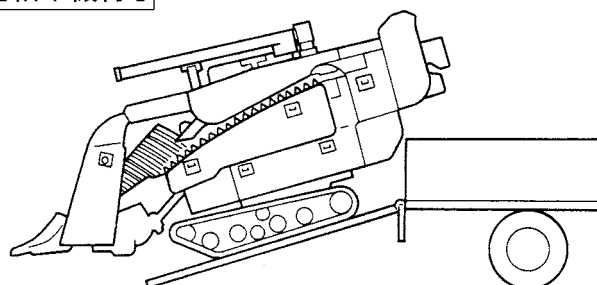
■トラックへ積込み時のコンバインの準備

もみをすべて排出し，アンローダ受けを下（収納）位置にしてアンローダを収納後，折りたたみ式アンローダを折りたたみ，バンドで固定し，作業スイッチを**［切］（消灯）**，もみ排出クラッチを**［切］**位置にし，**［M 仕様］**は自動車体水平操作スイッチで機体を**最下降位置**まで下げ，左分草かん前，後をそれぞれ収納したあと，デバイダキャップを取付けます。（33 ページ参照）

■トラックへの積込み・積降しのしかた

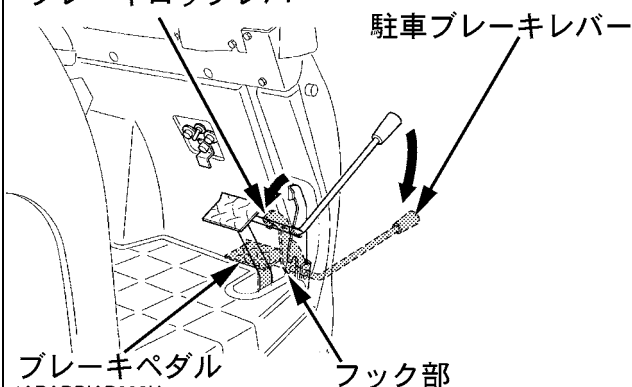
注　意

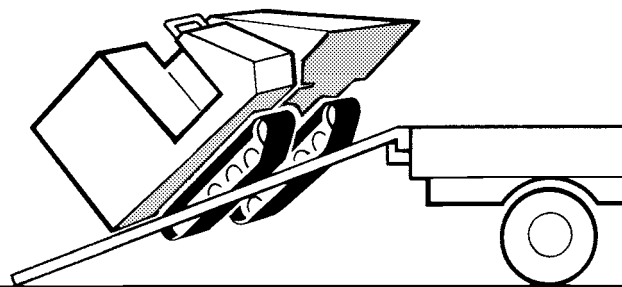
＊ 積込みは前進で，積降しは後進で行なってください。ただし，結束機を装着している機械は後進で積込み，前進で積降しを行なってください。
＊ 積込み・積降し作業を行なうときは，機体から降りて発進させてください。
＊ あゆみ板を走行中のコンバインから離れてください。

1ARADAFAP054A

［結束機付］

1ARADAFAP055A

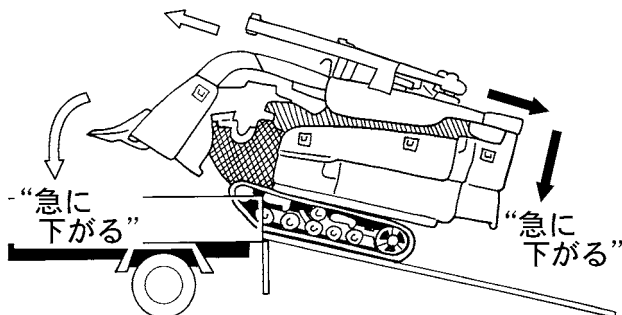
注　意

＊ **走行中に異常が発生し，緊急に停止するときは，駐車ブレーキレバーをすばやくいっぱい押下げて，ブレーキロックレバーで駐車ブレーキを掛けてください。**

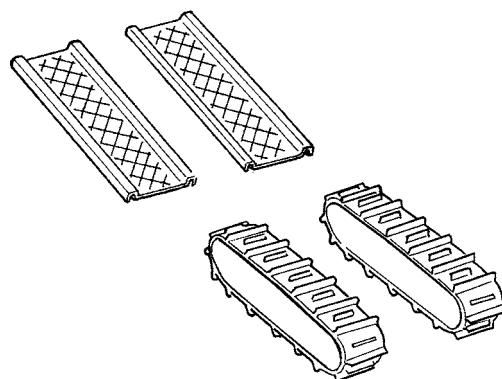
ブレーキロックレバー
駐車ブレーキレバー
ブレーキペダル
フック部

1ARADBIAP282H

＊ **あゆみ板の途中で走行速度が変わる副変速レバーの操作，進路方向が変わる急なSFワンレバーの操作，エンジン回転数が自動上昇する作業スイッチの操作をすると，機械が急降下し落下する危険がありますので，操作しないでください。方向を変えるときは，いったん地上又は荷台に戻って方向を修正し，再度上り下りし直してください。**

1ARADAFAP4440

＊ **機体が凸部を越えるときは，急にコンバインの姿勢が変わりますのでじゅうぶん注意してください。**

"急に下がる"
"急に下がる"

1ARADAFAP347A

◆ **操作のしかた**

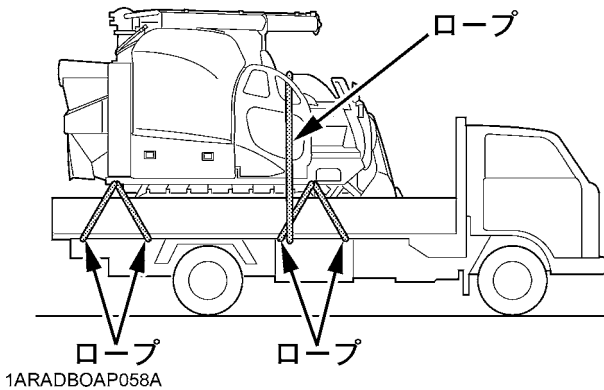
1. 各作業クラッチレバーを **[切]** 位置にします。
2. **[M仕様]** は水平操作スイッチで機体を **最下降位置** まで下げます。
3. SFワンレバーで刈取部を上げます。
4. アクセルレバーを操作してエンジン回転数を **2000n/min（rpm）以上** にし，副変速レバーを **[作業]** 位置にしたあと，主変速レバーをゆっくり操作して，**低速** で走行します。
5. あゆみ板の前でいったん停止し，あゆみ板の中央に左右のクローラを合わせ，機体から降りてあゆみ板と平行になっているか確認してから積込み・積降しをしてください。

1ARADAFAP348A

6. 荷台に載せ終わったら刈取部を接地させて駐車ブレーキを掛けます。

■トラック上での処置

注 意

＊ 刈取部を床まで降し，駐車ブレーキを掛け，車止めをし，ロープでしっかりトラックに固定してください。

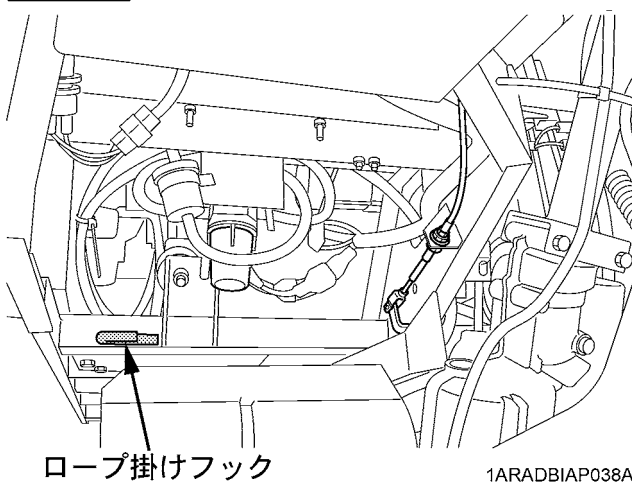
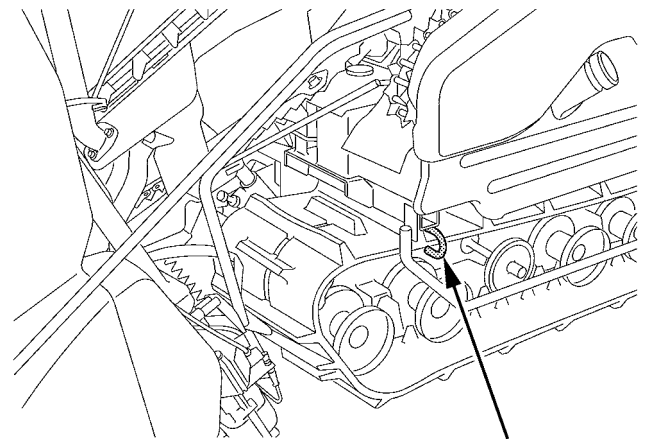
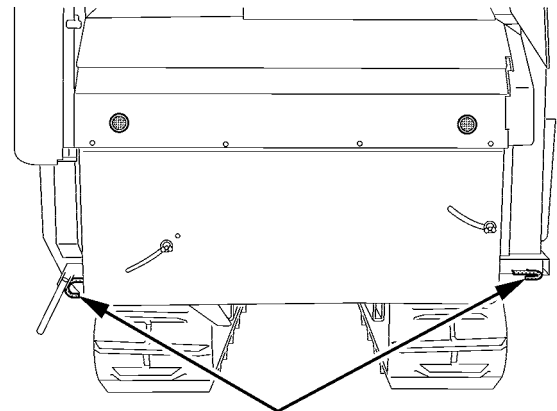
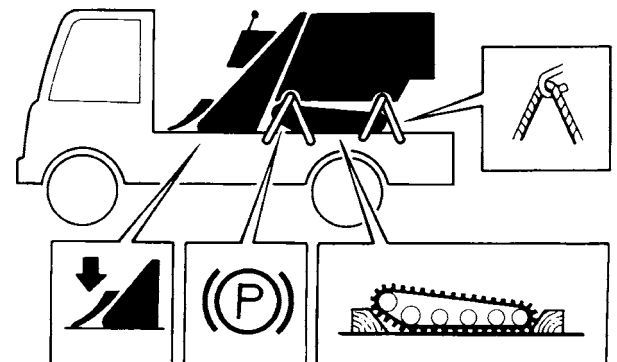
ロープ
ロープ　ロープ
1ARADBOAP058A

1. コンバインをトラックの荷台に乗せたあと，刈取部を床まで降ろし，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. コンバインにロープを掛けます。ロープを掛けるときは，必ず指定のロープ掛け用のフック 4 箇所に掛けてください。

［右前側］

ロープ掛けフック
1ARADBIAP038A

［左前側］

ロープ掛けフック
1ARADBIAP299A

［後側］

ロープ掛けフック
1ARADBIAP039A

1ARADAFAP349A

重 要

＊ ロープ掛けフック以外の所には，ロープを掛けないでください。
＊ ロープ掛けフックはけん引作業に使用しないでください。また，けん引作業を行なうときにロープをロープ掛けフックに掛けないでください。

収穫作業のしかた

作物とほ場の条件

作物の状態やほ場の状態によっては，刈取作業ができない場所があります。作業を始める前によく確かめて，収穫量が上がる能率のよい作業を行なってください。

■作物の条件

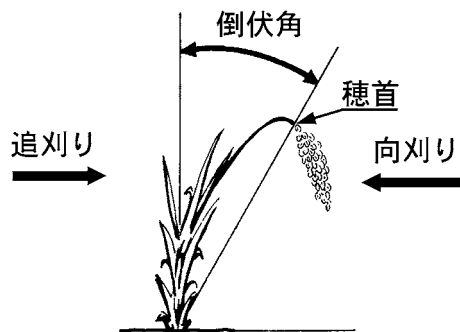
◆ 作物の長さ

刈取れる長さは，標準の刈高さで
……全長約 55 ～ 130cm

1ARADAFAP350A

◆ 作物の倒伏

作物の倒れかた（倒伏角）により，刈取り方向に注意してください。

刈取りかた（方向）	倒　伏　角
追刈り	85 度以下
向刈り	70 度以下

1ARADAFAP351A

◆ 作物のぬれ

作物は乾いて，手でしごいてぬれていない状態が適期です。

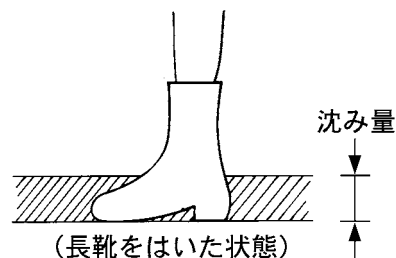
重　要

＊ 湿田の倒伏やぬれ作物の刈取作業を行なうとき，受あみが目詰まりを起すことがあります。この場合排じんロス（もみの飛散）が多くなります。このような場合には作業をいったん中止し，受あみの目詰まりを取除いてください。
　掃除を行なうときは，必要に応じて受あみを取外してください。（83 ページ参照）

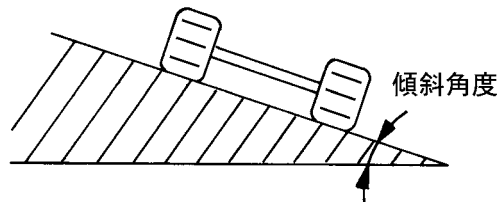
■ほ場の条件

◆ ほ場のぬかるみ

足の沈み量を測って目安にしてください。また，クローラの仕様によって，目安の沈み量は異なります。

仕　様	沈　み　量
W	10cm まで
W2	15 ～ 20cm まで

1ARADAFAP352A

◆ ほ場の傾き

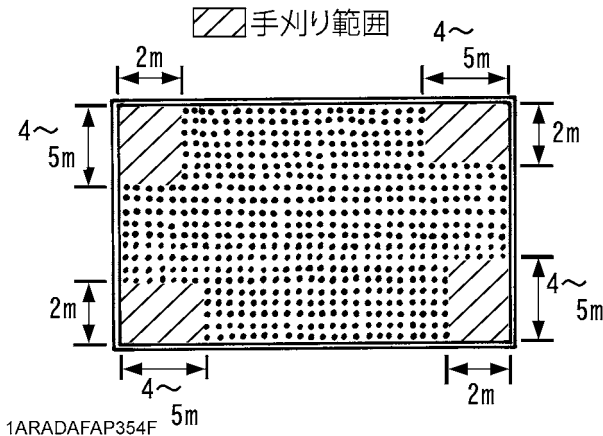
傾斜角度 5 度以上では，作業できません。

1ARADAFAP353A

ほ場の準備

■ほ場の準備

コンバインをほ場に入れる前に，あぜぎわの四隅で旋回が楽に行なえるように，旋回ができる範囲（面積）の手刈り（枕刈り）をします。

手刈り範囲
2m
4～5m
4～5m
2m
2m
4～5m
4～5m
2m

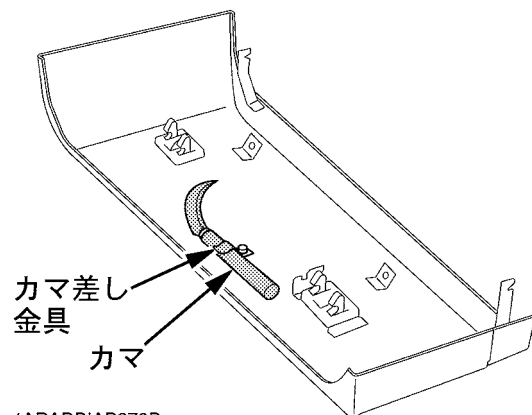
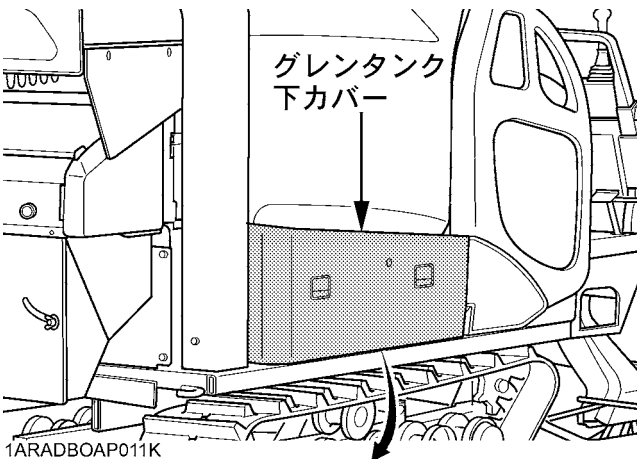
1ARADAFAP354F

補　足

＊ カマの収納場所は下図の位置にあります。

グレンタンク下カバー

1ARADBOAP011K

カマ差し金具
カマ

1ARADBIAP270B

コンバインの準備

注　意

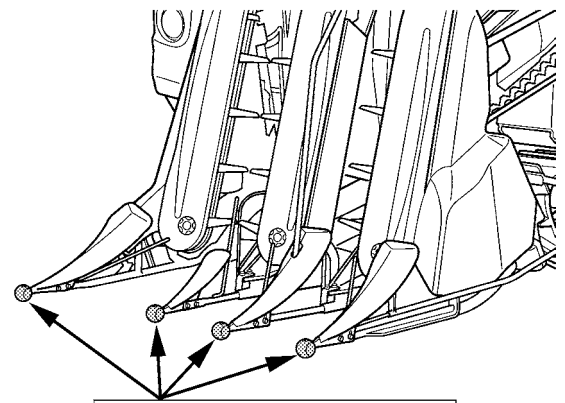
＊ 平たんな場所に置き，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

＊ 取外したカバー類は必ず取付けてください。

■コンバインの準備のしかた

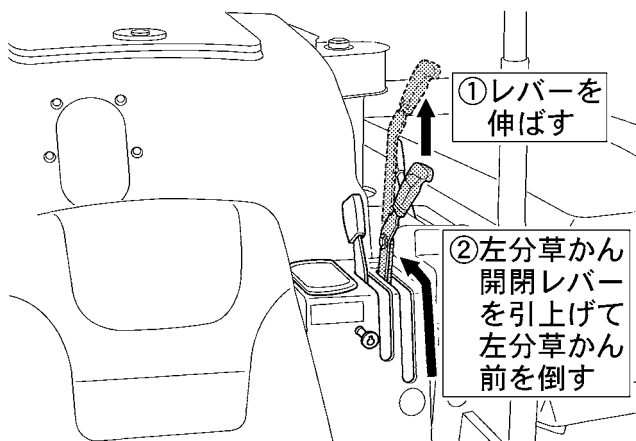
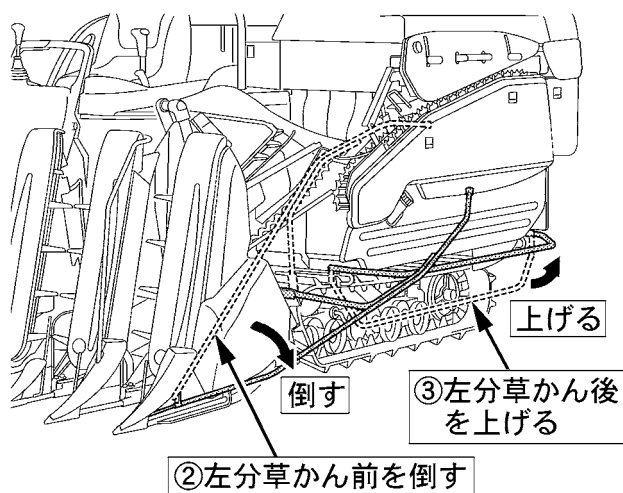
1.　各部への注油

作業前に刈刃や各チェーンに注油を行なってください。（97 ページ参照）

2.　デバイダキャップの取外しと収納

1ARADBOAP003J デバイダキャップを取外す

補　足

＊ 取外したデバイダキャップは，ビニール袋などに入れてから，取扱説明書を収納する運転席後側の収納場所に入れて保管してください。

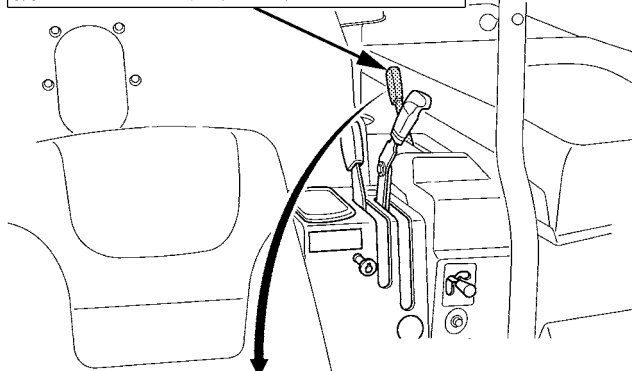
3. 左分草かん前・後のセット

1ARADBOAP049L

1ARADBOAP004C

補 足

＊ 左分草かん後は手で上げてください。

4. 排わら処理の選択

1ARADBIAP226A

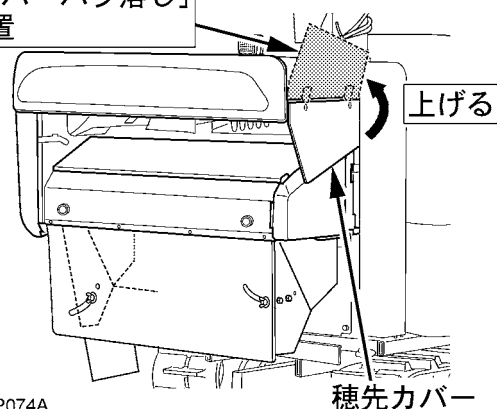
1ARADBOAP049M

重 要

＊ 作業中に切換えレバーを切換えるときは，搬送されている作物が完全に流れ終わってから行なってください。故障の原因となります。

補 足

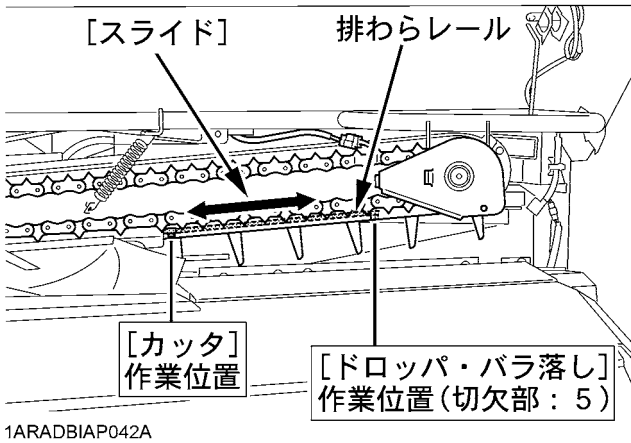
＊ **ドロッパ・バラ落し**作業を選択するときは，切換えレバーを［**5**］の切欠部の位置にしてください。

＊ **ドロッパ・バラ落し**作業を選択したときに，切換えレバーの位置が**1～4**の切欠部にあると，わらを次行程で踏付けたり，**6～7**の切欠部にあると，排わらチェーンがわらを巻上げて詰まりの原因となります。

＊ ドロッパ・バラ落し作業のときは，穂先カバーを上げてください。

1ARADBOAP074A

＊ 切換えレバーを操作すると，カッタ部のカッタ切換えカバーが開閉すると同時に，排わらレールがスライドします。

［スライド］ 排わらレール
［カッタ］作業位置
［ドロッパ・バラ落し］作業位置（切欠部：５）

1ARADBIAP042A

5. リヤシュート・サイドシュートの準備

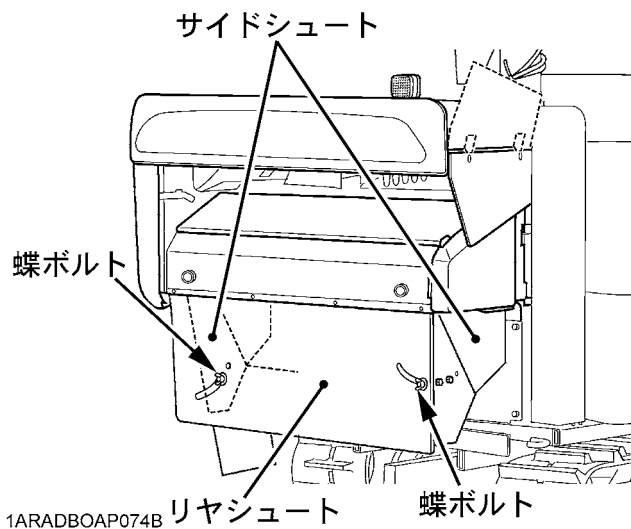
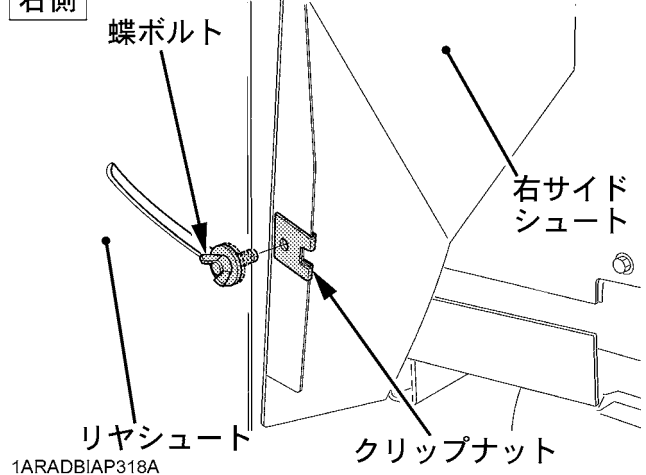
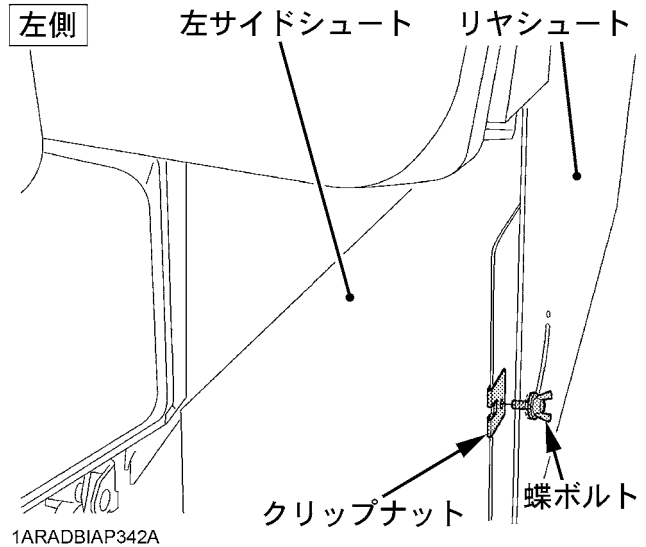
1. 収納状態のリヤシュートとサイドシュートを固定している左・右の蝶ボルトをそれぞれゆるめて外し，リヤシュートとサイドシュートを広げます。
2. リヤシュートを後方に広げ，刈取作業に合わせた**セット位置**に左，右のサイドシュートを広げ，クリップナットに蝶ボルトを締付けます。

サイドシュート
蝶ボルト
リヤシュート 蝶ボルト

1ARADBOAP074B

右側
蝶ボルト
右サイドシュート
リヤシュート
クリップナット

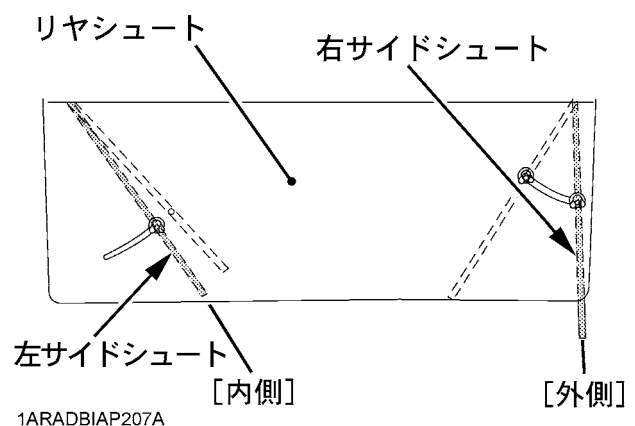
1ARADBIAP318A

左側
左サイドシュート リヤシュート
クリップナット 蝶ボルト

1ARADBIAP342A

◆ セット位置

● 通常作業時

左サイドシュートは**内側**（長穴の右側いっぱい）の位置，右サイドシュートは**外側**（長穴の右側いっぱい）の位置にします。

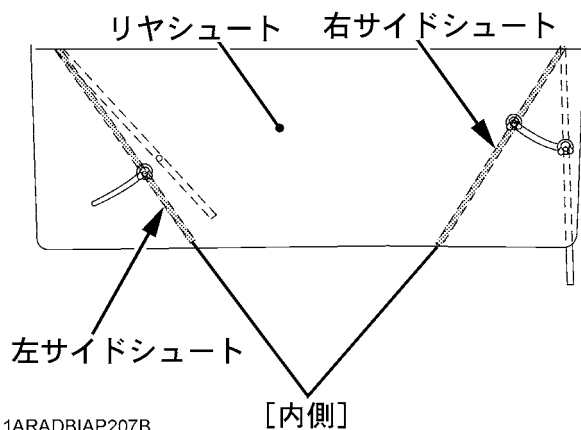
リヤシュート
右サイドシュート
左サイドシュート
［内側］ ［外側］

1ARADBIAP207A

● **中割り作業時**

左，右のサイドシュートをそれぞれ**内側**（長穴のそれぞれ**内側**方向いっぱい）の位置にします。

リヤシュート　右サイドシュート

左サイドシュート

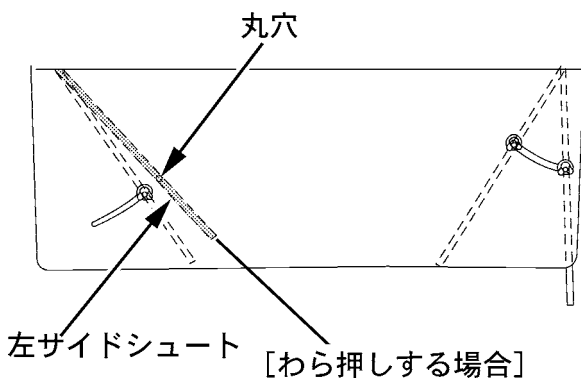
［内側］

1ARADBIAP207B

補　足

＊ 中割り作業が終わったあとは，必ず**通常作業時**の位置にセットしてください。排わら処理を**［カッタ］作業**にしている場合は，わら詰まりの原因となります。

＊ ソリを地面に接地した刈りかた（51 ページ参照）で次行程の刈取作業中に右デバイダがわら押しをする場合は，左サイドシュートを長穴のさらに内側の丸穴位置にセットしてください。

丸穴

左サイドシュート　［わら押しする場合］

1ARADBIAP207C

＊ 切断わらを分散するときは，左サイドシュートを外側方向に調整してください。このとき，ソリが切わらに乗り上げるおそれがあるため，**［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］**で刈取作業を行なってください。

6.　アンローダの準備

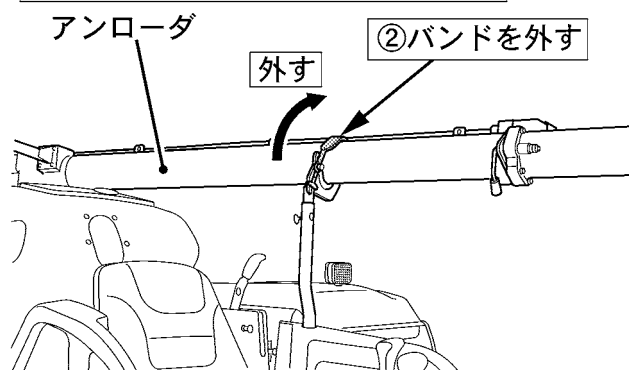
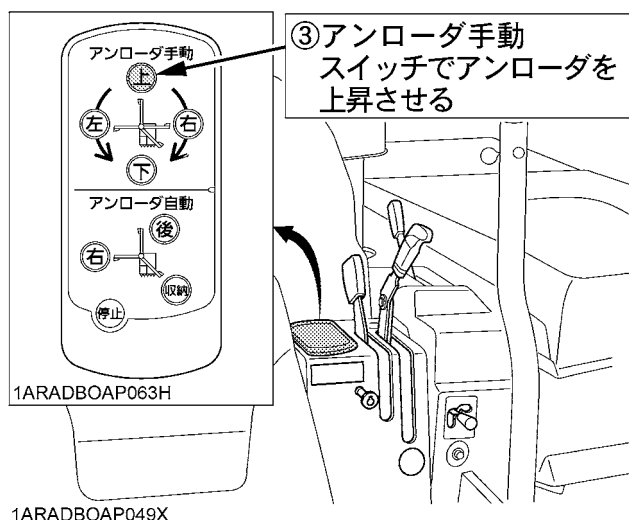
1. エンジンを始動して，アンローダを作業状態にします。

①折りたたみ式アンローダを延ばす（■アンローダの折りたたみ・延ばしかたの項参照）

アンローダ　外す　②バンドを外す

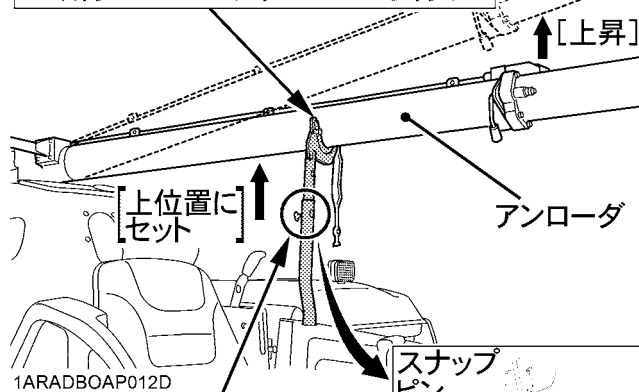
1ARADBOAP013A

③アンローダ手動スイッチでアンローダを上昇させる

アンローダ手動　上　左　右　下　アンローダ自動　後　右　収納　停止

1ARADBOAP063H

1ARADBOAP049X

⑤アンローダ受けを上位置にしたあと，頭付きピンとスナップピンを取付ける

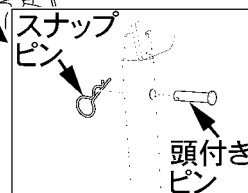
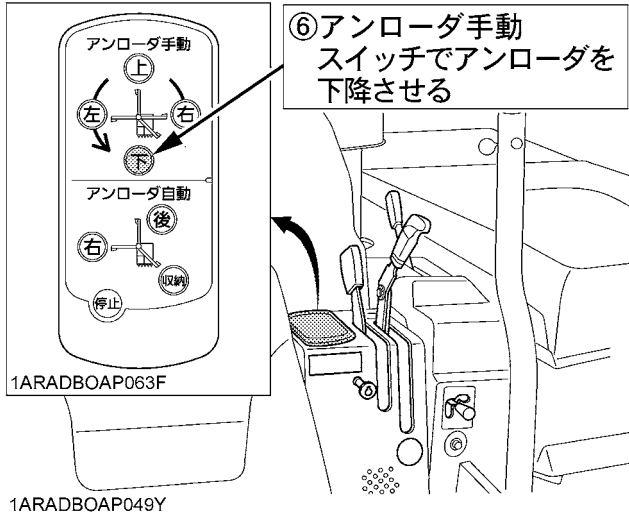
［上昇］　［上位置にセット］　アンローダ

1ARADBOAP012D

④スナップピンを取外し，頭付きピンを抜く

スナップピン　頭付きピン

⑥アンローダ手動スイッチでアンローダを下降させる

1ARADBOAP063F

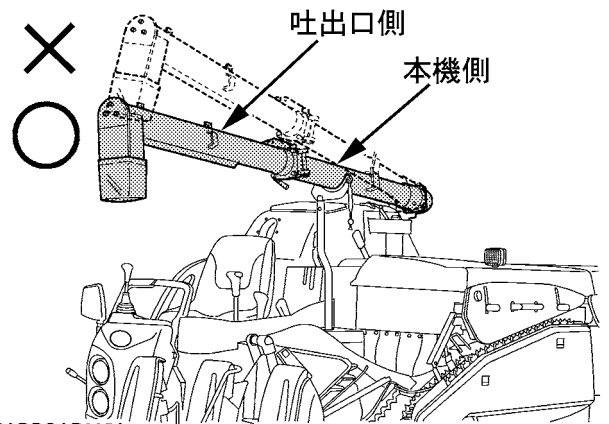
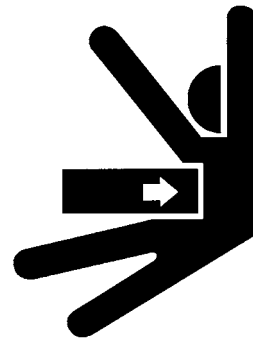
1ARADBOAP049Y

2. エンジンを停止します。

■アンローダの折りたたみ・伸ばしかた

注 意

＊ 水平で平たんな場所でエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 機体やアンローダが傾いていると，吐出口側のアンローダが自然に動きケガをするおそれがありますので，アンローダは必ず水平状態にしてください。

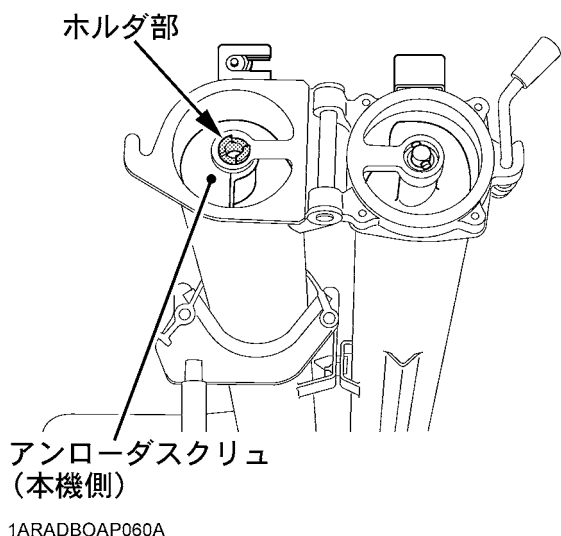
吐出口側
本機側

1ARADBOAP005A

＊ アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあるので，アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。
＊ 確実にロックされていないと吐出口側のアンローダが不意に動いてケガをするおそれがあります。

1ARADAFAP076A

＊ **エンジンを始動した状態でもみ排出クラッチを［入］位置にしないでください。［入］位置にすると，アンローダスクリュ（本機側）が回転し，ケガをするおそれがあります。**

ホルダ部

アンローダスクリュ（本機側）

1ARADBOAP060A

補　足

＊ もみの排出作業を行なうときは，アンローダを必ず伸ばした状態にしてください。アンローダを折りたたんだ状態でもみ排出クラッチレバーを【入】位置にすると，エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。(61ページ参照)

◆ 折りたたみかた

注　意

＊ **あぜ越え，移動走行時及びトラックで輸送するときは，アンローダが人や物にぶつかるおそれがあるので必ず折りたたんでください。**

＊ **アンローダが開いて人や物にぶつかるおそれがあるので，必ずロック金具がフックの溝に入っていることを確認してください。**

1. SFワンレバーを操作して刈取部を地面に接地させます。

補　足

＊ アンローダ内にもみが残っているときは，一度アンローダを最上昇させてください。

2. アンローダを収納します。

②アンローダをアンローダ受けに収納する

③バンドで固定する

［収納固定］

［下位置にセット］

1ARADBOAP013B

①アンローダ受けを下位置にする

3. アンローダを折りたたみます。

①ロックレバーを上側に回してロック解除の状態にする

アンローダ

［解除］

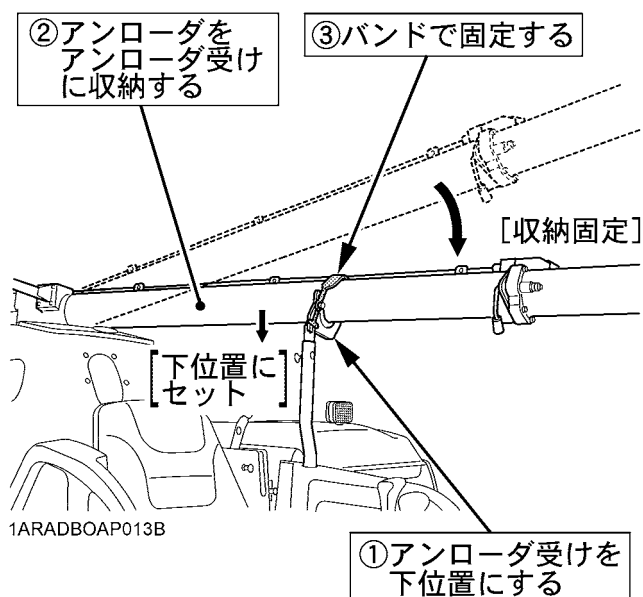
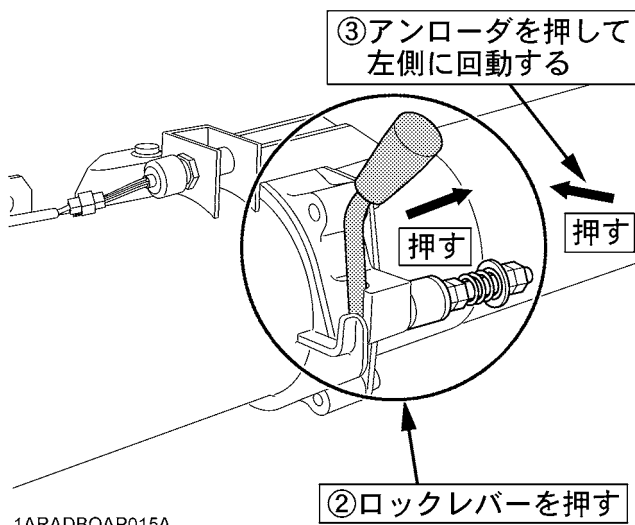
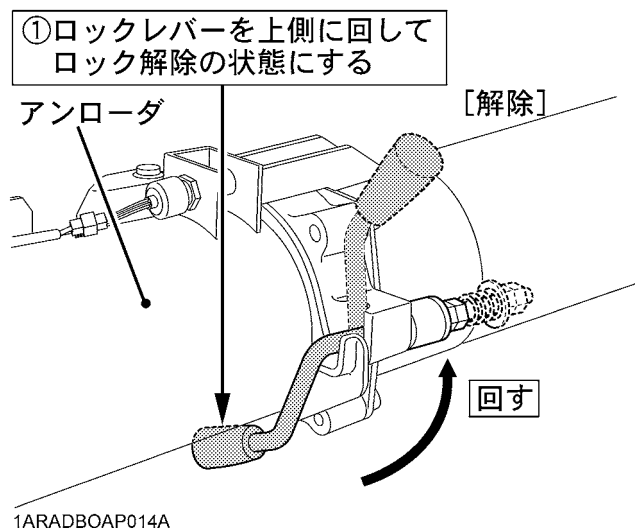
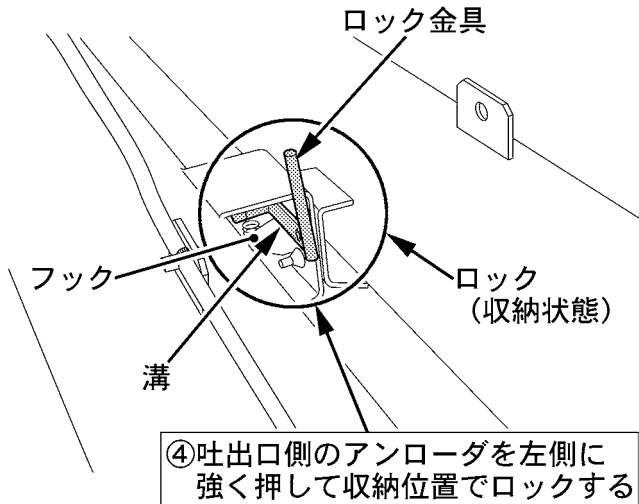
回す

1ARADBOAP014A

③アンローダを押して左側に回動する

押す

押す

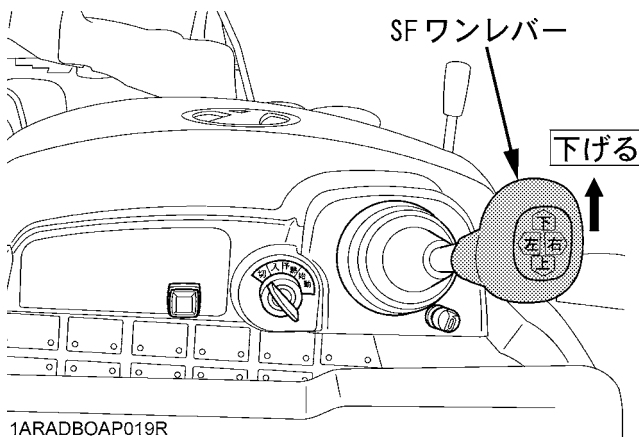
②ロックレバーを押す

1ARADBOAP015A

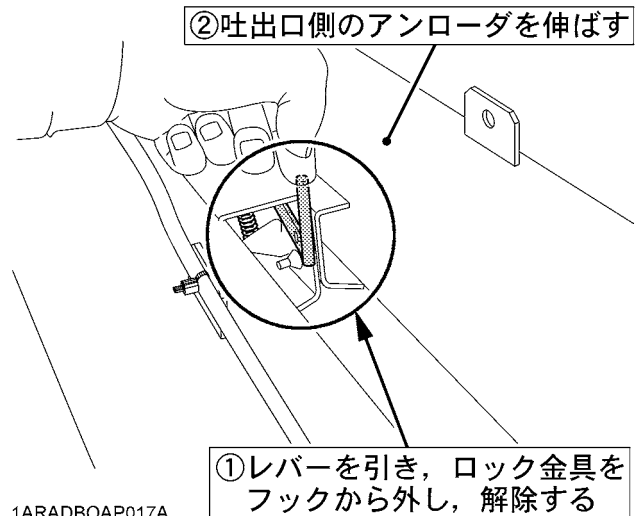
1ARADBOAP016A

補　足

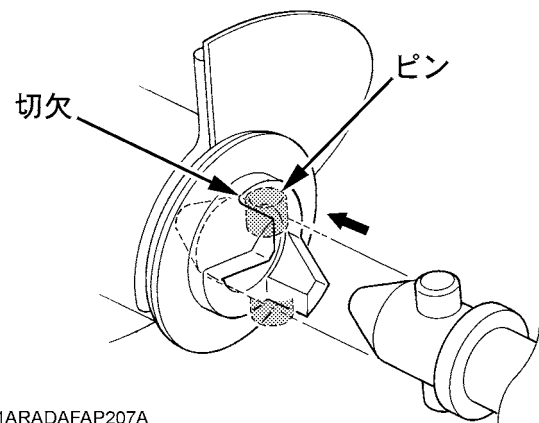
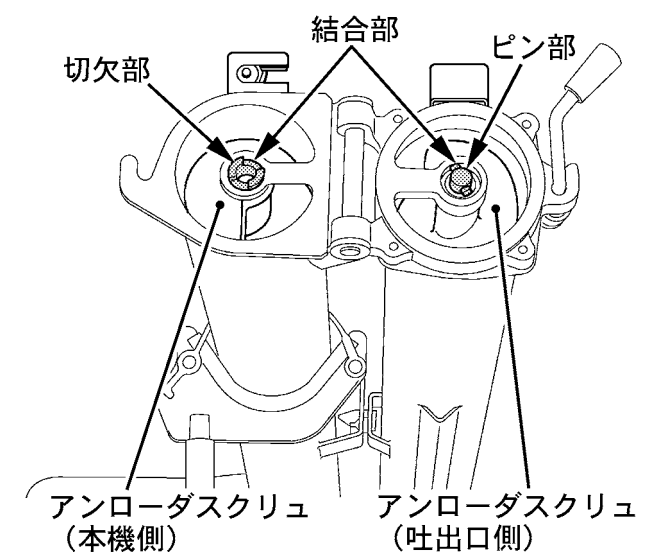
＊ ロックしたあと，ロック金具がフックの溝に入っていることを確認してください。
＊ 吐出口側のアンローダを強く押すと自動的にロックされます。
＊ もみの排出途中で排出を止めたとき，アンローダ内に残っているもみがこぼれますので，アンローダは折りたたまないでください。

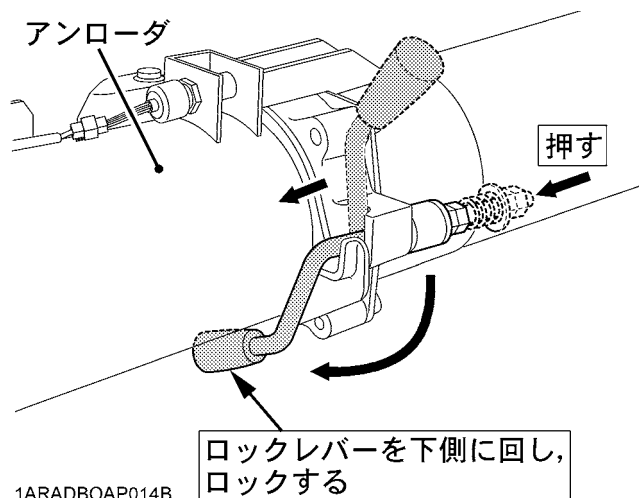
◆ 伸ばしかた（作業時）

1. SFワンレバーを操作して刈取部を地面に接地させます。

1ARADBOAP019R

2. 吐出口側のアンローダを伸ばします。

1ARADBOAP017A

補　足

＊ アンローダを伸ばすときは，本機側アンローダスクリュの切欠に吐出口側のピンを合せてください。

1ARADAFAP207A

1ARADBOAP060B

3. ロックレバーで本機側と吐出口側のアンローダを固定します。このとき，スプリング部を指で押して，ロック溝にレバーを通して，下側に回してロックします。

4. バンドを外します。
5. メインスイッチのキーを【入】位置にしたあと，アンローダレバーでアンローダを上昇させます。
6. アンローダ受けを**上位置**にします。
7. アンローダレバーを操作してアンローダ受けに収納します。

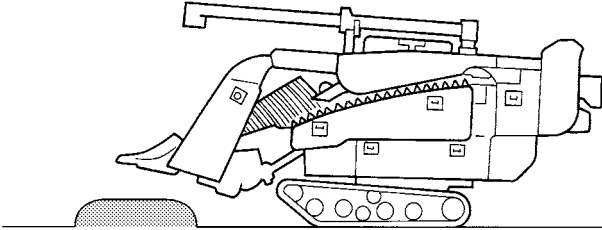
刈取作業のしかた

■ほ場の出入りのしかた

注 意

＊ グレンタンク内に残っているもみはすべて排出してください。
＊ 10cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。機械が破損するおそれがあります。
＊ あゆみ板はじゅうぶんな強度，幅（50cm 以上），長さ（高さの 4 倍以上）のある基準（39 ページ参照）に合ったすべり止め付きのものを使用し，コンバインの重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。また，あゆみ板はあぜに直角においてください。
＊ あゆみ板を使うときや前後左右とも 10 度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にしてください。
＊ あゆみ板を使うときは，速度を最低速にし，あぜに対して上り方向は前進，下り方向は後進で直角に走行してください。斜めに走行すると転倒してケガをするおそれがあります。
＊ あぜ越えやあゆみ板を走行するときは，自動車体水平制御（モンロー）は，機体をいっぱい下げた状態にしてください。[M 仕様]
＊ 右又は，左方向の傾きがある傾斜地は走行しないでください。機体が傾き転倒するおそれがあります。
＊ 後進する場合は後方の安全確認，また後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないよう後方にはじゅうぶん注意してください。
＊ 機体が，凸部を越えるときは，重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が変わるのでじゅうぶん注意してください。

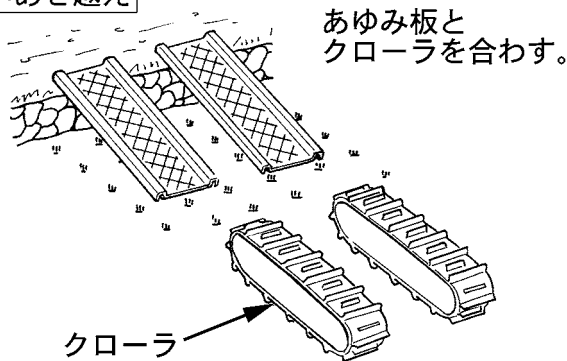
1. 副変速レバーを **[作業]** 位置にし，アクセルレバーを操作してエンジン回転を **2000n/min (rpm) 以上**にし，主変速レバーをゆっくり操作して，低速であぜ越えしてください。

低いあぜ越え

あぜ

1ARADAFAP075A

2. 10cm以上の高いあぜの場合はあゆみ板を使用してください。

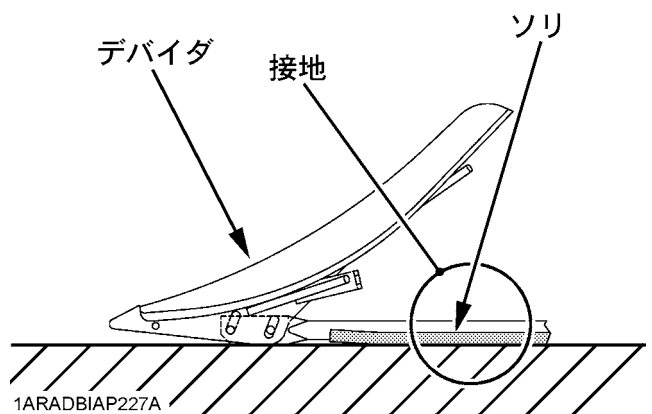
高いあぜ越え

あゆみ板とクローラを合わす。

クローラ

1ARADAFAP077A

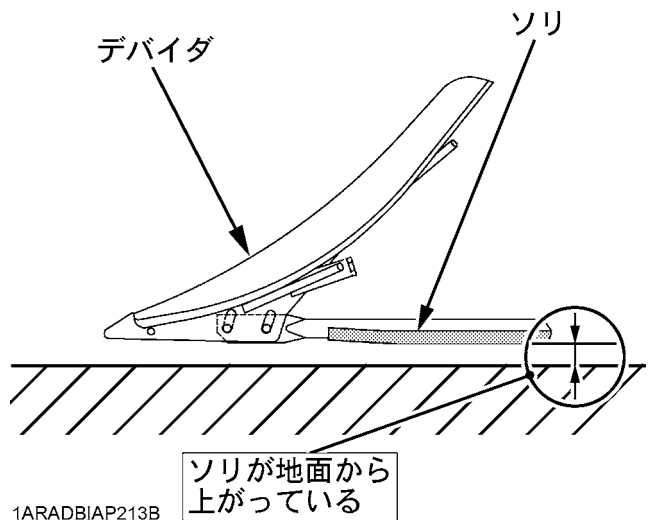
■ソリを接地した刈りかた・ソリを浮かせた刈りかた

刈取作業は刈取部のソリを地面に接地した状態で刈取りを行なう刈りかた又は，地面からデバイダ・ソリを上げた状態で行なう刈りかたで行なってください。ソリを地面に接地した刈りかたは，ほ場や作物の条件により行なえない場合があります。

[ソリを地面に接地した刈りかた]

デバイダ
接地
ソリ

1ARADBIAP227A

[ソリを地面に接地した刈りかた]

[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]

デバイダ
ソリ
ソリが地面から上がっている

1ARADBIAP213B

[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]

◆ソリを地面に接地した刈りかたについて
乾田のほ場で稲の刈取りを行なうときにはソリを地面に接地した刈りかたを行なうことができます。この刈りかたは，固い地面にソリを接地して刈取りを行なうため，下記の条件では正常な刈取りができない場合がありますので，デバイダ・ソリを地面から上げた状態で刈取作業を行なってください。

重　要

＊ ソリが接地している状態でSFワンレバーを前方に押すと，デバイダが地面に突込むおそれがあり，トラブルの原因となりますので，SFワンレバーを前方に押さないでください。

◆ ソリを地面に接地した刈りかたができない条件

● ほ場条件
湿田やほ場面の軟かいほ場

補　足

＊ ソリを接地した刈りかたは，ソリが固いほ場面（乾田）に接地した状態が必要です。ソリが沈み込むほ場では，ほ場面にデバイダが突っ込みトラブルの原因となります。

● 作物条件
稲の倒伏状態により，デバイダ先端部を下げて（66 ページ参照）刈取りを行なう場合

重　要

＊ デバイダ先端を下げた状態でソリを接地して刈取りを行なうと，ほ場面にデバイダが突込みトラブルの原因となります。

● 刈取条件
排わら処理を **［カッタ］作業** にして刈取作業を行なうとき，右デバイダが切わらを押す場合

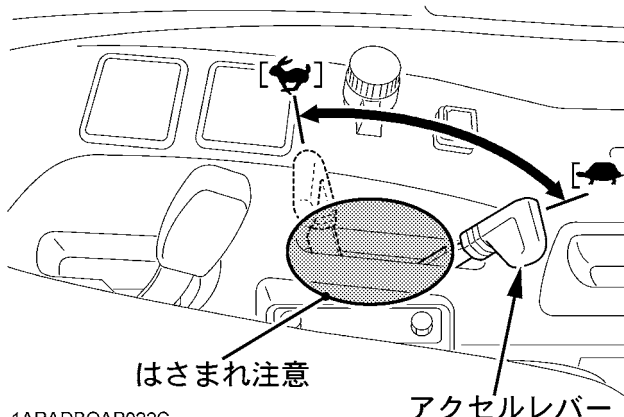
補　足

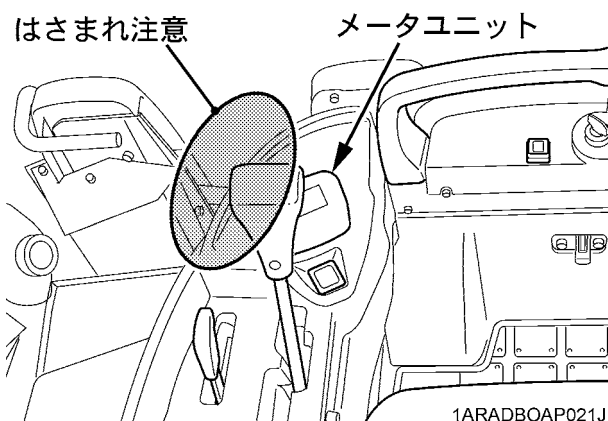
＊ 切わらの中を進むとソリが切わらに乗り上げて正常な刈取作業が行なえなくなるおそれがあります。

■刈取作業の手順

注　意

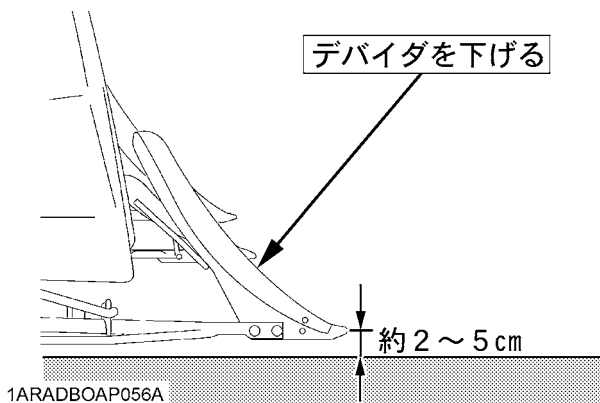
＊ **コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。**
＊ **異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。**
＊ **機体後方に補助者がいないことを確認してください。機体に接触しケガをするおそれがあります。**
＊ **小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。**
＊ **夜間など暗い場所で作業するときは，ヘッドランプや作業灯を必ず点灯してください。**
＊ **共同作業するときは，ホーンなどで合図を行なってください。**
＊ **作業スイッチを押すと約２秒後にアクセルレバーが自動的に［🐇］位置まで動くため，アクセルレバーから手を離してください。指がはさまれてケガをするおそれがあります。**

1ARADBOAP022C

＊ **刈取部を上げたとき，手がはさまれるおそれがあるため，メータユニットの刈取部側に手を置かないでください。**

1ARADBOAP021J

重　要

＊ 枕地を刈取るとき，アンローダの先端が，障害物（電柱や壁など）に当たり，破損するおそれがありますので，アンローダは折りたたんだ状態で作業を行なってください。
＊ 作業中エンジン周りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば，そのつど掃除してください。防じんあみ全面にゴミが付着したまま作業を続けますと，エンジンオーバヒートの原因になりますので注意してください。
＊ 湿田で作業をする場合，特に一方刈りで何回も後進するときは，フレーム下部に切わらを大量に抱込み，トラブルの原因になりますので，切わらの無い場所を後進するか早めにわらを排出してください。
＊ 変速レバーを **［移動］** 位置にして刈取作業はしないでください。トラブルの原因になります。

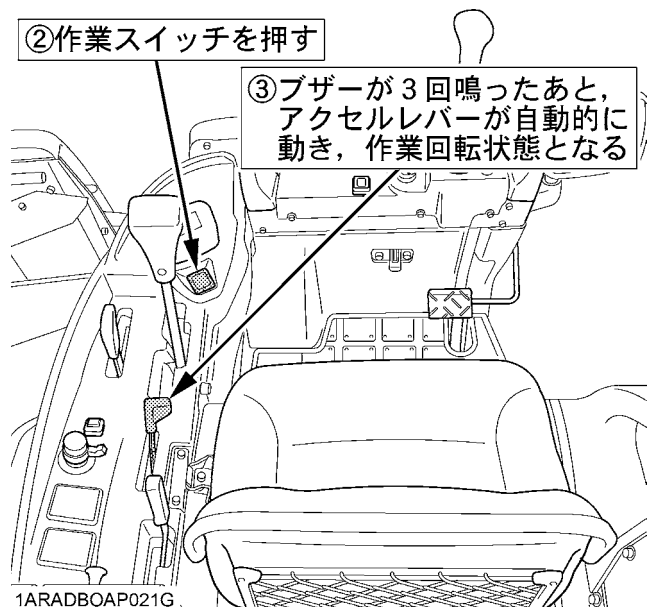
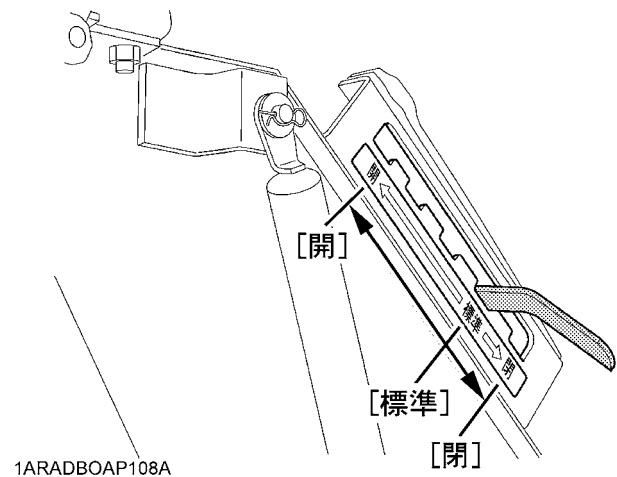
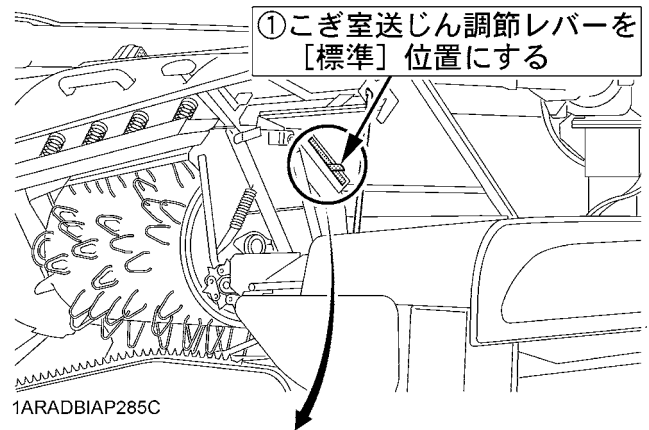
1. SF ワンレバーを操作し，**［ソリを地面に接地した刈りかた］** を行なうときはデバイダ先端を地面に接地（51 ページ参照），**［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］** を行なうときはデバイダの先端を地面から２～５㎝のところまで刈取部を下げます。

1ARADBOAP056A

補　足

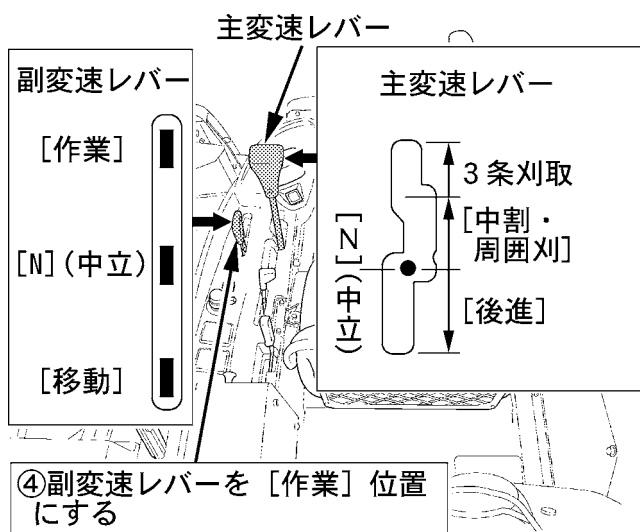
＊ 長かん作物，麦，雑草の多い作物は，高刈りしてください。
＊ ソリを地面に接地した刈りかたを行なうとき，デバイダ先端位置がソリより下がっているときは，デバイダの上下調整を行ない（66 ページ参照）デバイダの先端部をソリより高い位置にしてください。
＊ 乾田で立毛作物の刈取作業時，**低刈り**を行なうときは，デバイダの上下調整を行ない（66 ページ参照）デバイダの先端部を上げてください。

2. 各レバー・スイッチの操作を行ないます。

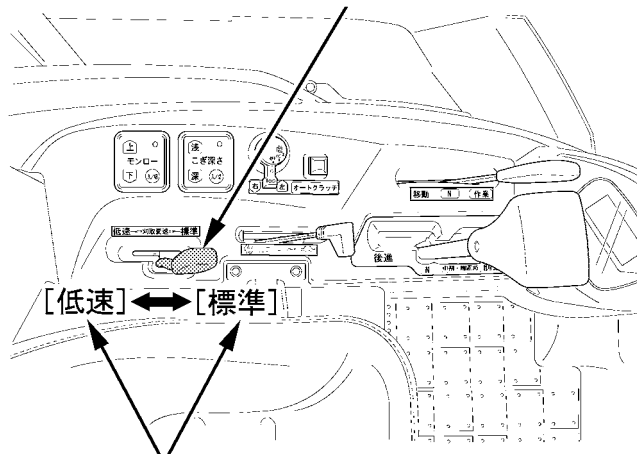
1ARADBIAP285C

1ARADBOAP108A

1ARADBOAP021G

補　足

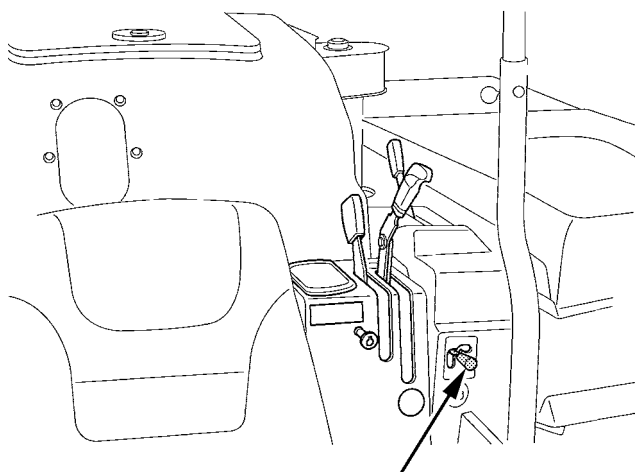
＊ 主変速レバーが **[N]（中立）** 又は，**[後進]** 位置のときは，作業スイッチを **[入]** にしても刈取部は作動しません。主変速レバーを前進側に操作すると，機体が前進すると同時に刈取部が作動します。
＊ 刈取オートクラッチスイッチが **[入]** の状態で，刈取部が **最上昇位置** にあるときには，刈取部は作動しません。
＊ 作業スイッチを押すと，自動こぎ深さ制御スイッチのランプが **点灯**（自動こぎ深さ **[入]**）します。

1ARADBOAP021H

重　要

＊ 副変速レバーの切換えは，必ず主変速レバーを **[N]（中立）** 位置にし，ブレーキペダルをいっぱいまで踏込み走行をいったん止めてから行なってください。故障の原因となります。
＊ 中割り・周囲刈りなど４条分を刈取るときは，**[中割・周囲刈]** の範囲内で主変速レバーを調整してください。

1ARADBOAP020F

補　足

＊ 刈取変速については60ページを参照してください。
＊ 主変速レバーが **[N]（中立）** 又は，**[後進]** 位置にあるとき，作業スイッチを **[入]** にしても，刈取部は作動しません。主変速レバーの位置と作業スイッチの **[入]**・**[切]** に対する刈取部の動きは次のとおりです。

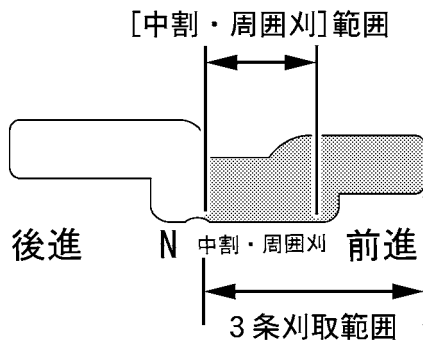
主変速レバー位置	作業スイッチ	刈取部
－	**[切]**	**停止**
[N]（中立） 又は，**[後進]**	**[入]**	**停止**
前進	**[入]**	**作動**

1ARADBOAP049U

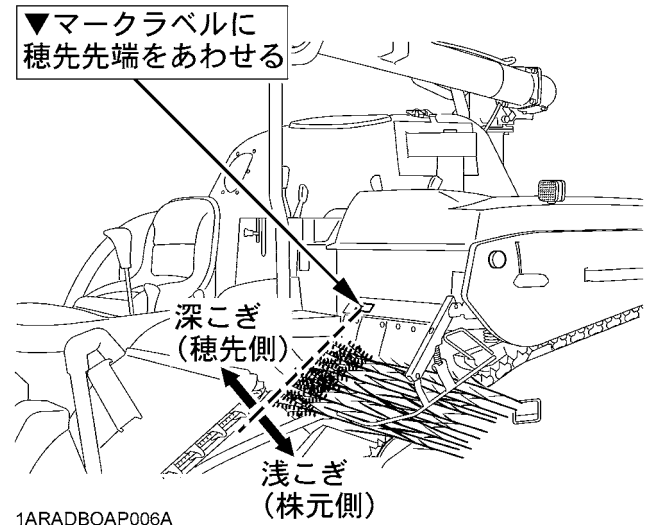
補　足

＊ トウミの調節は，脱こく部を必ず回転させてから行なってください。

3. 作物の長さを確認したあと，刈始めのこぎ深さの調節をします。調節するときは，手動こぎ深さスイッチで合わせます。そのあとこぎ深さ自動スイッチを **［入］**（ランプ**点灯**）にします。（20 ページ参照）
4. 作物の条件に合わせた速度に主変速レバーを合わせて刈始めます。（60 ページ参照）

補　足

＊ 刈取作業を行なうとき，作物やほ場の状態に合わせて，主変速レバーを **［中割・周囲刈］** 又は，**3条刈取**の範囲内で，刈取速度の調整を行なってください。（60 ページ参照）

1ARADBOAP067A

5. 作物の穂先先端を脱こく入口の **［▼マーク］**（こぎ深さ標準位置）に合うようにこぎ深さを調節します。（20 ページ参照）

1ARADBOAP006A

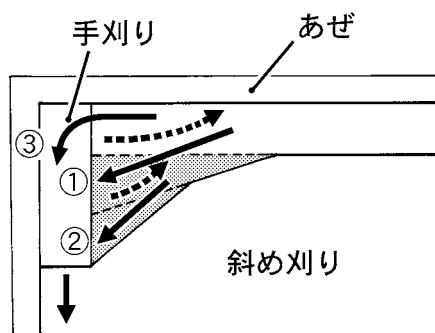
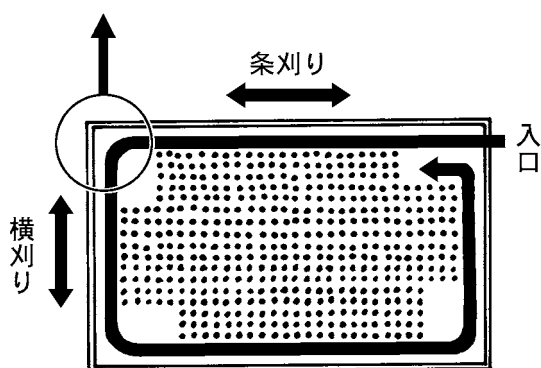
補　足

＊ **浅こぎ状態**では，こぎ残しが出たり，**深こぎ状態**では，負荷が大きくなり作業能率が上がりません。

6. 刈取作業を少し行なったあと，選別状態やこぎ残しの有無を確認し，異常があれば各部の調節（69，69 ページ参照）を行なってください。
7. 刈取作業が終わると，脱こくが終わり，もみがすべてグレンタンク内に入ったことを確認して，作業スイッチを **［切］（消灯）** にします。

■ほ場の刈りかたと旋回のしかた

ほ場での作物の刈りかたは，作物・ほ場の状態や作業効率によって異なりますが，基本作業は，条刈りで左回りの２方向刈りを行なってください。

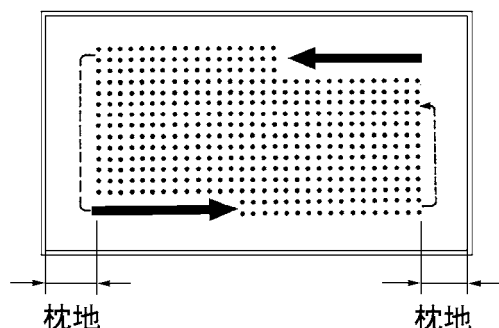
1. １周目は手刈り（枕刈り）したところから進入し，あぜぎわから左回りで４条分を刈始めます。２周目からは３条分を刈取ります。
2. 隅を旋回できるまで２～４回斜め刈りします。

1ARADAFAP368A

1ARADAFAP369A

重　要

＊ あぜぎわの刈取りを行なうとき，デバイダをあぜに突込まないように，少し高刈りをしてください。また，コンクリート畦畔にクローラをこすりつけると，クローラを切損する場合がありますので注意してください。

補　足

＊ 斜め刈りをするとき，刈取途中で方向修正をすると，かん長が不揃いとなり正常な脱こくができない場合があります。
＊ あぜぎわや隅の斜め刈りを行なうときは，あぜに突っ込むおそれがあるので，**［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］**で刈取りしてください。
＊ あぜぎわの刈取りを行なうときは，自動こぎ深さ装置を**［切］**位置にして，こぎ残しが出ないように手動スイッチで**深こぎ**ぎみにしてください。
＊ 刈り終わりのとき，脱こく部内へ刈取った作物が搬送されるまで刈取部は動かしてください。かんこぼれが発生することがあります。
＊ 右回りでの刈取作業は避けてください。コンクリート畦畔など障害物があるあぜぎわで，左分草かんを収納した状態で刈取作業を行なうと作物の搬送が乱れ，わら詰まりが発生する原因となります。

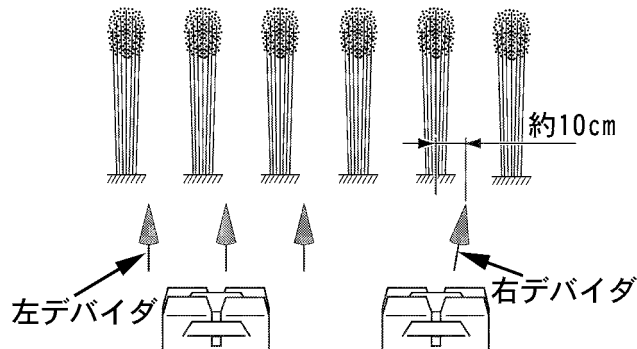
3. 両端（枕地）を旋回できる範囲に刈取ったら両端は刈取らずに旋回し，２方向刈りを行なってください。

1ARADAFAP370A

◆ デバイダ（刈取部）の条合わせのしかた

条合せをするときは，コンバインの速度を落としてください。

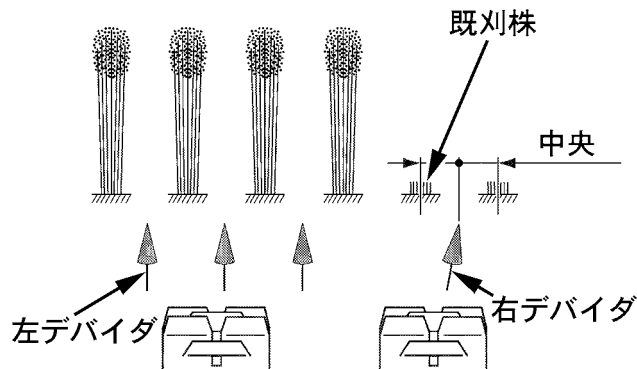
● あぜぎわ刈り・中割り作業のとき

未刈株中心から約 10cm の位置に右デバイダ先端を合わせて４条分を刈取ります。
（低速で作業してください。）

約10cm
左デバイダ
右デバイダ

1ARADBOAP061A

● 通常の回り刈りのとき

既刈株のほぼ中央位置に右デバイダ先端を合わせて３条で刈取ります。

既刈株
中央
左デバイダ
右デバイダ

1ARADBOAP062B

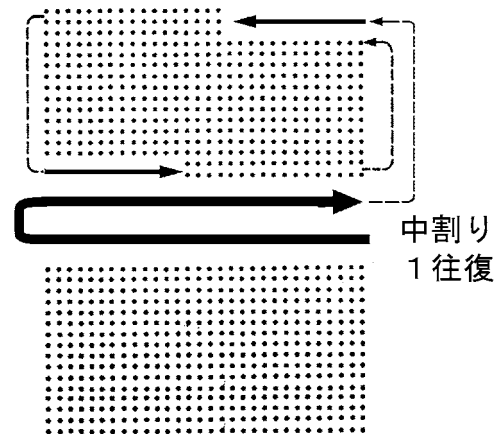
補　足

＊ 条合わせのときは，SF ワンレバーを小刻みに操作してください。

◆ 広いほ場の場合

[ソリを地面に接地した刈りかた]

中割り刈りで分割して，４条分を刈取ります。このとき，必ず**１往復**を同じ要領で刈取ります。
また，右デバイダがわら押しするのを防ぐため左，右のサイドシュートをそれぞれ長穴の内側の位置（**リヤシュート・サイドシュートの準備**の項参照）にします。1 往復刈取りが終わると右サイドシュートを外側に広げてください。

中割り
１往復

1ARADBIAP211A

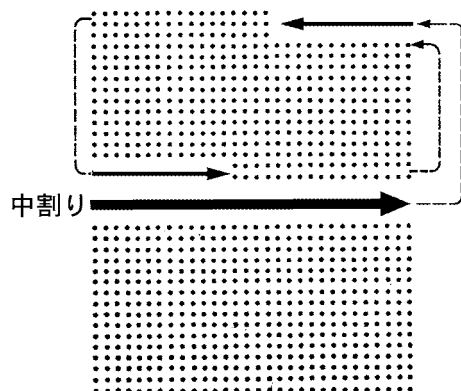
補　足

＊ 1 往復するとき，復路で刈取作業中に右デバイダがわら押しするときは，左サイドシュートを長穴よりもさらに内側の丸穴位置に調整してください。（**リヤシュート・サイドシュートの準備**の項参照）
＊ 中割り刈りが終わったあと，右サイドシュートが長穴の内側の位置にあるとカッタ詰まりの原因となりますので中割り作業後は，必ず右サイドシュートを外側に広げた位置にしてください。

［ソリを地面に接地した刈りかた］

[デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた]

中割り刈りで分割して，４条分を刈取ります。

中割り

1ARADAFAP375A

［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］

補　足

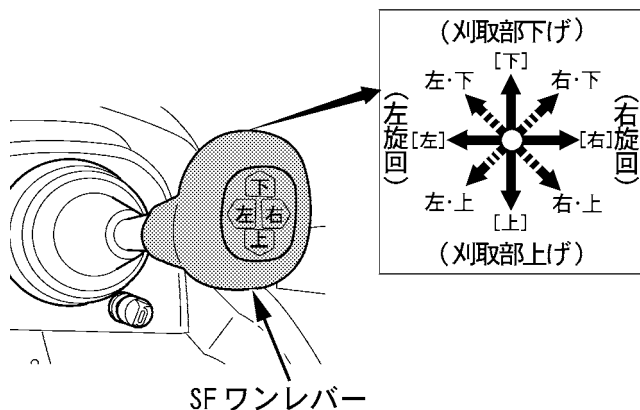
＊ 中割り刈り以外のときは，通常の回り刈りをしてください。

◆ **旋回のしかた**

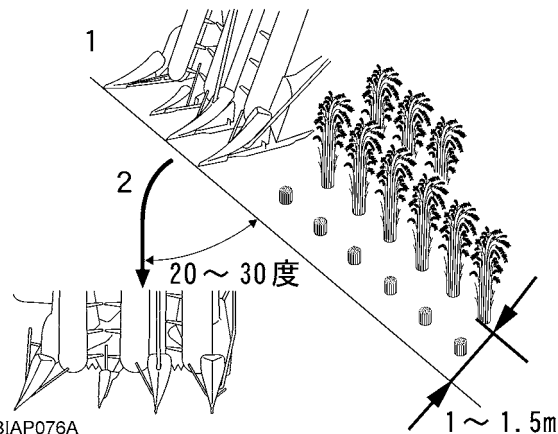
1. 刈終わると前進しながら刈取部を上げます。

補　足

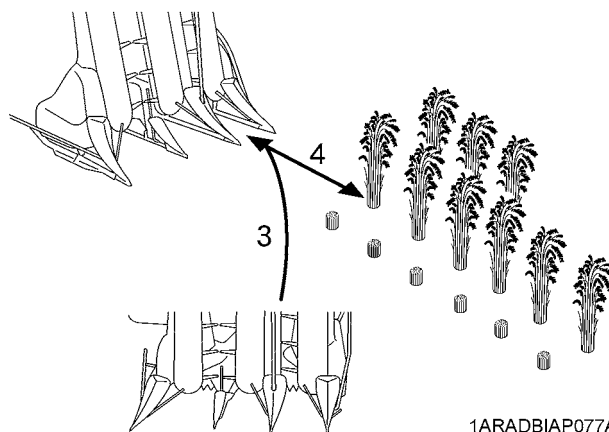
＊ 刈終わる前に刈取部を上げると刈残しが発生します。
＊ エンジンの回転低下が大きいときは，旋回操作の前に減速してください。
＊ SF ワンレバーを斜め方向に操作すると，機体の旋回と同時に刈取部が上下します。

（刈取部下げ）
［下］
左･下
右･下
（左旋回）
［左］
［右］
（右旋回）
左･上
右･上
［上］
（刈取部上げ）
下
左
右
上
SF ワンレバー

1ARADBOAP019S

2. 最後の作物を刈取ったあと，1 ～ 1.5m 程度走行しながら刈取部を上げSFワンレバーを左に倒し，20 ～ 30 度くらい旋回した位置で走行を停止します。

1
2
20～ 30度
1～ 1.5m

1ARADBIAP076A

3. 主変速レバーを**［後進］**位置に入れ，後進しながら SF ワンレバーを右に倒し, 次に刈る方向に刈取部を合わせます。
4. 刈取部を下げて前進します。

4
3

1ARADBIAP077A

重　要

＊ エンジン回転数は，下げないでください。**選別が悪くなったり詰まりの原因**になります。

補　足

＊ 刈取オートクラッチを**［入］**位置にしておくと，刈取部を上げたとき，自動的に刈取部の回転が停止するため, 旋回が楽に行なえます。

■湿田作業のしかた

注 意

＊ 異常が発生したときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いて処置してください。

湿田で刈取作業を行なうときは，デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかたで作物の状態（倒伏角の大きさなど）やほ場の状態（ぬかるみや起伏の大きさなど）をよく確認してください。また，異常が発生したときは，下表を参照してください。また **［M 仕様］** は，水平自動スイッチを **［入］** 位置にしてください。

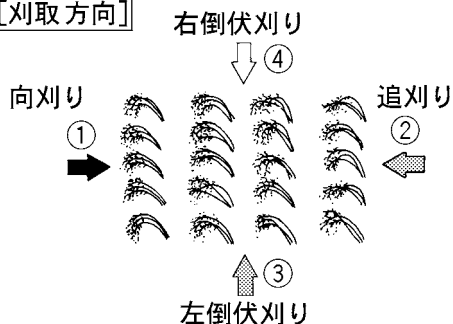
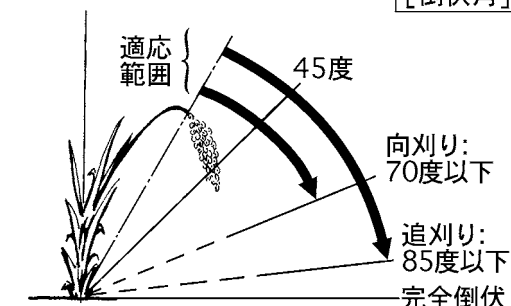
現　　象	処　　置
● スリップする。 ● 沈下して動かなくなる。 ● 機体が傾く。	● 低速で作業を行なう。 ● 同じ場所での旋回は避ける。 ● 急旋回はしない。（SF ワンレバーを小刻みに操作し，大廻りする。） ● 急発進はしない。 ● 機体を軽くする。（グレンタンク内のもみを早期排出する。）
● 刈取部が詰まる。	● 巻付いた作物，わらくずや泥の付着を取除く。（パッカ下部や搬送部） ● 少し高刈りする。
● カッタ部が詰まる	● わらくずや泥の付着を取除く。

■作物に合わせた変速の選びかた

作物の状態により適正な速度の位置を選んでください。

◆ 作業速度の選びかた

下表を参考にして主変速レバーと副変速レバーで適正な作業速度を選んでください。通常は倒伏角が大きい場合や水分が多い場合は，作業速度を遅くし，倒伏角が小さい（立毛）場合や水分が少ない（乾燥）場合は，作業速度を速くすることができます。

［刈取方向］
右倒伏刈り ④
向刈り ①
追刈り ②
左倒伏刈り ③
1ARADAFAP378A

［倒伏角］
適応範囲
45度
向刈り: 70度以下
追刈り: 85度以下
完全倒伏
1ARADAFAP379A

作物のぬれ	作業速度	変速レバー		倒伏	立毛	倒伏角
		副変速	主変速	刈取り方向		
乾燥	速い	作業	3条刈取 前進 中立 後進	①③（向刈り）（左倒伏刈り）30度以下の		小さい
			中割・周囲刈 前進 中立 後進	④（右倒伏刈り）		
水分多い	遅い			②（追刈り）		大きい

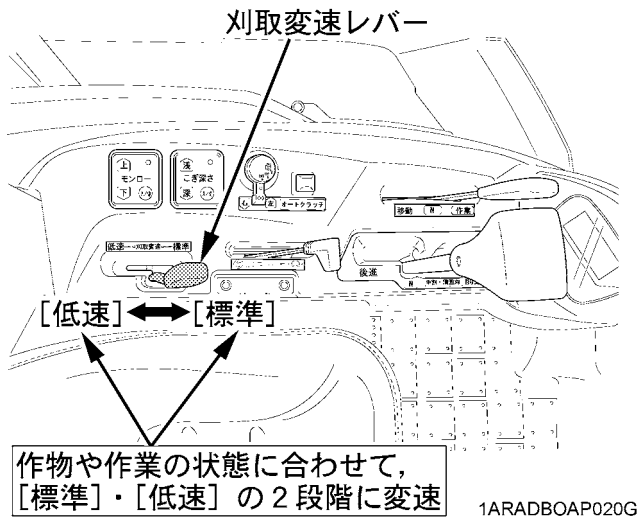
補　足

＊ 収量・成熟度合やその他の要因により適正な速度は変化します。この表はあくまでも目安ですので，その作物と機械に合った速度で作業を行なってください。

◆ 刈取変速の選びかた

作物の状態に合わせて，下表を参考にして，刈取変速レバーで **[低速]**・**[標準]**（２段階）の変速を行なってください。

刈取変速レバー
[低速]⟷[標準]
作物や作業の状態に合わせて，[標準]・[低速] の２段階に変速

1ARADBOAP020G

作物状態		変速選択位置
倒伏度合	その他の条件	刈取変速レバー
直立	一般的作物	**[標準]**
	周囲刈りなど低速刈取作業	
	脱粒しやすい作物	**[低速]**
	短かんで少量作物	
倒伏	45 度以下の倒伏作物	**[標準]**
	45 度以上の倒伏作物 長かん作物	
	45 度以上でかん切れが多い作物	**[低速]**

補　足

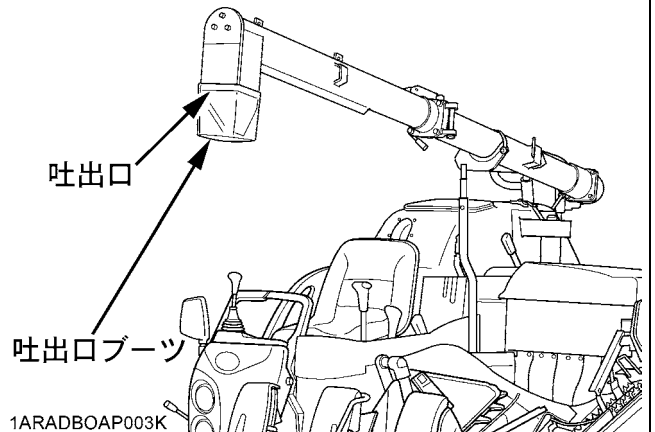
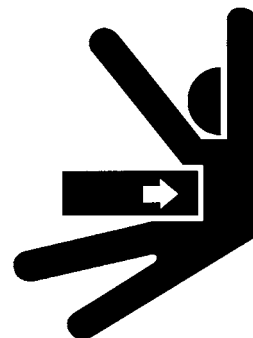
＊ 変速の選びかたの表は目安です。
＊ 出荷時は **[標準]** 位置です。
＊ かん切れが起こると，作物が途中で切れるため，搬送されずに刈取部前方に作物が滞留します。

■もみの排出のしかた

注　意

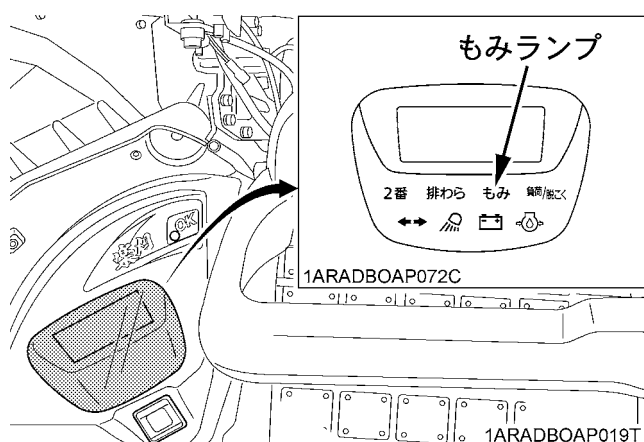
＊ コンバインを必ず停止してください。
＊ 吐出口に手は入れないでください。また，吐出口ブーツが破損したときは，直ちに交換してください。

吐出口
吐出口ブーツ

1ARADBOAP003K

＊ 手をはさみ，ケガをするおそれがあるので，アンローダ受けの上に手を置かないでください。
＊ もみ排出クラッチレバーを［入］位置にして，もみがアンローダ排出口から排出されるとき，頭部や顔などをアンローダ先端部に近づけないでください。もみの重みでアンローダ先端部がわずかに下がります。
＊ アンローダの旋回範囲に人がいるときは，アンローダを動かさないでください。アンローダ先端が大きく動き，ケガをするおそれがあります。

1ARADAFAP076A

＊ 排出時は機体を水平な場所に停車させ，作業スイッチを［切］（消灯）にしてから排出作業を行なってください。

1. グレンタンクが満杯になると，メータユニットのもみランプが点灯すると同時にブザーが鳴ります。

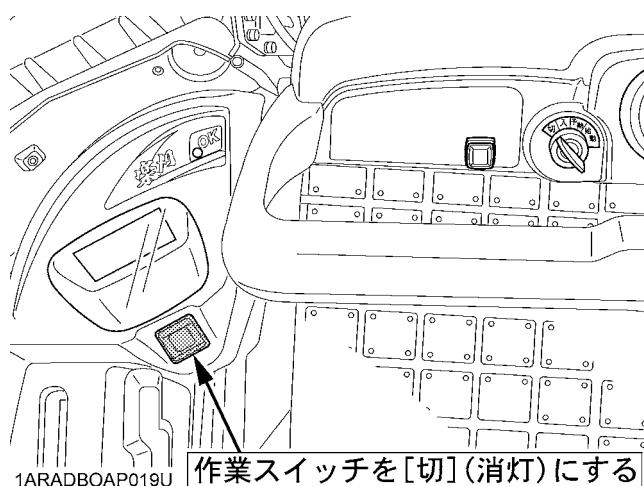
もみランプ
1ARADBOAP072C
1ARADBOAP019T

重　要

＊ ブザーが鳴ったあとも刈取作業を行なうと，もみがあふれたり，１番スクリュが詰まったりして，故障の原因となります。

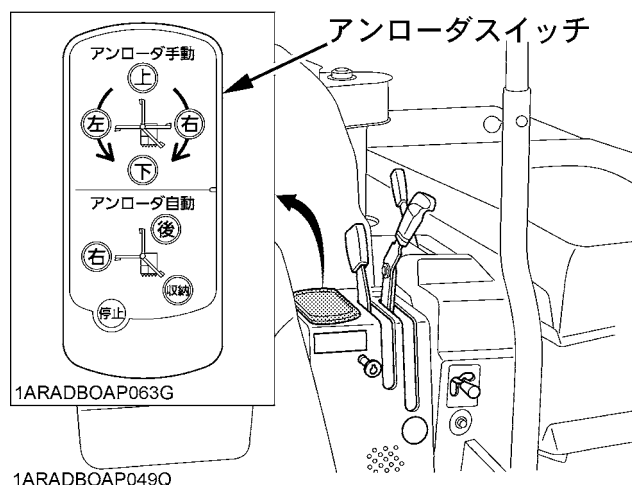
補　足

＊ ホーンスイッチを押すと，ブザーは停止します。

2. 作業をいったん中止し，30秒以上待ったあと，作業スイッチを **[切]（消灯）** にして，所定の排出位置に移動します。

1ARADBOAP019U
作業スイッチを[切]（消灯）にする

3. 主変速レバーを **[N]（中立）** 位置にして，駐車ブレーキを掛けます。

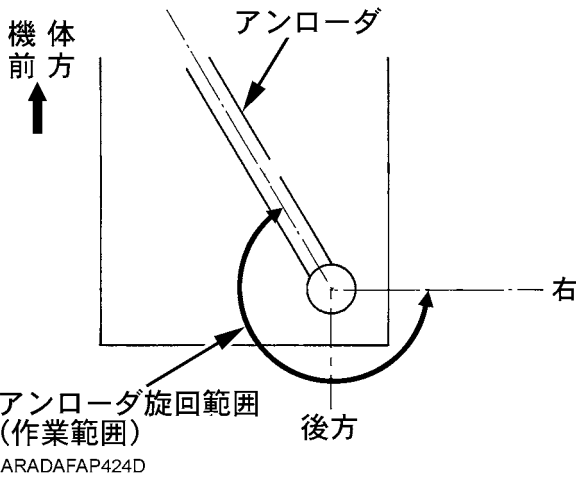
4. アンローダスイッチを操作して，アンローダを排出位置まで動かします。

アンローダスイッチ
アンローダ手動
上
左
右
下
アンローダ自動
後
右
収納
停止
1ARADBOAP063G
1ARADBOAP049Q

重　要

＊ 走行しながら，アンローダ旋回操作を行なわないでください。機械故障（油圧系統の作動不良）及び，アンローダホーム位置のズレによる収納不良の原因になります。
＊ 自動・停止スイッチを押す前に，アンローダの旋回範囲に障害物がないか確認してください。

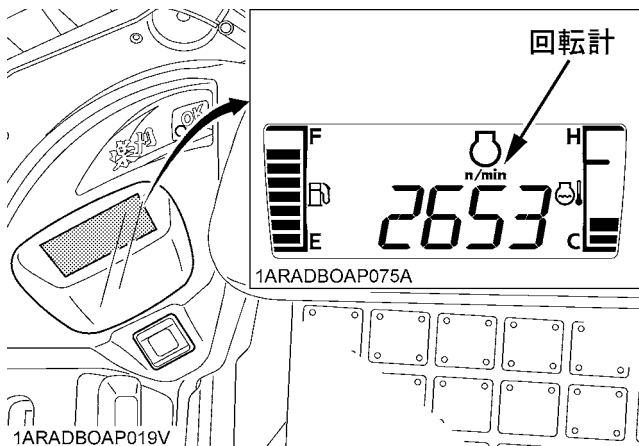
補　足

＊ 自動旋回中でも手動スイッチ操作が優先され，その後自動旋回は停止します。
＊ 自動旋回スイッチ **[収納]** でアンローダが収納位置に戻った直後に，再度自動旋回スイッチ **[右]・[後]** を押しても，作動しません。10秒程度待ってから，押してください。
＊ アンローダ手動スイッチ部とアンローダに貼付している操作方向認識ラベルを確認し，手動スイッチを操作してください。
[赤色方向：**左旋回**，**青色**方向：**右旋回]**
＊ アンローダを折りたたんだ状態で，もみ排出クラッチレバーを **[入]** 位置にすると，エンジンが停止すると同時に警報ブザーが鳴ります。（パワーユニット，キット（モミシャッタ）［オプション］を装着しているときは，もみ排出クラッチが作動せず警報ブザーが数回鳴ります。）

1ARADAFAP424D

＊ アンローダスイッチを操作方向識別ラベルの**赤色**方向に操作するとアンローダは左旋回（ラベル赤色方向）し，アンローダスイッチを**青色**方向に操作するとアンローダ右旋回（ラベル青色方向）します。(23 ページ参照)

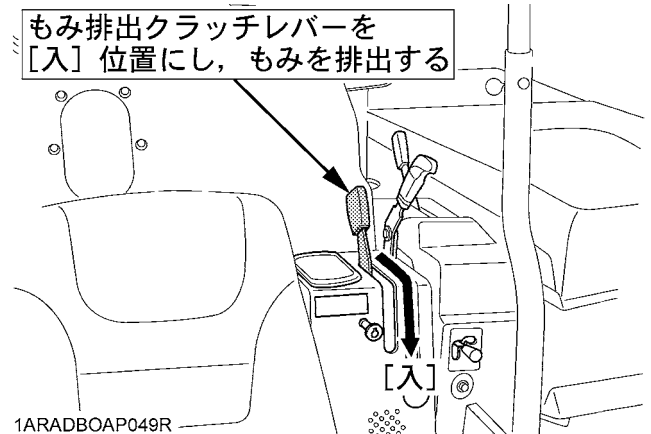
5. 排出作業は刈取作業時の回転のままでしてください。

1ARADBOAP075A

1ARADBOAP019V

補　足

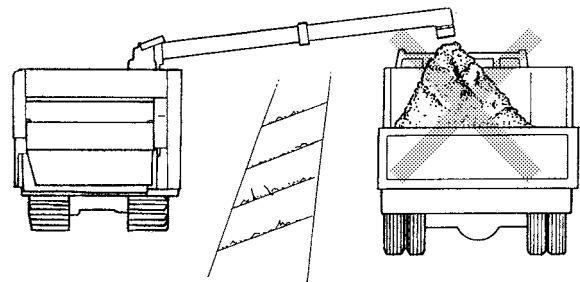
＊ 損傷しやすい作物は，エンジン回転数を約2000n/min（rpm）程度まで下げてください。

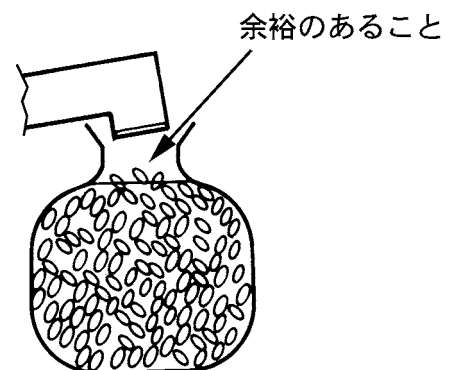
6. もみ排出クラッチレバーを【入】位置にし，もみを排出します。

1ARADBOAP049R

重　要

＊ 吐出口をふさがないようにアンローダの位置を調整してください。故障の原因となります。

[アンローダ出口注意]　[吐出口をふさがない]

1ARADAFAP208B

＊ アンローダには，絶対物を吊るさないでください。
＊ アンローダで袋詰め作業を行なうとき，詰まり防止のため，袋に余裕のある状態で，もみ排出クラッチレバーを切ってください。アンローダが詰まると駆動系統の故障の原因になります。

1ARADBEAP182A

補　足

＊ アンローダを折りたたんだ状態で，もみ排出クラッチレバーを **［入］** 位置にすると，エンジンが停止すると同時にブザーが鳴ります。また，エンジンを再始動するとときは，メインスイッチのキーを **［切］** 位置にし，５秒以上待ってからメインスイッチのキーを **［始動］** 位置まで回してください。

7. 排出が終わると，もみ排出クラッチを **［切］** 位置にし，排出を停止させたあと，アンローダ自動･停止スイッチ又は,アンローダスイッチを操作してアンローダをアンローダ受けに収納します。

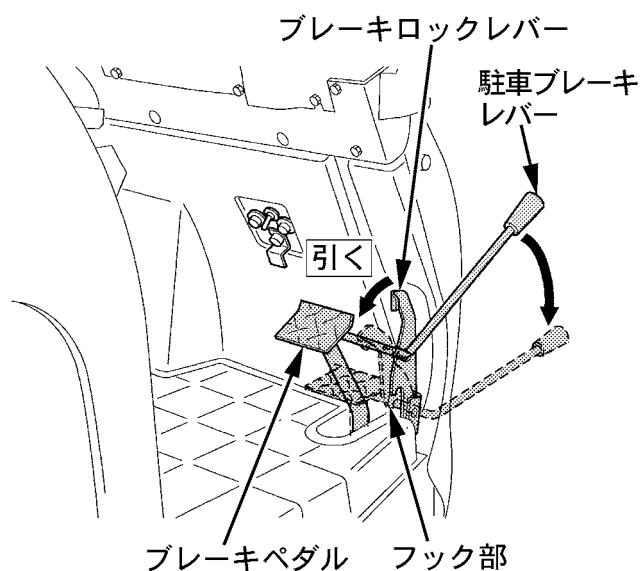
補　足

＊ アンローダスイッチで操作するときは，アンローダを最上昇位置にして旋回後，アンローダ受けに収納してください。
＊ アンローダ内にもみが残っていると，もみがこぼれるのでアンローダを一度最上昇させて収納してください。

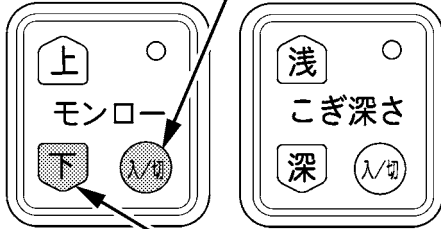
■手刈り（枕刈り）脱こくのしかた

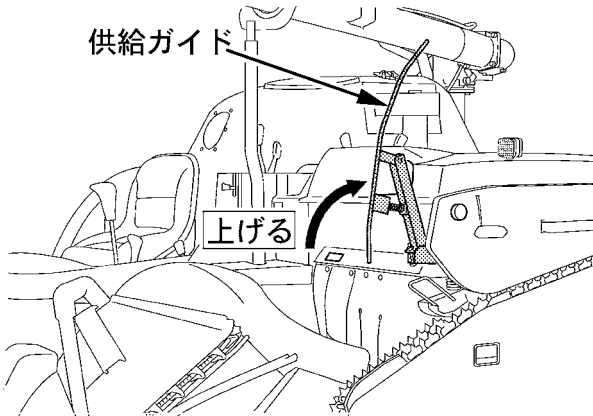
警　告

＊ そで口はきっちり止めて，手袋，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。
＊ コンバインは平たんな場所に止めて，駐車ブレーキを掛けてください。
＊ 刈取部は地面に接地させて，停止してください。
＊ 手刈り（枕刈り）脱こくするときは，手や腕の位置を必ずチェーンの外側（コンバインから離れる位置）にして，作物を少量ずつ供給してください。
＊ 脱こく部入口プレートの上にたまったわらやもみなどを脱こく部に押込むときは，エンジンを必ず停止してください。中に回転物がありケガをするおそれがあります。

1. 平たんな場所を選んで走行を停止したあと，副変速レバーを **［N］（中立）** 位置にし，駐車ブレーキを掛けます。

1ARADBIAP282J

2. 作業スイッチを **［切］（消灯）** にします。

3. [M仕様] は機体を最下降位置まで下げます。

①水平自動スイッチを切にする
上
モンロー
下
入/切
浅
こぎ深さ
深
入/切
②水平操作スイッチを押して，最下降位置にする
1ARADBOAP073F

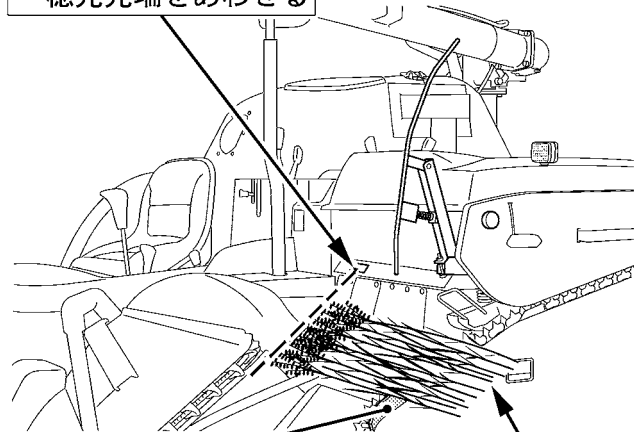
4. 供給ガイドを上げます。

供給ガイド
上げる
1ARADBOAP007A

5. 作業スイッチを [入] にします。

補　足

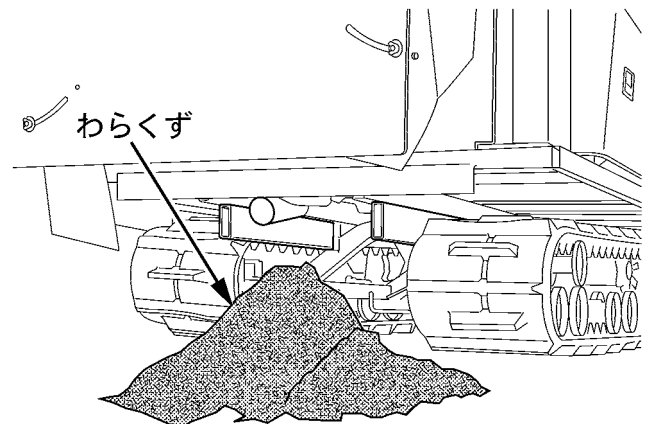
＊ 手刈り脱こく作業は刈取作業時の回転のままでしてください。

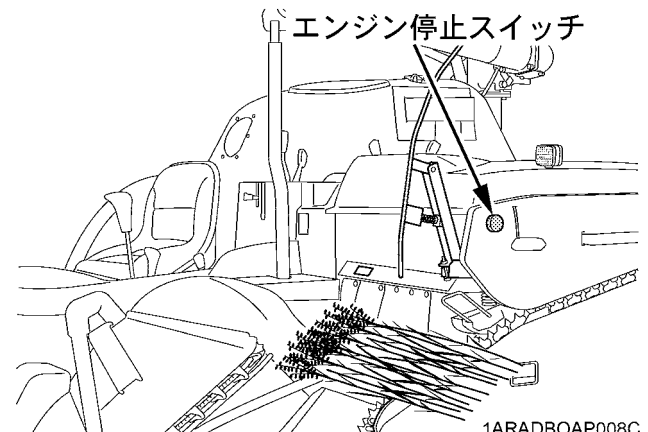
6. 手刈り作物を枕こぎオートプレートに乗せたあと，作物の穂先先端を [▼マーク] に合わせ，少量ずつフィードチェーンに供給します。

②▼マークラベルに穂先先端をあわせる
オートプレート
①枕こぎオートプレートに作物を乗せる
1ARADBOAP008B

重　要

＊ １箇所で多量の手こぎをする場合，カッタやドロッパの下に排わらや切断わらの堆積が原因で，カッタなどが詰まることがありますから，機体を定期的に移動させてください。

＊ 切断わらがカッタわら排出口に詰まった場合は，エンジンを必ず止めて取除いてください。

わらくず

＊ 手刈り脱こく時に万一異物などのかみ込みが発生したときは，エンジン停止スイッチを押してください。

エンジン停止スイッチ
1ARADBOAP008C

■作業に合わせた各部の調整･調節のしかた

警告

* **作業中の調整以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから，調整・調節を行なってください。**
* **衣服などが回転部に巻込まれ危険ですので，取外した回転部のカバー類は必ず取付けてください。**

注意

* **平たんで安定した場所で行なってください。**
* **コンバインを停止するときは，わらくずの上に止めないでください。マフラ排気口にわらくずが触れると，火災のおそれがあります。**

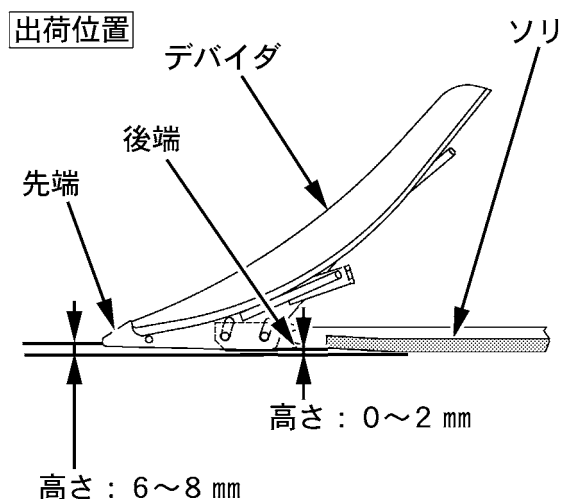
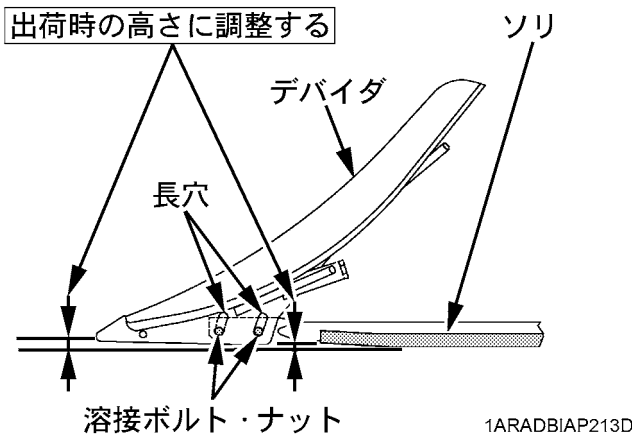
◆刈取部

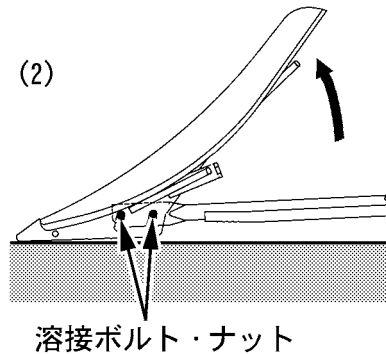
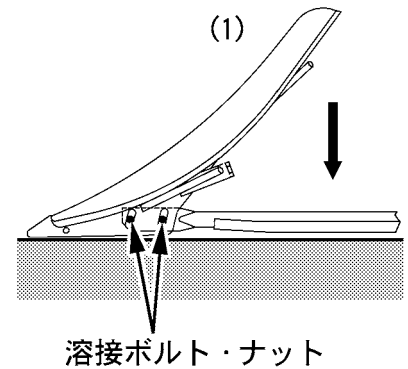
■デバイダの上下調整

出荷時のデバイダ位置では，**［ソリを地面に接地した刈りかた］**と**［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］**のいずれの刈りかたでも行なえますが，

- **［ソリを地面に接地した刈りかた］**で刈取作業を行なう場合は，必ず**出荷時**の位置にセットしてください。
- **［ソリを地面に接地した刈りかた］**で刈取作業が行なえない場合（51 ページ参照）は，**［デバイダ・ソリを地面から上げた刈りかた］**で刈取作業を行なってください。

◆ デバイダの出荷時の位置について

出荷時のデバイダ位置は，ソリ底面からデバイダ先端下側の高さが，６～８ ㎜ また，ソリ底面からデバイダ後端の高さが，０～２ ㎜ です。

● **出荷位置**への調整のしかた
(1) ナット２個をゆるめたあと，デバイダ全体を長穴の下端部に溶接ボルトが接触するまで上げます。
(2) デバイダが下がらない程度に後側のナットを仮締めします。
(3) ソリの底面からデバイダの先端下側とデバイダ後端の高さをそれぞれ**出荷時**の高さに調整します。
(4) ナット２個を締付けます。
(5) 他のデバイダ全ても同じ高さに調整します。

◆ **ソリを地面から上げて刈取作業を行なう場合**
下表の作物条件を目安にして，調整を行なってください。調整のしかたは，**出荷位置**への調整のしかたを参照して同じ要領で調整を行ないます。

作物・ほ場条件	セット位置
湿田で前上りになるとき	デバイダ全体を下げる (1) の位置
うね作業のとき	
雑草が多く高刈りしたいとき	
倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いとき	デバイダ先端を下げる (1) 又は (2) の位置

重　要
＊ ソリを地面に接地して刈取作業を行なうときは，必ず**出荷時**の位置にしてください。デバイダが地面に突込み，トラブルの原因となるおそれがあります。

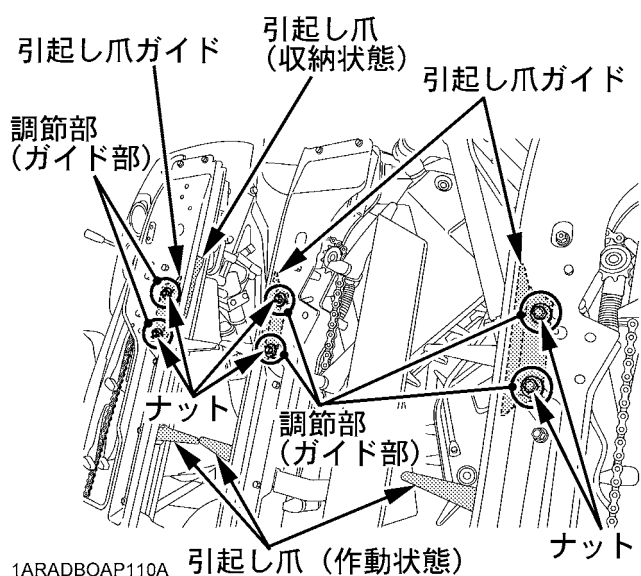
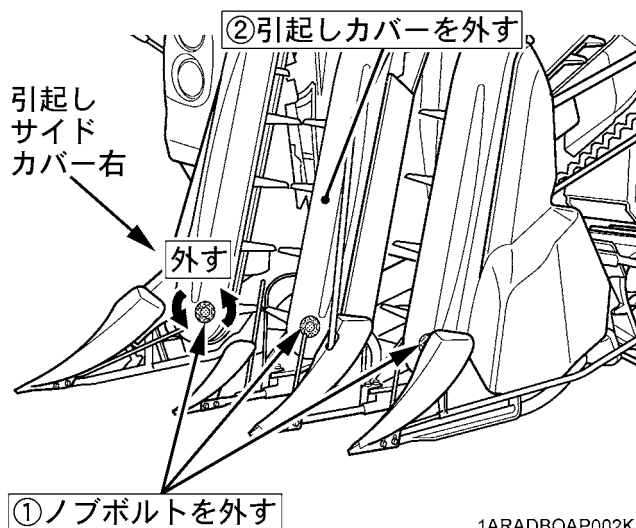
補　足
＊ デバイダの上下高さは，全てのデバイダを同じ高さにしてください。

■引起し爪高さの調節

作物条件に応じて，引起し爪が収納される位置の調節を行なってください。調節は必ず**全条同じ位置**にしてください。

1. 引起しサイドカバー右を取外したあと，引起しカバーのノブボルトを外して，引起しカバーを全て外します。

1ARADBOAP002K

1ARADBOAP110A

● 調節位置･作物条件表

調節位置（調節部）			作物条件
右側	中央・左側	1	立毛状態の長かん作物
2 1	1 2		立毛状態の標準かん長作物
			倒伏した作物
		2	立毛状態の標準かん長で脱粒や浮きわらが発生しやすい作物（過熟小麦など）
			立毛状態の短かん作物

補　足

＊ 出荷時は【1】の標準位置です。

＊【2】の位置に調節する場合は，ナット（2 箇所）をゆるめて，上側のナットを【2】の位置で溝の上側に押付けた状態で，下側のナットを締付けてください。

2. 引起しカバーを全て装着したあと，ノブボルトを締付けます。
3. 引起しサイドカバー右を取付けます。

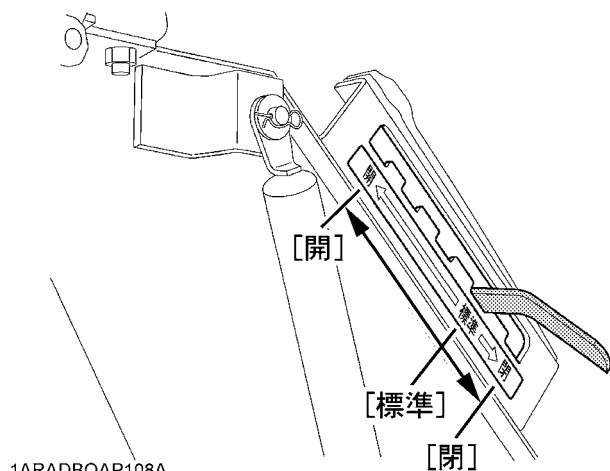
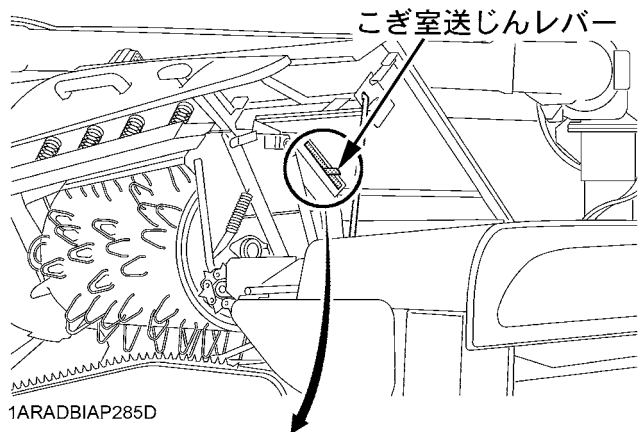
◆脱こく部

■こぎ室送じん調節レバーの調節

1. こぎ胴を開きます。
2. 下表を参照してこぎ室送じん調節レバーで調節します。

調節方向	現　象（状　態），条　件
[開] ⬆ [標準] ⬇ [閉]	● ゴトゴトと大きな異音がする（こぎ胴の負荷が大きい） ● 倒伏作物やぬれ作物の刈取り ● 脱ぷや損傷（胴割れや欠け）粒が多い
	● 選別が悪い 　● 芒・枝梗粒が多い 　● 穂切れ粒が多い 　● ササリ粒が多い ● 排じんロス（もみの飛散）が多い

1ARADBIAP285D

1ARADBOAP108A

3. こぎ胴を閉じます。

■排じん調整板の調整

下表を参照して排じん調整板を調整してください。

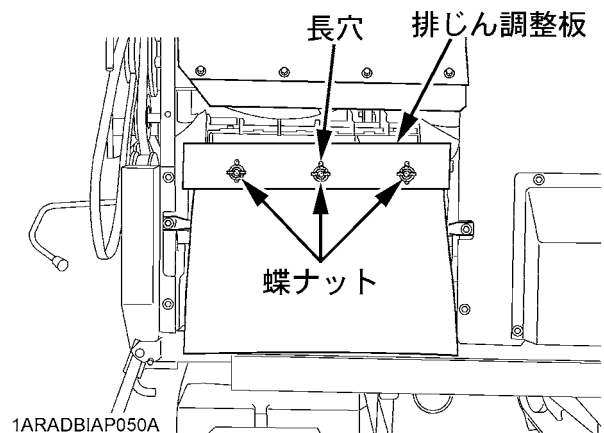
1. カッタ部を開きます。（77 ページ参照）
2. 蝶ナットを３個ゆるめます。

補　足

＊ 出荷時は，左・右の長穴横にある**標準位置合せマーク**位置に蝶ナットで締付けています。

3. 排じん調整板を動かして調整します。

調節方向	現　象（状　態）
上 ⬆ [標準] ⬇ 下	● 排じんロスが多い
	● ぬれ作物の刈取り ● 雑草が多い ● 能率を上げる（高速刈取り）

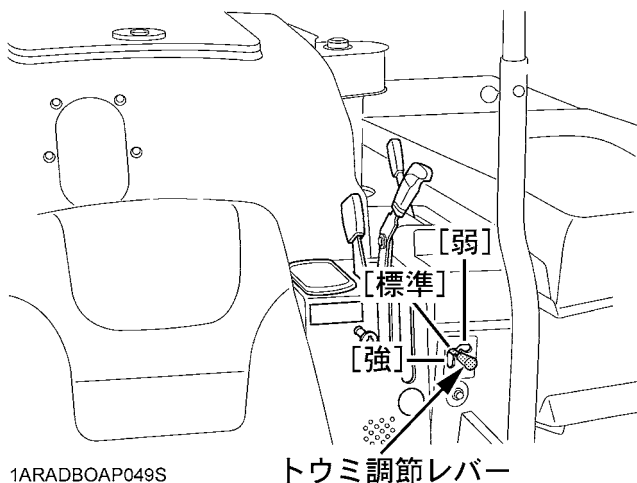
1ARADBIAP050A

4. 蝶ナットを締付けて，カッタを閉じます。

■トウミ（風力）とチャフ（選別板のすき間）の開度の調節

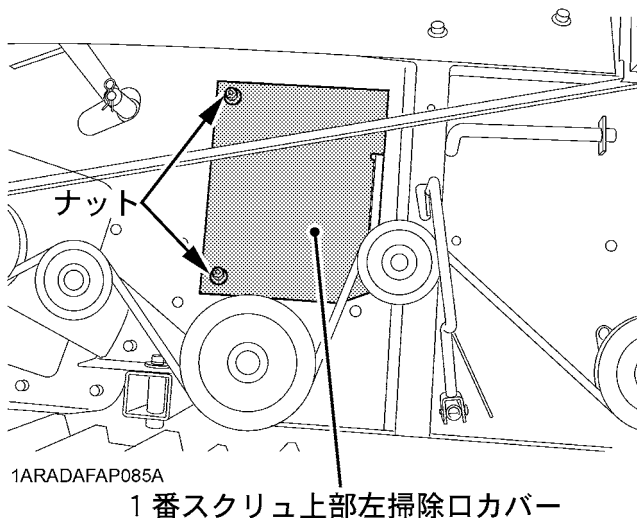
作物に合わせ，表を参照してトウミ切換えレバー及びチャフ切換えレバーで調節してください。

［トウミ調節］

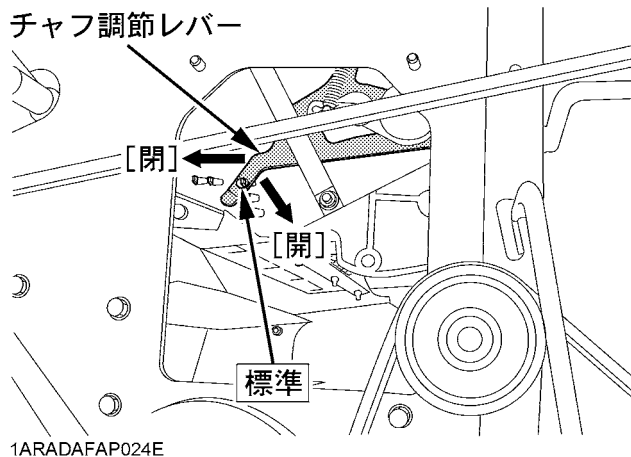
調節方向	現　象（状　態）
［強］ ⬆ **［標準］**	● 選別が悪い
⬇ **［弱］**	● 排じんロス（もみの飛散）が多い

1ARADBOAP049S　トウミ調節レバー

［チャフ（選別板のすき間）調節］

1. 左サイドカバー上，下を取外します。
2. ナット２個を取外して１番スクリュ上部左掃除口カバーを外します。

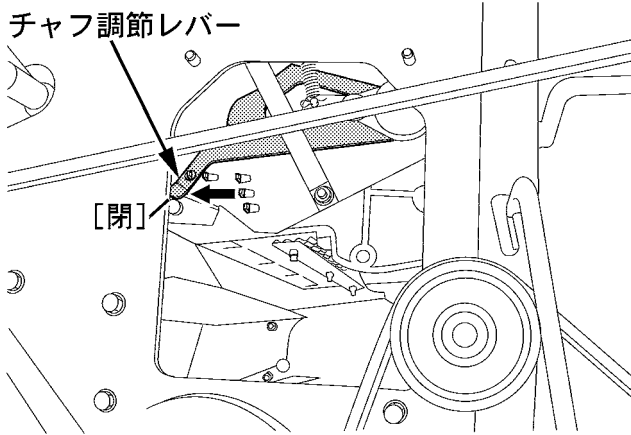
1ARADAFAP085A　１番スクリュ上部左掃除口カバー

3. チャフ調節レバーで調節します。

調節方向	現　象（状　態）
［閉］ ⬆ **［標準］**	● 選別が悪い ● 小枝梗が多い
⬇ **［開］**	● 排じんロス（もみの飛散）が多い ● 脱ぷが多い

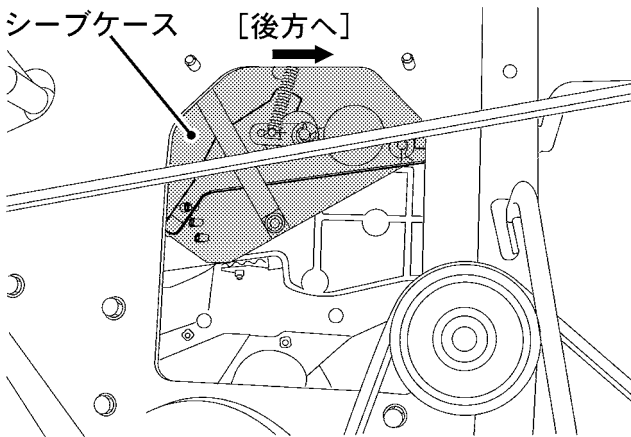
チャフ調節レバー　1ARADAFAP024E

補　足

＊ チャフの調節は，脱こく部内にこく粒が残っていないときに行なってください。
＊ チャフ（選別板のすき間）はもみの量により自動開閉するようになっていますが，選別をさらに良くしたい場合は作物の脱こく状態に合わせて調節を行なってください。
＊ **［ 閉 ］** 方向に調節するときは，調節レバーを引いてください。

チャフ調節レバー
［閉］

1ARADAFAP025A

＊ ［閉］位置への調節がやりにくい場合（下図のような位置）は，こぎ胴を回してシーブケースを後方に動かしてください。

シーブケース　［後方へ］

1ARADAFAP026A

4. 掃除口カバーを取付けてナットで締付けたあと，左サイドカバー（上，下）を取付けます。

■メータユニットによる異常と処置

警　告

＊ 各部の点検やわら詰まりを取除くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注　意

＊ エンジン停止直後は，エンジンにさわったり，ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。

メータユニットに警報が表示されたときは，次の表を参照して処置してください。

水温計
2653

1ARADBOAP075B

1ARADBOAP019X

2番ランプ
排わらランプ
液晶ディスプレイ
もみランプ
負荷／脱こくランプ
充電ランプ
オイルランプ

1ARADBOAP072D

警報の種　類	警　　報		警報ブザー（吹鳴時間）	作業可能ランプ（OK ランプ）	現　　象	処　　置	参照ページ
	液晶表示	ランプ／メータ表　示					
燃料警報	残り１目盛が点滅	—	○ 断続 （約３秒後停止）	点滅	・燃料が少なくなっています。 ・そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**	・燃料を補給します。	115
油圧警報	—	オイルランプ点　灯	–	–	・エンジンオイルの圧力が不足しています。 ・そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	・エンジン停止後，オイル量を点検します。 ・オイルドレーンゴムホースの点検と処置をします。 ・バンドの増締めをします。 ・購入先へ連絡してください。	116 124 124 –
充電警報	—	充電ランプ点　灯	–	–	・バッテリに充電されていません。 ・そのまま作業を続けると… **バッテリ上りとなり，エンジンの始動ができなくなります。**	・エンジン停止後，点検と処置をします。 ①ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 ②バッテリ 電圧低下……充電 ・バッテリを充電してもエンジンが始動しないときは，交換してください。	157 134 157 157

警報の種類	警報		警報ブザー（吹鳴時間）	作業可能ランプ（OKランプ）	現象	処置	参照ページ
	液晶表示	ランプ／メータ表示					
水温警報	目盛が全て点滅	—	○ 断続 （処置後停止）	点滅	・エンジンの冷却水温が上昇しています。	・エンジン停止後，30分以上たってから点検と処置をします。	121，124，134，125
					・そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**		
					・エンジン停止後，冷却水温が高温の状態です。	・点検と処置 ①冷却水量の点検 不足……ラジエータ・リザーブタンクに清水を補給 水もれ…排水プラグ・ラジエータホースのバンドを増し締め ②ファン駆動ベルトの点検 ゆるみ……張り調整 破損など…交換・調整 ③防じんあみ・ラジエータフィンの点検 汚れ・詰まり…掃除して取除く	121 121，124 134 125
					・そのまま作業を続けると… **エンジンが焼付きを起こし停止します。**	・購入先へ連絡してください。	—
負荷警報	—	負荷／脱こくランプ点滅	○ 断続 （処置後停止）	点滅	・エンジンや脱こく部に負担がかかっています。	・作業速度を落としてください。 ・作業条件に合った調節や調整を行なってください。	10 60，69，69，70
					・そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**		—

警報の 種　類	警　　報		警報ブザー （吹鳴時間）	作業可能 ランプ （OK ランプ）	現　　象	処　　置	参照 ページ
	液晶表示	ランプ／ メータ 表示					
シーブ 警　報	—	負荷／ 脱こく ランプ 点　滅	○ 断続 （処置後停止）	点滅	・シーブケース上に詰まりが発生しています。 ・刈取量が処理能力を超えています。 ・そのまま作業を続けると…… **エンジンが停止します。**	・作業速度を落としてください。 ⬇ ・作業速度を落としても警報が解除されないときは，刈取作業を中止し脱こく機を空運転します。 ⬇ ・空運転後も警報が解除されないときは，こぎ胴をオープンしてシーブ上の詰まりを取除きます。	10 8 92
もみ満杯 警報	—	モミ ランプ 点　滅	○ 断続 （処置後停止又は，ホーンスイッチを押すと停止）	点滅	・グレンタンク内のもみが満杯です。 ・そのまま作業を続けると… **グレンタンクからもみがあふれます。又は，１番スクリュが詰まります。**	・刈取作業を中止，もみを排出します。	61 —
２番警報	—	２番 ランプ 点　滅	○ 断続 （処置後停止）	点滅	・２番処理胴，２番縦スクリュケース内が詰まっています。 ・そのまま作業を続けると… **エンジンが停止します。**	・２番処理胴，２番縦スクリュケースを掃除します。	92 —
排ワラ 詰まり 警　報	（自動的にエンジンが停止すると同時に表示します。）				・フィードチェーン終端部にわらが詰まっています。 ・カッタ部にわらが詰まっています。 **◆［結束機仕様の場合］** ・結束機のひもなし，ひも切れです。 ・結束機の結節部のビルにわらやひもが巻付いているか，結束部にわらが詰まっています。	・こぎ胴をオープンして，フィードチェーン終端のわらを取除きます。 ・カッタの切換えカバーを開いて，わらを取除きます。 ・新しいひものセット，ひもの再セットをします。 ・ビルからわらやひもを取除きます。	76, 169 169 — （※）
	—	排ワラ ランプ 点　滅	○ 断続 （処置後又は，メインスイッチのキーが **［切］** で停止）	点滅			

※結束機仕様は，別冊の結束機の取扱説明書を参照してください。

重　要

＊ 処置したあとに異常が直らないときは，購入先へ連絡して修理を依頼してください。

各部の開閉と脱着のしかた

警 告

- ＊ 平たんで安全な場所で，機械の移動や各部を動かすとき以外は，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
- ＊ 傾斜地では，開閉や脱着を行なわないでください。
- ＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

注 意

- ＊ エンジンルームを閉じたときは，クランプで必ずロックしてください。

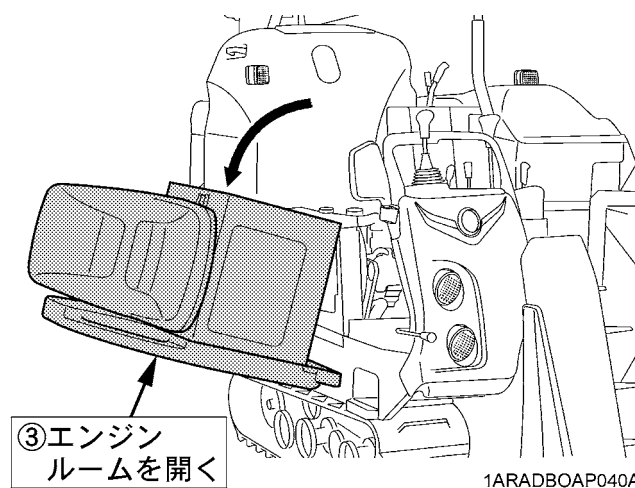
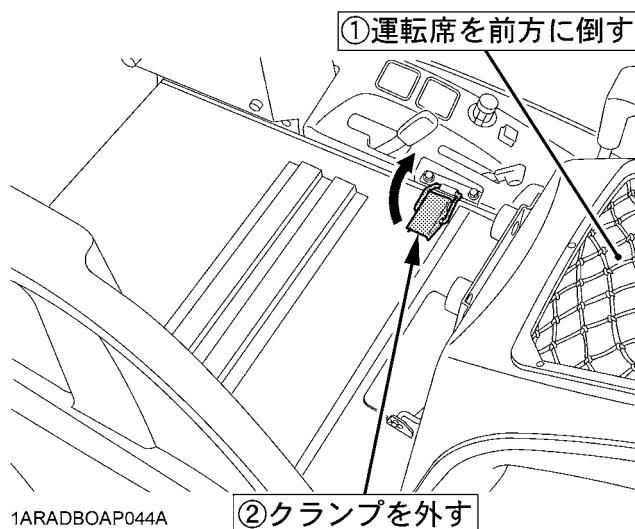
■エンジンルームの開閉

注 意

- ＊ オーバヒートなどでエンジンルームを開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
  - (1) 作業を中止する。
  - (2) エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転したあと，エンジンを停止し，メインスイッチのキーを抜く。
  - (3) エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。
  - (4) 点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドの危険性がないことを確認する。
- ＊ エンジンが冷えていないとき，エンジンルームを開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ，あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。

◆開きかた

①運転席を前方に倒す
②クランプを外す
1ARADBOAP044A

③エンジンルームを開く
1ARADBOAP040A

◆ 閉じかた

1. エンジンルームを閉じたあと，クランプをします。

目次 安全 サービスと保証について 装置名称と取扱い 運転のしかた 収穫作業のしかた メンテナンス コンバインの不調と処置 付表 索引

■こぎ胴の開閉

警 告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

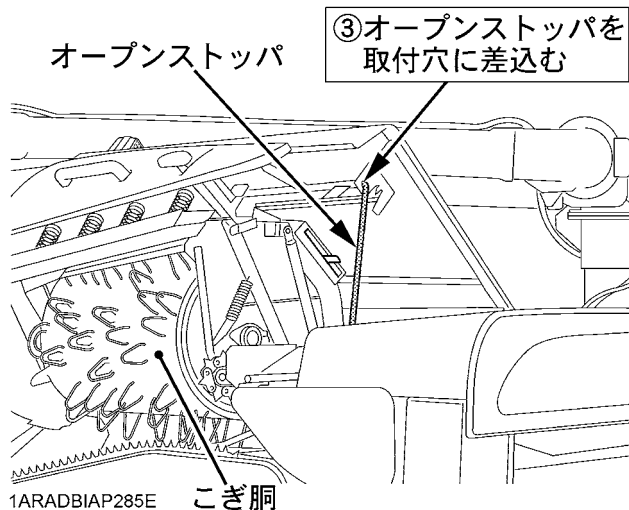
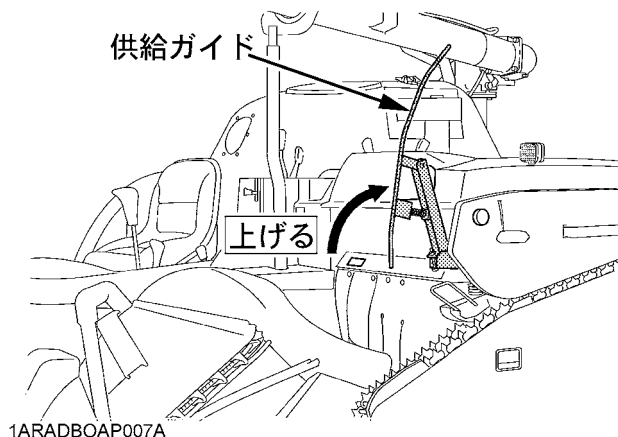
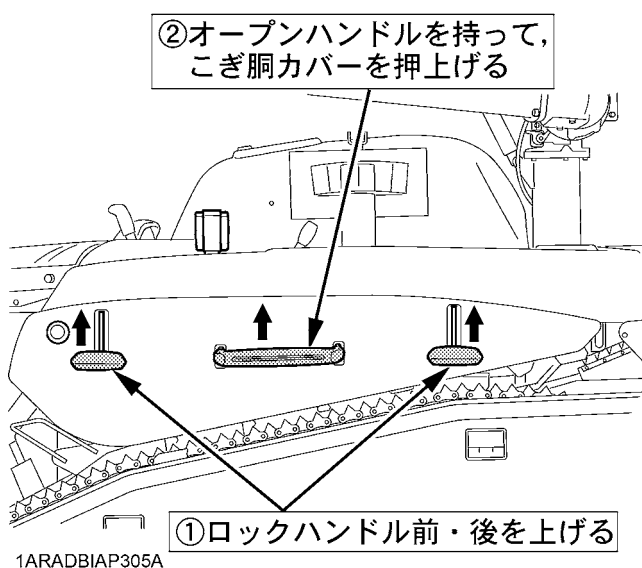
＊ こぎ胴を開いて，受あみの脱着やこぎ室の掃除をするときは，こぎ胴が落下して身体がはさまれるおそれがあるので，オープンストッパで必ず固定してください。

◆開きかた

1. 供給ガイドを上げます。

供給ガイド
上げる
1ARADBOAP007A

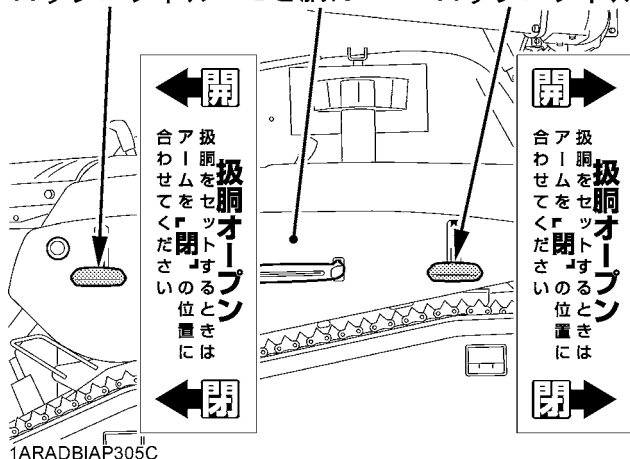
2. こぎ胴を開きます。

②オープンハンドルを持って，こぎ胴カバーを押上げる
①ロックハンドル前・後を上げる
1ARADBIAP305A

オープンストッパ
③オープンストッパを取付穴に差込む
こぎ胴
1ARADBIAP285E

◆閉じかた

1. オープンストッパを取付穴から外します。
2. オープンハンドルを持って，こぎ胴カバーを押下げます。

重 要

＊ こぎ胴カバーを閉じたとき，ロックハンドルの前と後が，ハンドル横の **[開]⟷[閉]** ラベルの **[閉]** の位置にあることを確認してください。**[閉]** の位置以外で作業を行なうと，こぎ室フレームが変形することがあります。

ロックハンドル　こぎ胴カバー　ロックハンドル
開
扱胴オープン
扱胴をセットするときはアームを「閉」の位置に合わせてください
閉
1ARADBIAP305C

3. 供給ガイドを下げます。

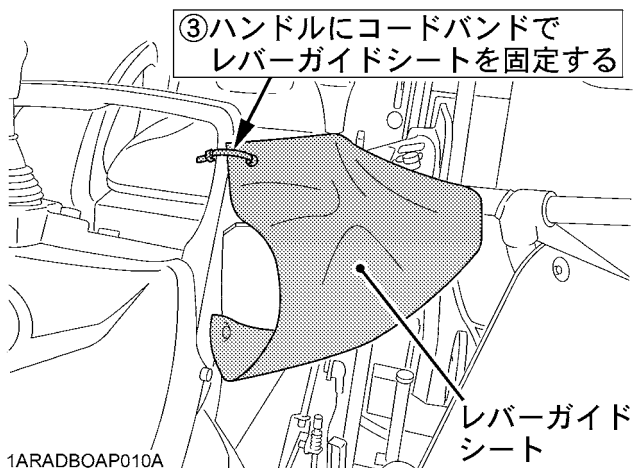
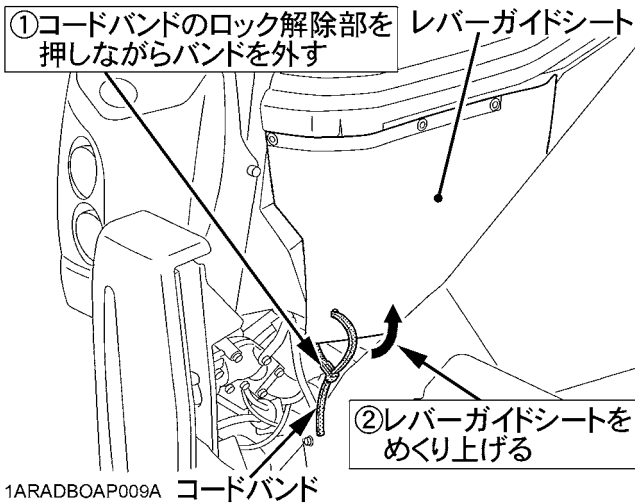
■レバーガイドシートの開閉

刈取部側から運転席下側のメンテナンスを行なうとき，レバーガイドシートをめくり上げて（開く）から作業を行なってください。

◆開きかた

1. 刈取部を地面に降ろしたあと，エンジンを停止します。
2. コードバンドを取外したあと，レバーガイドシートをめくり上げます。
3. ハンドルにレバーガイドシートを取外したコードバンドで共締めします。

1ARADBOAP009A

1ARADBOAP010A

◆閉じかた

開きかたと逆の手順でレバーガイドシートを降ろします。

重　要

＊ レバーガイドシートはコードバンドで必ず固定してください。

■カッタ部の開閉

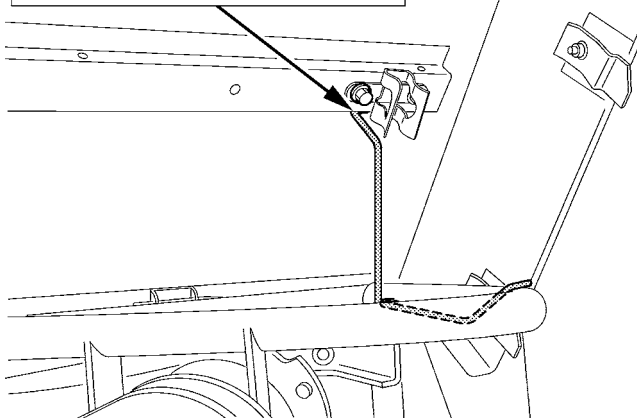
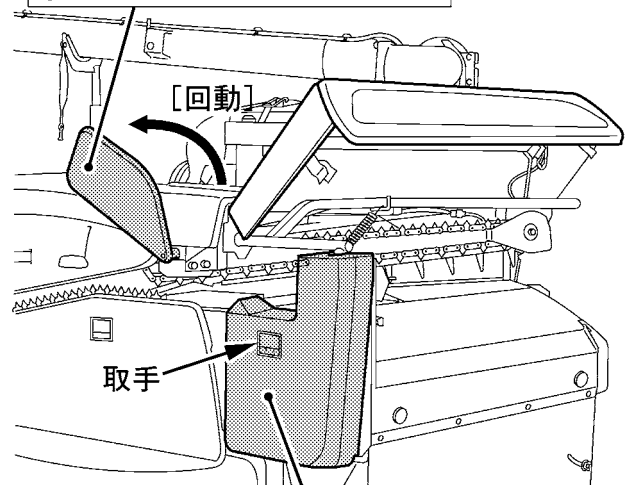
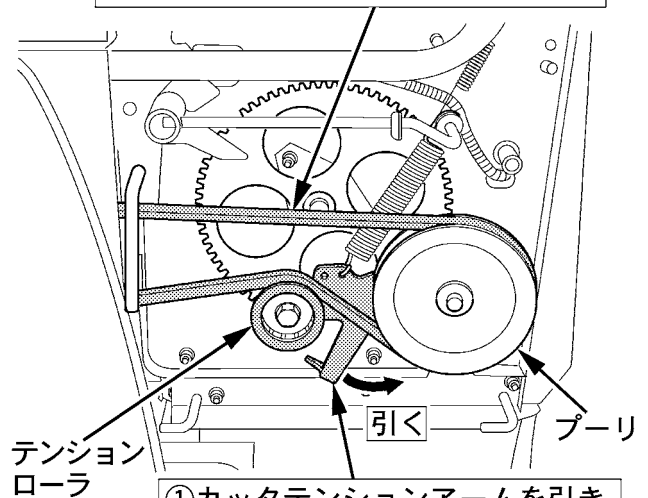
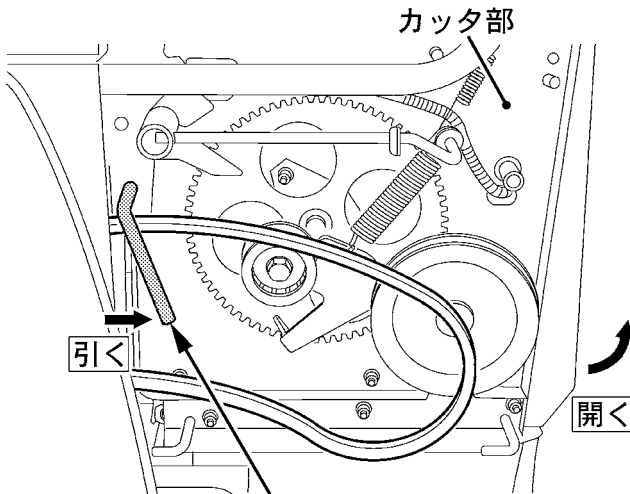
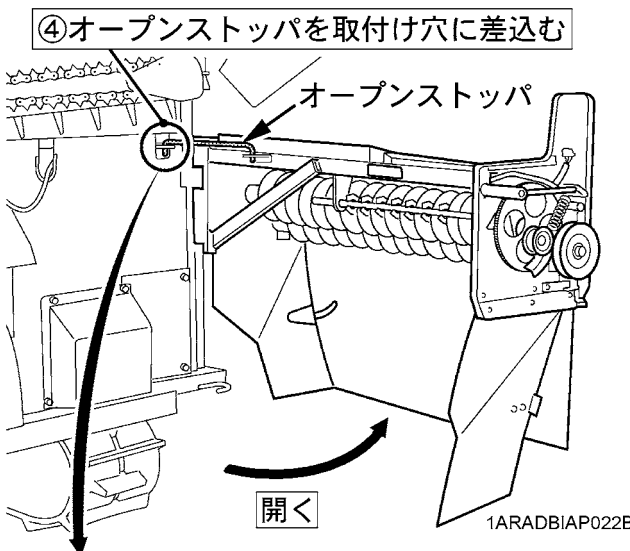
警　告

＊ カッタ部を開いているときは，カッタの刃先に注意してください。
＊ 平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ カッタ部を開いた状態で走行をしないでください。
＊ カッタ部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
＊ 取外したカバー類は，必ず取付けてください。

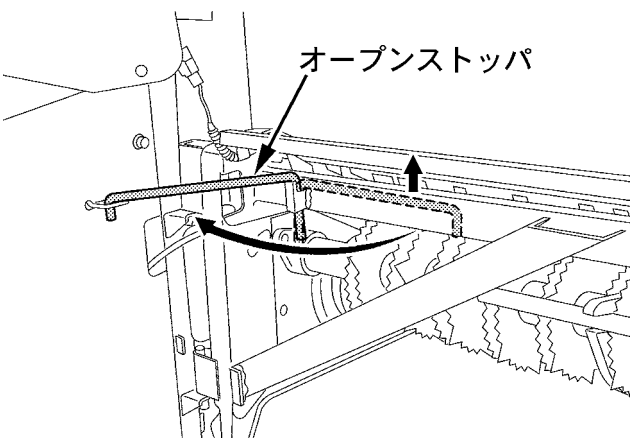
注　意

＊ 傾斜地では，カッタ部の開閉をしないでください。
＊ カッタ部を開いて掃除をするときは，ステーで必ず固定してください。
＊ 厚手の手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。

◆開きかた

1．上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。

2．取手を引いてカッタ左サイドカバーを外します。

3．カッタ部を開きます。

③オープンフックを引きながらカッタ部を開く

1ARADBIAP082A

④オープンストッパを取付け穴に差込む

1ARADBIAP022B

1ARADAFAP096A

重　要

＊ カッタ部を開きすぎないでください。開きすぎると，破損の原因となります。

◆閉じかた

開き方と逆の手順で閉じます。

重　要

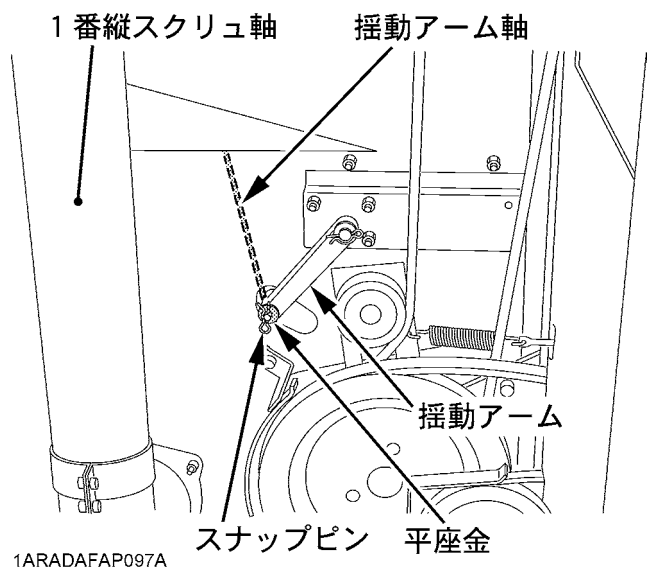
＊ カッタ部を閉じたあとは，オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。
＊ ベルトはオープンフックの下側を通してください。掛け間違えると破損の原因となります。

■シーブケースの脱着

注　意

＊ **平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
＊ **脱着作業は，合図を掛け合って 2 人以上で行なってください。**
＊ **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

◆ 抜出しかた

1. こぎ胴を開きます。（76 ページ参照）
2. 左サイドカバー上，下及びカッタ左サイドカバーを取外します。
3. 揺動アーム軸を抜く準備をします。
   (1) グレンタンクを開きます。
   （90 ページ参照）
   (2) １番縦スクリュ軸前方にある，揺動アーム軸のスナップピンと平座金を取外します。

1ARADAFAP097A

補　足

＊ 揺動アーム軸を後の工程で取外すとき，固くて引抜きにくい場合がありますので，そのときは，揺動アームを取外すと，揺動アーム軸が引抜きやすくなります。

(3) グレンタンクを閉じます。

4. カッタを開きます。(77 ページ参照)
5. シーブケースを引出す準備をします。

②ボルトを外して排じんプレートと側板つなぎステーを取外す
シーブケース
排じんプレート
ボルト
側板つなぎステー
ボルト
①シール５をシーブケース上にめくり上げる

1ARADBIAP021B

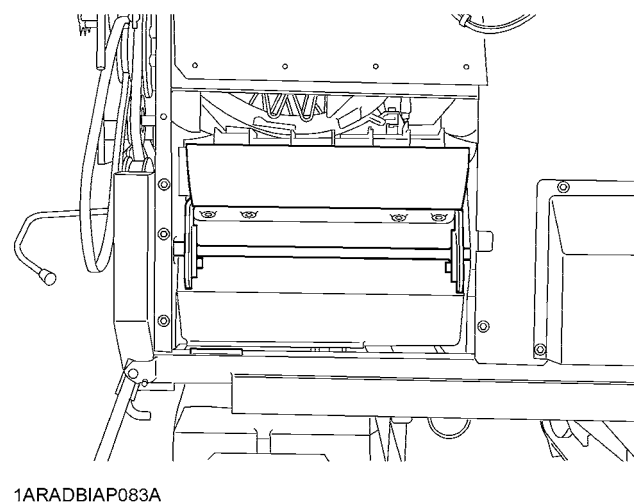
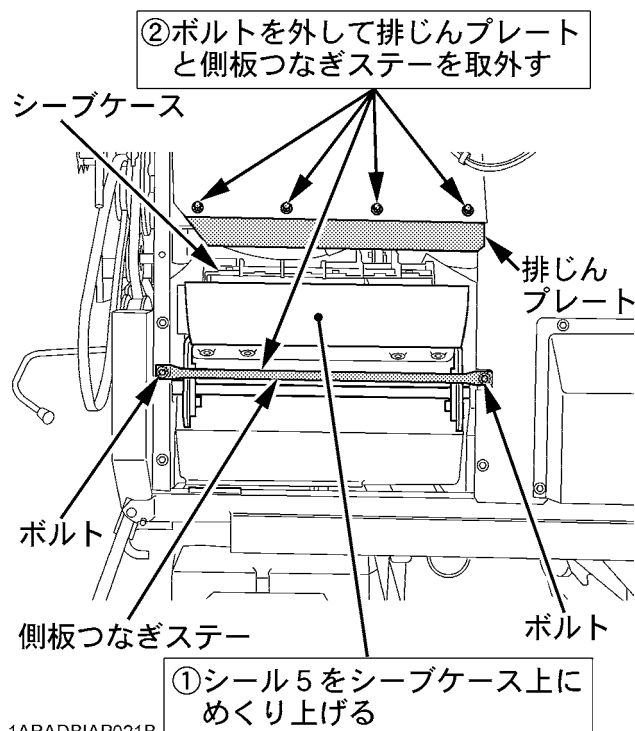
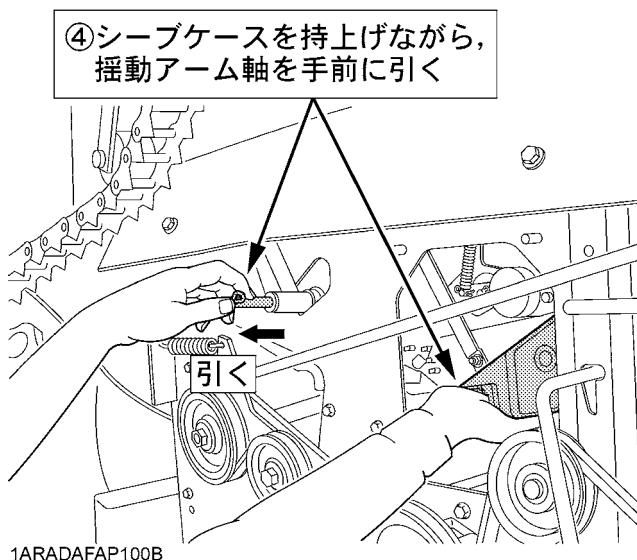
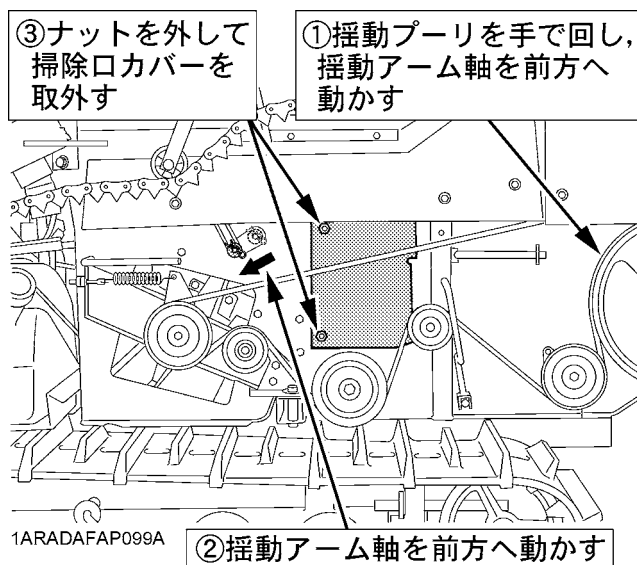
1ARADBIAP083A

6. 揺動アーム軸を手前側に引抜きます。

③ナットを外して掃除口カバーを取外す
①揺動プーリを手で回し，揺動アーム軸を前方へ動かす
②揺動アーム軸を前方へ動かす

1ARADAFAP099A

④シーブケースを持上げながら，揺動アーム軸を手前に引く
引く

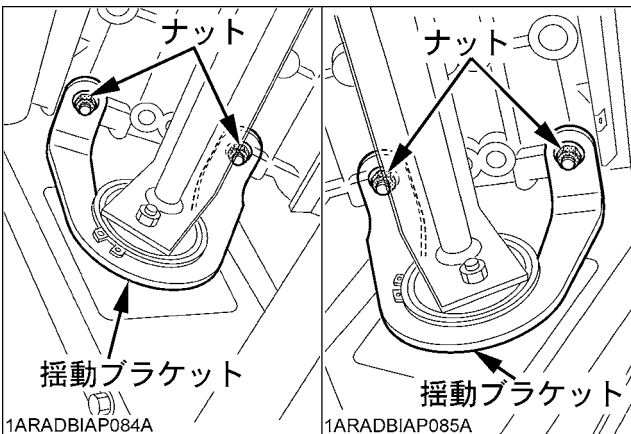
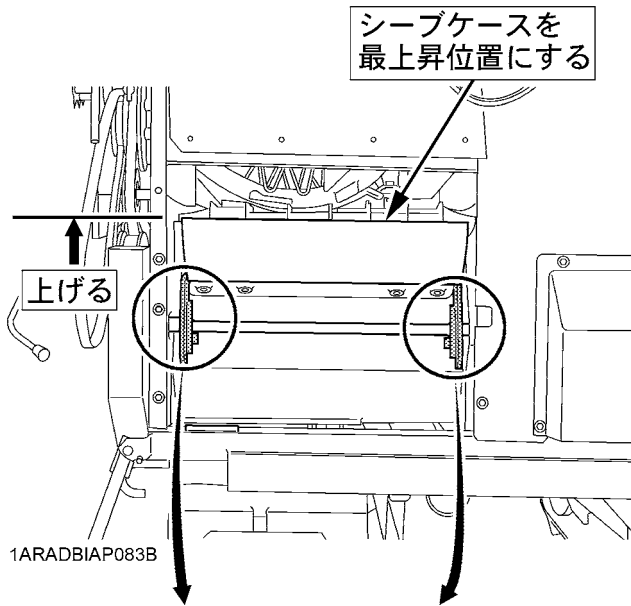
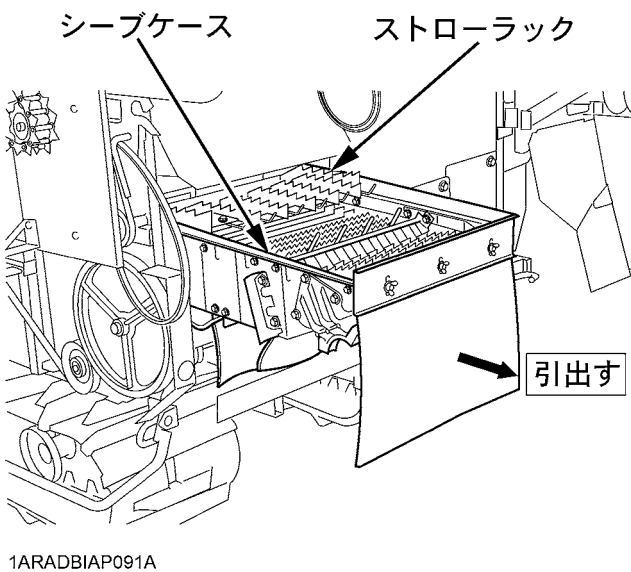
1ARADAFAP100B

7. こぎ胴を回してシーブケースを**最上昇**位置にします。
8. ナットを取外して左，右の揺動ブラケットを外します。

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

シーブケースを最上昇位置にする
上げる
1ARADBIAP083B

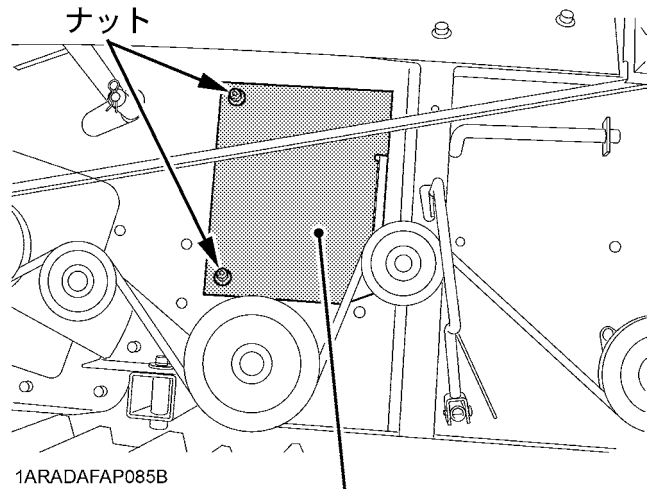
ナット
揺動ブラケット
1ARADBIAP084A

ナット
揺動ブラケット
1ARADBIAP085A

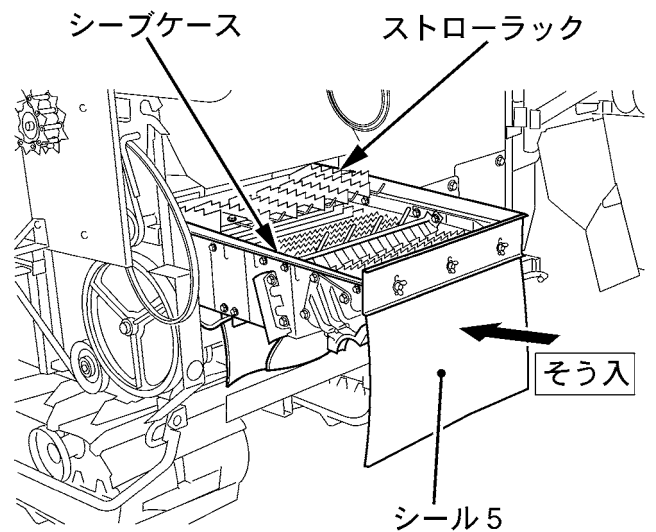
9. シーブケースを引出します。

シーブケース
ストローラック
引出す
1ARADBIAP091A

補 足

＊ ストローラックの引掛かりに注意してください。

◆ **取付けかた**

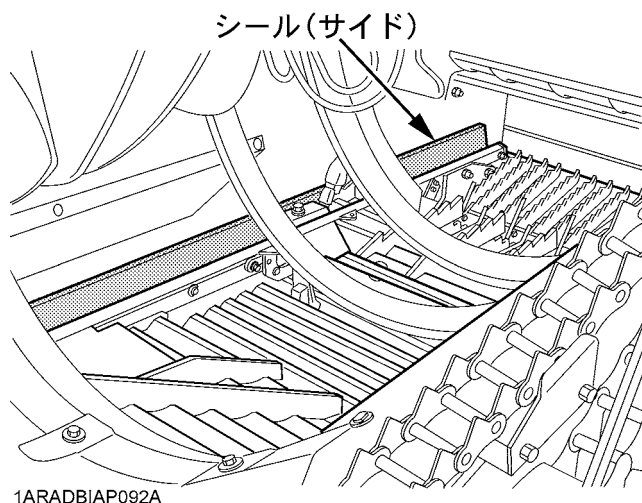
1. ナットを取外して１番スクリュ上部左掃除口カバーを取外します。

ナット
1ARADAFAP085B
１番スクリュ上部左掃除口カバー

2. シーブケース後部のシール５をシーブケース上にめくり上げます。
3. シーブケースをそう入します。

シーブケース
ストローラック
そう入
シール５
1ARADBIAP091B

重 要

＊ ストローラックの引掛かりに注意してください。
＊ そう入途中で，大きく上下動させないでください。
＊ そう入したあとこぎ胴を開いて，受あみを外し，シーブケースのシール（サイド）左，右が下側に折曲がっているときは，シール（サイド）左，右の先端が上側になるようにしてください。

シール（サイド）

1ARADBIAP092A

4. こぎ胴を回してシーブケースを**最上昇**位置にします。
5. 左，右の揺動ブラケットの組付け方向を合わせてナットを締付けます。

シーブケースを最上昇位置にする
上げる

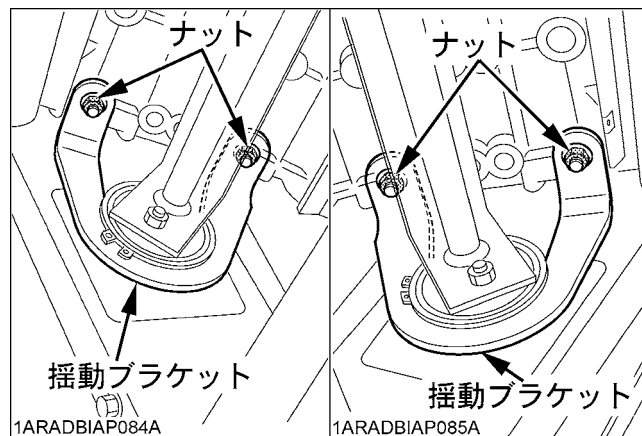
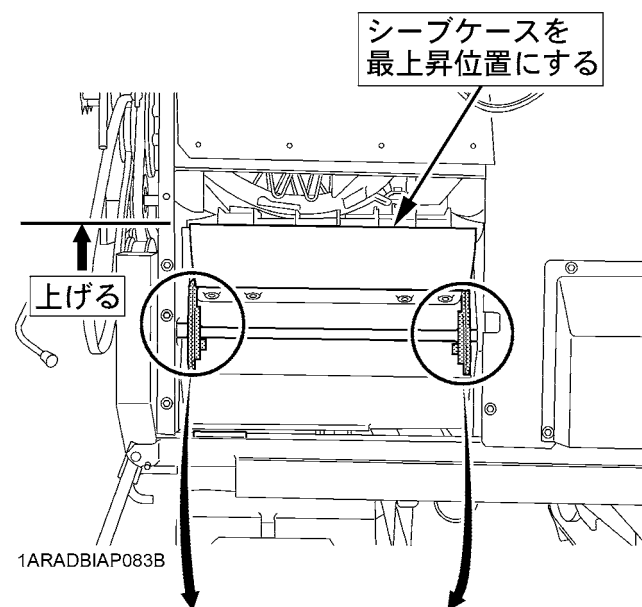
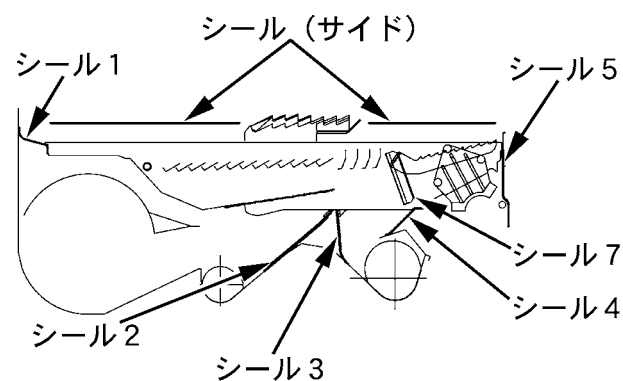
1ARADBIAP083B

ナット
揺動ブラケット
1ARADBIAP084A

ナット
揺動ブラケット
1ARADBIAP085A

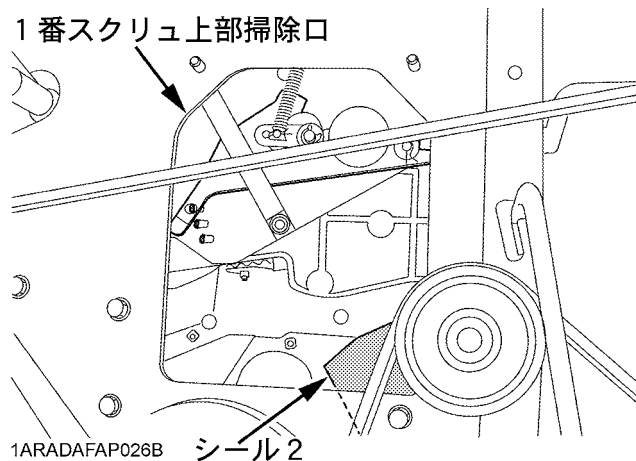
6. シール各部を下図のようにセットします。

シール（サイド）
シール1
シール5
シール7
シール4
シール2
シール3

1ARADAFAP241A

補 足

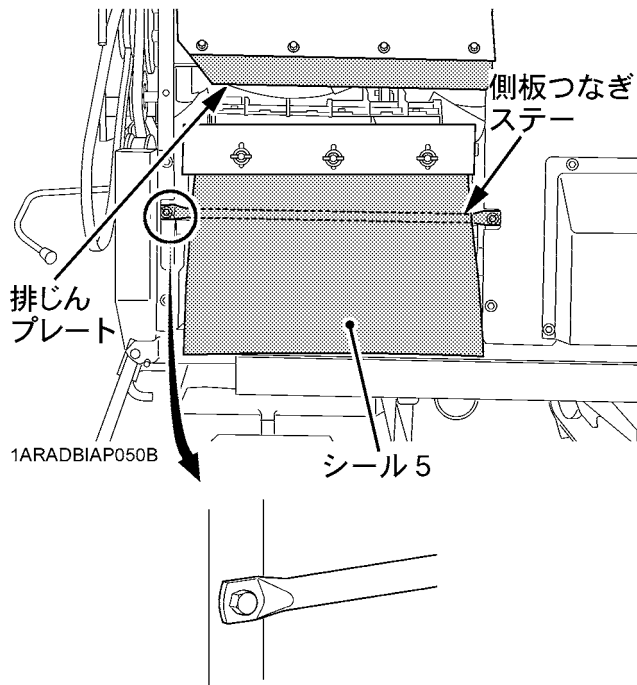
＊ シール 2 は，1 番スクリュ上部掃除口カバーを取外したあと，1 番スクリュ上部掃除口より手を入れて下図のようにセットします。

1番スクリュ上部掃除口

1ARADAFAP026B シール2

7. 1 番縦スクリュ上部掃除口カバーを取付けます。
8. 揺動アーム軸を揺動アームに通して取付けたあと，平座金とスナップピンを取付けます。

9. 排じんプレート及び側板つなぎステーを取付けたあと，シール 5 をセットし，カッタ部を閉じます。
10. 左サイドカバー上・下及びカッタ左サイドカバーを取付けます。

側板つなぎステー
排じんプレート
シール 5
1ARADBIAP050B

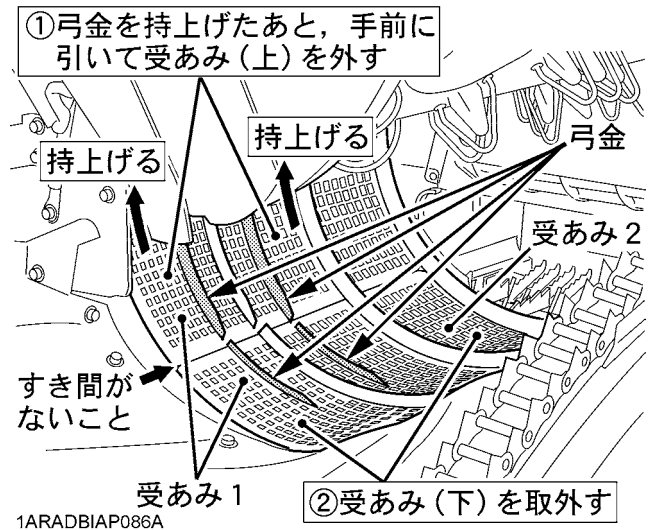
1AKADAFAP470A

補　足

＊ 側板つなぎステーを取付けるときは，取付方向に注意してください。

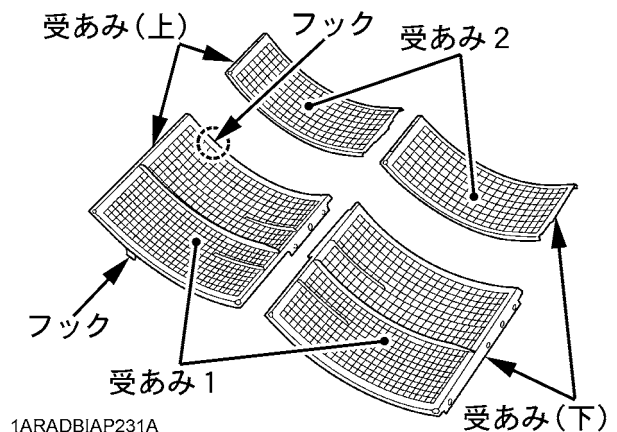
11. こぎ胴を閉じます。

■受あみの脱着

1. こぎ胴を開きます。
2. 受あみ１，２の各（上），（下）を取外します。
3. 逆の手順で受あみ（下）を取付け，受あみ（上）をそれぞれ取付けます。

①弓金を持上げたあと，手前に引いて受あみ（上）を外す
持上げる
持上げる
弓金
受あみ２
すき間がないこと
受あみ１
②受あみ（下）を取外す
1ARADBIAP086A

重　要

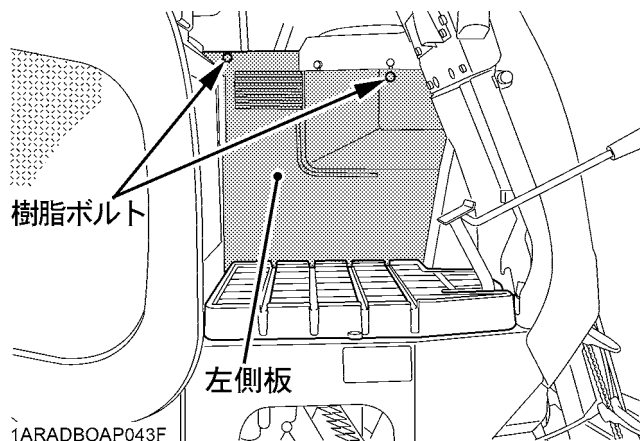
＊ 取付けたときに受あみ（上），（下）の間にすき間があったり，受あみ（上），（下）を逆に組付けると，脱こく部の故障の原因となります。
＊ 受あみが確実に取付いていることを確認してください。
＊ 受あみ（上），（下）それぞれ２種類あります。受あみ（上）にはフックがあります。

受あみ（上）
フック
受あみ２
フック
受あみ１
受あみ（下）
1ARADBIAP231A

4. こぎ胴を閉じます。

■運転席左側板の脱着

◆ 取外しかた

樹脂ボルト２本を取外して，左側板を取外します。

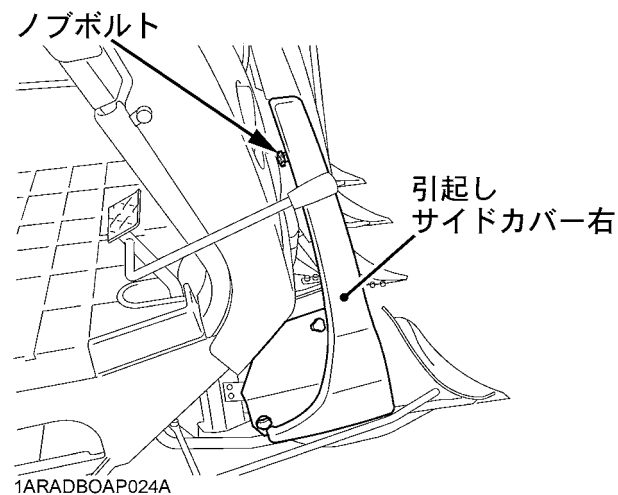
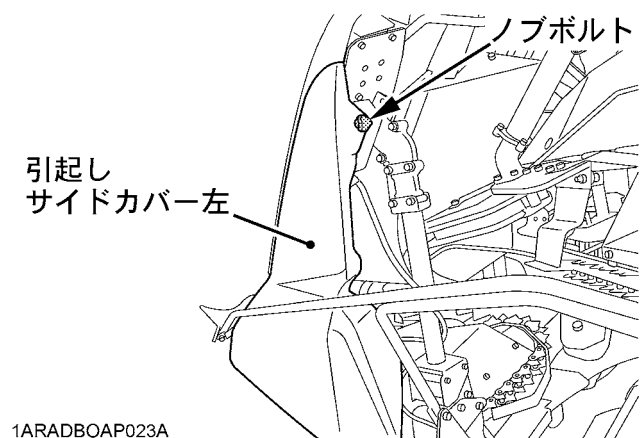
1ARADBOAP043F

■引起しサイドカバー右・左の脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

◆取外しかた

ノブボルトをゆるめて取外します。

1ARADBOAP023A

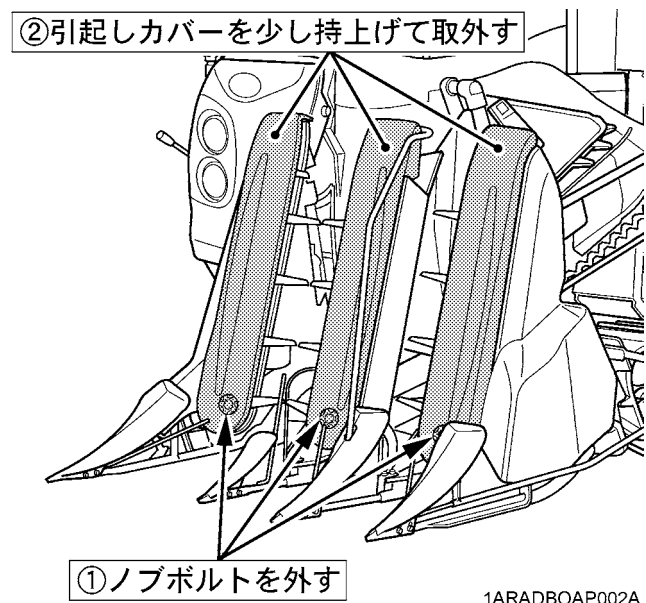
1ARADBOAP024A

◆ 取付けかた

引起しサイドカバー側に出ている引起し爪を全て上側に倒したあと，カバーを取付けます。

■引起しカバーの脱着

刈取部を地面まで降ろして行なってください。

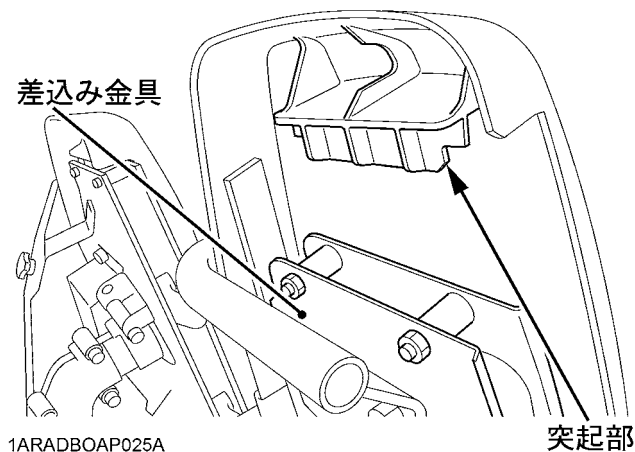
◆取外しかた

ノブボルトを外したあと，引起しカバーを少し持上げて取外します。

1ARADBOAP002A

◆取付けかた

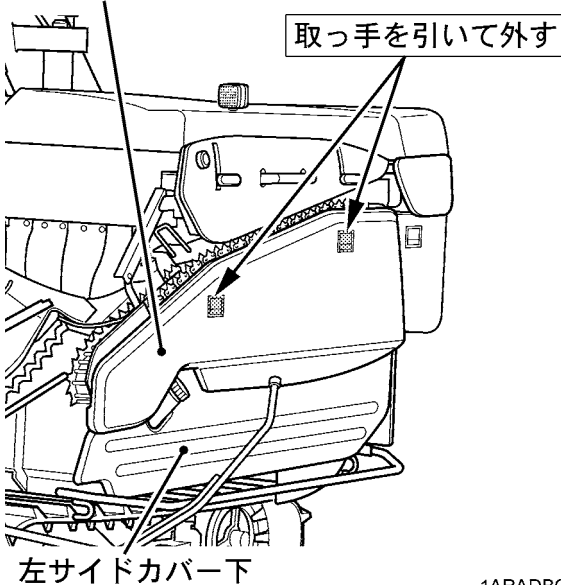
引起しカバーを取付けてノブボルトを締付けてロックします。

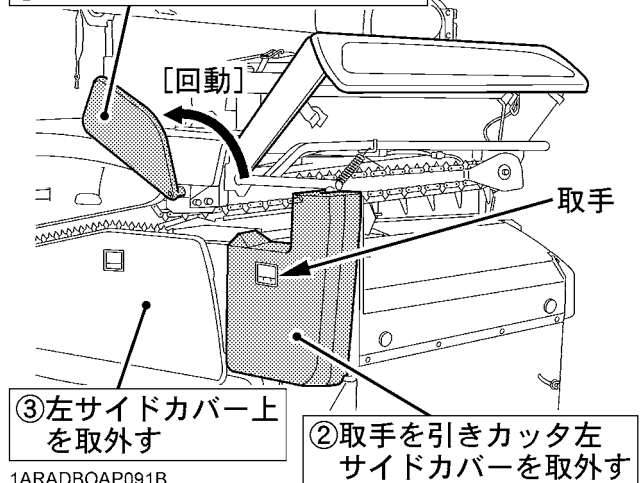
補　足

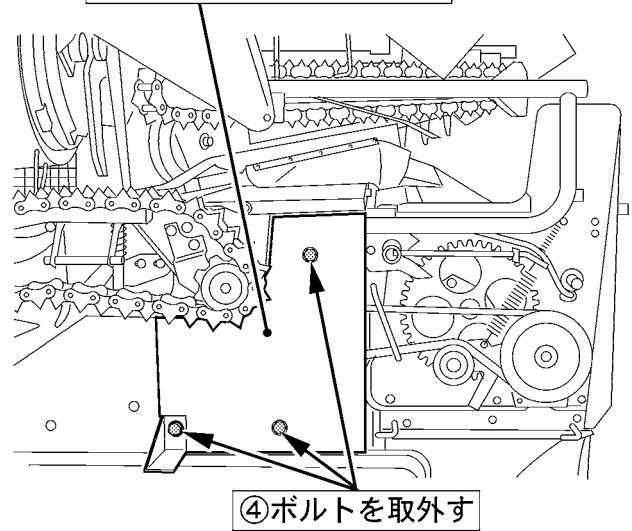
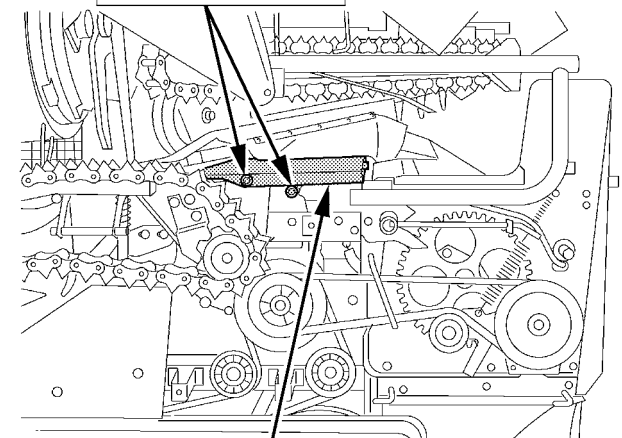
＊ 引起しカバーを取付けるとき，上部にある差込み金具に引起しカバーの突起部を差込んでください。

1ARADBOAP025A

■左サイドカバー及びカッタ左サイドカバーの脱着

◆ 取外しかた

● **左サイドカバー上，下**

左サイドカバー上
取っ手を引いて外す
左サイドカバー下
1ARADBOAP003C

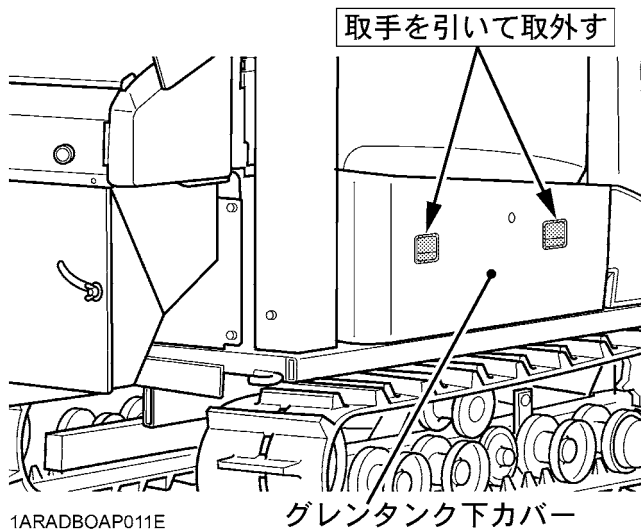
● **カッタ左サイドカバー**
● **左サイドカバー内１・内２**

①カッタ回動カバーを回動する
［回動］
取手
③左サイドカバー上を取外す
②取手を引きカッタ左サイドカバーを取外す
1ARADBOAP091B

⑤サイドカバー内１を外す
④ボルトを取外す
1ARADBIAP089A

⑥ボルトを取外す
⑦サイドカバー内２を取外す
1ARADBIAP090A

◆ 取付けかた

取外しかたの逆の手順で取付けてください。

■グレンタンク下カバーの脱着

◆ 取外しかた

取手を引いて取外す
グレンタンク下カバー
1ARADBOAP011E

◆ 取付けかた

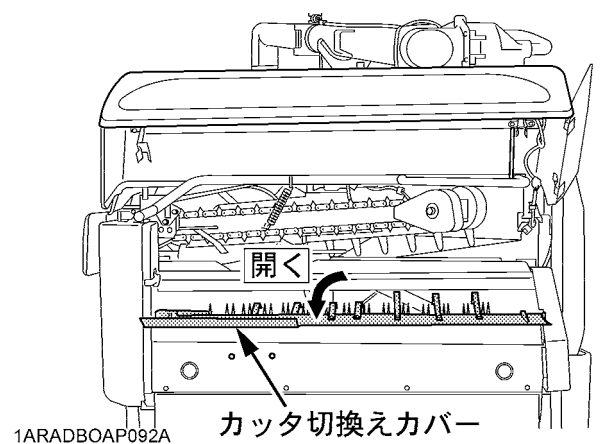
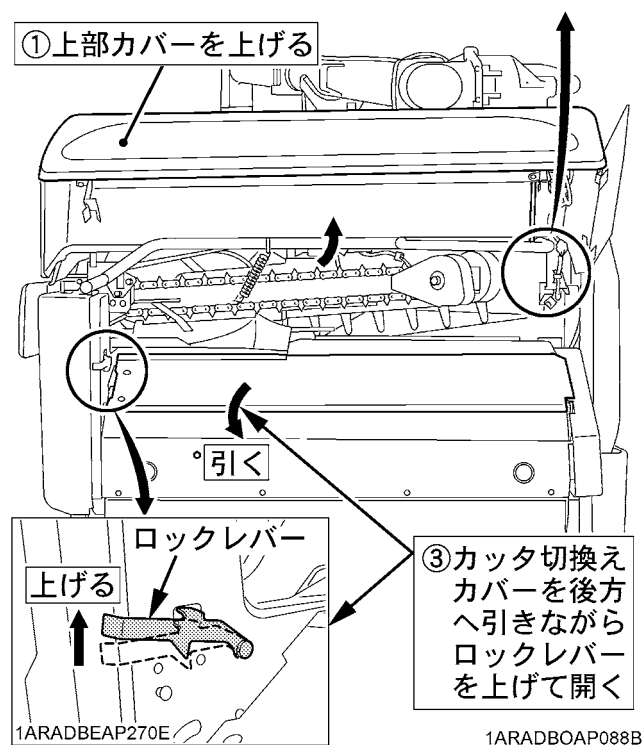
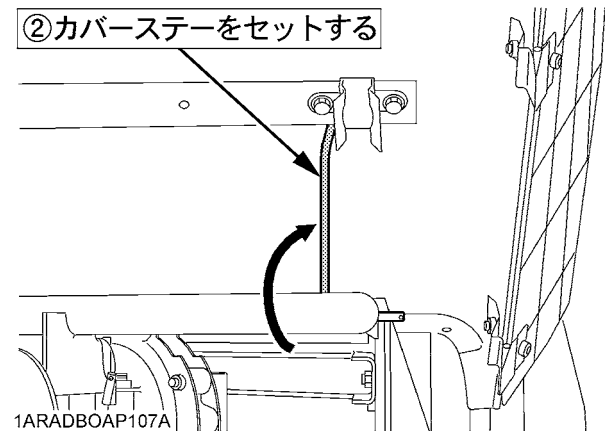
取外しかたの逆の手順で取付けてください。

■カッタ切換えカバーの開閉

◆ 開きかた

②カバーステーをセットする
1ARADBOAP107A

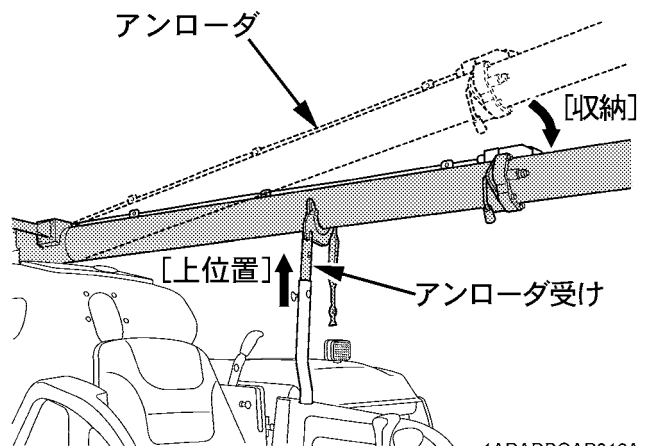
①上部カバーを上げる
引く
ロックレバー
上げる
1ARADBEAP270E
③カッタ切換えカバーを後方へ引きながらロックレバーを上げて開く
1ARADBOAP088B

開く
カッタ切換えカバー
1ARADBOAP092A

◆ **閉じかた**
カッタ切換えカバーを前方に倒して閉じてください。

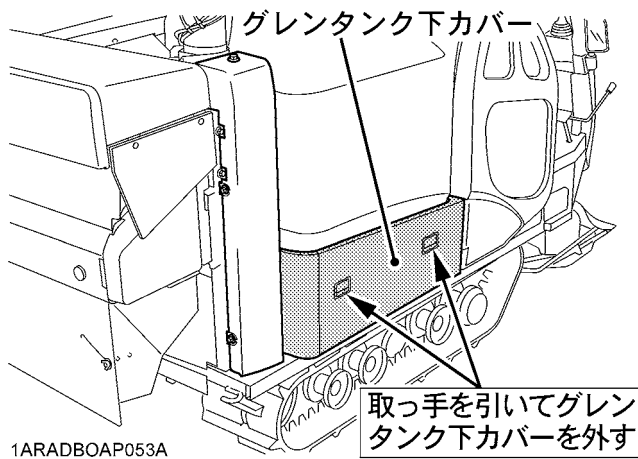
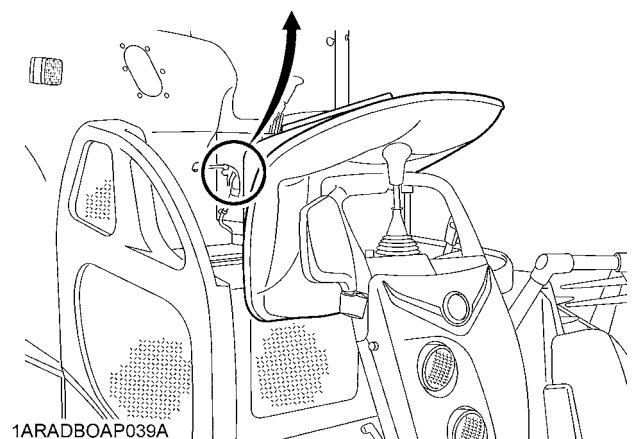
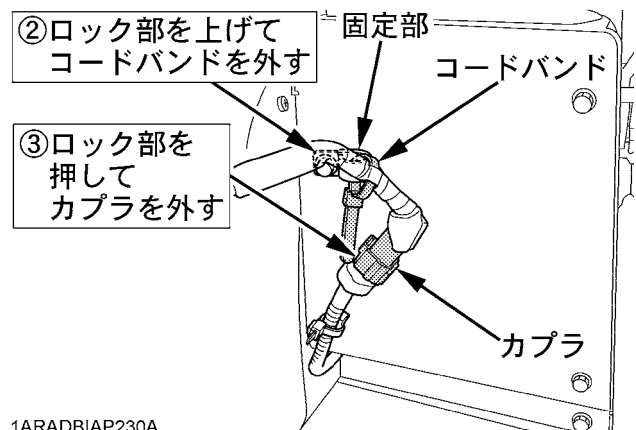
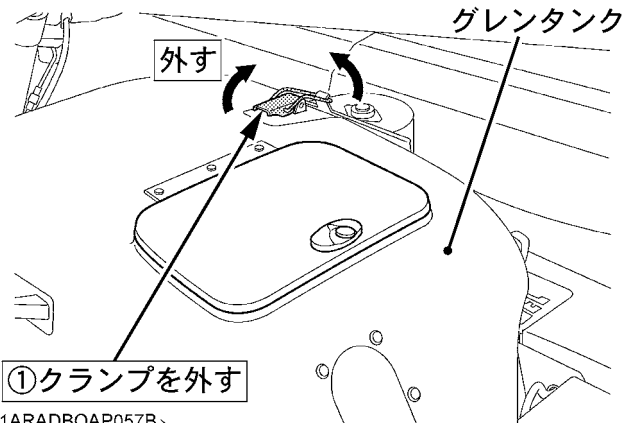
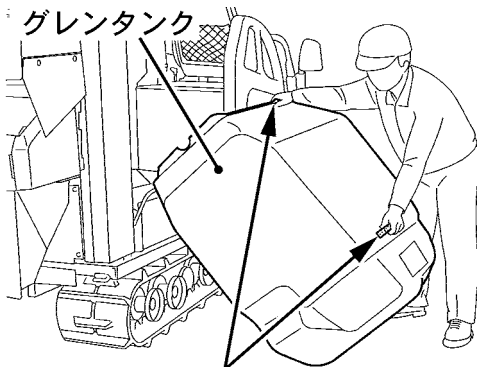
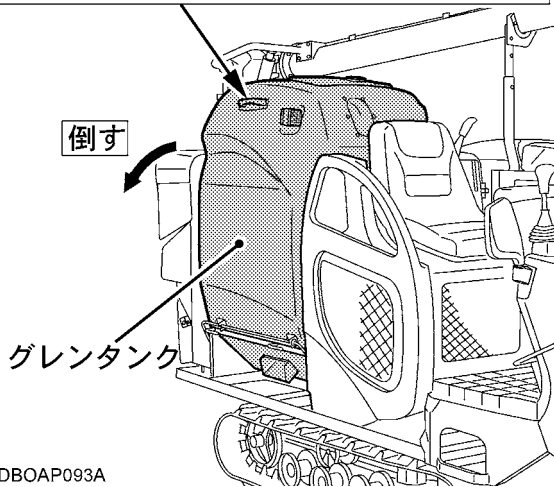
補　足
＊ カッタ切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても作業スイッチを［入］にするとエンジンが止まります。点検・掃除後は，必ずカッタ切換えカバーを閉じてください。

■グレンタンクの脱着

警　告
＊ **平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
＊ **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

◆ **取外しかた**
1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。(61 ページ参照)
2. 主変速レバーを **［N］（中立）** 位置，副変速レバーを **［N］（中立）** 位置にし，作業スイッチを **［切］（消灯）**，もみ排出クラッチレバーを **［切］** 位置にします。
3. アンローダ受けを上位置にして，アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。

重　要
＊ グレンタンクの脱着を行なうときは，アンローダを必ず収納位置にしてください。

4. グレンタンク下カバーを外します。

グレンタンク下カバー
取っ手を引いてグレンタンク下カバーを外す
1ARADBOAP053A

5. グレンタンクのクランプを外したあと，カプラを外します。
   (1) ロック部を上げて固定部からコードバンドを外します。
   (2) ロック部を押して，カプラを外します。
6. グレンタンクの取手を持ち，タンクを手前に引きながら持上げて取外します。

グレンタンク
外す
①クランプを外す
1ARADBOAP057B

②ロック部を上げてコードバンドを外す
固定部
コードバンド
③ロック部を押してカプラを外す
カプラ
1ARADBIAP230A

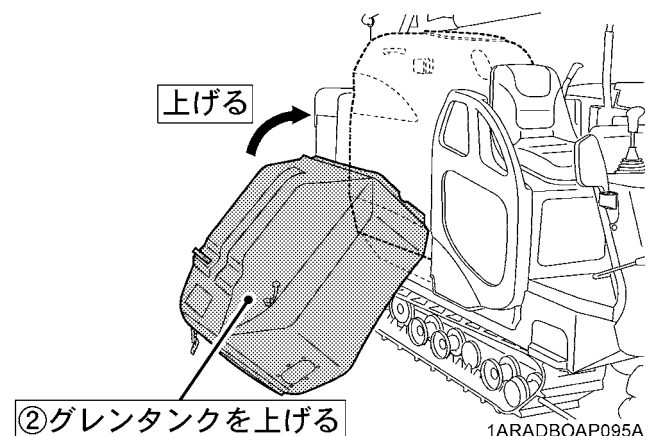
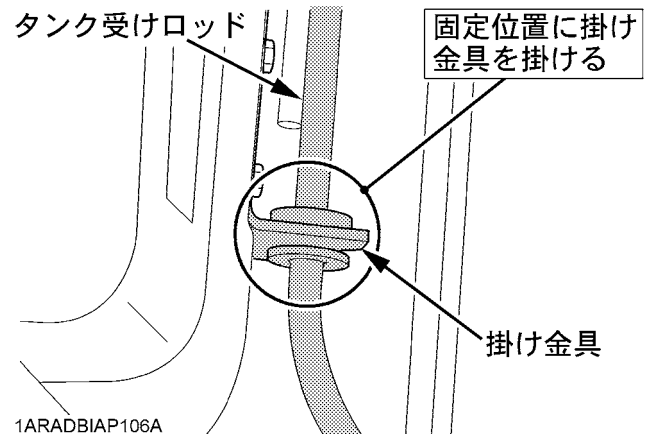
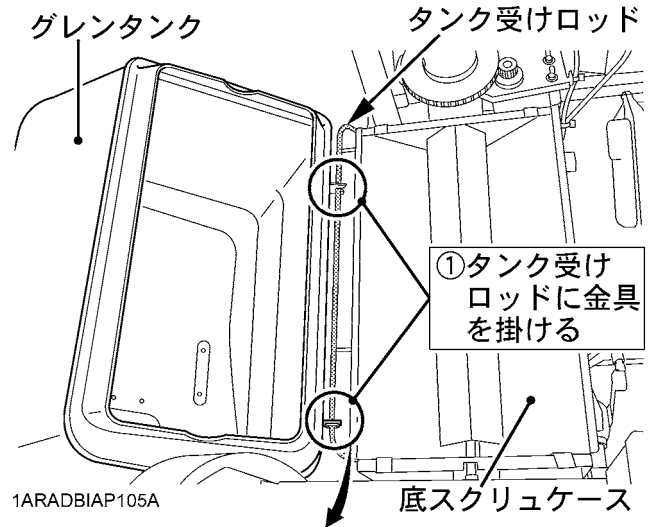
1ARADBOAP039A

7. グレンタンクを取外します。

重　要

＊ グレンタンクを開いた状態でグレンタンクの脱着はしないでください。グレンタンクを落として破損するなどトラブルの原因となります。

◆ 取付けかた

1. グレンタンクを底スクリュケースに乗せます。

2. クランプをしたあと，カプラを接続し固定部にコードバンドを共締めします。

重　要

＊ タンクは確実に取付けてください。

3. グレンタンク下カバーを取付けます。

■グレンタンクの開閉

注 意

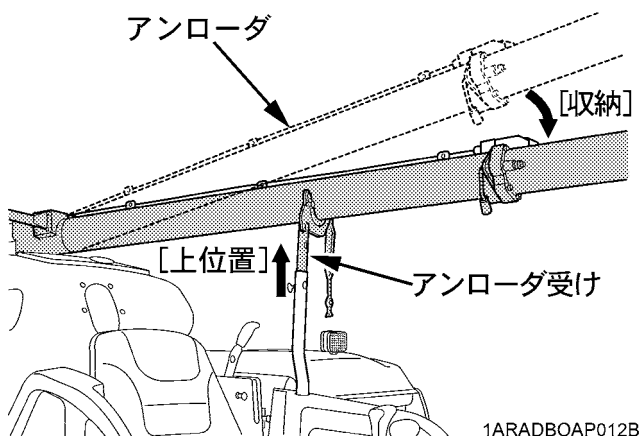
- ＊ **平たんで安全な場所で，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- ＊ **グレンタンクを開いた状態で走行しないでください。**
- ＊ **グレンタンク開閉範囲内に人がいないことを確認してください。**
- ＊ **傾斜地では，グレンタンクの開閉を行なわないでください。**
- ＊ **取外したカバー類は，必ず取付けてください。**

重 要

＊ カッタ部が開いているときは，グレンタンクを開けないでください。グレンタンク後部カバーと接触し，破損するおそれがあります。

◆開きかた

1. グレンタンク内に残っているもみは，すべて排出します。（61 ページ参照）
2. 主変速レバー **[N]（中立）** 位置，副変速レバーを **[N]（中立）** 位置にし，作業スイッチを **[切]（消灯）**，もみ排出クラッチレバーを **[切]** 位置にします。
3. アンローダをアンローダ受けに収納し，エンジンを停止します。

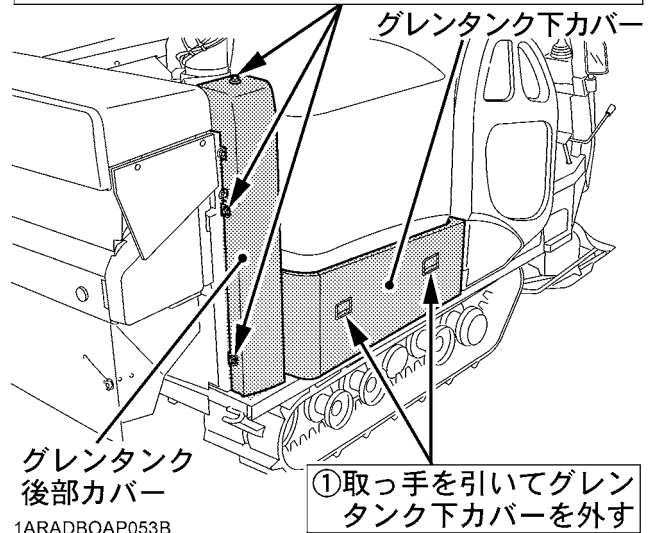
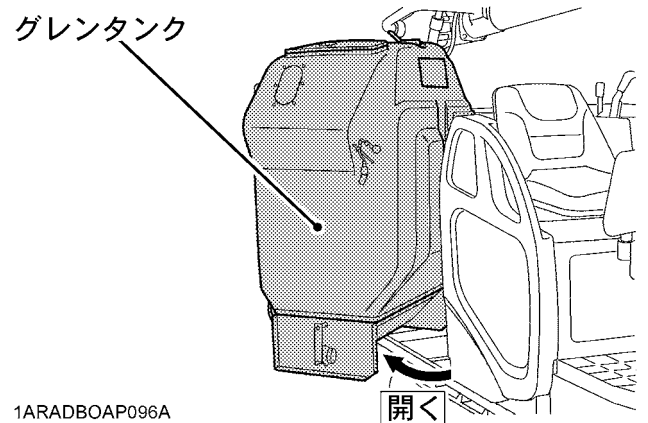
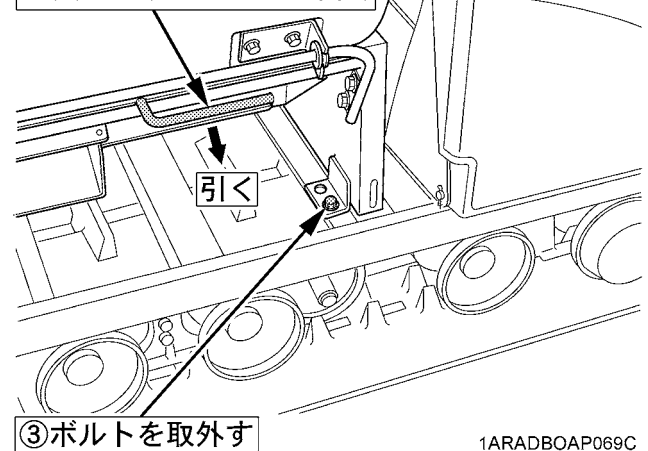
1ARADBOAP012B

重 要

＊ グレンタンクの開閉を行なうときは，アンローダを必ず収納位置にしてください。

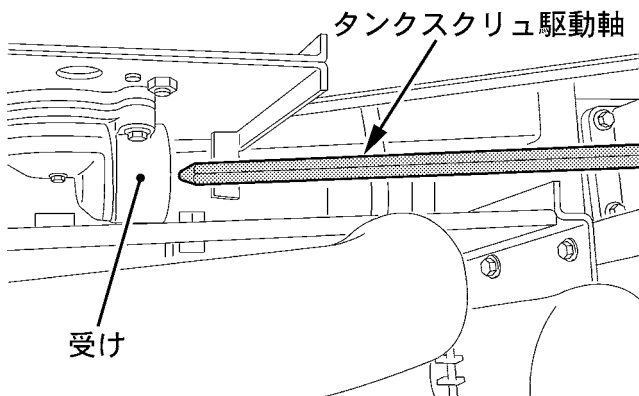
4. カプラを外します。（87 ページ参照）
5. グレンタンクのクランプを外します。（87 ページ参照）
6. グレンタンクを開きます。

1ARADBOAP053B

1ARADBOAP069C

1ARADBOAP096A

◆**閉じかた**
開きかたと逆の手順で閉じます。

重　要

＊ グレンタンクを固定するボルトは確実に締付けてください。
＊ タンクスクリュ駆動軸が受けに入らないときは，エンジンルームを開き，タンクスクリュ駆動軸を手で回しながら，グレンタンクを押して軸を受けに差込んでください。

タンクスクリュ駆動軸
受け
1ARADAFAP211A

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

警　告

＊ エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
＊ 取外したり，開いた回転部のカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。

注　意

＊ 刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ 空運転するときには必ずこぎ胴をセットして，カッタを閉じてください。
＊ オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。（クローラなどのゴム製品が劣化します。）
＊ バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
＊ 刈刃やカッタの掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。

重　要

＊ 水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。
＊ 掃除口を閉じるときは，掃除口にもみの付着がないことを確めてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを取付け忘れるともみが飛散します。
＊ 機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているともみが機内に付着して残留もみが多くなります。
＊ 湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてください。
＊ 取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。

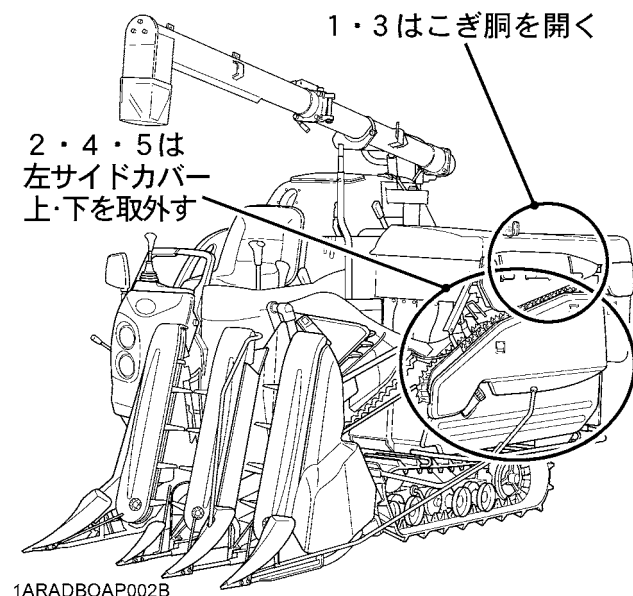
■各部の掃除

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いておきましょう。

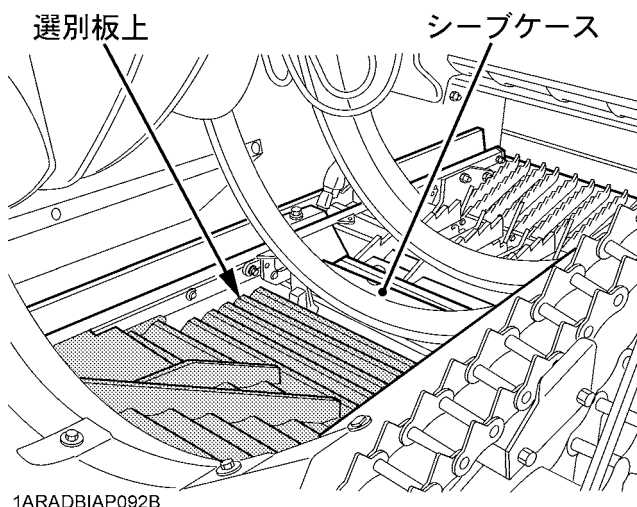
◆ 掃除のしかた

刈取り作業が終わり，もみの排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，作業スイッチを **[切]（消灯）** にしてエンジンを止め，機体各部を収納状態（33 ページ参照）にします。
掃除をするときには，各部の開閉部を開き，掃除口カバーを取外してください。

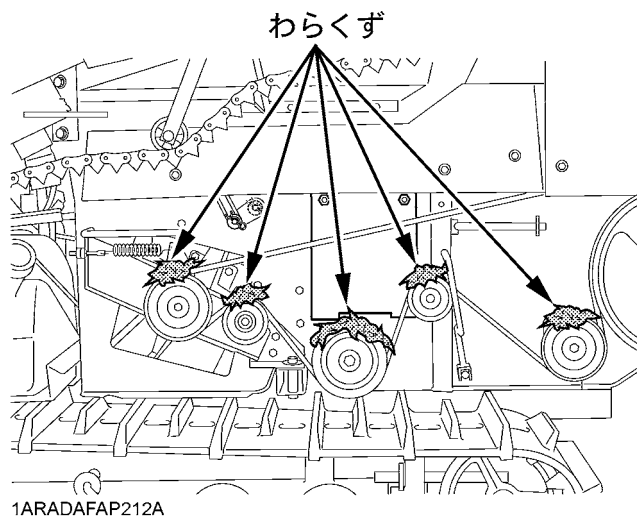
◆掃除箇所

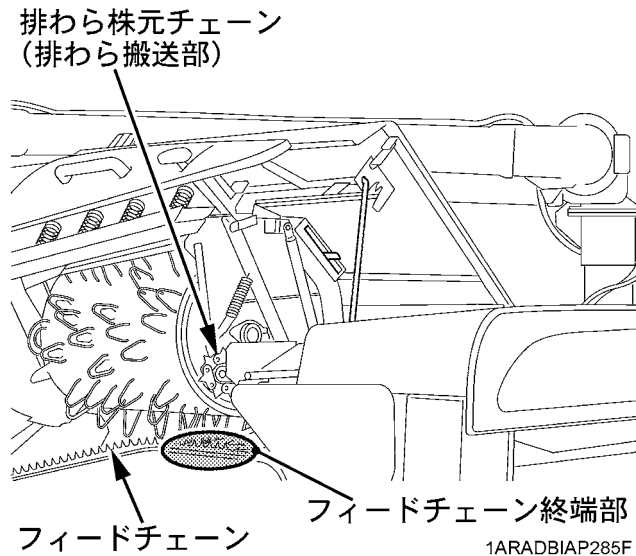
1ARADBOAP002B

1. 脱こく部内（シーブケース内選別板上）

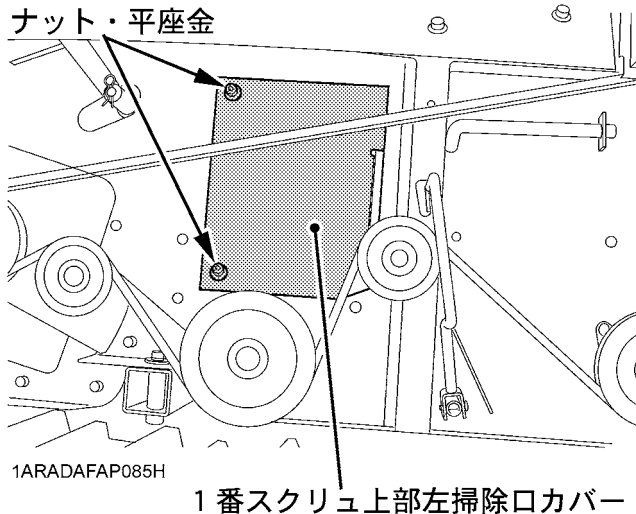
受あみ（上，下）を取外して掃除してください。掃除後は，受あみ（上，下）を取付け，こぎ胴を閉じてください。（83 ページ参照）

1ARADBIAP092B

2. ベルトカバー内

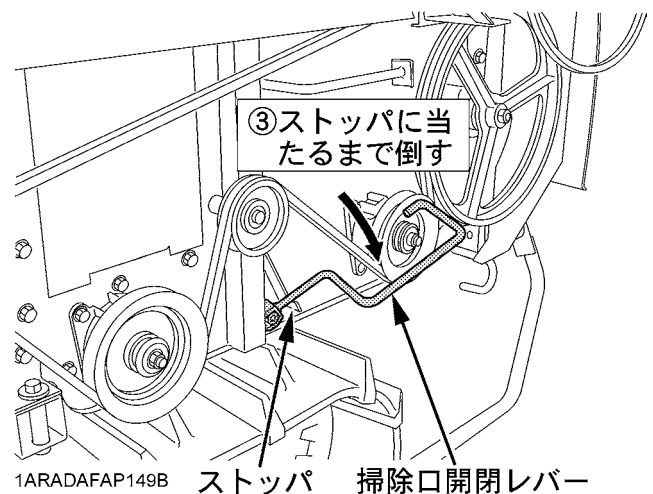
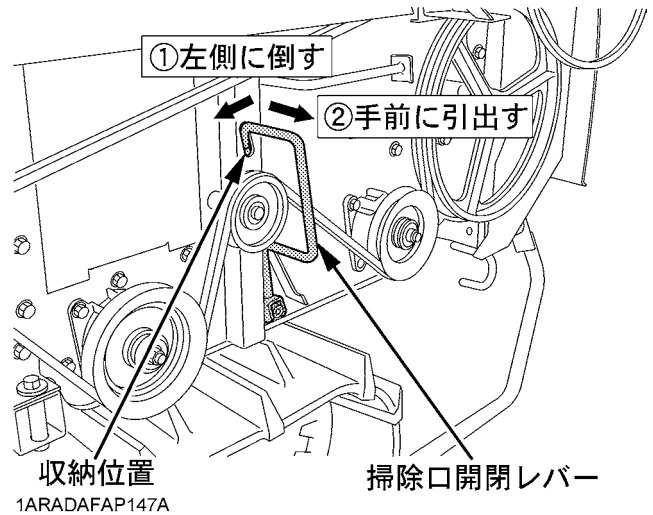
左サイドカバー上及び下とカッタ左サイドカバーを外したあと，左サイドカバーの内側カバー２箇所を取外して掃除してください。掃除後は，各カバーを取付けてください。（85 ページ参照）

1ARADAFAP212A

3. フィードチェーン終端部・排わら搬送部
自動エンジン停止装置がはたらいたとき**［わら詰まりのとき］**に掃除してください。掃除後は，こぎ胴を閉じてください。

排わら株元チェーン（排わら搬送部）
フィードチェーン終端部
フィードチェーン
1ARADBIAP285F

4. １番スクリュ上部左掃除口
ナット・平座金を外し，１番スクリュ上部左掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けてください。

ナット・平座金
1ARADAFAP085H
１番スクリュ上部左掃除口カバー

5. １・２番横スクリュ下部掃除口
掃除口開閉レバーを左側に倒して収納位置から手前に引出した後，右側に倒し，１・２番横スクリュ下部にある掃除口開閉カバーを開いてください。掃除後は，掃除口開閉レバーを収納位置に収納して各カバーを取付けてください。

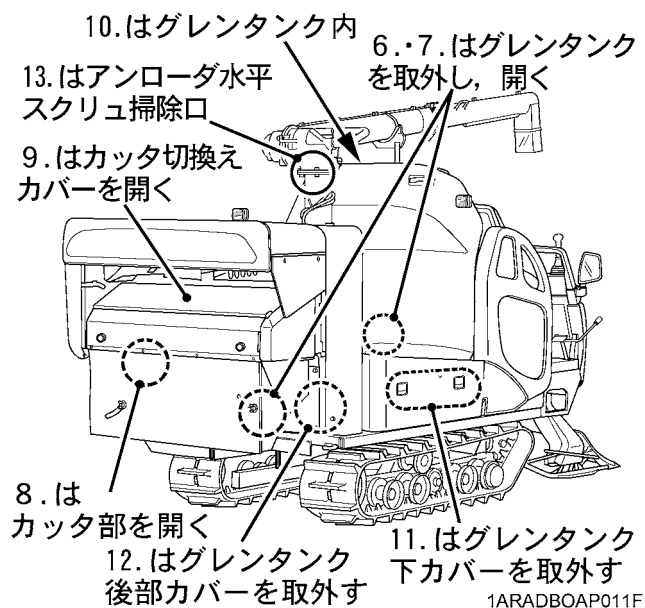
①左側に倒す
②手前に引出す
収納位置
掃除口開閉レバー
1ARADAFAP147A

③ストッパに当たるまで倒す
1ARADAFAP149B
ストッパ
掃除口開閉レバー

重　要

＊ 掃除口開閉レバーを使用しないときは，収納状態にしておいてください。走行中に掃除口開閉カバーが開いて破損するおそれがあります。

補　足

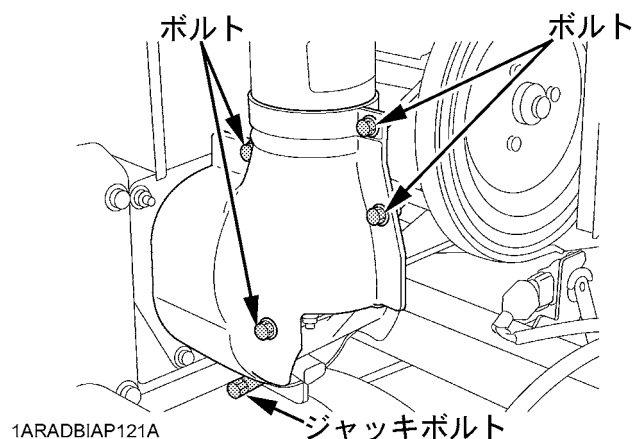
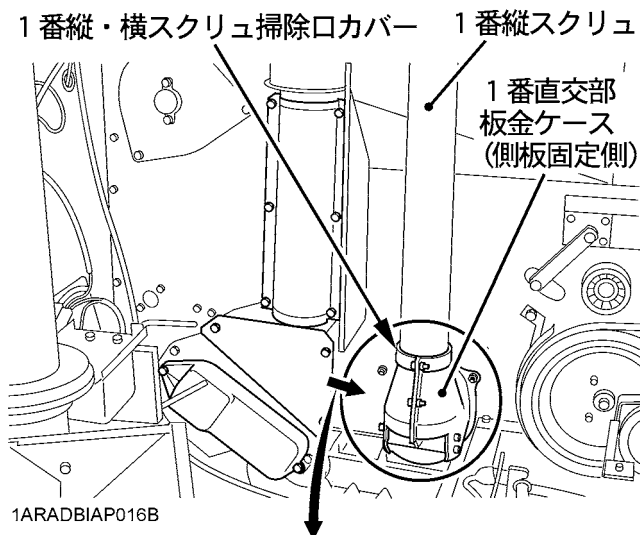
＊ クローラに付着している泥は取除いてください。掃除口開閉カバーに接触し，開閉しなくなります。

10.はグレンタンク内
6.・7.はグレンタンクを取外し，開く
13.はアンローダ水平スクリュ掃除口
9.はカッタ切換えカバーを開く
8.はカッタ部を開く
12.はグレンタンク後部カバーを取外す
11.はグレンタンク下カバーを取外す
1ARADBOAP011F

6. 1・2番スクリュ掃除口

● **1番縦・横スクリュ掃除口**

ボルトを外して，1番縦・横スクリュ掃除口の掃除口カバーを取外して掃除します。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンクを閉じてください。

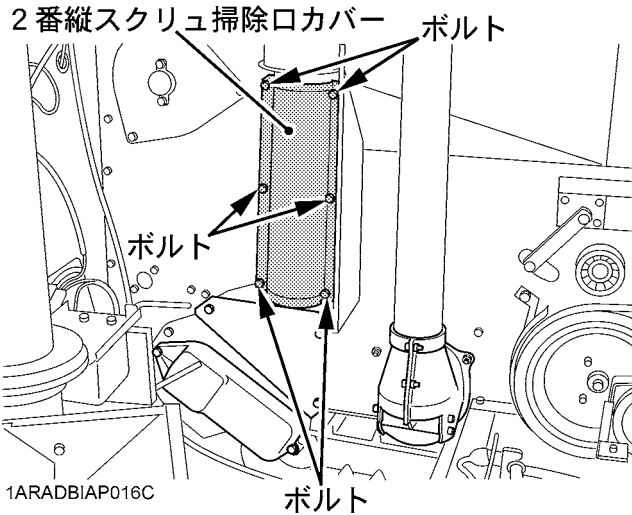
1番縦・横スクリュ掃除口カバー
1番縦スクリュ
1番直交部板金ケース（側板固定側）
1ARADBIAP016B

ボルト
ボルト
ジャッキボルト
1ARADBIAP121A

補　足

＊ 掃除口カバーを取付けるときは，ボルト4本とジャッキボルトで確実に取付けてください。1番直交部板金ケースと掃除口カバーの間にすき間があるともみ漏れの原因になります。

● **２番縦スクリュ掃除口**

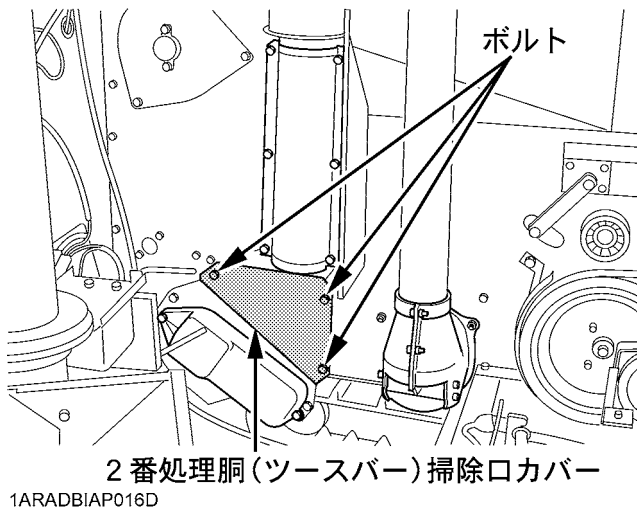
ボルトを外して２番縦スクリュ掃除口の掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付けグレンタンクを閉じてください。

２番縦スクリュ掃除口カバー　ボルト　ボルト　ボルト

1ARADBIAP016C

7.　２番処理胴（ツースバー）掃除口

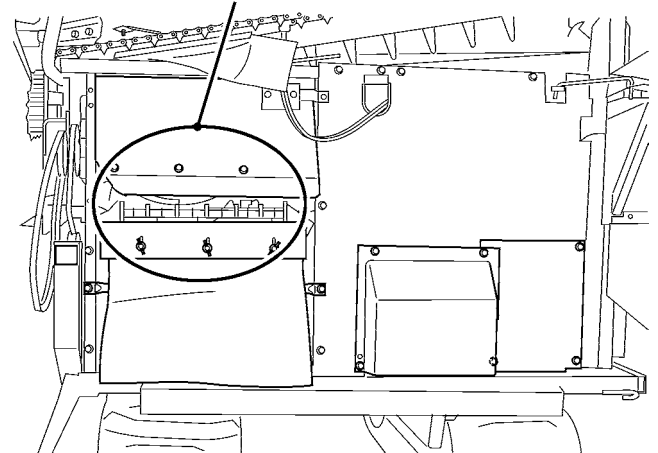
ボルトを取外したあと，掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンクを閉じてください。

ボルト

２番処理胴（ツースバー）掃除口カバー

1ARADBIAP016D

8.　シーブケース後部（３番出口）

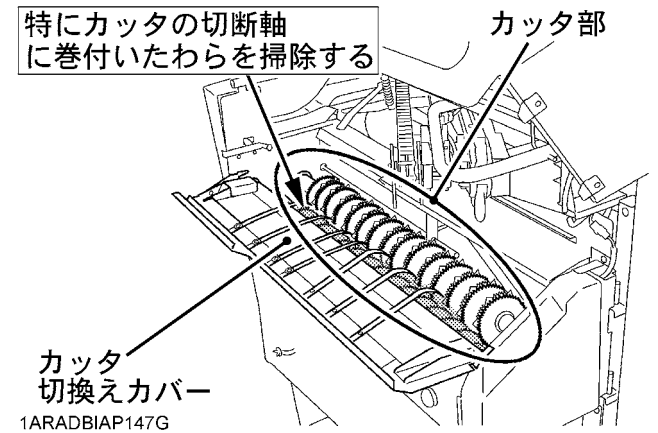
カッタ部を開いて掃除してください。掃除後は，カッタ部を閉じてください。

シーブケース後部（３番出口）

1ARADBIAP018B

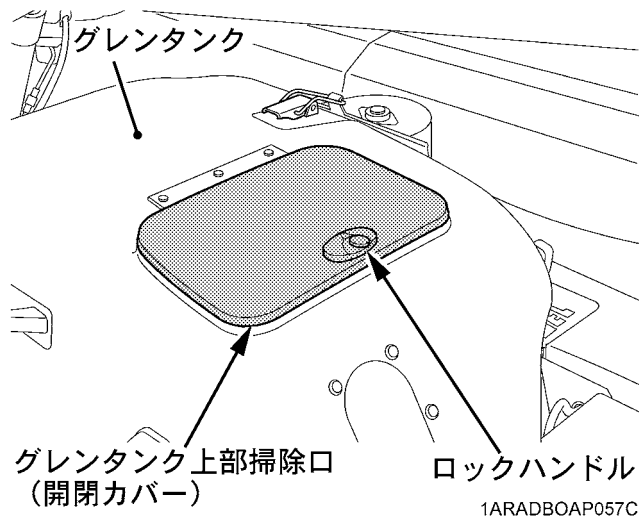
9.　カッタ部内

カッタ切換えカバーを開いて掃除してください。掃除するときは，特にカッタの切断軸に巻付いたわらは全て取除いてください。掃除後は，カッタ切換えカバーを閉じてください。

特にカッタの切断軸に巻付いたわらを掃除する　カッタ部

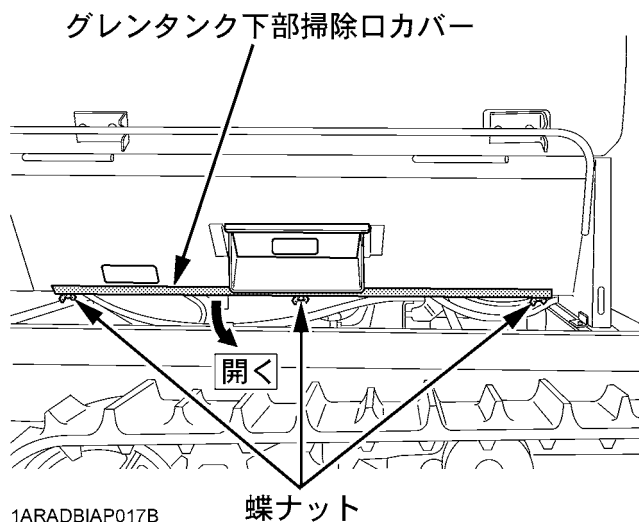
カッタ切換えカバー

1ARADBIAP147G

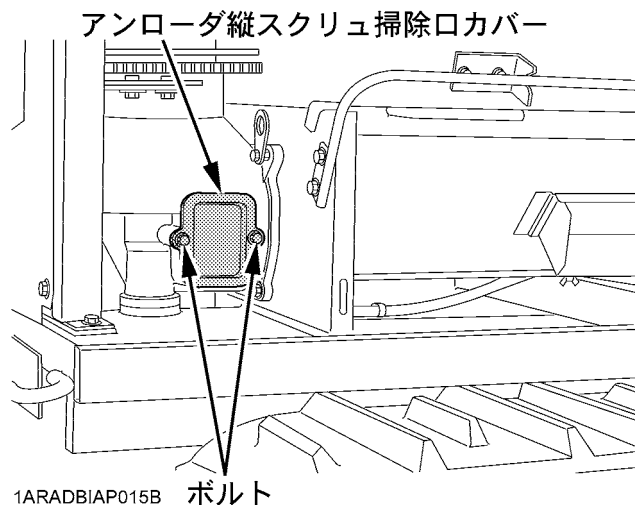
10. グレンタンク内
ロックハンドルを回して掃除口の開閉カバーを開いて掃除してください。掃除後は，開閉カバーを閉じたあと，ロックハンドルを回してカバーをロックしてください。

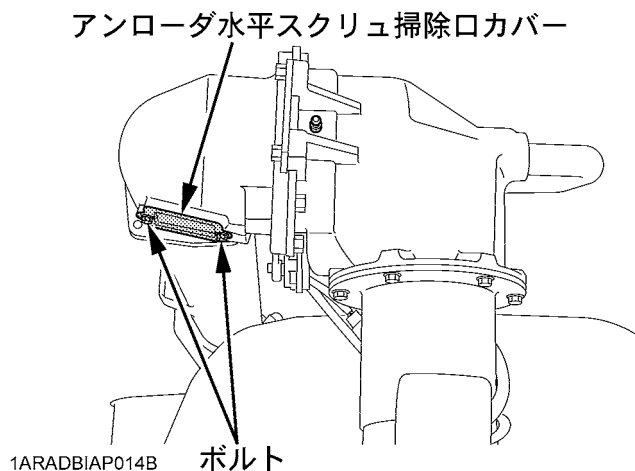
グレンタンク
グレンタンク上部掃除口（開閉カバー）
ロックハンドル
1ARADBOAP057C

補　足

＊ 必要に応じてグレンタンクを取外して掃除してください。（87 ページ参照）

11. グレンタンク下部掃除口
蝶ナットを外し，掃除口カバーを開いて掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンク下カバーを取付けてください。

グレンタンク下部掃除口カバー
開く
蝶ナット
1ARADBIAP017B

12. アンローダ縦スクリュ掃除口
ボルトを外して掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンク後部カバーを閉じてください。。

アンローダ縦スクリュ掃除口カバー
ボルト
1ARADBIAP015B

13. アンローダ水平スクリュ掃除口
ボルトを外して掃除口カバーを取外して掃除してください。掃除後は，掃除口カバーを取付け，グレンタンク後部カバーを閉じてください。

アンローダ水平スクリュ掃除口カバー
ボルト
1ARADBIAP014B

◆掃除後の処置と確認
掃除終了後は，取外したり，開いた掃除口カバーや安全カバーは必ず閉じる又は，取付けてください。

■各部の注油

⚠ 警 告

＊ 回転物や可動部に手や腕など体を近付けないでください。巻込まれてケガをするおそれがあります。特に機械が動いているとき，油差しを使っての注油作業を行なうときは，エンジン回転数を落としてじゅうぶん注意してください。
＊ そで口はきっちり止めて，手袋，はち巻き，首巻き，腰タオルはしないでください。チェーンに巻込まれてケガをするおそれがあります。

⚠ 注 意

＊ エンジン始動時やクラッチレバーを操作するときは，ホーンなどで周囲の人に始動の合図をしてから行なってください。

機体各部の掃除が終わったあと又は，刈取り作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

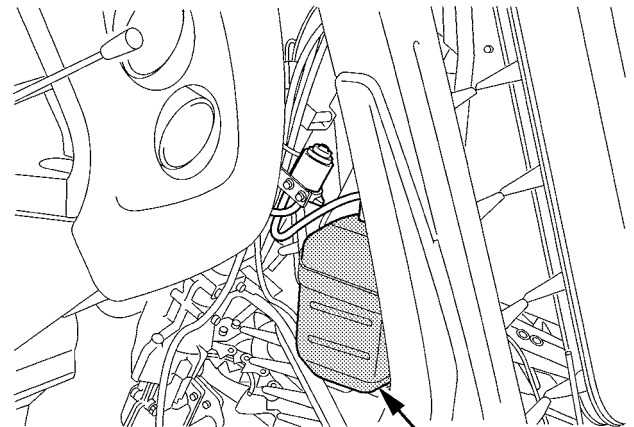
◆自動集中注油装置による注油

自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部（刈刃や各チェーン）に注油してください。

補 足

＊ 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では，気温の上がる昼間に注油してください。
＊ 各チェーン部に巻付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取除いてください。

● 注油のしかた

1. 平たんな場所に刈取部を地面から５～15cmの位置にしたあと，駐車ブレーキを掛けてエンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー右を取外し，オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。

オイルタンク

1ARADBOAP047A

重 要

＊ 廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると，ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

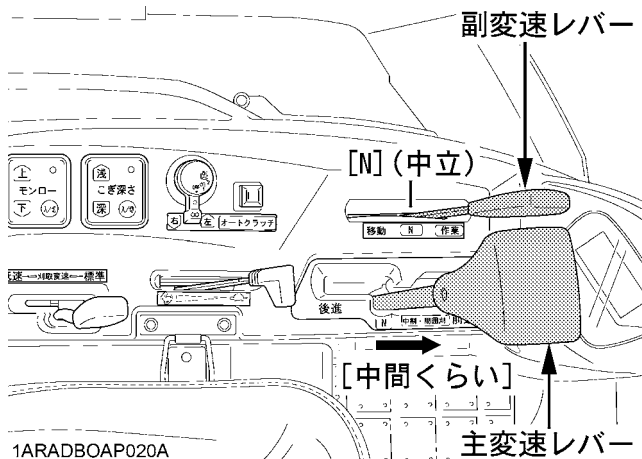
オイルの種類	オイルタンク容量
クボタ純オイル D10W-30	約 4L

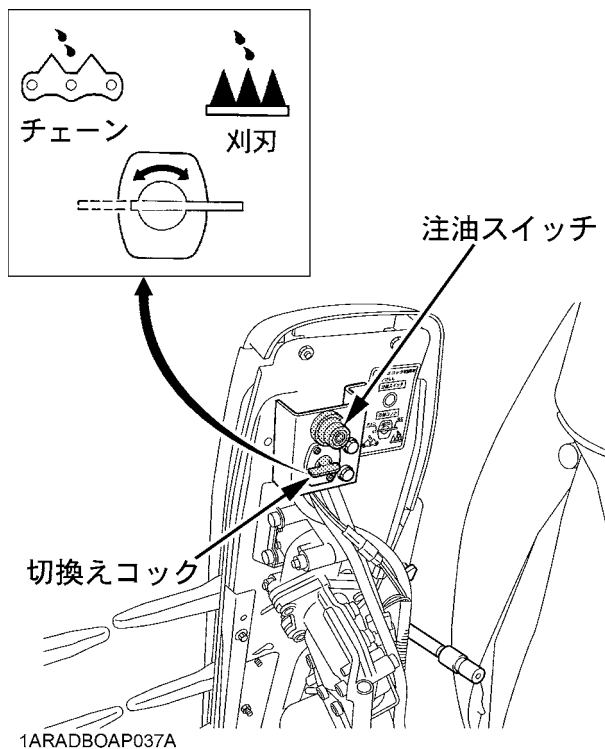
3. エンジンを再始動し，作業スイッチを **[入]** にして刈取部・脱こく部を動かしたあと，アクセルレバーを操作してエンジン回転数を中速回転（約 1600 ～ 1800n/min[rpm]）に調整します。

補　足

＊ チェーンは中速回転で注油してください。その際，２番警報が出ますが，異常ではありません。
＊ 注油したときチェーンが停止していると，オイルが1箇所に集中するため,ベルトやカバーにオイルが付着したり，チェーンのスリップの原因となります。

4. 副変速レバーを **[N]（中立）** 位置にしたあと，駐車ブレーキを解除して主変速レバーを前進側へ中間の位置ぐらいまで倒します。

副変速レバー
[N]（中立）
[中間くらい]
主変速レバー
1ARADBOAP020A

5. 切換えコックの位置を確認（**チェーン**位置 / **刈刃**位置）して注油スイッチを押します。注油は切換えコックを切換えて各部チェーン・刈刃の両方共に行ないます。
● チェーン位置… 7 ～ 10 秒間**連続**で押す。
● 刈刃位置……… 5 ～ 7 秒間**断続**で押す。

チェーン
刈刃
注油スイッチ
切換えコック
1ARADBOAP037A

重　要

＊ オイルタンク内のオイルが空の状態で注油スイッチを押すとポンプモータの故障の原因となります。
＊ 万一ポンプとオイルタンク間のホースにエアが入り，注油スイッチを押してもオイルが送られない場合は,エア抜きキャップを押して,エア抜きしてから作動してください。
＊ 必要以上に注油しないでください。機械が汚れるばかりでなく，故障の原因になります。

補　足

＊ 最初の１回目は配管内部にオイルがゆきわたり，配管内部にオイルが充満したことを確認したあと注油してください。配管内にオイルがゆきわたるまで約 30 秒かかります。

6. エンジンを停止したあと，各部チェーンや刈刃に注油されていることを確認します。

補　足

＊ 注油されていないときは，各注油ホースのノズルの掃除を行なってください。

7. 引起しサイドカバー右を取付けます。

◆エア抜きの方法

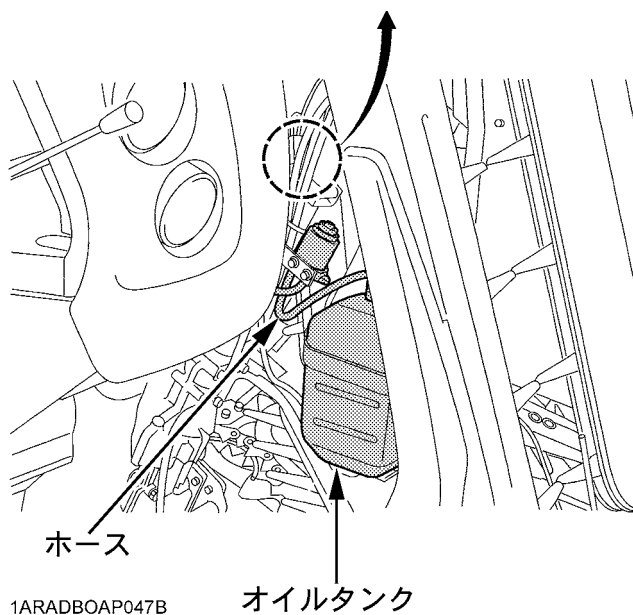
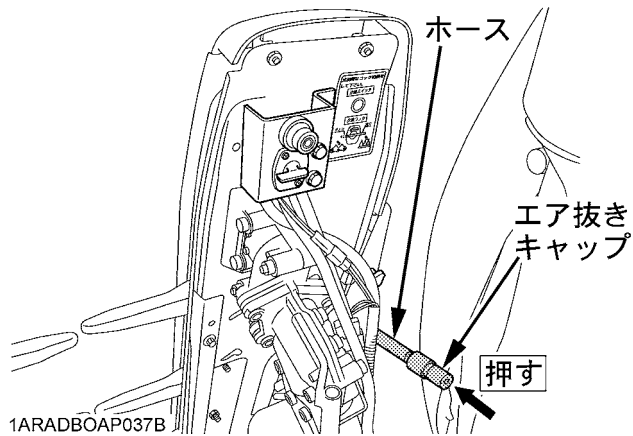
図示のエア抜きキャップを押してから，注油スイッチを押して，油を送出してください。

1. 注油後２～３分間そのままの状態で運転します。
2. 主変速レバーを **［N］（中立）** 位置にし，エンジンを停止したあと，引起しサイドカバー右を取付けます。

ホース
エア抜きキャップ
押す

1ARADBOAP037B

ホース
オイルタンク

1ARADBOAP047B

◆ 注油箇所・集中注油ノズルの掃除・グリース塗布

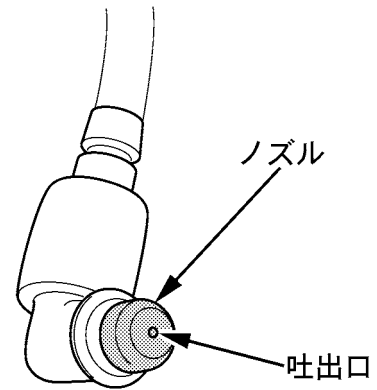
自動集中注油で注油が行なえる箇所以外の注油は，油差しで行なってください。

1. 自動集中注油箇所と掃除のしかた

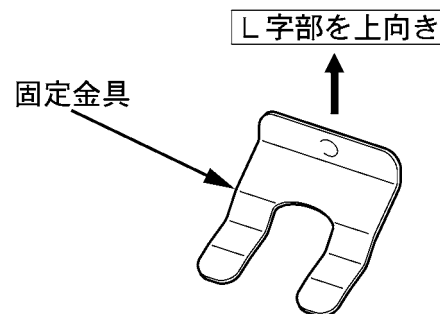
ノズルからオイルが出ていないときは，**エンジンを必ず止めて**，各ノズルの吐出口の掃除を行なってください。掃除を行なうときは，水洗い又は，圧縮空気などを使用してください。

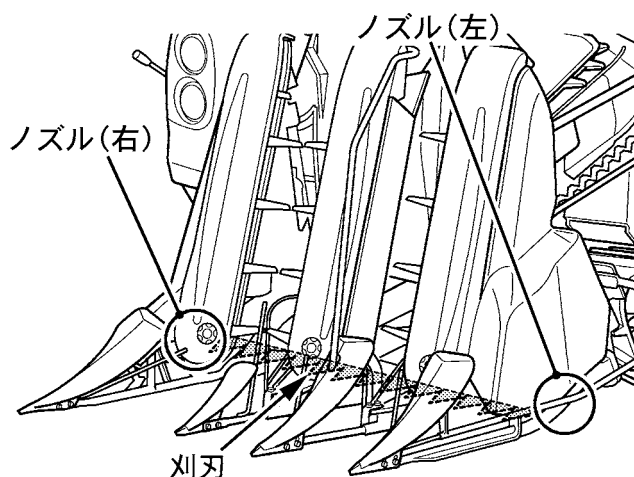
補　足

＊ ノズル先端部の吐出口の掃除を行なうときは，つまようじなど折れやすい物を使用すると詰まりの原因となります。また，各ノズルの先端を固定している金具・ボルト・スナップピンなど各固定部品を外すと掃除が容易に行なえます。

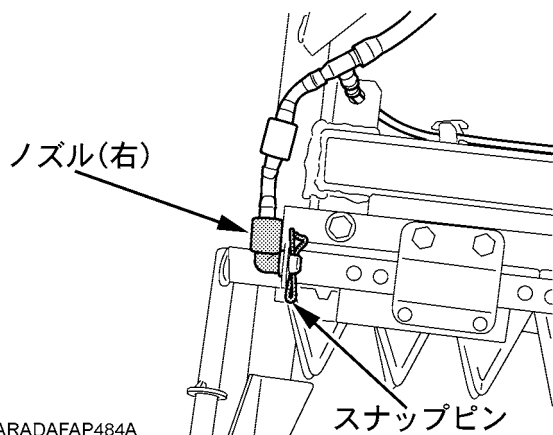
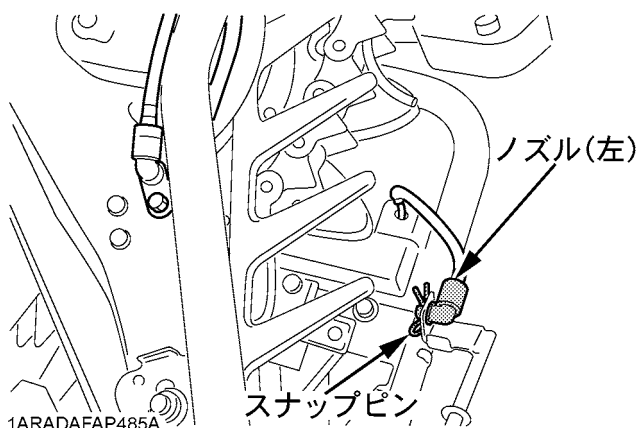
ノズル
吐出口

1ARADAFAP481A

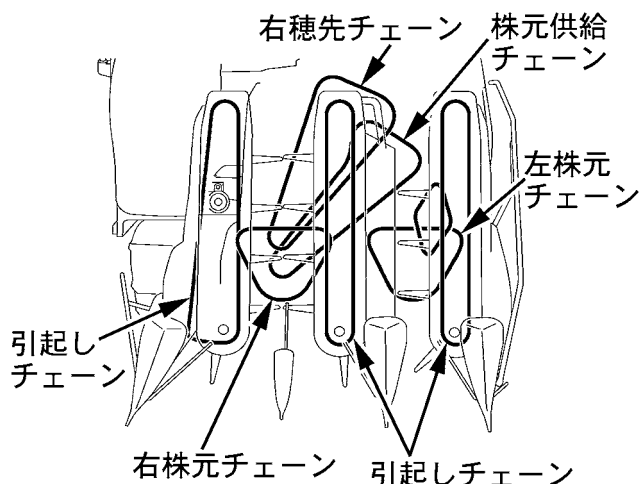
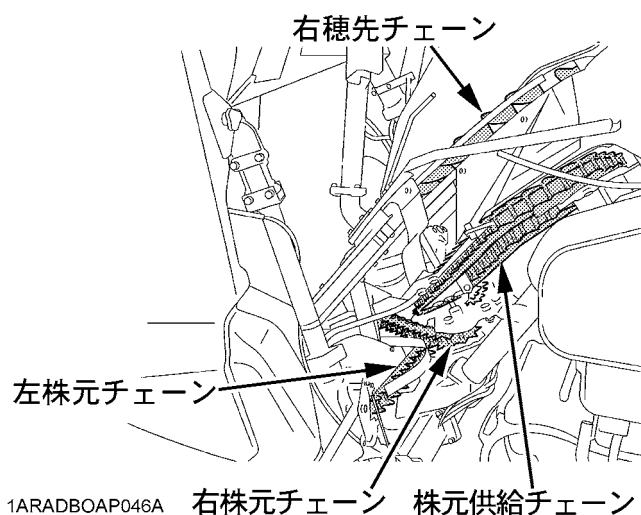
＊ 固定金具を取付けるときは，必ず金具のＬ字部を上側に向けて取付けてください。

Ｌ字部を上向き
固定金具

1ARADAFAP497A

● 刈刃

1ARADBOAP002C

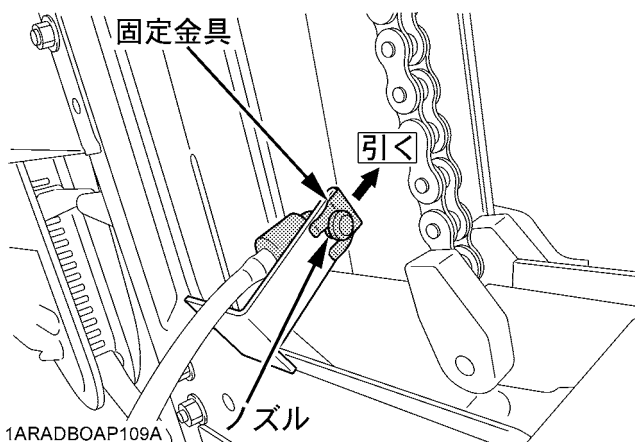
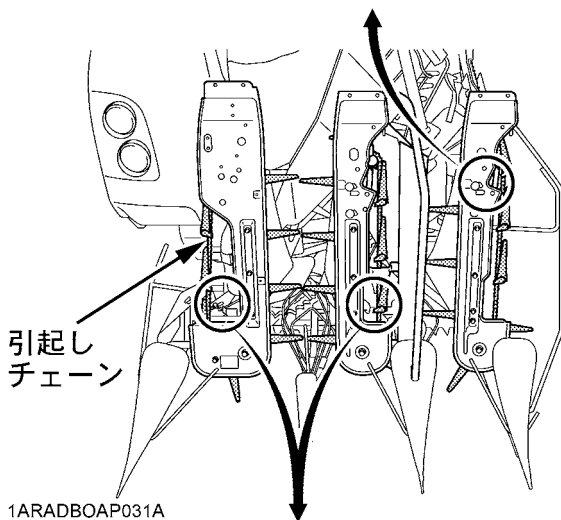
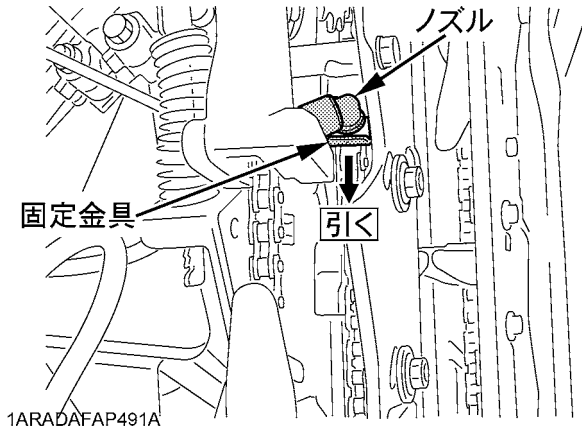
掃除箇所

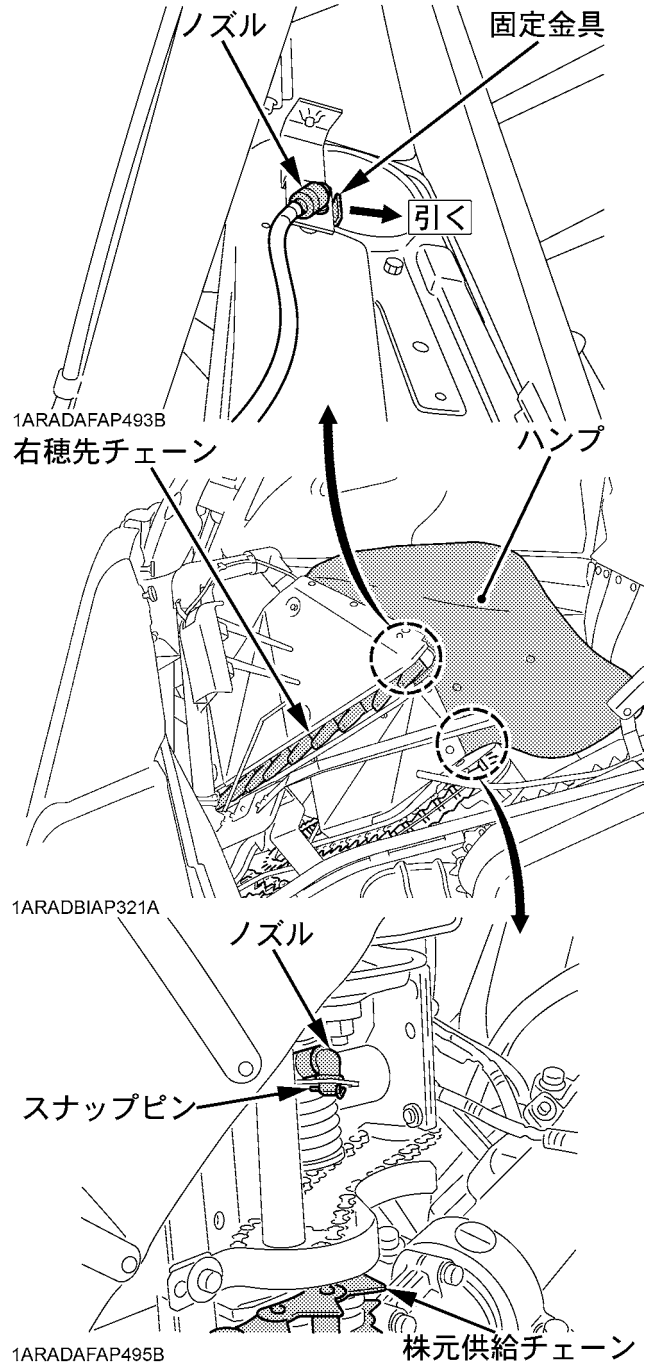
刈取部を最上昇したあと刈取下降ロックをし，泥などの異物を取除いてください。また，引起しサイドカバー左右を取外したあと，ノズルからスナップピンを外して掃除してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，引起しサイドカバー左右を取付けてください。

1ARADAFAP484A

1ARADAFAP485A

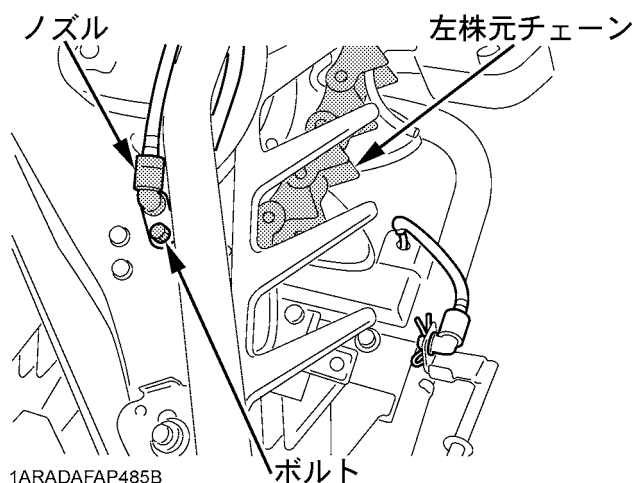
● 引起しチェーン・右穂先チェーン・右株元チェーン・左株元チェーン・株元供給チェーン

1ARADBOAP055A

1ARADBOAP046A

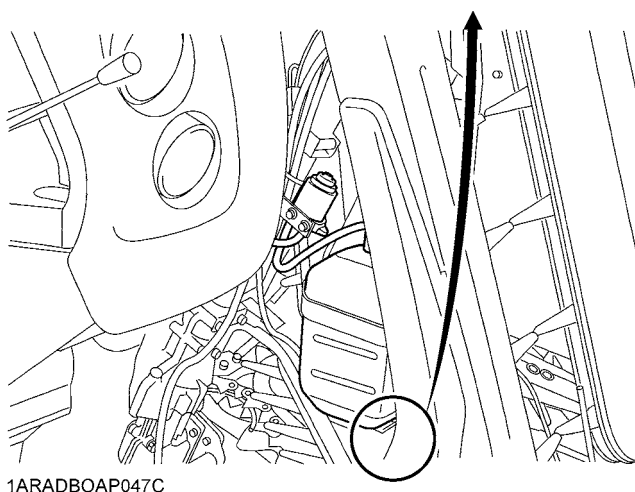
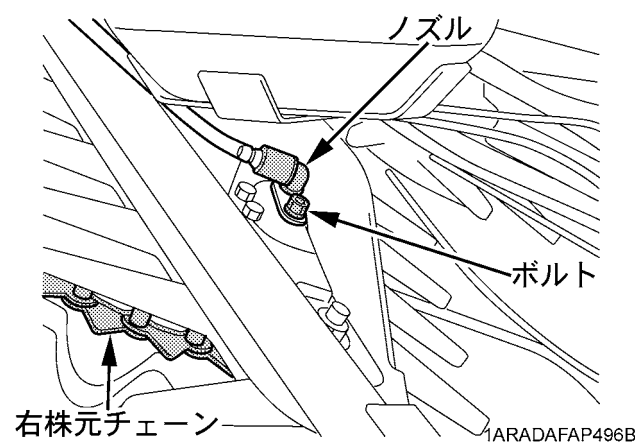
掃除箇所

● 引起しチェーン

各引起しカバーを取外したあと，引起しサイドカバー左右を取外し，固定金具を取外してください。掃除後は，各引起しカバーを取付けてください。

● 右穂先チェーン・株元供給チェーン

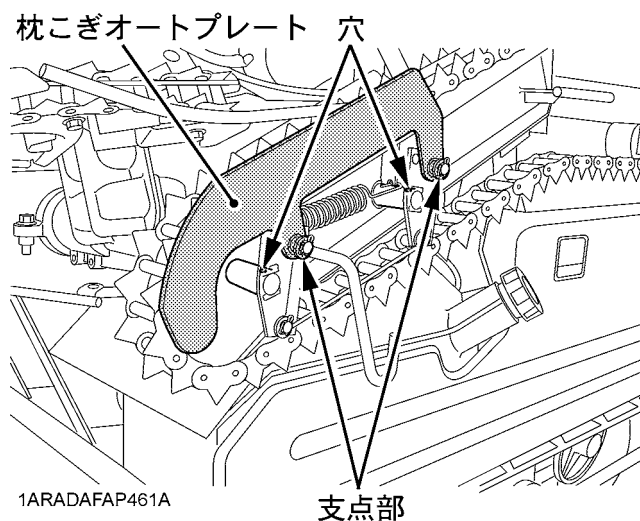
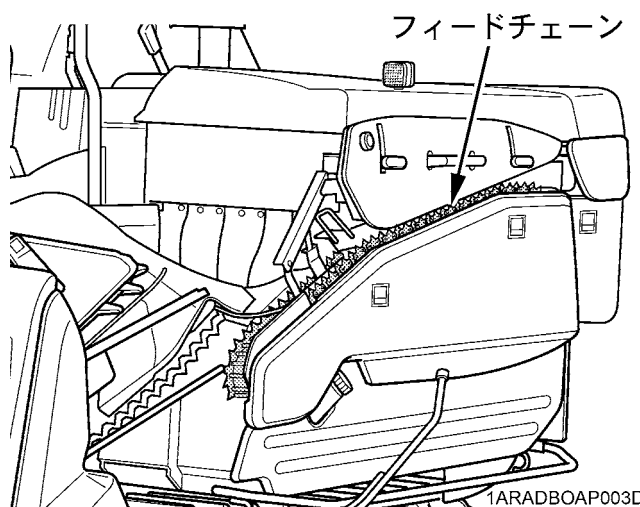
右穂先チェーンは固定金具を取外してください。また，株元供給チェーンはハンプをめくり上げたあと，スナップピンを取外してください。掃除後は，ノズルを取付けてください。

● 左株元チェーン

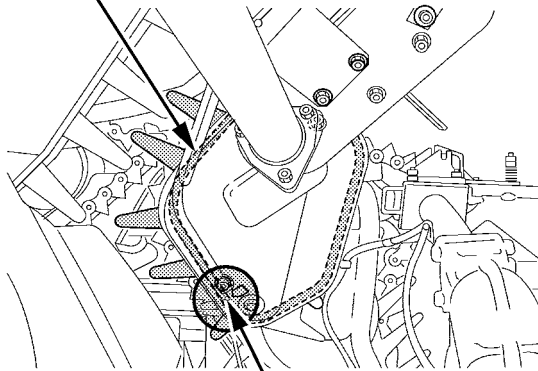
引起しサイドカバー左を取外したあと，ボルトを取外してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，引起しサイドカバー左を取付けてください。

● 右株元チェーン

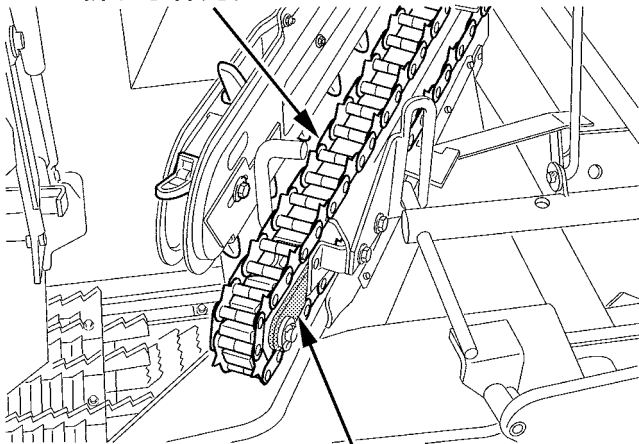
引起しサイドカバー右を取外したあと，ボルトを取外してください。掃除後は，ノズルを取付けたあと，引起しサイドカバー右を取付けてください。

2. 手差し注油

下記箇所は油差しを使用して行なってください。

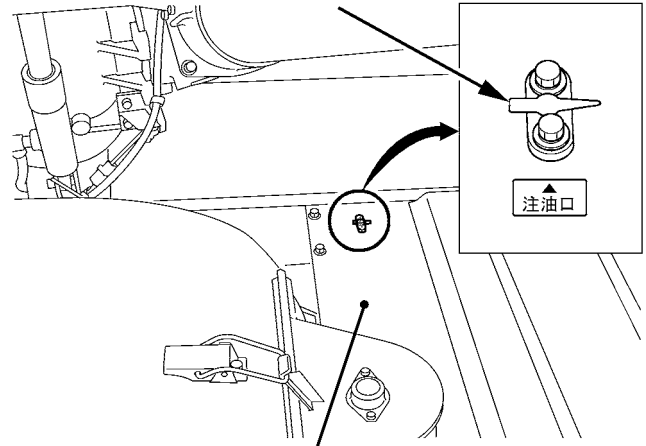
● 枕こぎオートプレート支点部

左サイドカバー上を取外して注油してください。注油後は，左サイドカバー上を取付けてください。

● フィードチェーン

● **左穂先チェーン**

1ARADBIAP134A

● **排わら株元チェーンテンション部（排わらテンションブラケット）**

1ARADAFAP166C

● **排わら穂先チェーン**

エンジンを始動したあと，脱こく部を中速回転しながら，脱こく上部後方にある注油口から注油してください。

1ARADBIAP341A

3. グリース塗布

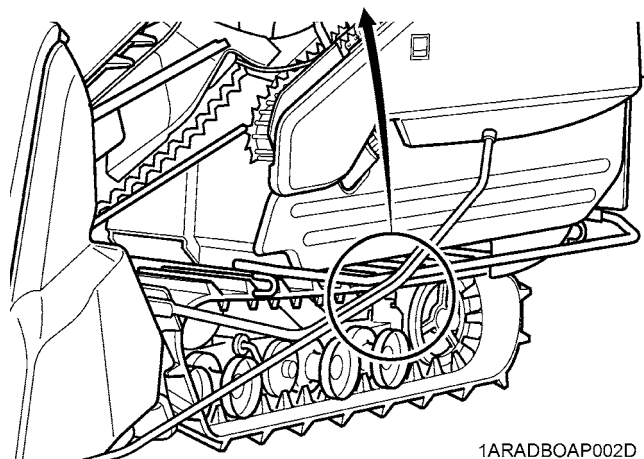
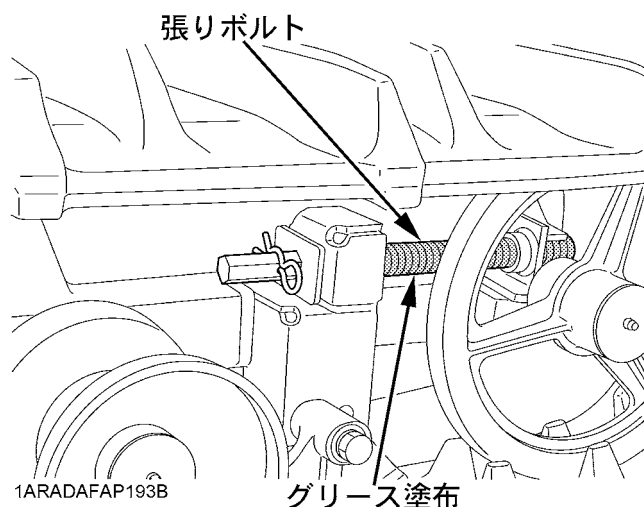
クローラの張り調整を行なう前にグリースを塗布してください。

●クローラ張りボルト（左，右）

張りボルト

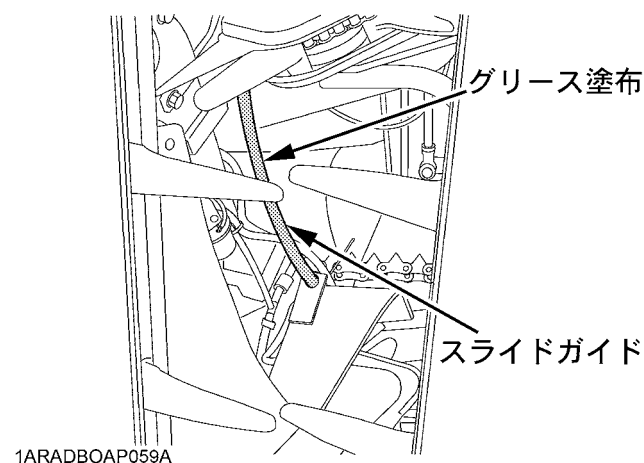
グリース塗布

1ARADAFAP193B

1ARADBOAP002D

● スライド軸･スクリュ軸･スライドブッシュ･スライドガイド

グリース塗布

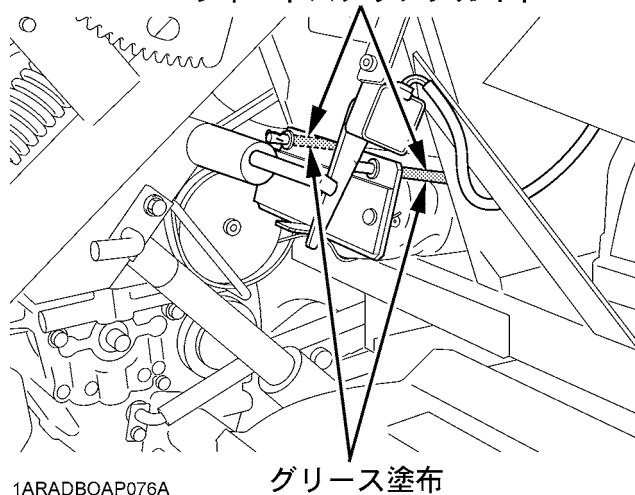
スライドガイド

1ARADBOAP059A

● サポートスプリングガイド

刈取部を最上昇し，刈取下降ロックを行なったあと，さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてエンジンを停止してください。

サポートスプリングガイド

グリース塗布

1ARADBOAP076A

定期点検

定期点検は，コンバイン作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
コンバインは，使用時間と使用状況に応じて劣化が進み，その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり，ひいてはコンバインの寿命を短くしてしまいます。コンバインの持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮されるよう，定期的に点検を行ないましょう。

警 告

＊ 各部の調整・点検・交換を行なうときは，各レバー類を［切］位置にして回転部を止め，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
＊ 取外した回転部のカバー類は，衣服などが巻込み危険ですので，点検後は必ず取付けてから作業をしてください。

注 意

＊ 点検・作業するときは，駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降ろしてください。
もし刈取部を上げた状態で作業するときは，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にし，ロック金具をセットして，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
＊ エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは，内部がじゅうぶん冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してください。
＊ オイル交換中は火気厳禁。
＊ 刈刃やカッタの掃除や注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行なってください。
＊ 機械は平たんで，周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へおいてください。バッテリ，マフラやエンジン周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因となります。
＊ 燃料，オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。

補 足

＊ 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合及び定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は，購入先又は，整備工場で行なってください。

■オイル，フィルタ類の交換とチェーン，ベルト，クローラの張り調整

1. 新車時はコンバインの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，オイル・フィルタ類は初期 50 時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。チェーンやベルト類は初期 50 時間，クローラは初期 20，及び 50 時間で張り調整をしてください。
（交換したときも同様です。）

■廃棄物の処理について

警 告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意

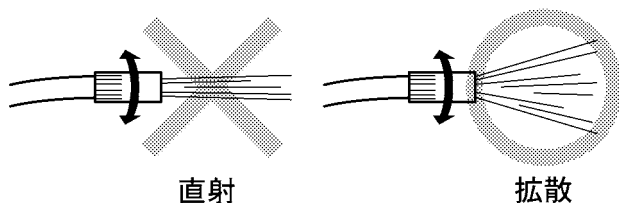
高圧洗車機の使用方法を誤まると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

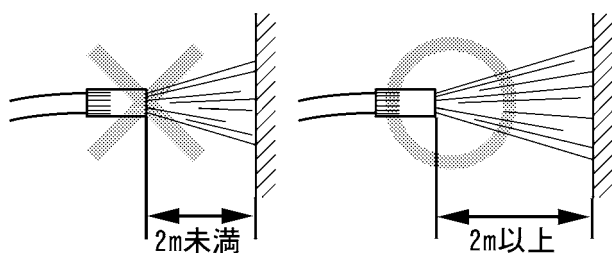
注　意

洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。

重　要

＊ 洗車のしかたが不適切な場合，以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。
［例］
(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内，キャビン室内等への浸入による故障
(3) クローラ，タイヤ，オイルシール等のゴム類，化粧カバー等の樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁

1AGACBRAP067B

近距離洗車厳禁

1AGACBRAP068A

■使用者が行なってはいけない修理

下記部位に異常があるときは，購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- 結束部（ケッセツブカンピ）
- エンジン本体
- トランスミッションケース
- ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
- 油圧系統（HST 含む）
- 電気部品と電気系統

重　要

＊ 分解・調整・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

■定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆エンジン部				
ファン駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	134 ☆
	交換	250 時間ごと		
エアクリーナエレメント	掃除	50 時間ごと	全型式	123
	交換	300 時間ごと（点検・掃除が６回目のときに交換）		
インレットパイプ（エアクリーナ）	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	124
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
燃料フィルタエレメント	掃除	100 時間ごと	全型式	126
	交換	400 時間ごと		
燃料フィルタアッシ	交換	200 時間ごと	全型式	125
オイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50 時間後，それ以降 200 時間ごと（エンジンオイル交換が２回目のとき，同時交換）	全型式	127
燃料パイプ	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	124 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
燃料こしあみ	掃除	100 時間ごと	全型式	115
オイルドレーンゴムホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	124 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
ラジエータホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	124 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
各ホース，パイプの締付けバンド	点検	200 時間ごと	全型式	☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
排水ホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	124 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
オイルクーラホース	締付け	150 時間又は，６ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	全型式	124 ☆
	交換	300 時間又は，２年ごとの早いほうで交換		
防じんあみ，ラジエータフィン，オイルクーラフィン	掃除	50 時間ごと	全型式	125

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要
＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆**走行・操作部**				
走行（ミッション）駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	135 ☆
	交換	300時間ごと		
駐車ブレーキ	調整	50時間ごと	全型式	128
アクセルワイヤ	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	☆
	交換	250時間ごと		
SFワンレバープッシュプルワイヤ	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	☆
	交換	250時間ごと		
刈取変速ワイヤ	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	☆
	交換	250時間ごと		
左分草かんワイヤ	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	☆
	交換	250時間ごと		
枕こぎオートプレートワイヤ	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	☆
	交換	250時間ごと		
ミッション・HSTオイルフィルタカートリッジ	交換	初回：50時間後，それ以降200時間ごと（ミッション・HSTオイル交換が３回目のとき同時交換）	全型式	127 ☆
クローラ	調整	初回又は，交換後:20,及び50時間後,それ以降100時間ごと	全型式	164 ☆
	交換	250時間ごと		
車軸のオイルシール	交換	500時間ごと	全型式	☆
キャリアローラ・キャリアローラシール・キャリアローラベアリング	交換	250時間ごと	全型式	☆
転輪・ドライブスプロケット・転輪ベアリング・オイルシール	交換	300時間ごと	全型式	☆
クローラガイド（前・後）	交換	300時間ごと	全型式	☆
可動転輪・ローラシール	交換	250時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆刈取部				
脱こく駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	136 ☆
	交換	300時間ごと		
刈取駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	135 ☆
	交換	300時間ごと		
補助搬送（突起付）ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	137 ☆
	交換	500時間ごと		
引起しチェーン	交換	自動テンションのラチェット歯の終端部で交換	全型式	141
引起し爪	交換	300時間ごと	全型式	☆
引起しローラ	交換	300時間ごと	全型式	☆
右穂先チェーン	点検	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	142 ☆
	交換	300時間ごと		
右穂先搬送爪	交換	300時間ごと		☆
右株元チェーン	点検	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと		142 ☆
	交換	300時間ごと		
株元供給チェーン	点検	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと		142 ☆
	交換	300時間ごと		
左穂先チェーン	点検	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	142 ☆
	交換	300時間ごと		
左穂先搬送爪	交換	300時間ごと		☆
左株元チェーン	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと		142 ☆
	交換	300時間ごと		
刈刃	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	143
	交換	300時間ごと		
刈刃クランクピン，ローラ，ベアリング	交換	300時間ごと	全型式	☆
株元センサ	交換	500時間ごと	全型式	☆
穂先センサ（上，下）	交換	500時間ごと	全型式	☆
パッカ	交換	500時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重 要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期 （アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆脱こく部				
こぎ胴駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	138 ☆
	交換	300時間ごと		
こぎ胴ケース駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	137 ☆
	交換	300時間ごと		
１番・２番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20時間後，それ以降100時間ごと	全型式	138 ☆
	交換	300時間ごと		
フィードチェーン	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	142 ☆
	交換	400時間ごと		
排わら穂先チェーン	点検	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	142 ☆
	交換	300時間ごと		
排わら穂先搬送爪	交換	300時間ごと	全型式	☆
排わら株元チェーン	交換	300時間ごと	全型式	142 ☆
排わら入力チェーン	点検	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	143 ☆
	交換	300時間ごと		
排わらレール長さ切換えワイヤ	調整	初回又は，交換後：50時間後，それ以降100時間ごと	全型式	☆
	交換	250時間ごと		
わら切刃	交換	200時間ごと	全型式	147
こぎ歯	交換	300時間ごと	全型式	146
受あみ１（弓金含む）	交換	500時間ごと	全型式	83
受あみ２	交換	500時間ごと	全型式	83
１番縦スクリュ	交換	400時間ごと	全型式	☆
１番スクリュ	交換	500時間ごと	全型式	☆
２番縦スクリュ	交換	400時間ごと	全型式	☆
２番スクリュ	交換	500時間ごと	全型式	☆
２番縦スクリュケース	交換	500時間ごと	全型式	☆
２番処理ケース	交換	400時間ごと	全型式	☆
ツース（２番固定歯）	交換	500時間ごと	全型式	☆
ツース（２番処理歯）	交換	500時間ごと		☆
フロントハンプ	交換	300時間ごと	全型式	☆

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検・処置／交換	点検・交換時期（アワメータ表示時間）	対象型式	参照ページ
◆グレンタンク部				
グレンタンク駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	139 ☆
	交換	300 時間ごと		
底スクリュ軸	交換	300 時間ごと	全型式	☆
縦スクリュ軸	交換	300 時間ごと	全型式	☆
水平スクリュ軸	交換	300 時間ごと	全型式	☆
吐出口ブーツ	交換	破損しているとき	全型式	157 ☆
◆カッタ部				
カッタ駆動ベルト	調整	初回又は，交換後：20 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	139 ☆
	交換	300 時間ごと		
カッタ切換えカバー開閉ワイヤ	調整	初回又は，交換後：50 時間後，それ以降 100 時間ごと	全型式	129 ☆
	交換	250 時間ごと		
カッタ刃	調整	50 時間ごと	全型式	151 ☆
	交換	150 時間ごと		
供給軸と切断軸のナット	増締め	初回 50 時間後，それ以降 200 時間ごと	全型式	149
◆電装部				
バッテリ	充電	インジケータが黒色のとき	全型式	157
	交換	インジケータが透明のとき		
ワイヤハーネス・バッテリコード	点検	50 時間ごと	全型式	161 ☆
	交換	破損しているとき		
ヒューズ・スローブローヒューズ	点検	100 時間ごと	全型式	161
	交換	破損しているとき		
ランプ（電球）	点検	100 時間ごと	全型式	163
	交換	破損しているとき		
ホーンスイッチ	点検	100 時間ごと	全型式	163 ☆
	交換	破損しているとき		

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

＊ 各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは，ならし運転後の点検と調整を行なってください。

■給･注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）点検	点検・処置時期（アワメータ表示時間）処置	容量・規定量（L）	種　　類	参照ページ
燃料	燃料タンク	給油	作業前 又は, 作業後	－	・容量……………約 24	ディーゼル軽油	115
オイル	エンジン	補給 ・交換		・初回 …35 時間目 ・２回目以降 …100 時間ごと	＊規定量 オイルゲージの **下限**と**上限**の間 ……2.2 ～ 3.2	クボタ純オイル D10W-30	116
	集中注油 オイルタンク	補給		－	・容量 ……約 4.0	クボタ純オイル D10W-30	97
	トランスミッションケース	補給 ・交換	100 時間 ごと	・初回 …50 時間目 ・２回目以降 …100 時間ごと	＊規定量 検油口からオイルが にじむまで ……約 3.0	クボタ純オイル スーパー UDT-2	117
	フィードチェーン駆動 ケース	補給	－	分解時	・容量…………約 0.3	クボタ純オイル M80B 又は，M90	118
	こぎ胴駆動 ケース				・容量…………約 0.15		119
	引起しチェーン	注油	作業前 及び, 作業後 (洗車後)	－	適　　量	クボタ純オイル D10W-30	97
	左穂先チェーン						97
	穂先供給チェーン						97
	フィードチェーン						97
	排わらチェーン （株元，穂先）						97
	排わら（株元，穂先，入力）チェーンテンション部						97
水・液	冷却水 （リザーブタンク）	補水	作業前 又は, 作業後	２年ごと又は, 冬季停止時は 排出	＊規定量 タンク側面の **LOW （下限）**と **FULL（上限）**の間 LOW ……………0.15 FULL……………0.25	清水又は, クボタ不凍液	121

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ごみや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間）		容量・規定量（L）	種　　類	参照ページ
			点検	処置			
グリース	**◆走行部**						
	スイングアーム部	補給	作業シーズン終了後	－	適　　量	クボタ純グリースNo.2	120
	転輪・後輪部				内側シールから少しはみ出るまで		120
	◆刈取部						
	刈刃ギヤケース	補給	分解時	－	適　　量	クボタ純グリースNo.2	☆
	パッカ駆動ケース						
	刈取ギヤケース						
	供給ギヤケース						
	引起しギヤケース						
	スライドガイド（こぎ深さ）	塗布	作業前及び，作業後（洗車後）	—			
	サポートスプリングガイド	補給		50時間ごと			
	◆脱こく部						
	排わらベベルケース	補給	分解時	－	適　　量	クボタ純グリースNo.2	☆
	１番ベベルケース						
	２番ベベルケース						
	２番チェーンケース						

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ごみや水が混入しないようにしてください。

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期（アワメータ表示時間） 点検	点検・処置時期（アワメータ表示時間） 処置	容量・規定量（L）	種　　類	参照ページ
グリース	**◆グレンタンク部**						
	グレンタンク駆動ケース	補給	分解時	－	適　　量	クボタ 純グリース No.2	☆
	アンローダケース１						
	アンローダケース２						
	アンローダケース３						
	アンローダケース２・３ 接続回動しゅう動部	補給	作業 シーズン 終了後				
	アンローダケース１，縦 アンローダモータステー 接続回動しゅう動部	塗布	分解時				

＊ 参照ページに☆印のある整備項目（交換）については，購入先又は，整備工場で行なってください。
＊ 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス（保守・点検）により，異なる場合があります。

重　要

［各部への補給と交換］
＊ 点検するときは機体を水平な場所において行なってください。傾いていると正確な量を示しません。
＊ 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。
＊ 補給や交換の際は，ごみや水が混入しないようにしてください。

■燃料，オイル，グリースの点検･補給･交換

注 意

* **燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
* **燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取除いてください。**
* **燃料やオイルを補給又は，交換したあと，こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭取ってください。また，燃料もれや油もれがあるときは購入先に連絡してください。**

重 要

＊ 点検するときは，水平で平坦な場所にコンバインを移動して行なってください。コンバインが傾いていると正しいオイルの量が測定できません。

＊ コンバインの故障の原因となりますので下記事項を守ってください。

- 廃油は使用しないでください。
- オイルを補給するときは，現在使用しているオイルと同じメーカ・同じ品質（粘度など）のオイルを補給してください。また，異なるメーカ・異なる品質（粘度など）のオイルを使用するときは，オイルを全て排出してから新しいオイルと交換してください。
- 燃料やオイルを補給・交換するときは，ゴミや異物の混入を防ぐため，給油口付近を掃除してください。また，給油口からゴミなどの異物を入れないでください。
- オイルを補給するとき，規定量の上限以上にオイルを補給しないでください。
- 使用するオイル・グリースは，必ず指定の**クボタ純オイル・クボタ純グリース**を使用してください。

■燃料の補給

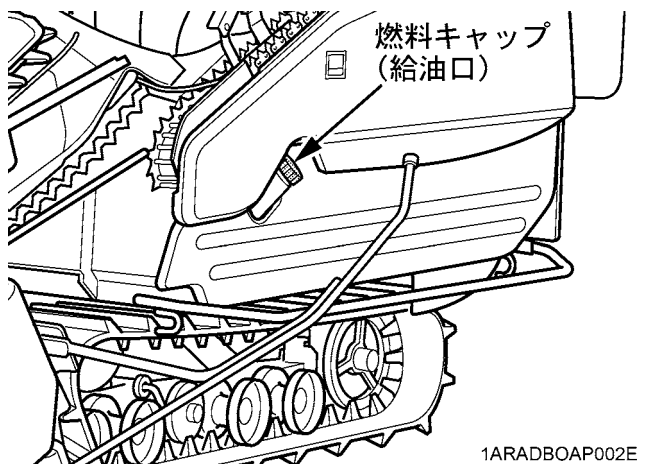
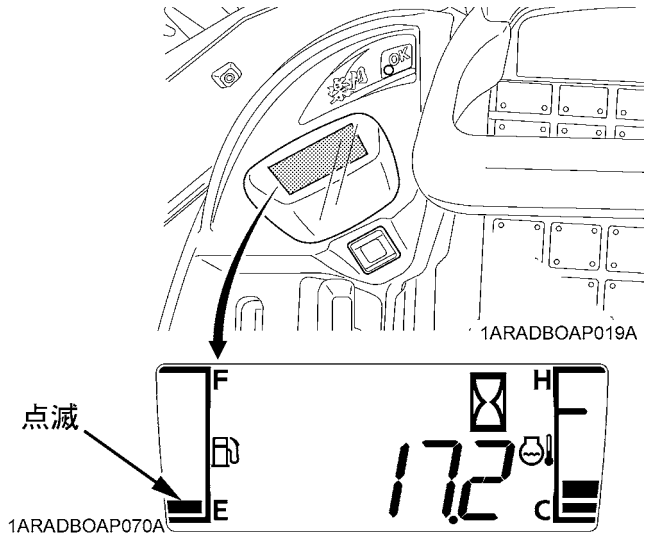
メータユニットの燃料計の最後の１目盛が点滅し，ブザーが鳴ったとき（燃料警報）は給油してください。

1ARADBOAP019A

点滅

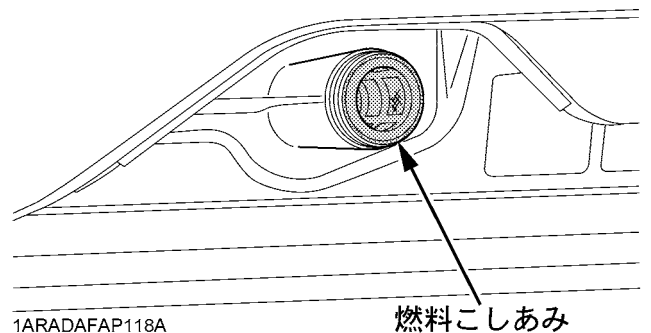
1ARADBOAP070A

燃料キャップ
（給油口）

1ARADBOAP002E

重 要

＊ 給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。

燃料こしあみ

1ARADAFAP118A

◆ **給油**
燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め，燃料キャップを外してください。また，メインスイッチのキーを **[入]** 位置にすると燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき，ブザーが鳴ります。
給油後は燃料キャップを取付けてください。

燃料の種類	燃料タンク容量
ディーゼル軽油	約 24L

補　足
＊ **満タンお知らせ機能**は，ブザーが 5 回鳴ると停止します。
＊ ブザーが鳴ったあと，あふれさせないように注意してください。
＊ **満タンお知らせ機能**は下記の条件のとき，はたらかない場合があります。
● エンジン停止後約 20 秒間
● 給油中に機体を揺らしたり，急激に給油したとき
● 液晶ディスプレイの燃料残量表示の目盛が半分以上点灯している状態で給油したとき
● 給油量が少ないとき

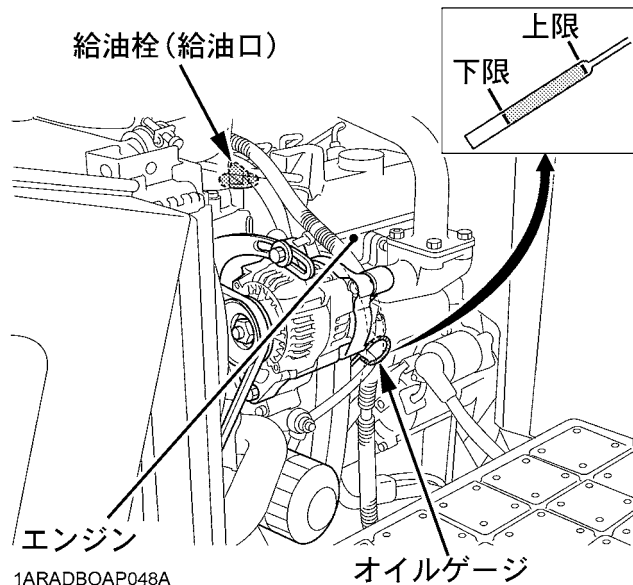
■エンジンオイルの点検・補給・交換

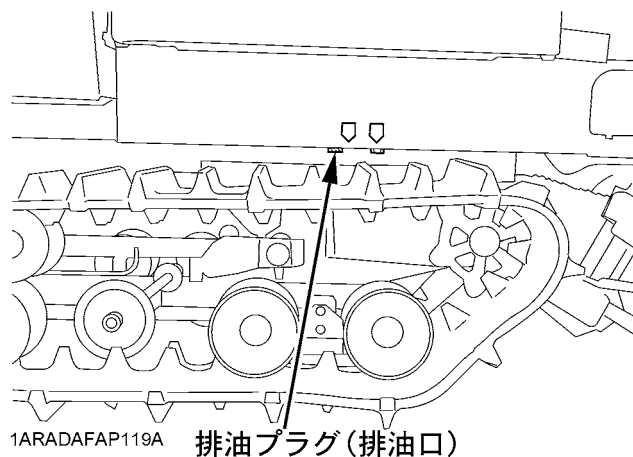
注　意
＊ **点検・補給・交換をするときは，エンジンを必ず止めて，エンジンがじゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。ヤケドするおそれがあります。**

エンジンルームを開いてください。

重　要
＊ エンジンオイルをオイルゲージの**上限**以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。

◆ **点検・補給**
エンジン停止後，数分たってからオイルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいまで差し込んでから抜き，ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

1ARADBOAP048A

◆ **交換**
● **排油のしかた**
1. 給油栓を外します。
2. 排油プラグを外し，排油口からオイルを排出します。

1ARADAFAP119A

3. 排油プラグを取付けたあと，給油栓を取付けます。

重　要
＊ 排油プラグを締め忘れると油もれが発生し，クローラの劣化やエンジントラブルの原因となります。

● **給油のしかた**
排油プラグを締付けて,給油口から規定量のオイルを給油し,給油栓を締付けたあとエンジンルームを閉じてください。

重　要
＊ 指定以外のオイルを使用すると，出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。また，気温によりオイルを選んでください。

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル （ディーゼルエンジン用） D10W-30	・上限線…約 3.2L ・下限線…約 2.2L

※ D10W-30 はオールシーズン用です。

4. エンジンを始動し，アイドリング状態で約 1 分間運転します。
5. エンジンを停止したあと，５分間以上たってからオイル量の点検を行ないます。
6. オイルが不足しているときは，規定量になるまでオイルを追加補給します。
7. エンジンルームを閉じます。

■トランスミッションケースオイルの点検・補給・交換

注　意

＊ **刈取部を上げて点検・補給・交換を行なうときは，刈取下降ロックスイッチを上げて，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。**

点検を行なうときは，刈取部，車体水平制御 **[M 仕様]** を最下降位置にし，レバーガイドシートを開いてください。（77 ページ参照）

重　要
＊ 点検するとき，刈取部が上昇していたり機体が傾いていると，正確な量を示しません。

◆ **点検・補給**
検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは，給油口から規定量になるまで給油してください。さらに，油もれのないことも調べてください。

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

◆ 交換

● 排油のしかた

給油栓を外してから，排油プラグを外し，オイルを排出してください。

● 給油のしかた

排油プラグを締付けて，検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し，給油栓と検油ボルトを締付けてください。

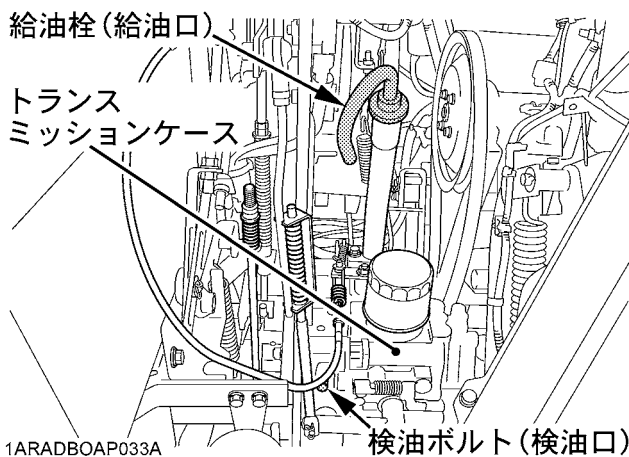
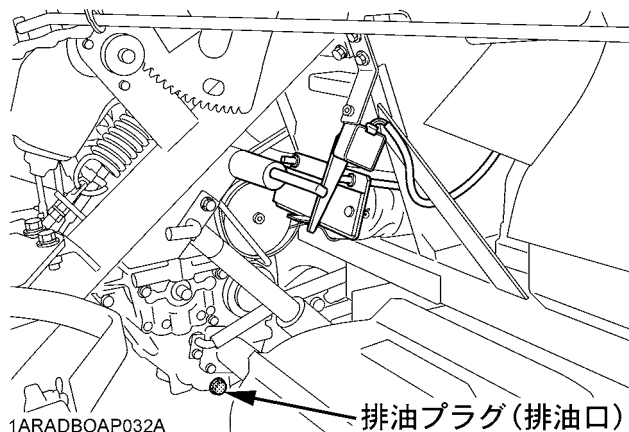
排油プラグ（排油口）

1ARADBOAP032A

給油栓（給油口）

トランスミッションケース

検油ボルト（検油口）

1ARADBOAP033A

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパーUDT-2	約 3.0L

重　要

＊ 給油したあとエンジンを約１分回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

■フィードチェーン駆動ケースオイルの補給

警　告

＊ 中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

こぎ胴を開いたあと，ボルトを取外して左サイドカバー後１，２を外します。

◆ 補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。補給後は，左サイドカバー後１，２を取付けたあと，こぎ胴を閉じてください。

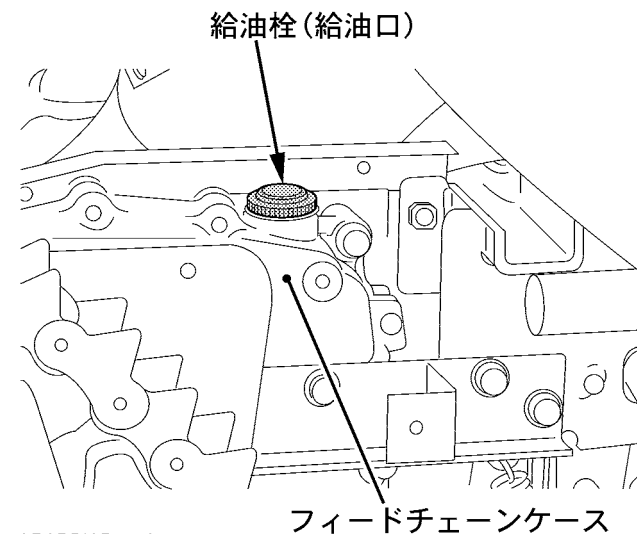
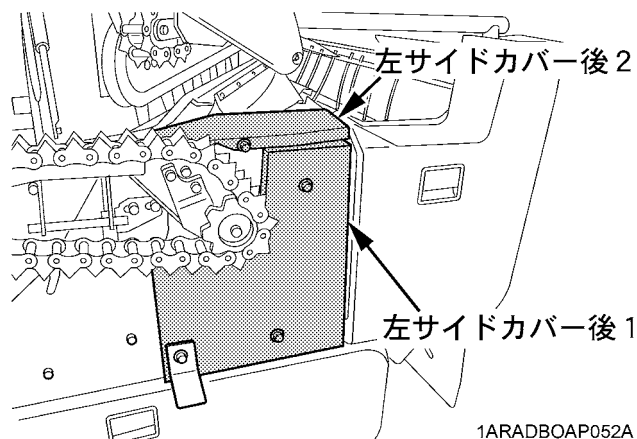
左サイドカバー後２

左サイドカバー後１

1ARADBOAP052A

給油栓（給油口）

フィードチェーンケース

1ARADBIAP128A

オイルの種類	オイル容量
クボタ純オイル M90 又は，M80B	約 0.3L

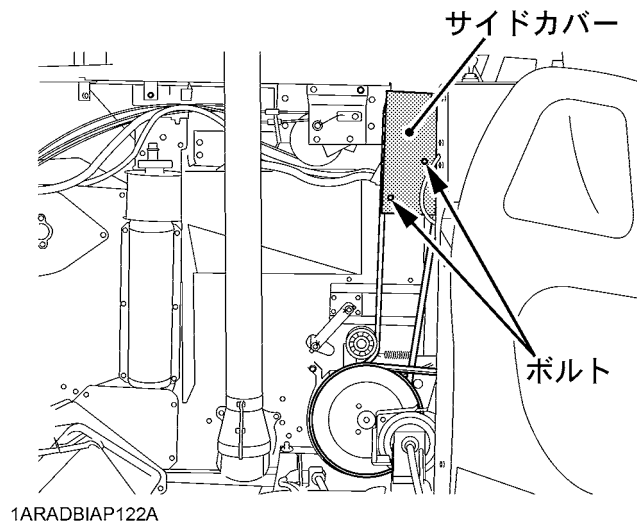
目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

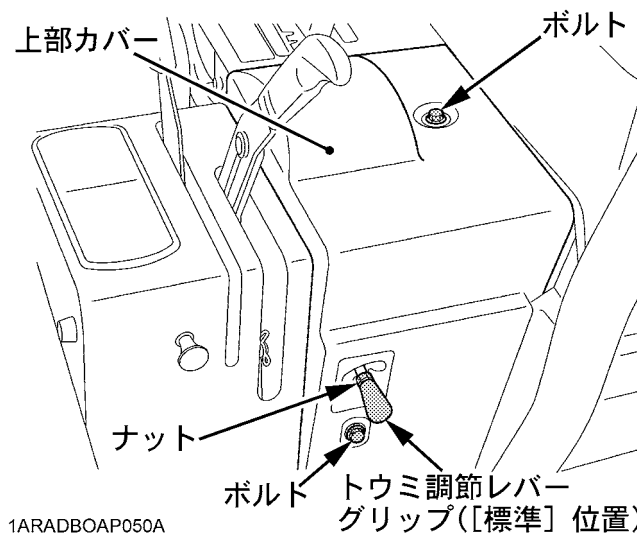
■こぎ胴駆動ケースオイルの補給

脱こく上部右前方にあるこぎ胴駆動ケースのカバーを取外します。

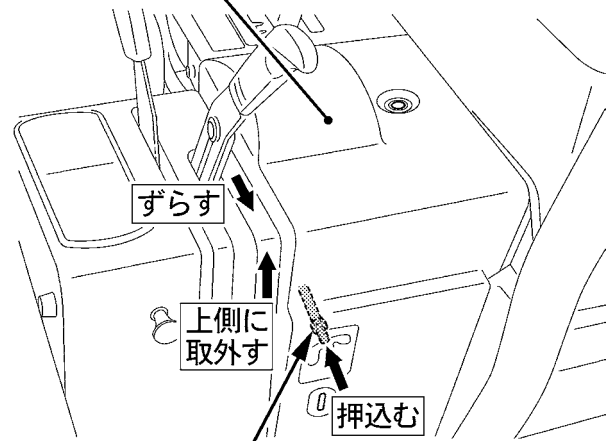
1. グレンタンクを開きます。
2. ボルトを取外して脱こく駆動ケースのサイドカバーを外します。

サイドカバー
ボルト

1ARADBIAP122A

3. トウミ調節レバーを **[標準]** 位置にしたあと，レバーのグリップ根元にあるナットをゆるめてグリップを取外します。
4. こぎ胴駆動ケースの上部カバーのボルトを取外します。

上部カバー
ボルト
ナット
ボルト
トウミ調節レバーグリップ([標準] 位置)

1ARADBOAP050A

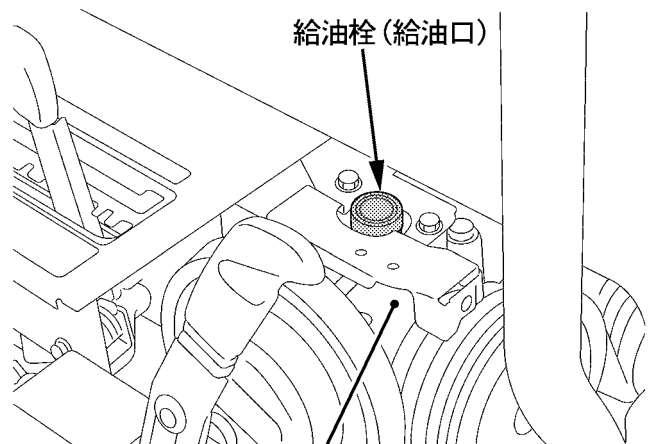
5. トウミ調節レバーを押込み，こぎ胴駆動ケースの上部カバーを手前にずらして，上部カバーを上側に取出します。

こぎ胴駆動ケース上部カバー
ずらす
上側に取外す
押込む
トウミ調節レバー

1ARADBOAP051A

6. オイルを補給後は逆の手順でカバーを取付けます。
7. グレンタンクを閉じます。

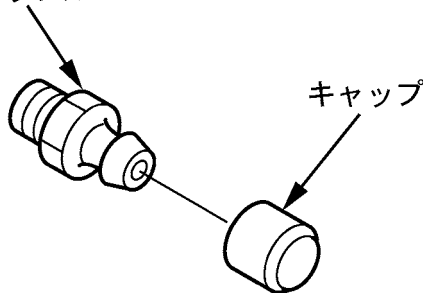
◆ 補給

給油栓を外して，オイルを適量補給してください。

給油栓(給油口)
こぎ胴駆動ケース

1ARADBOAP054A

オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル M90 又は，M80B	約 0.15L

■各部のグリース

クボタ純グリース No.2 をグリースニップルから補給してください。また，走行部（転輪・後輪・スイングアーム各部）にグリースの補給を行なうときは，各グリースニップルのキャップを取外してください。また，補給が終わったあと，各グリースニップルにキャップを取付けてください。

1ARADBNAP350A

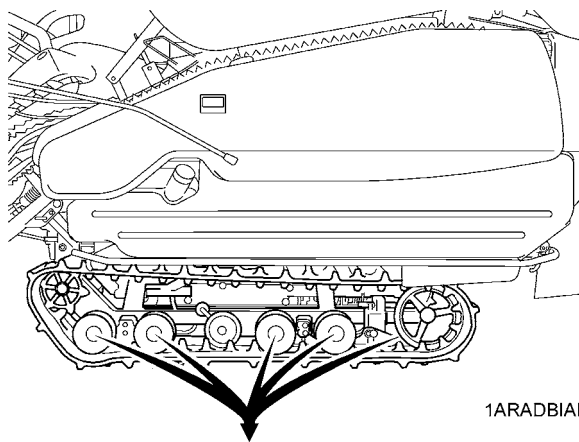
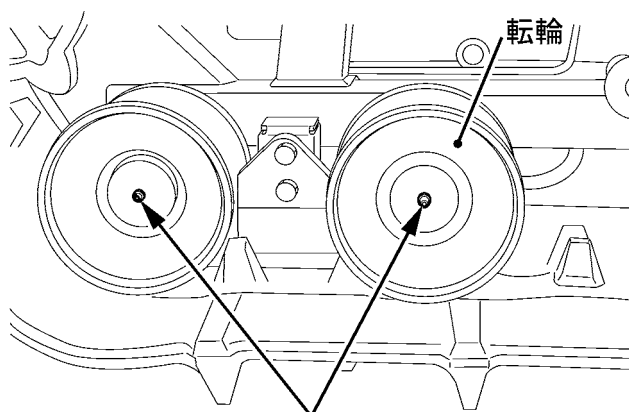
補　足

＊ グリースニップルはストレートタイプとＬ字タイプがあります。
＊ グリース注入後は，グリースニップルのキャップを必ず取付けてください。洗車時に水が浸入するおそれがあります。

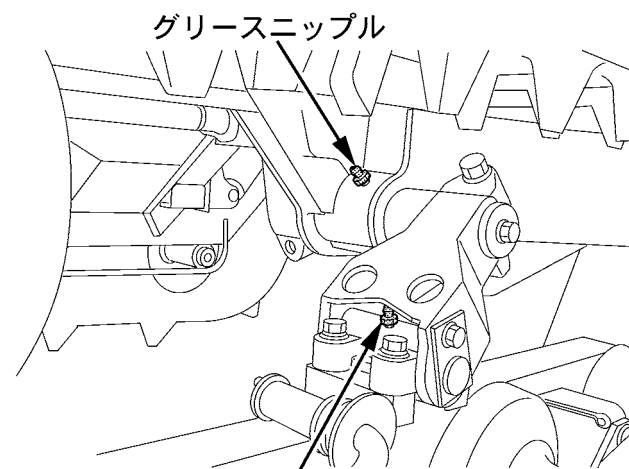
◆ 転輪・後輪部（左，右５箇所）

転輪部へのグリースアップを行なうときは，内側のオイルシールからグリースがはみ出るまで各転輪部のグリースニップルにグリースを補給してください。

補　足

＊ 工場出荷時は，グリースを全容量の 50％封入しています。

1ARADBIAP133A

1ARADAFAP125A

[M 仕様右側]

◆ スイングアーム部（右４箇所）

1ARADAFAP126A

グリースニップル

グリースニップル

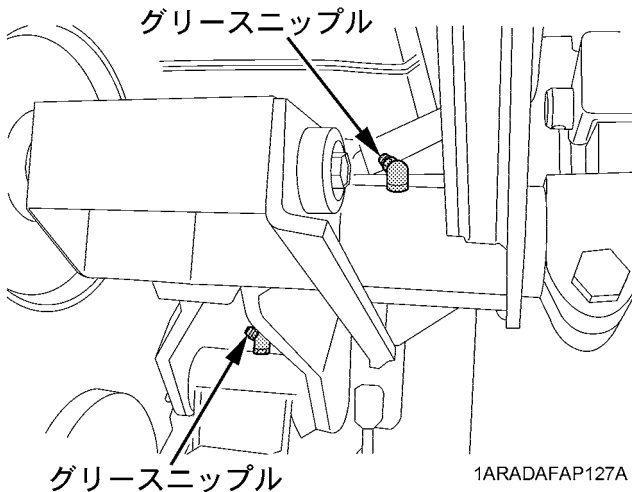
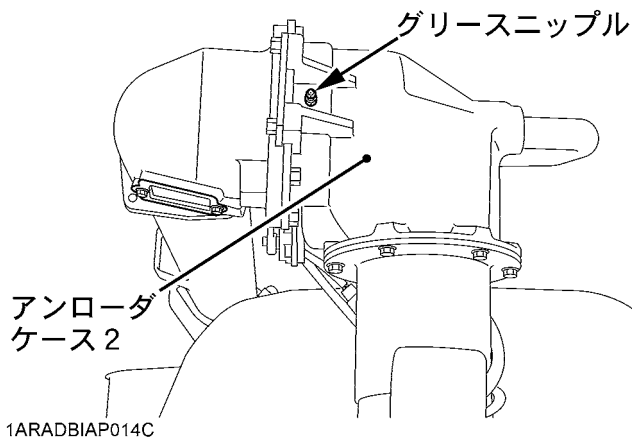
1ARADAFAP127A

［M 仕様右側］

◆ アンローダ部

グリースニップル

アンローダ
ケース２

1ARADBIAP014C

補　足

＊ アンローダケース２にグリースを補給するときは，掃除口を開いた状態でフランジの内側の面にグリースが付着しないように補給してください。もみにグリースが付着して汚粒発生の原因となります。

■ラジエータ冷却水の点検・補給・交換

注　意

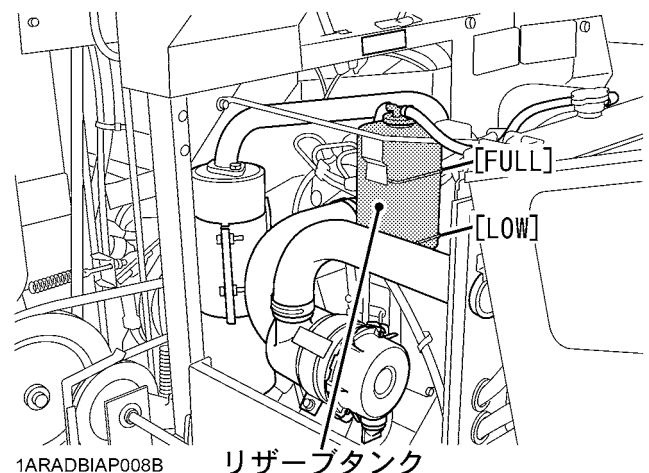
＊ **ラジエータキャップやリザーブタンクは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出することがありますので，エンジン停止後じゅうぶん冷えてから，メインスイッチのキーを抜いて行なってください。**

◆ 点検・補給

エンジンルームを開いたあと，リザーブタンク水量が **［LOW］**（下限）と **［FULL］**（上限）の間にあるか確かめます。**［LOW］**（下限）の線より下にあるときは，リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。点検・補給後は，リザーブタンクのキャップを取付けたあと，エンジンルームを閉じてください。

［FULL］

［LOW］

1ARADBIAP008B　リザーブタンク

重　要

＊ オーバーヒート時は，ラジエータ内の冷却水の水量を確認し，水量が不足しているときは，清水を補給してください。
＊ 冷却水が自然に不足したときは，必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

補　足

＊ **［FULL］**（上限）の線以上は補給しないでください。
＊ **［FULL］**（上限）で約 0.25L です。

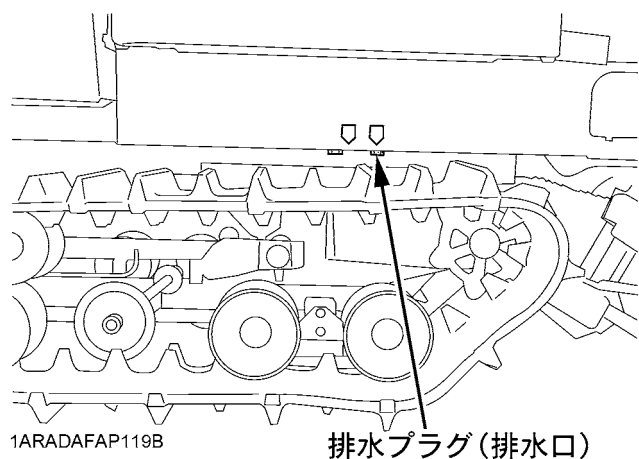
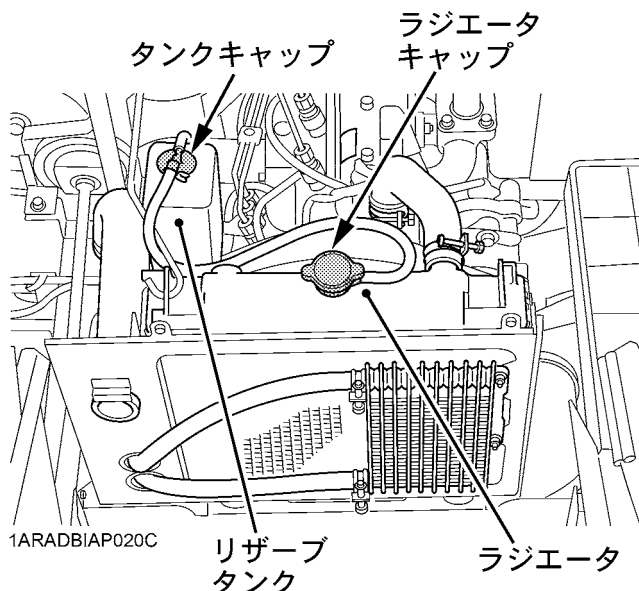
◆ 交換

1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと，ラジエータキャップを外して排水します。
2. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取外したあと，リザーブタンクを上側に抜いて取外し，排水します。
3. 水道水でごみやさびが出なくなるまで洗います。

タンクキャップ　ラジエータキャップ　リザーブタンク　ラジエータ

1ARADBIAP020C

排水プラグ（排水口）

1ARADAFAP119B

4. 排水口をボルトで取付けて，排水プラグを締付けたあと，目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータ及びリザーブタンクに入れます。

重　要

＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。
＊ 異なるメーカの不凍液を混用しないでください。エンジンの故障の原因となります。
＊ 排水プラグを締め忘れると水もれが発生したり，排水プラグ部を機体に取付け忘れると，ホースが破損するおそれがあります。

補　足

＊ 不凍液混合比は，寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して，下表を参照して混合比を決めてください。また，不凍液はエチレングリコール（EG）タイプの**ロングライフクーラント**をご使用ください。

● 不凍液混合比率表

外気温度（℃）		−5	−8	−11.5	−15	−20	−25	−30	−35	−43
比率	水（%）	85	80	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	15	20	25	30	35	40	45	50	55

※ 出荷標準　不凍液35%（北海道[H]向け:50%）
※ ラジエータ容量：3.3L
（リザーブタンク容量は含まない）
※ 新しい冷却水と交換を行なったあとは，必ず不凍液を入れて，５分間エンジンを空回転し，不凍液の混合を早めてください。そのあと，リザーブタンクの水量を確かめておいてください。

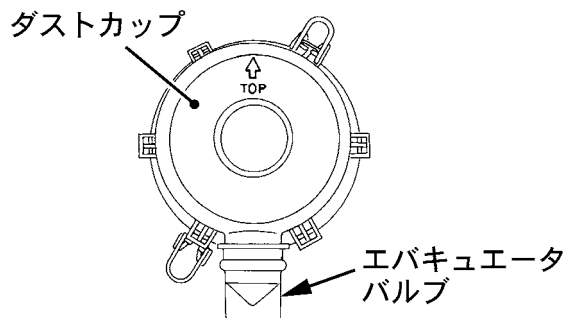
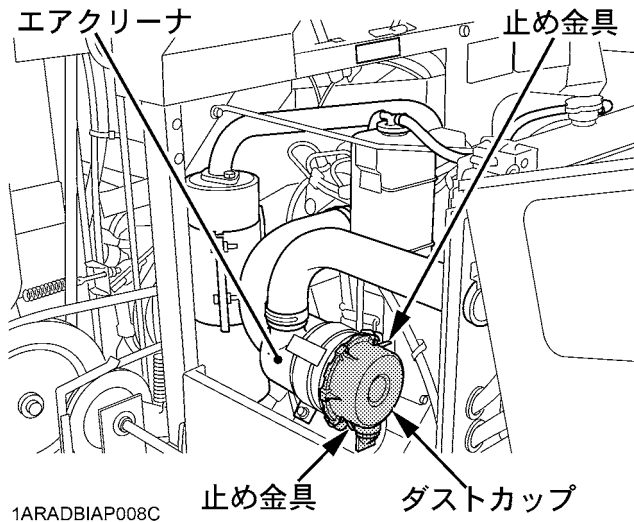
5. ラジエータキャップ及びリザーブタンク，キャップを取付けます。

■エアクリーナの点検･掃除･交換

エンジンルームを開いたあと，上，下２箇所の止め金具を外してダストカップを取外してください。ダストカップ内側のごみはエバキュエータバルブをつまんで取除いてください。

エアクリーナ
止め金具
止め金具
ダストカップ

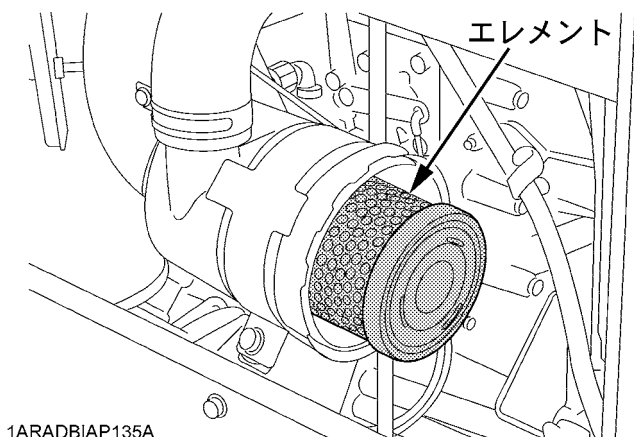
1ARADBIAP008C

ダストカップ
エバキュエータバルブ

1ARADAKAP093A

◆ 点検・掃除・交換

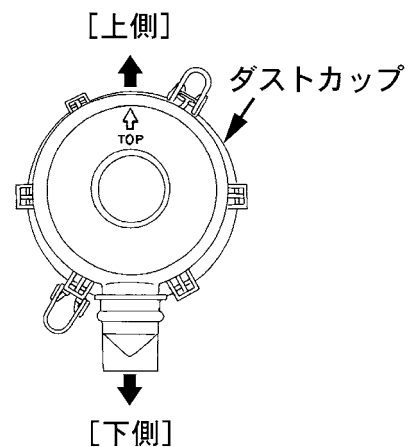
エレメントの点検を行ない，掃除又は，交換を行なってください。エレメントの掃除は，エレメントの内側から空気を吹きつけるか，又は軽く振ってごみを取除いてください。汚れのひどい場合や300時間経過しているときは，交換してください。

エレメント

1ARADBIAP135A

点検・掃除・交換を行なったあと，エンジンルームを閉じてください。

重 要

＊ 高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊ エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると，エンジンの出力が低下したり，エンジンオイルが異常に消耗又は劣化し，エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行なってください。
＊ エレメントは傷がつかないように取扱ってください。特に掃除時は，たたいたり，かたい物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。
＊ エレメントを取付けたあと，ダストカップの取付け方向に注意してください。
＊ ダストカップを取付けるときは，傾かないように取付けてください。傾いた状態で取付けるとすき間からほこりが侵入してエンジンの故障の原因となります。

[上側]
ダストカップ
[下側]

1ARADAKAP093B

＊ エレメントを掃除する場合，エアの圧力は205kPa（2.1kgf/㎠）をこえないよう注意し，エアガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。
また，エアはエレメントの内側から外側に通してください。

■パイプ，ホース類の点検

注　意

＊ 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹出し，ヤケドをするおそれがあります。
＊ 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。
＊ 使用者は交換作業を行なわないでください。

◆ 点検

エンジン，エアクリーナ，ラジエータ，燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し，油もれや水もれが発生しているときは，パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

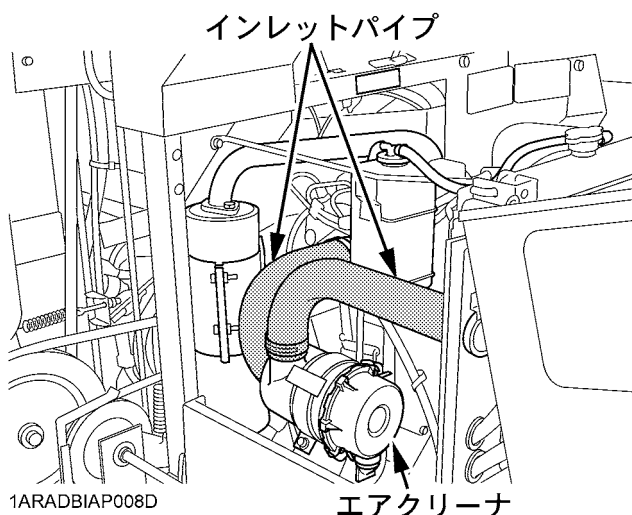
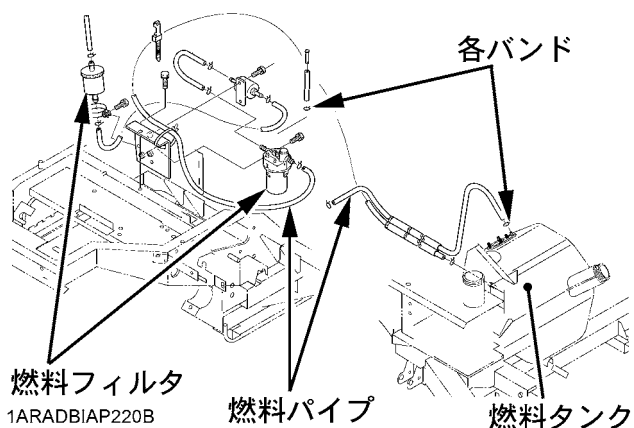
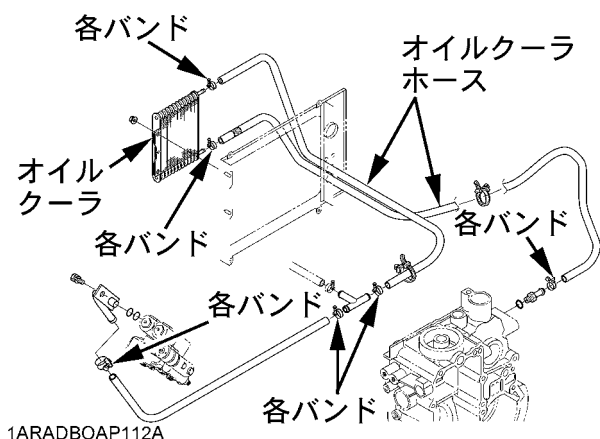
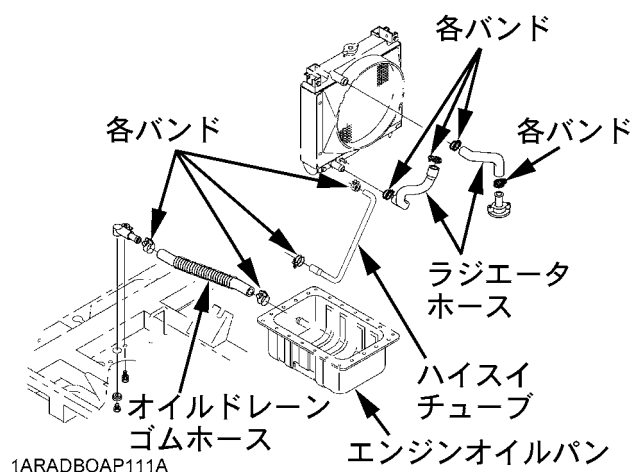
重　要

＊ オイルドレーンゴムホースが破損していると，エンジンが焼付きを起します。
＊ 油もれや水もれをしていなくても，**２年経過しているときや劣化の激しい場合**は購入先に連絡して交換してください。

1ARADBOAP111A

1ARADBOAP112A

1ARADBIAP220B

1ARADBIAP008D

■防じんあみ，ラジエータフィン・オイルクーラフィンの掃除

◆ 掃除

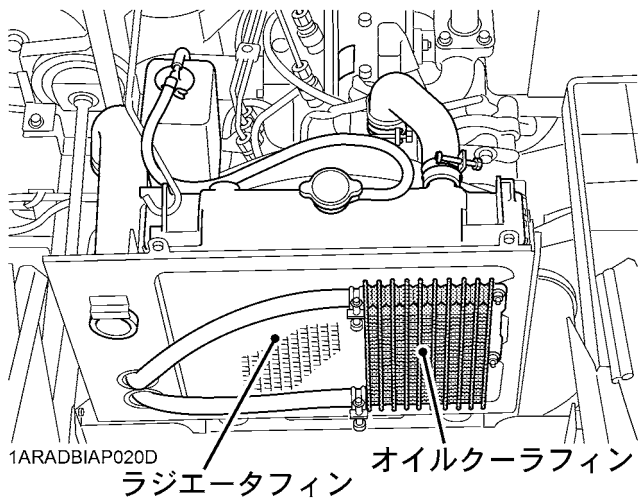
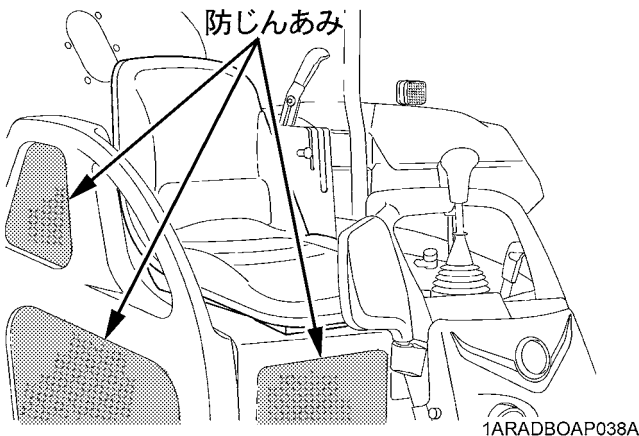
エンジンルームを開いたあと，圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部及びエンジンに付着しているごみなどを掃除してください。

防じんあみ

1ARADBOAP038A

1ARADBIAP020D

ラジエータフィン

オイルクーラフィン

重　要

＊ ヘラやドライバなど固いものや高圧洗車機を使用して，ラジエータフィンやオイルクーラは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め，ラジエータの機能を低下させる原因になります。

補　足

＊ ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は，オイルクーラを取外してから掃除してください。

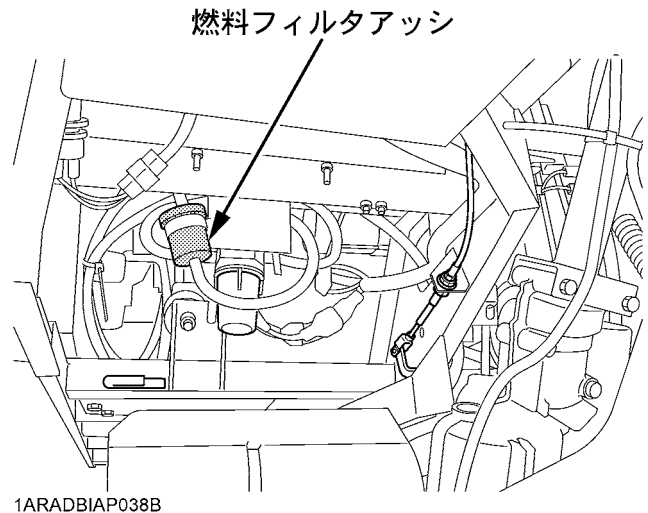
■燃料フィルタアッシの交換

◆ 交換

運転時間が200時間ごとに燃料フィルタアッシを交換してください。燃料フィルタアッシはステップの下側にあります。

燃料フィルタアッシ

1ARADBIAP038B

重　要

＊ フィルタ下部に水が溜まっているときは，早目に交換してください。

＊ 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ 交換後は，メインスイッチのキーを【入】位置にすると約30秒で自動的にエア抜きされます。

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

■燃料フィルタの掃除，燃料フィルタエレメントの交換

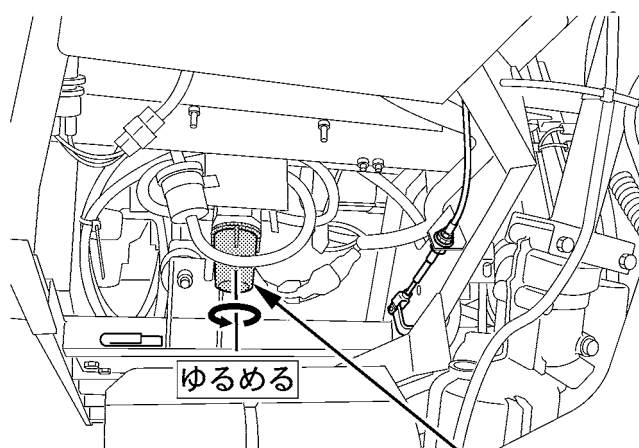
フィルタの掃除やエレメントの交換を行なうときは，燃料タンク内の燃料が半分以下になってから行なってください。燃料が半分以上あるときに，フィルタカップを取外すと燃料戻りパイプからフィルタに燃料が逆流することがあります。
また，燃料フィルタはステップ下側にありますのでステップを取外してください。

◆ 掃除・交換

重　要

＊ フィルタ下部に水が溜まっているときは，早目に掃除又は，交換してください。
＊ 燃料タンクにゴミなどの異物や水が混入すると，フィルタの目詰まりが早くなったり，フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。

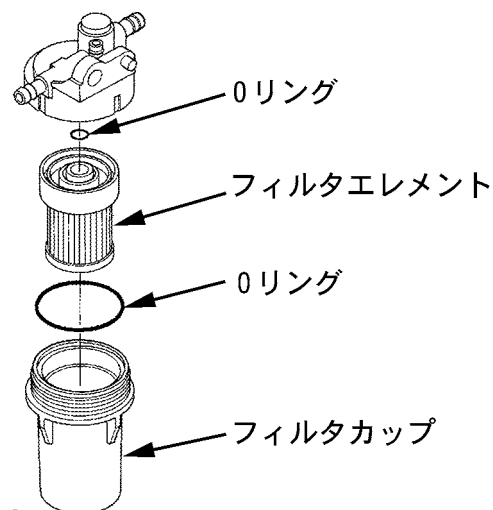
1. フィルタカップをゆるめて外します。

ゆるめる
フィルタカップ
1ARADBIAP038C

重　要

＊ フィルタカップを外すと，燃料タンクからの燃料流出は自動的に止まります。

2. フィルタエレメントを取出して**軽油**で0リングを含めて洗浄（すすぎ洗い）をします。このとき，汚れのひどい場合や運転時間が400時間経過しているときは交換してください。

0リング
フィルタエレメント
0リング
フィルタカップ
1ARADAFAP242C

重　要

＊ 0リングは傷つけないようにしてください。また，失くさないでください。
＊ 汚れ（目詰まり）がひどい場合は，洗浄を行なっても短時間で目詰まりします。

3. 0リングやフィルタエレメントにゴミが付着しないように元通りに組付けます。

重　要

＊ 0リングは溝にきちんと入れて組付けてください。
＊ ゴミが燃料内に混入すると，燃料ポンプや噴射ノズルの故障の原因となります。

補　足

＊ 掃除又は，交換後は，メインスイッチのキーを**［入］**位置にすると約30秒で自動的にエア抜きされます。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

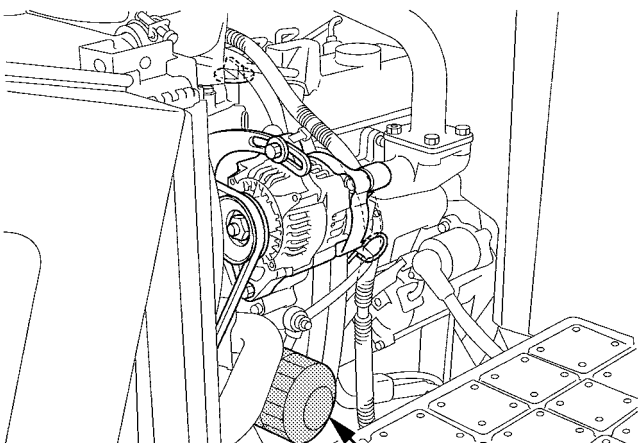
２回目のエンジンオイルの交換(116ページ参照)と同時に交換してください。交換するときは，エンジンルームを開いてください。

◆ 交換

1. 専用工具を使ってカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。

2. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
3. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと，５分程度エンジンを運転して各部及び油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから，エンジンを止め，再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。

1ARADBOAP048B
エンジンオイルフィルタカートリッジ

重　要

＊ 新しいカートリッジはＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，エンジンの故障の原因となります。

補　足

＊ オイルフィルタカートリッジを交換すると，オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

■ミッション，HST オイルフィルタカートリッジの交換

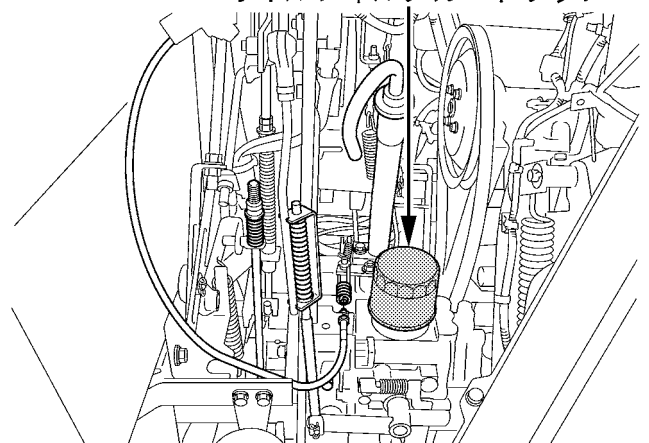
注　意

＊ 平たんで安全な場所で，機体を最下降位置にしてエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。
＊ 刈取部を上げて交換を行なうときは，刈取下降ロックスイッチを上げて，刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

1. ミッションオイルを排出します。(117ページ参照)
2. 専用工具を使ってミッション･HSTオイルフィルタカートリッジを取外します。

補　足

＊ 取外しかたや専用工具については，購入先にご相談ください。
＊ ミッション・HST オイルフィルタカートリッジを取外すとき，少しゆるめたあと，左・右に４～５回程度動かして，オイル抜きを行なってください。

ミッション・HST
オイルフィルタカートリッジ

1ARADBOAP033B

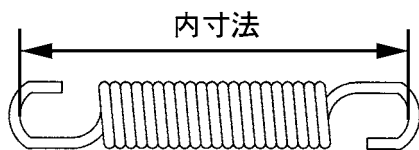
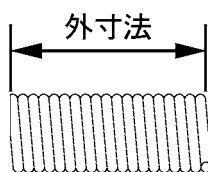
3. 新しいフィルタカートリッジを取付けます。
4. 117 ページを参照し，オイルを規定量給油します。

重　要

＊ 新しいカートリッジはＯリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。
＊ オイルフィルタカートリッジを交換するときに，ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり，ミッションや HST の故障の原因となります。
＊ 給油したあとエンジンを約１分間以上負荷をかけずに回転させて，再度点検を行ない検油口からオイルが出ないときは，オイルを追加補給してください。

■各部ワイヤ，ロッドの点検・調整

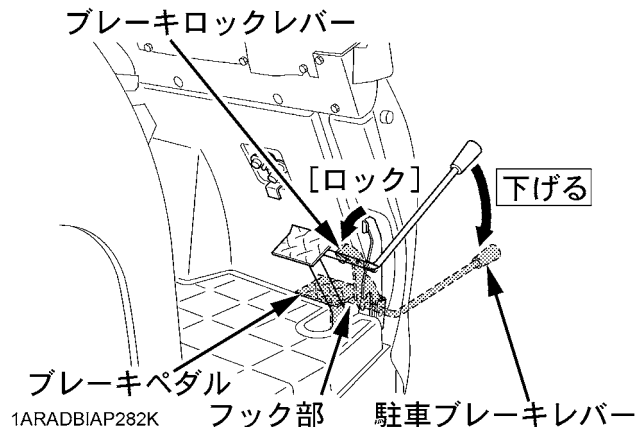
補　足

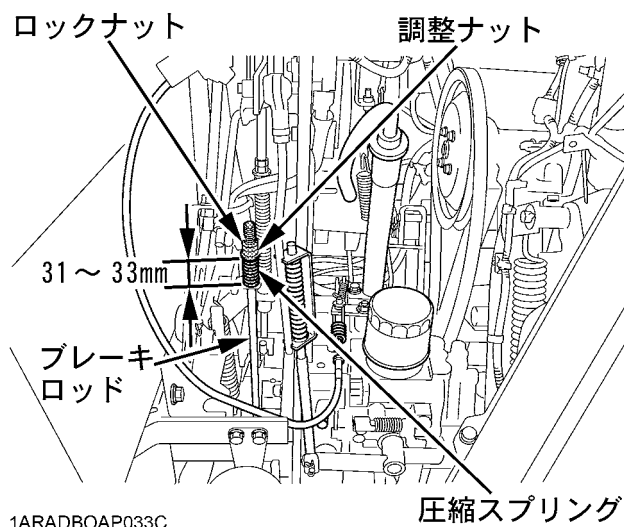
＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

1ARADAFAP214A

1ARADBLAP199A

■駐車ブレーキロッドの点検・調整

圧縮スプリングの長さを31～33㎜に調整します。

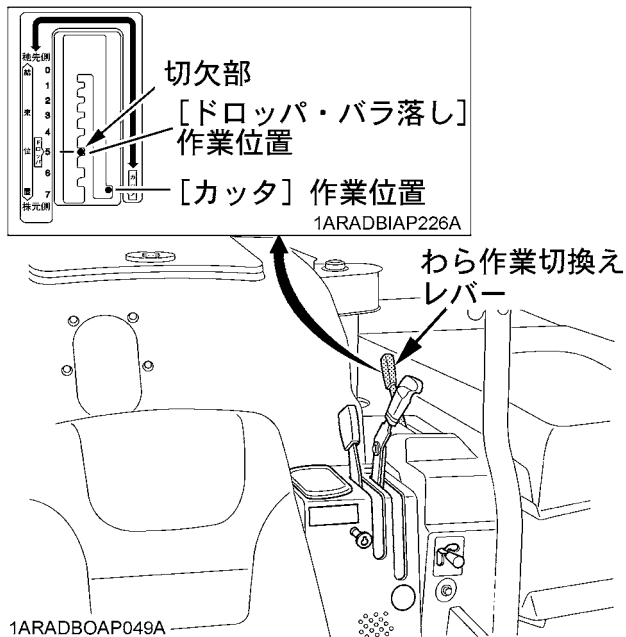
1. 駐車ブレーキを掛けます。

1ARADBIAP282K

2. レバーガイドシートをオープンします。(77ページ参照)
3. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
4. ロックナットを締付けます。

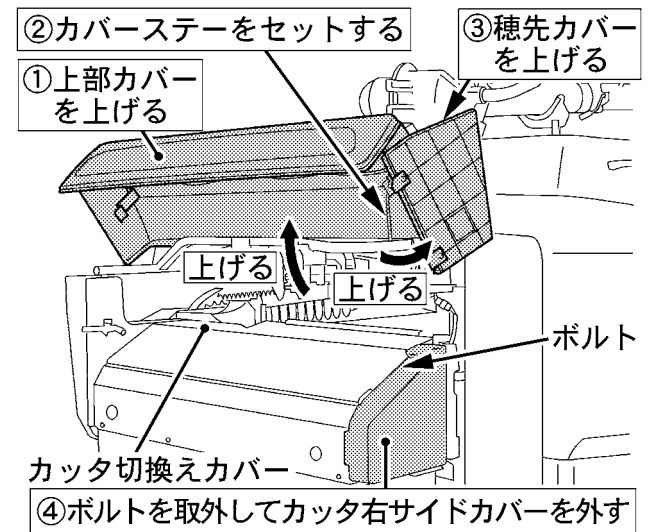
1ARADBOAP033C

5. 駐車ブレーキを解除します。
6. レバーガイドシートを降ろしたあと，コードバンドで固定します。
7. 調整後，駐車ブレーキが正常に作動するか再確認します。

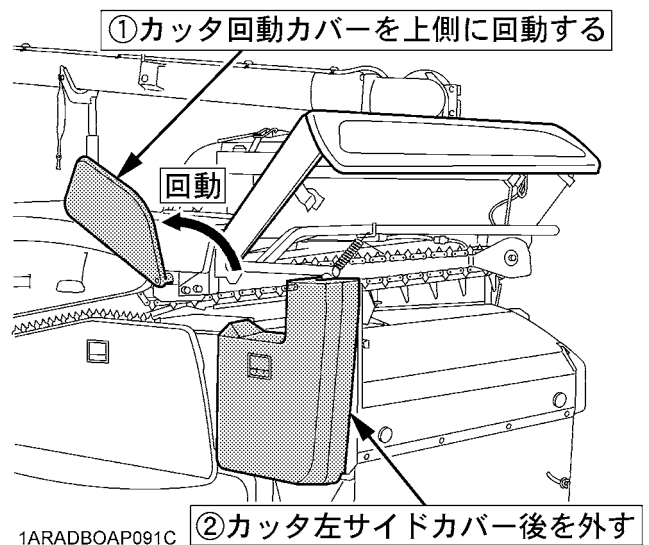
■排わら切換えワイヤの点検・調整

わら作業切換えレバーを**［カッタ］**作業位置にしたときカッタ切換えカバーが内側へ傾いているときは，カッタ切換えカバーの開閉ワイヤを張ってください。

1. わら作業切換えレバーを**［カッタ］**作業位置にします。

切欠部
［ドロッパ・バラ落し］作業位置
［カッタ］作業位置
1ARADBIAP226A
わら作業切換えレバー
1ARADBOAP049A

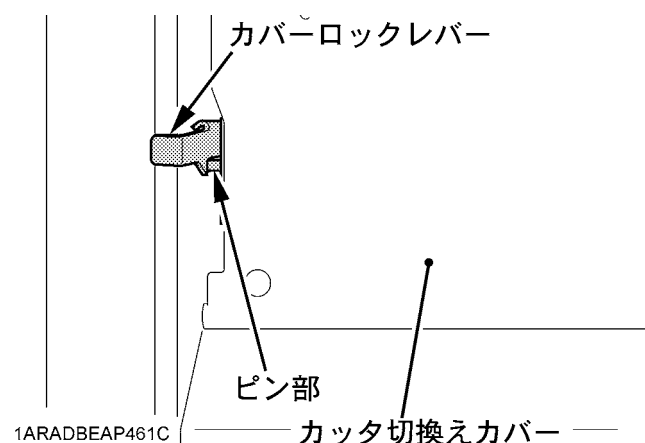
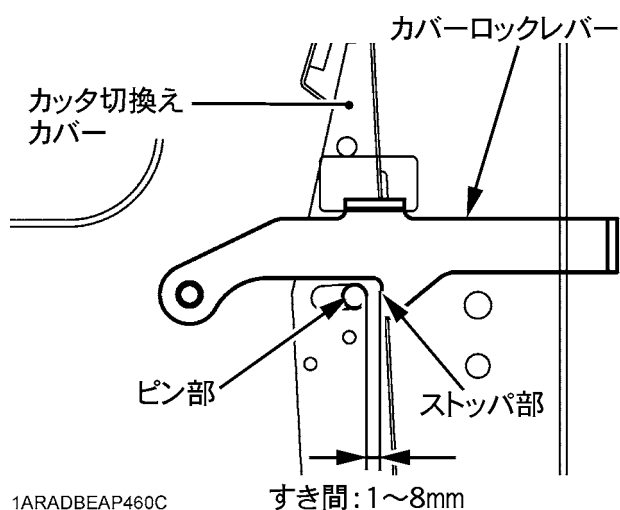
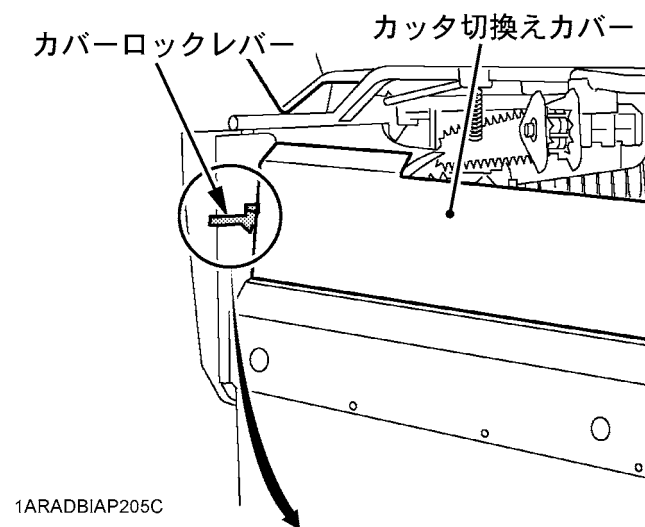
2. 上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。そのあと，ボルトを外してカッタ右サイドカバーを取外します。

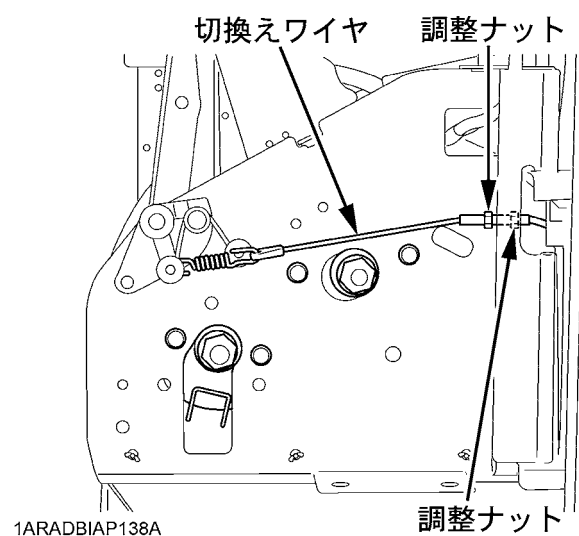
①上部カバーを上げる
②カバーステーをセットする
③穂先カバーを上げる
上げる
上げる
ボルト
カッタ切換えカバー
④ボルトを取外してカッタ右サイドカバーを外す
1ARADBOAP068C

3. カッタ回動カバーを上側に回動したあと，取手を引いてカッタ左サイドカバー後を外します。

①カッタ回動カバーを上側に回動する
回動
②カッタ左サイドカバー後を外す
1ARADBOAP091C

4. カッタ切換えカバーのピン部とカバーロックレバーのストッパ部のすき間を測定します。

1ARADBIAP205C

1ARADBEAP460C

1ARADBEAP461C

5. すき間が８ mm 以上あるときは，すき間を１～８ mm の範囲に調整します。
   (1) わら作業切換えレバーを **［ドロッパ・バラ落とし］** 作業位置にしていったんカッタ切換えカバーを閉じます。
   (2) 調整ナット２箇所をゆるめます。
   (3) 再度わら作業切換えレバーを **［カッタ］** 作業位置にします。
   (4) ピン部とストッパ部のすき間を１～８ mm に調整ナットでワイヤを張ります。
   (5) 調整ナット２箇所を締付けます。

1ARADBIAP138A

6. カッタ右サイドカバー及びカッタ左サイドカバー後を取付けたあと，カッタ回動カバーを降ろします。
7. 上部カバーと穂先カバーを閉じます。

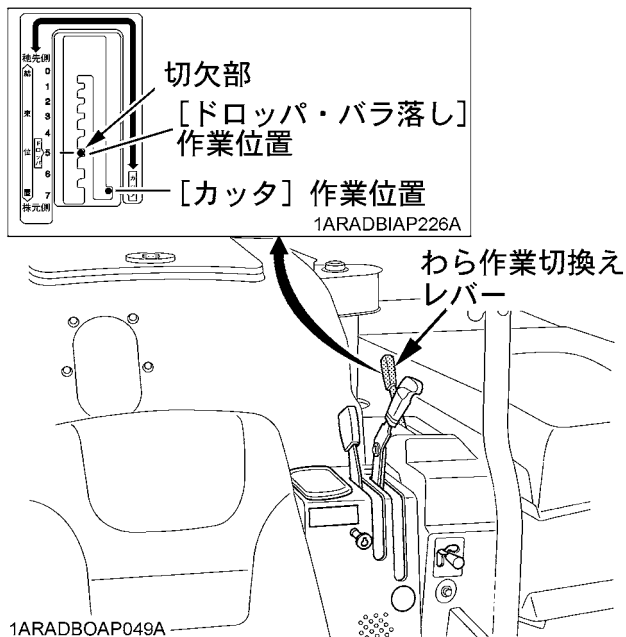
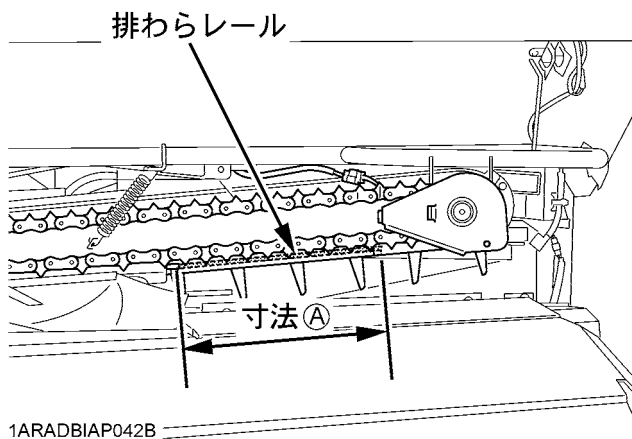
■排わらレールワイヤの点検・調整

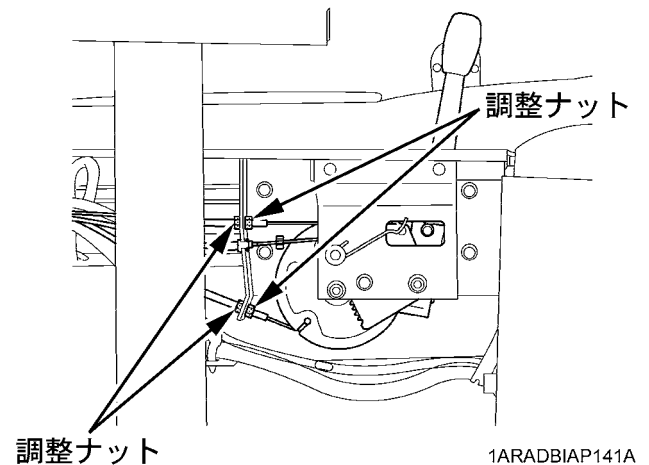
わら作業切換えレバーを**［ドロッパ］**作業位置にしたとき，カッタ上部排わら株元チェーン下側にある排わらレールの出代を260～295mmに調整します。

1. わら作業切換えレバーを**［ドロッパ］**作業位置にします。

1ARADBIAP226A
1ARADBOAP049A

2. 下図の出代の寸法Ⓐを測定します。

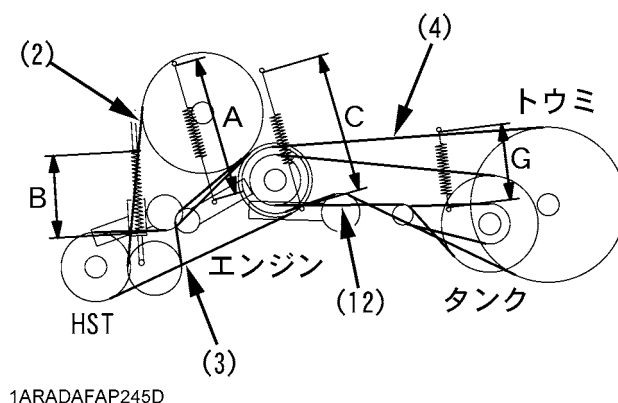
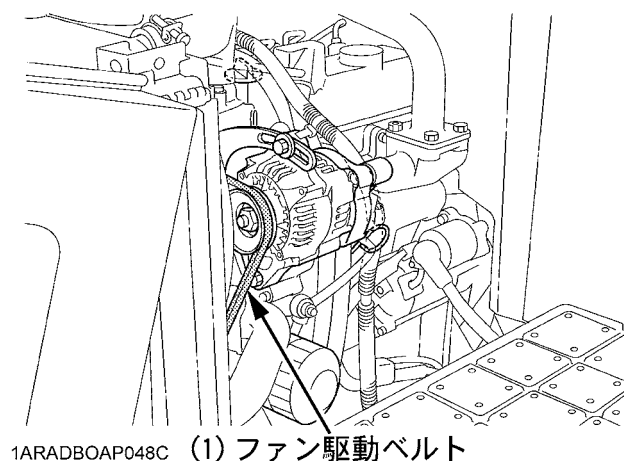
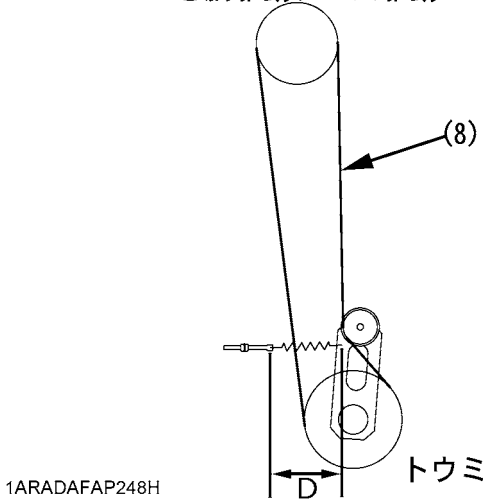
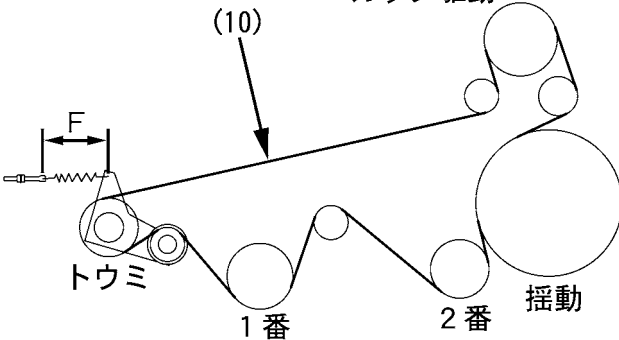
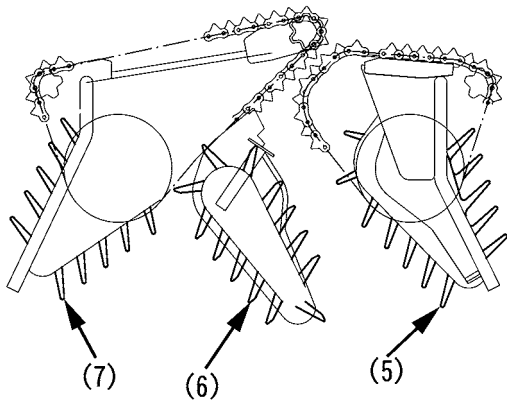
1ARADBIAP042B

3. グレンタンクを開きます。
4. 寸法Ⓐが規定値（260～295mm）から外れているときは1番縦スクリュ後部にある2箇所の調整ナットで調整します。調整ナットをゆるめて調整を行ない，調整後は調整ナットを締付けます。

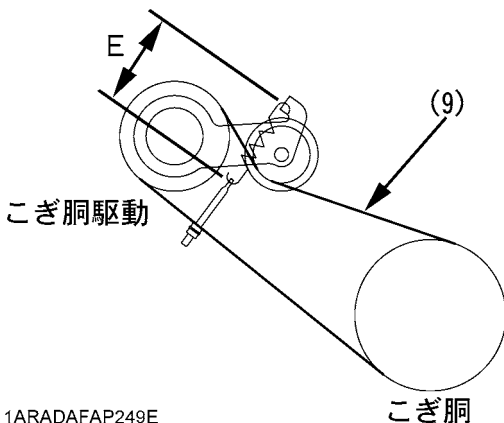
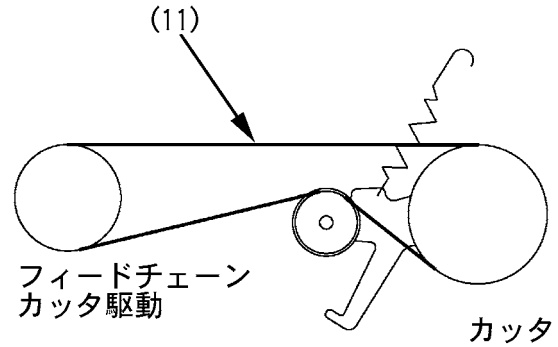
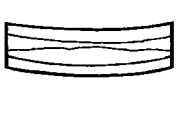
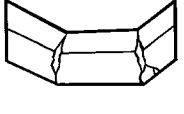
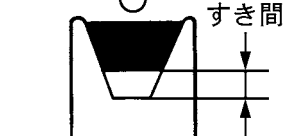
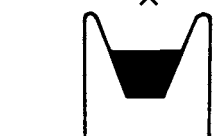
1ARADBIAP141A

5. グレンタンクを閉じます。

■各部ベルトの点検·調整

下表を参照して，各部ベルトの張り調整を行なってください。

点検箇所	図番	名称	適応機種	サイズ	本数（本／台）	張り調整		
						テンションスプリング取付け長さ（mm）		たわみ量（mm）
運転席・刈取部周辺	（1）	ファン駆動ベルト	［全機種］	37 ブイベルト	1	－		5 ～ 10
	（2）	刈取駆動ベルト	［全機種］	特 B44（コグ）	1	A	202 ～ 208	－
	（3）	走行（ミッション）駆動ベルト	［全機種］	特 B45	1	B	147 ～ 153	－
	（4）	脱こく駆動ベルト	［320］	特 C67	1	C	257 ～ 263	－
			［323］	特 C66				
	（5）	補助搬送（突起付）ベルト（左）	［全機種］	特 32	1	－		5 ～ 10
	（6）	補助搬送（突起付）ベルト（中）		特 29	1	－		
	（7）	補助搬送（突起付）ベルト（右）		特 35	1	－		
脱こく部・カッタ部周辺	（8）	こぎ胴駆動ケース駆動ベルト	［全機種］	特 C84	1	D	116 ～ 126	－
	（9）	こぎ胴駆動ベルト	［全機種］	特 B50	2	E	125 ～ 135	－
	（10）	１番・２番・揺動・フィードチェーン駆動ベルト	［全機種］	特 B120	1	F	119 ～ 129	－
	（11）	カッタ駆動ベルト	［全機種］	特 B47	1	スプリングの掛け換え		－
グレンタンク部	（12）	グレンタンク駆動ベルト	［全機種］	特 A47	1	G	142 ～ 148	－

1ARADBOAP048C （1）ファン駆動ベルト

1ARADAFAP245D

1ARADAFAP248H

1ARADAFAP250E

1ARADAFAP247F

1ARADAFAP249E

1ARADAFAP315F

◆ 点検

各部のベルトを点検するときは, 下記の事項をよく確認してください。

1. ベルトの焼付きや摩耗, 被覆のはがれ, き裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×

2. ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

3. ベルトの伸び (たわみ量)

1AEADAFAP441A

上記の事項を確認したとき, 異常があればベルト交換又は, ベルトの張り調整を行なってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

重　要

＊ ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

◆ **調整**

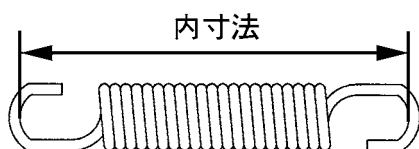
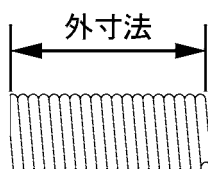
ベルトが伸びているとき（スリップが発生しやすい）は，張り調整を行なってください。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

内寸法

1ARADAFAP214A

外寸法

圧縮スプリング

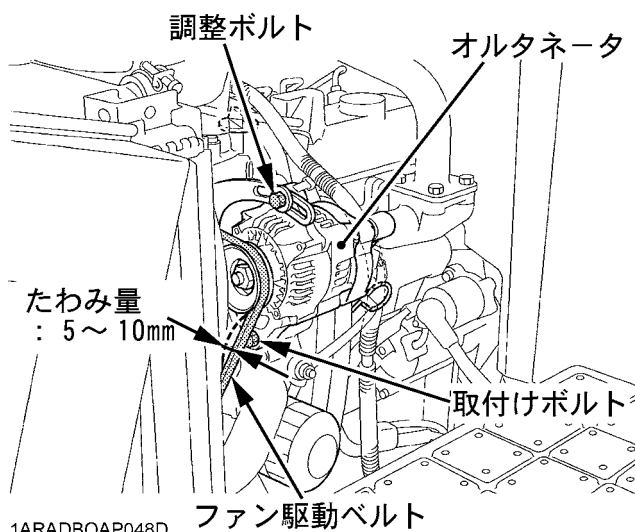
1ARADBLAP199A

■ファン駆動ベルトの点検･調整

指先でベルトの中央部を押したとき(約 60 ～ 70N {6 ～ 7kgf} の荷重）のたわみ量を 5 ～ 10mm に調整します。

1. エンジンルームを開きます。
2. オルタネータの取付けボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. オルタネータを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締付けたあと取付けボルトを締付けます。

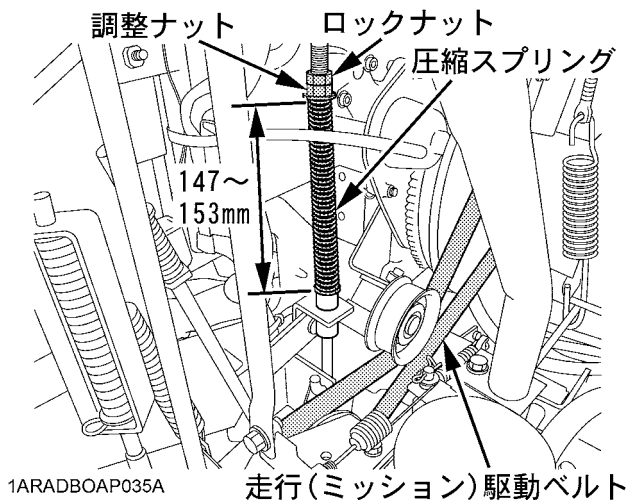
調整ボルト
オルタネータ
たわみ量
：5～10mm
取付けボルト
ファン駆動ベルト

1ARADBOAP048D

5. エンジンルームを閉じます。

■ミッション駆動ベルトの点検･調整

圧縮スプリングの長さを147～153mmに調整します。

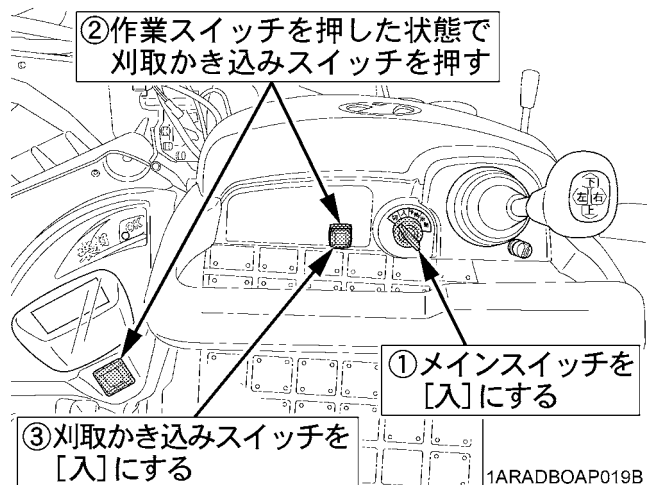
1. レバーガイドシートを開きます。(77 ページ参照)
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けます。

調整ナット
ロックナット
圧縮スプリング
147～153mm
走行(ミッション)駆動ベルト
1ARADBOAP035A

4. レバーガイドシートを降ろしたあと，コードバンドで固定します。

■刈取駆動ベルトの点検･調整

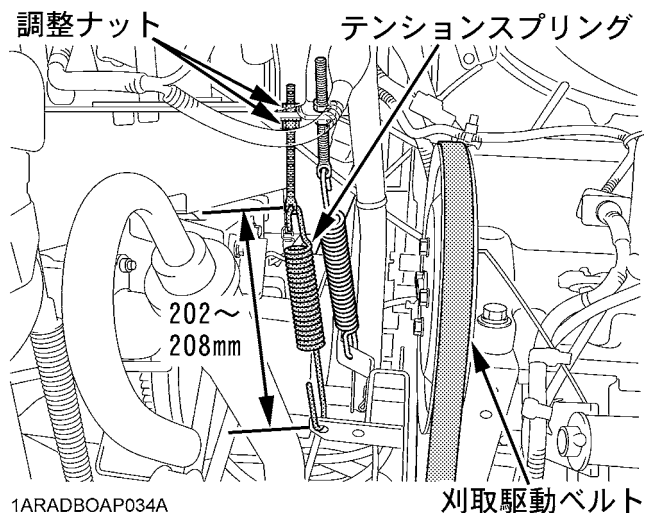
テンションスプリングの長さを202～208mmに調整します。

1. 刈取部を地面に着くまで降ろします。
2. エンジンを停止したあと，メインスイッチのキーを**［入］**位置にします。
3. 作業スイッチを押したままの状態で刈取かき込みスイッチを押して脱こくクラッチを**入**の状態にします。このとき，作業スイッチのランプは**点灯**，刈取かき込みスイッチは**消灯**状態となります。
4. 刈取かき込みスイッチを押して刈取りクラッチを**入**の状態にします。このとき，刈取かき込みスイッチは**点灯**状態となります。

②作業スイッチを押した状態で刈取かき込みスイッチを押す
①メインスイッチを［入］にする
③刈取かき込みスイッチを［入］にする
1ARADBOAP019B

補　足

＊ エンジンが停止状態のとき，作業スイッチを押しただけでは脱こくクラッチは**［入］**の状態にはなりません。また，脱こくクラッチを**［入］**の状態にしないと，刈取かき込みスイッチを押しても刈取クラッチは**［入］**の状態にはなりません。
＊ 刈取かき込みスイッチを**［切］**にすると刈取クラッチが切れるため，テンションスプリングがゆるみます。

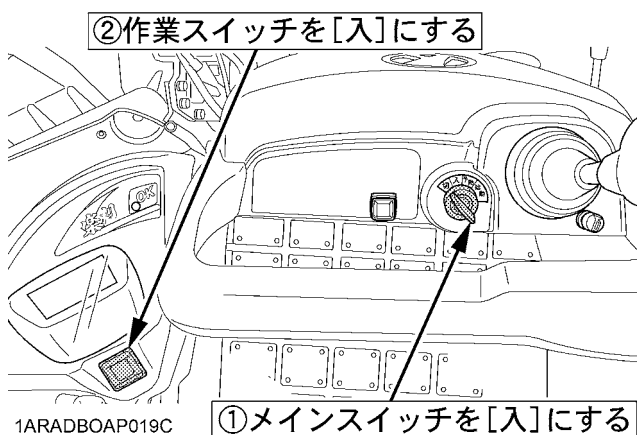
5. 脱こく入口プレートを取外します。
6. 調整ナット２個をゆるめて，調整を行ないます。
7. 調整ナットを締付けたあと，脱こく入口プレートを取付けます。

調整ナット
テンションスプリング
202～208mm
1ARADBOAP034A
刈取駆動ベルト

8. メインスイッチのキーを【切】位置にします。

■脱こく駆動ベルトの点検･調整

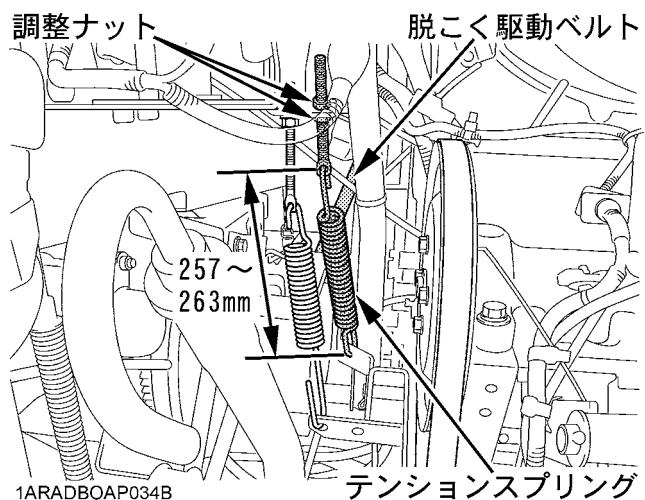
テンションスプリングの長さを257～263mmに調整します。

1. エンジンを停止したあと，メインスイッチのキーを【入】位置にします。
2. **■刈取駆動ベルトの点検・調整**の手順の３，４を行ないます。

②作業スイッチを［入］にする
1ARADBOAP019C
①メインスイッチを［入］にする

補 足

＊ 脱こく駆動ベルトの調整は，刈取クラッチを**入**の状態で行なってください。
＊ 作業スイッチを【切】にすると脱こくクラッチが切れるため，テンションスプリングがゆるみます。

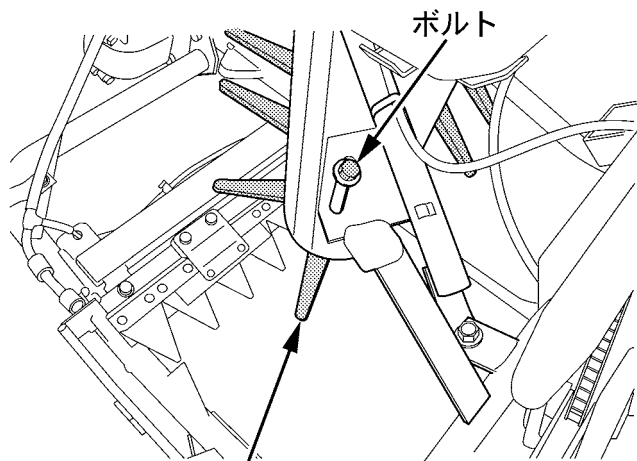
3. 調整ナット２個をゆるめて調整を行ないます。
4. 調整ナットを締付けます。

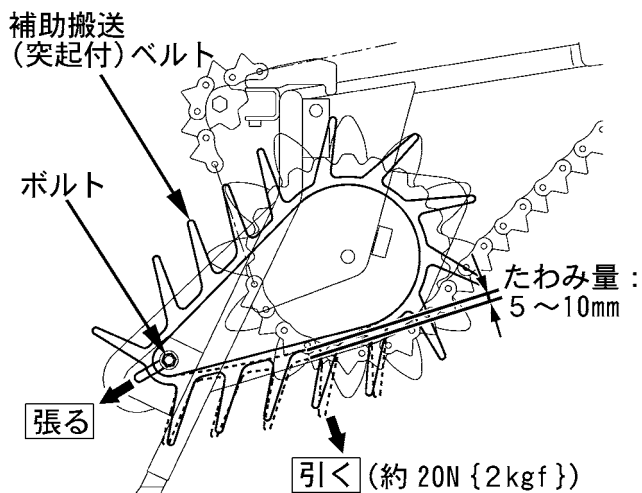
調整ナット
脱こく駆動ベルト
257～263mm
1ARADBOAP034B
テンションスプリング

5. メインスイッチのキーを【切】位置にします。

■補助搬送（突起付）ベルトの点検･調整

指先でベルトの中央部を引いたとき（約20N{ 2 kgf} の荷重）のたわみ量を5～ 10mm に調整します。

1. 引起しサイドカバー右・左を取外します。
2. ボルトをゆるめます。
3. ボルトを前方に少しずつ張りながらベルトの調整を行なったあとボルトを締付けます。
4. 引起しサイドカバー右・左を取付けます。

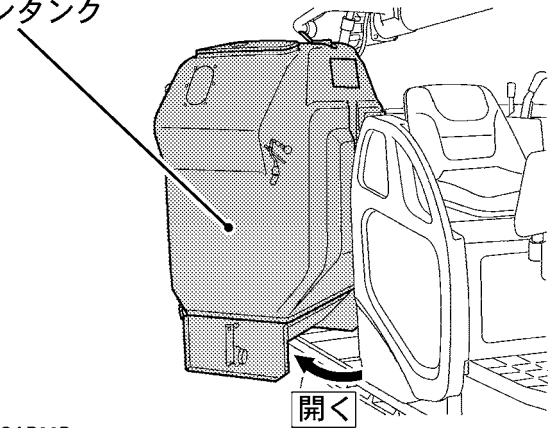
ボルト
補助搬送（突起付）ベルト

1ARADBOAP030A

補助搬送（突起付）ベルト
ボルト
たわみ量：5～10mm
張る
引く（約 20N {2kgf}）

1ARADBOAP097A

■こぎ胴駆動ケース駆動ベルトの点検・調整

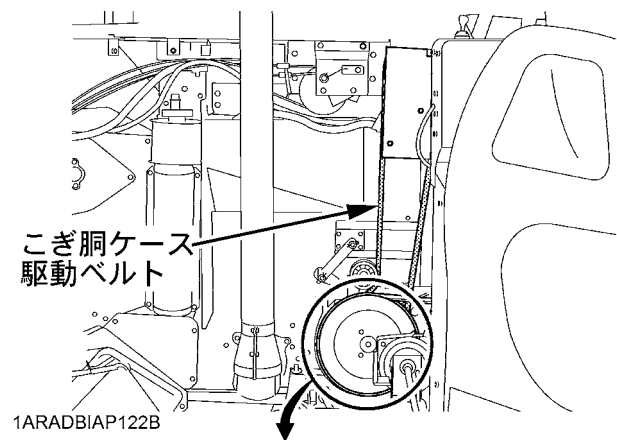
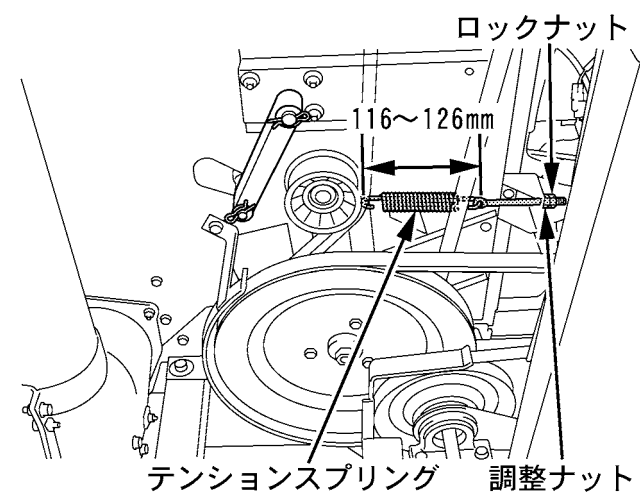
テンションスプリングの長さを116～126mmに調整します。

1. グレンタンクを開きます。

グレンタンク
開く

1ARADBOAP96B

2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，グレンタンクを閉じます。

こぎ胴ケース駆動ベルト

1ARADBIAP122B

ロックナット
116～126mm
テンションスプリング
調整ナット

1ARADAFAP141A

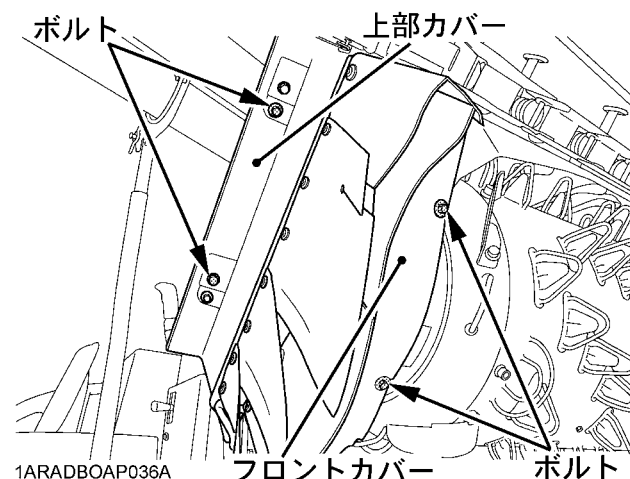
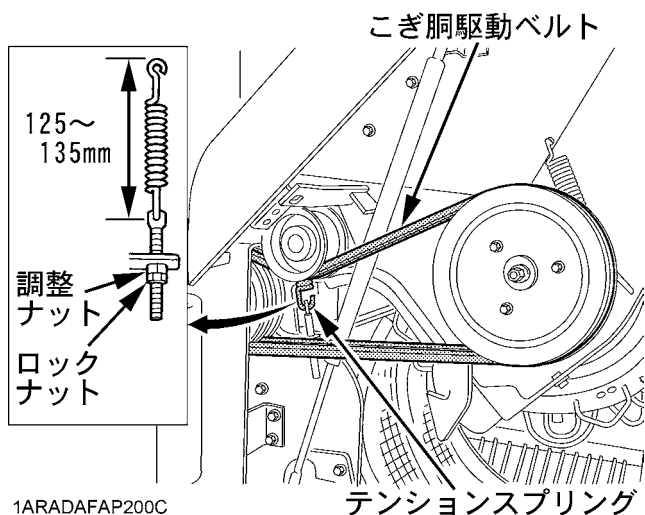
■こぎ胴駆動ベルトの点検･調整

テンションスプリングの長さを125～135㎜に調整します。

1. 上部カバーを取付けているボルト２本を取外します。
2. こぎ胴を開いたあと，こぎ胴フロントカバーを取付けているボルト２本をゆるめます。そのあと，フロントカバーを前方に取外します。

1ARADBOAP036A

3. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。

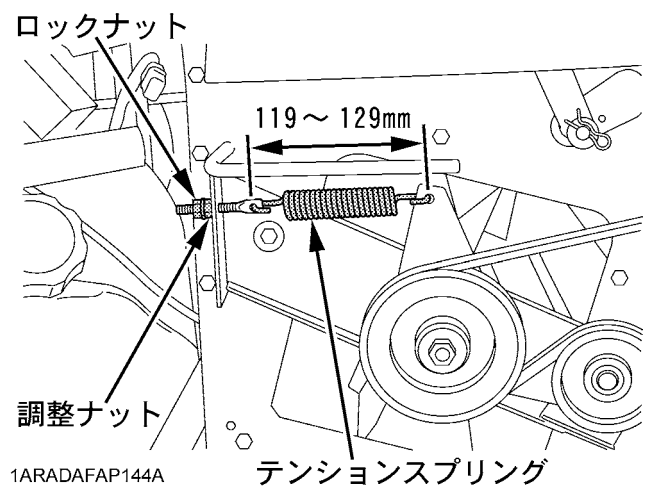
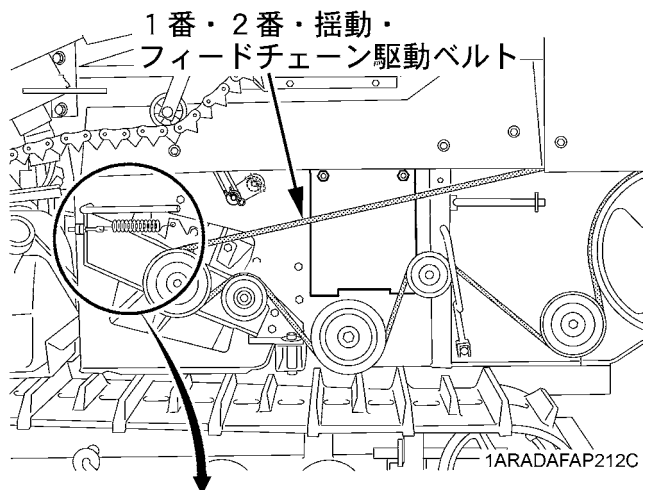
1ARADAFAP200C

4. ロックナットを締付けたあと，こぎ胴フロントカバーを取付けます。
5. こぎ胴を閉じます。

■１番，2番，揺動，フィードチェーン駆動ベルトの点検･調整

テンションスプリングの長さを119～129㎜に調整します。

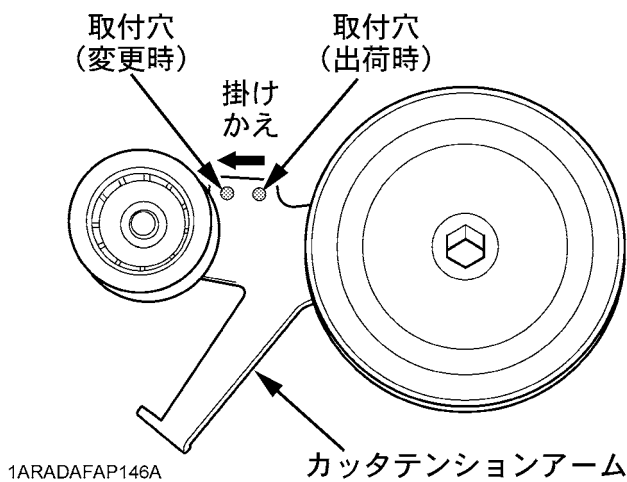
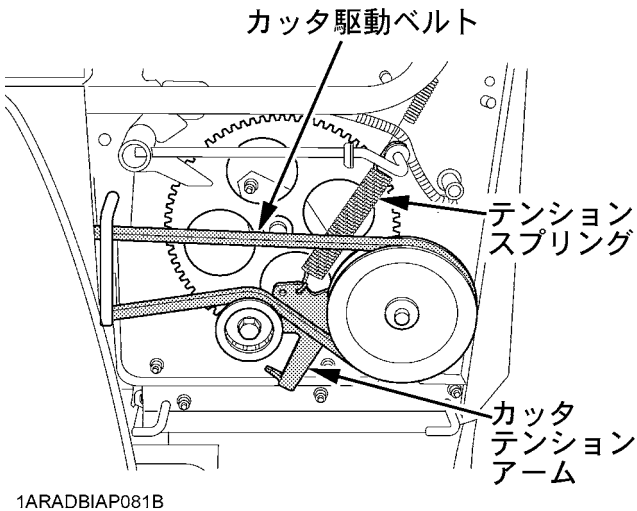
1. 左サイドカバー上・下を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，左サイドカバー上・下を取付けます。

1ARADAFAP212C

1ARADAFAP144A

■カッタ駆動ベルトの点検・調整

ベルトの張りが弱いときは，テンションスプリングを取付けているカッタテンションアーム側の取付穴の位置を変更（掛けかえ）してください。

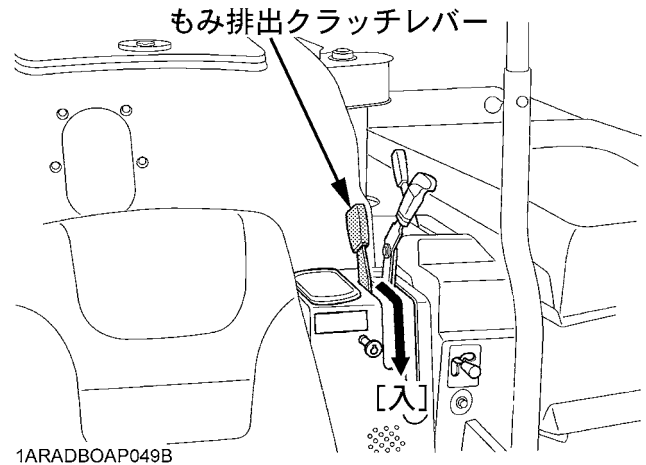
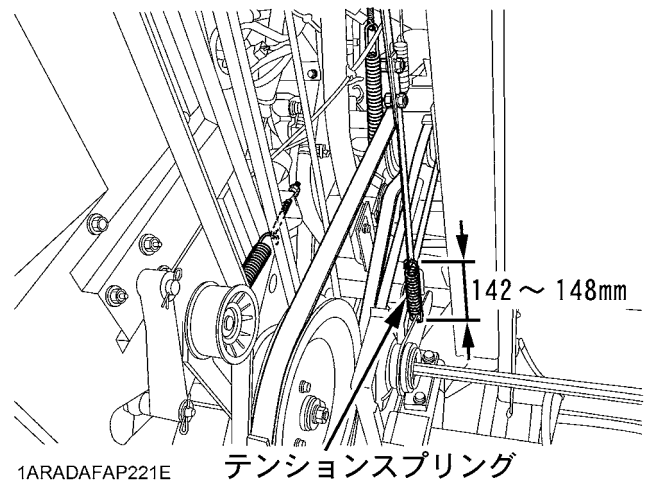
カッタ駆動ベルト
テンションスプリング
カッタテンションアーム
1ARADBIAP081B

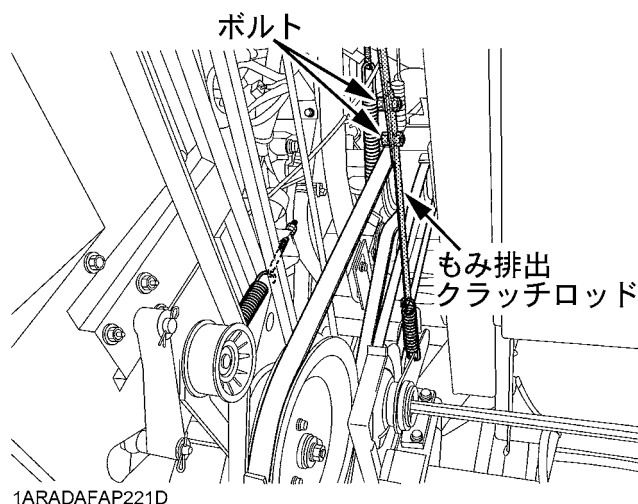
取付穴（変更時）
取付穴（出荷時）
掛けかえ
カッタテンションアーム
1ARADAFAP146A

■グレンタンク駆動ベルトの点検･調整

テンションスプリングの長さを142～148mmに調整します。

1. グレンタンクを開きます。（90 ページ参照）
2. もみ排出クラッチレバーを【入】位置にします。

もみ排出クラッチレバー
[入]
1ARADBOAP049B

3. テンションスプリングの長さを測定します。

142～148mm
テンションスプリング
1ARADAFAP221E

4. 規定値（142 ～ 148mm）から外れているときは，もみ排出クラッチレバーをいったん【切】位置にします。
5. もみ排出クラッチロッド中間位置にある２箇所のボルトをゆるめて，調整を行ないます。

ボルト
もみ排出
クラッチロッド
1ARADAFAP221D

6. ２箇所のボルトを締付けたあと，もみ排出クラッチレバーを【入】位置にしてテンションスプリングが規定値になっていることを確認します。
7. グレンタンクを閉じます。

■各部チェーンの点検･調整

◆ 点検

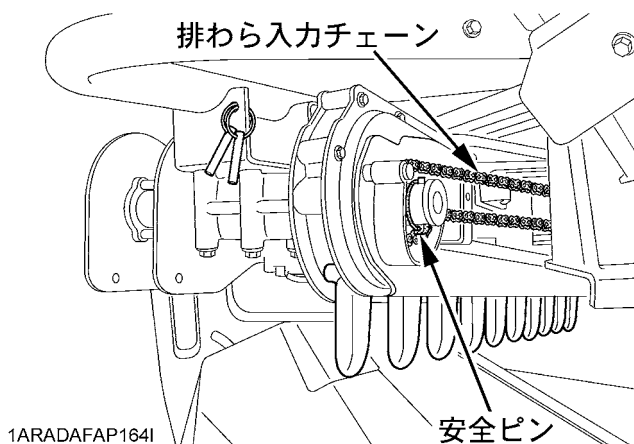
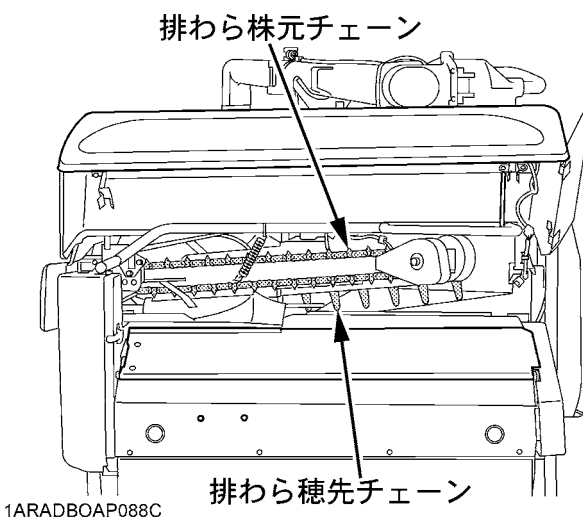
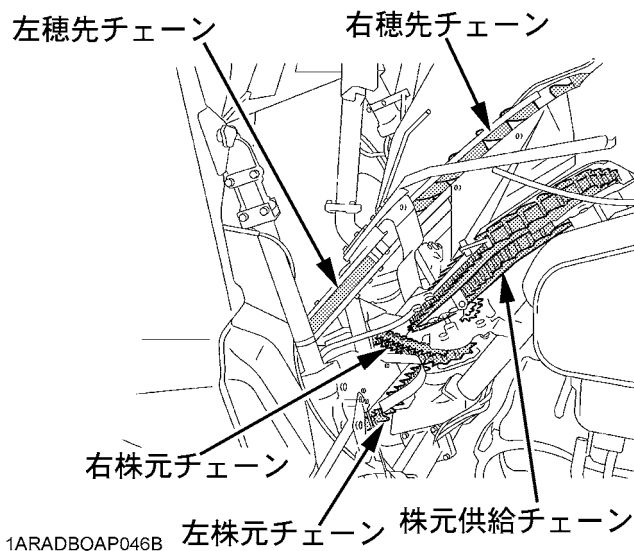
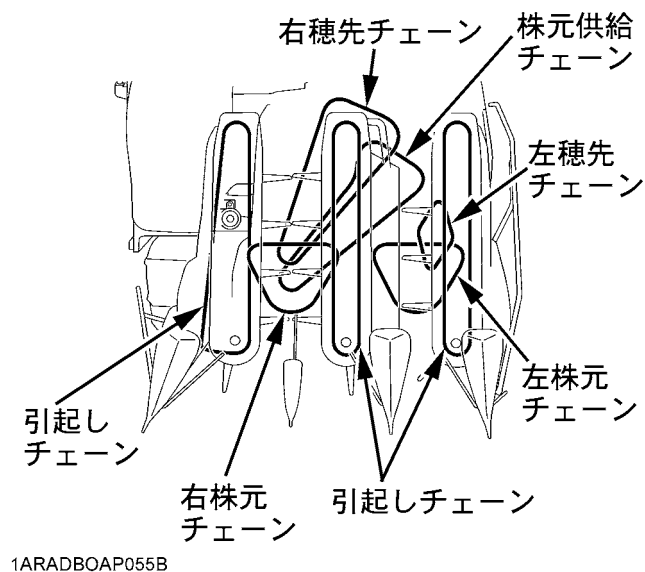
各部のチェーンを点検して，ゆるみがあるときは調整してください。

● 点検箇所

右穂先チェーン
株元供給チェーン
左穂先チェーン
左株元チェーン
引起しチェーン
右株元チェーン
引起しチェーン
1ARADBOAP055B

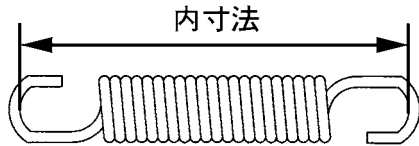
左穂先チェーン
右穂先チェーン
右株元チェーン
左株元チェーン
株元供給チェーン
1ARADBOAP046B

排わら株元チェーン
排わら穂先チェーン
1ARADBOAP088C

排わら入力チェーン
安全ピン
1ARADAFAP164I

◆ **調整**
チェーンが伸びているときは，張り調整を行なってください。

補　足

＊ スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。

内寸法

1ARADAFAP214B

■引起しチェーンの点検･調整

引起しチェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，引起しチェーンを張っているテンションスプリングのラチェット歯の位置が下記の位置まで移動して引起しチェーンが伸びたときは，購入先に連絡して交換してください。

- 左側と中央部は，ラチェット歯の終端がブラケットまで移動しているとき
- 右側はラチェット歯下側にある割りピンがブラケット下端部に接触するまで移動しているとき

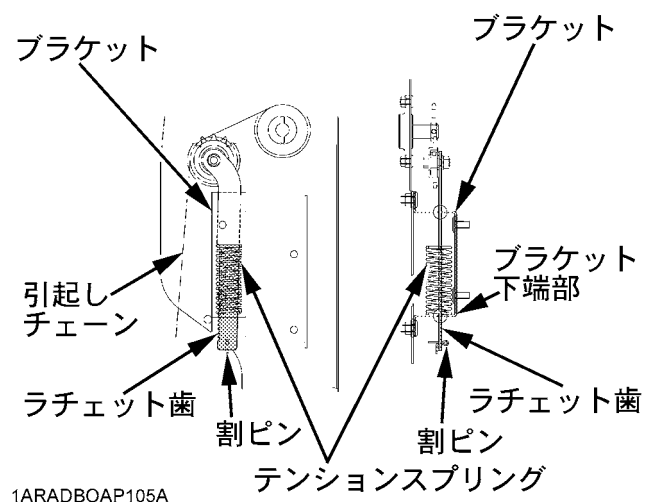
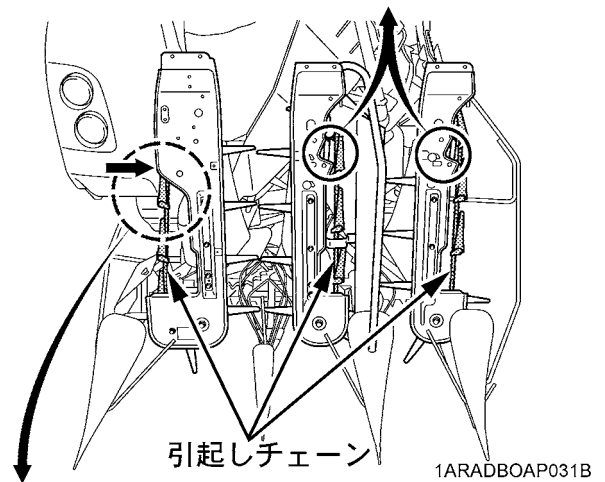
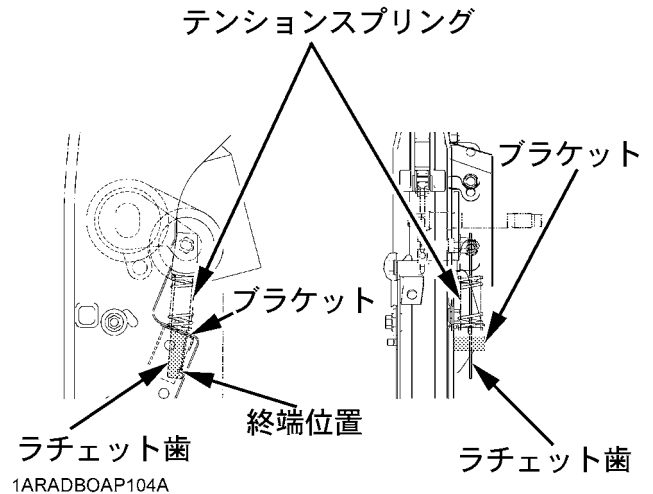
点検するときは引起しカバーを取外してください。また，右側は右横から点検してください。点検後は引起しカバーを取付けてください。

テンションスプリング
ブラケット
ブラケット
終端位置
ラチェット歯
ラチェット歯

1ARADBOAP104A

引起しチェーン

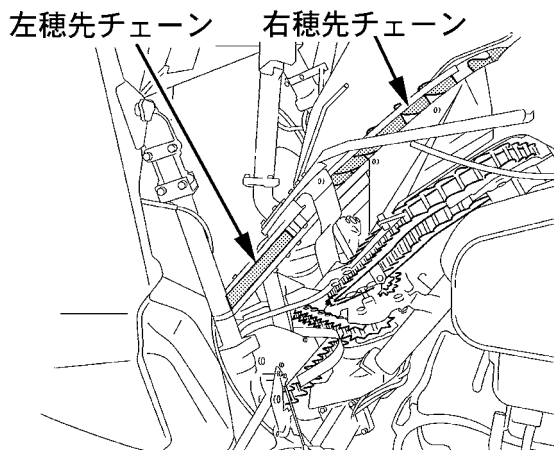
1ARADBOAP031B

ブラケット
ブラケット
ブラケット下端部
引起しチェーン
ラチェット歯
割ピン
ラチェット歯
割ピン
テンションスプリング

1ARADBOAP105A

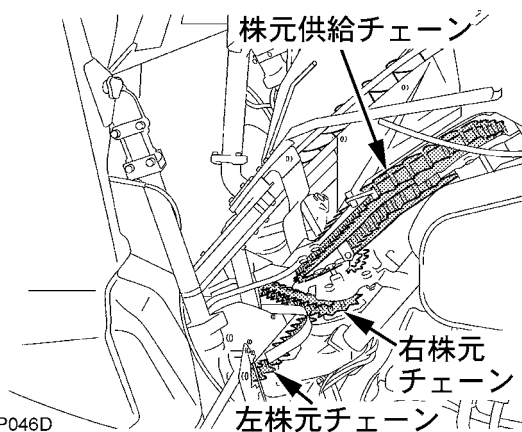
補　足

＊ チェーンが，伸びるとラチェット歯がスプリングに引張られ上昇します。
＊ 右側と中央部は，ラチェット歯が終端位置より１～２段上の位置にあるときに早目に交換を行なってください。

■左穂先チェーン，右穂先チェーンの点検

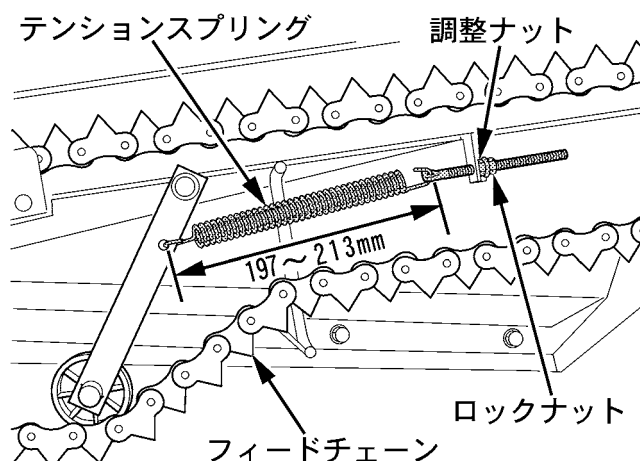
自動テンションになっていますがチェーンが伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

1ARADBOAP046C

■左株元チェーン，右株元チェーン，株元供給チェーンの点検・調整

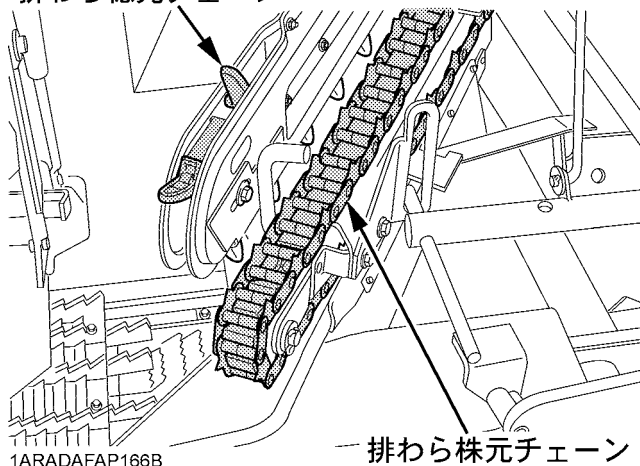
左，右株元チェーン，株元供給チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，伸びたときは購入先に連絡して修理を依頼してください。

1ARADBOAP046D

■フィードチェーンの点検･調整

テンションスプリングの長さを197～213㎜に調整します。

1. 左サイドカバー上を取外します。
2. ロックナットと調整ナットをゆるめて，調整ナットで調整を行ないます。
3. ロックナットを締付けたあと，左サイドカバー上を取付けます。

1ARADAFAP165A

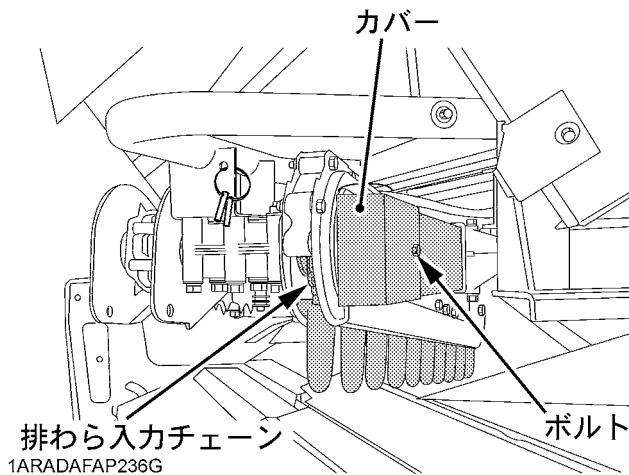
■排わら穂先チェーン，排わら株元チェーンの点検

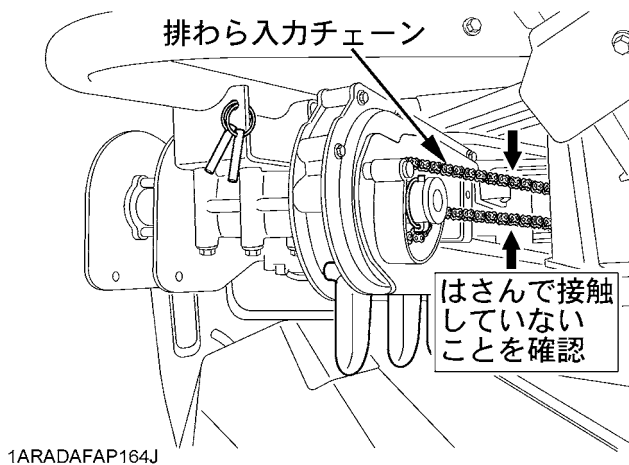
排わら穂先チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，チェーンが伸びたときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

1ARADAFAP166B

■排わら入力チェーンの点検

排わら入力チェーンの張り調整は自動（自動テンション）で行ないますが，指で上下のチェーンをはさむと接触するときは，購入先に連絡してください。

1. ボルトを取外して排わら入力チェーンカバーを外します。

カバー
排わら入力チェーン
ボルト
1ARADAFAP236G

2. 指で排わら入力チェーンの上下の幅が一番狭いところをはさみ，入力チェーンの上側と下側が接触していないか確認します。

排わら入力チェーン
はさんで接触していないことを確認
1ARADAFAP164J

3. 排わら入力チェーンカバーを取付けます。

■刈刃の点検・調整

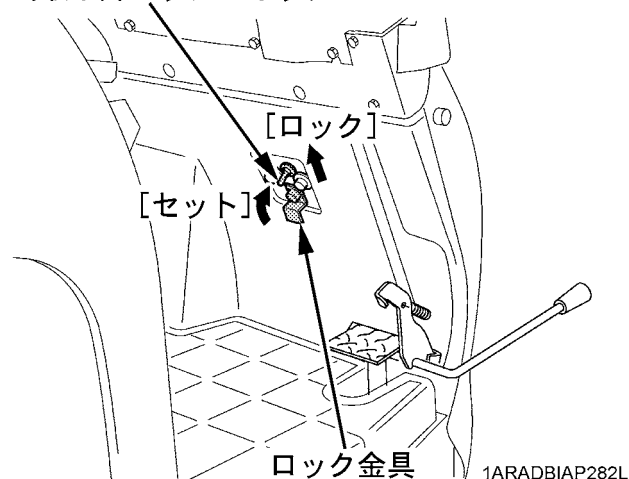
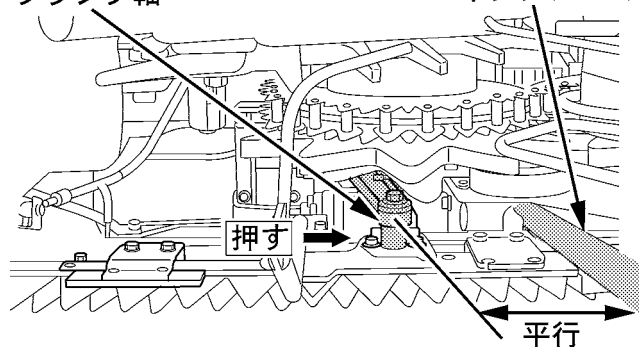
注意

＊ **平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。**
＊ **刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。**
＊ **刈刃を左，右に動かすときは，刃先を持たないでください。**
＊ **脱着作業は手袋をして，２人で刈刃の両端を持って行なってください。**

刈刃の刃先が摩耗してきたり，欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり，引抜きを起こすことがありますので，早目の点検・調整・交換を行なってください。

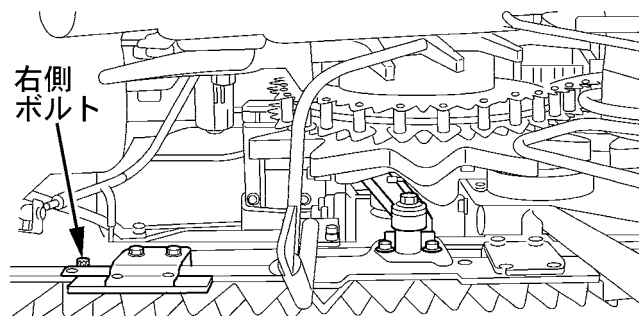
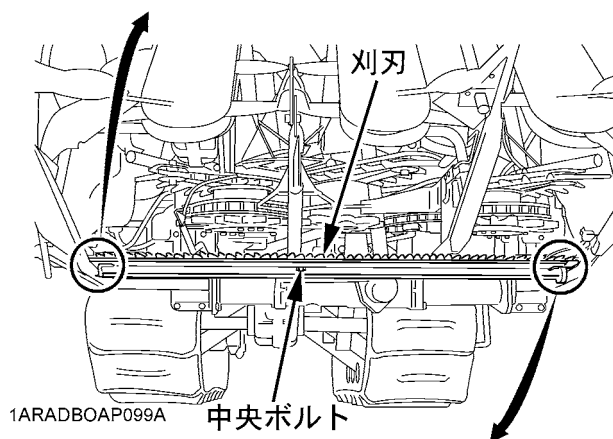
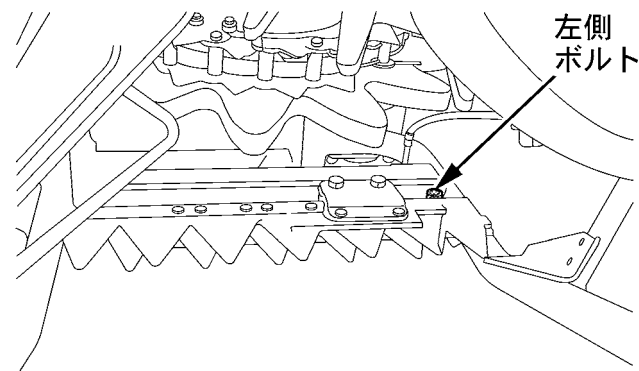
◆ 点検・取外し

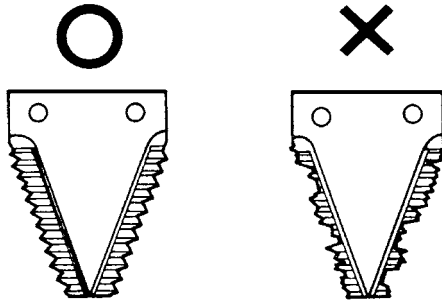
1. 刈取部を上げたあと刈取下降ロックスイッチを**［ロック］**位置にし，ロック金具をセットして，解除防止を行なったあと，エンジンを停止します。さらに枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。

刈取下降ロックスイッチ
［ロック］
［セット］
ロック金具
1ARADBIAP282L

2. クランク軸を押して，下図のようにパイプのフレームとクランク軸が平行状態になるように調整します。

クランク軸
パイプフレーム
押す
平行
1ARADBOAP098A

3. 刈刃を取付けているボルト３本を取外します。このときボルトは，左，右は上から，中央は下から取外します。

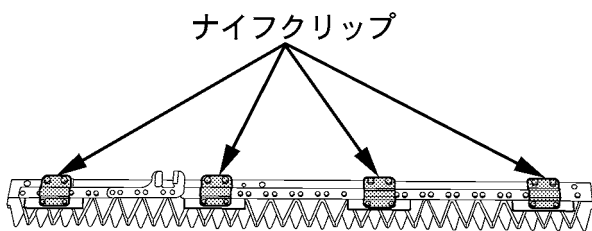
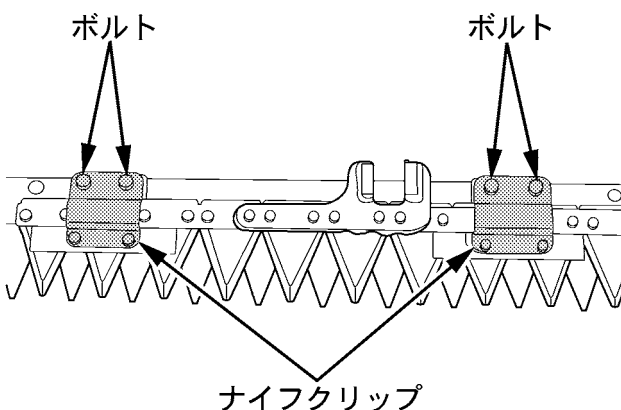
右側
ボルト
1ARADBOAP098B

刈刃
1ARADBOAP099A
中央ボルト

左側
ボルト
1ARADAFAP327B

4. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し，動きがかたいときは，注油，グリース塗布やすき間調整を行ないます。また，刃先が摩耗したり，欠けているときは購入先に連絡して修理を依頼してください。

1ARADBEAP506A

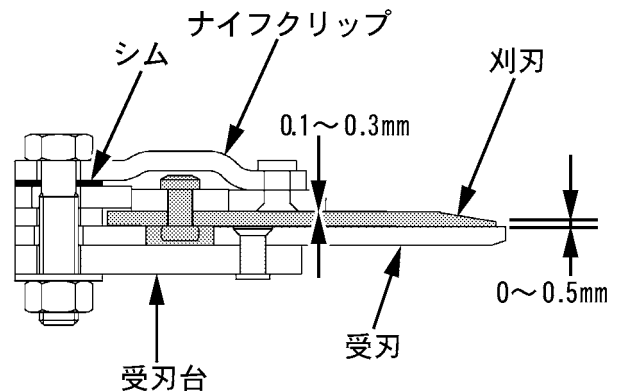
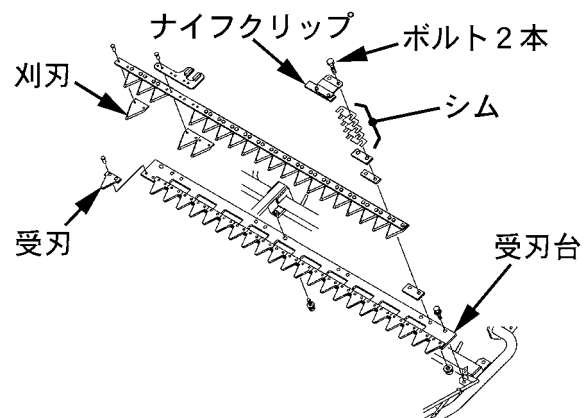
◆ **すき間調整**

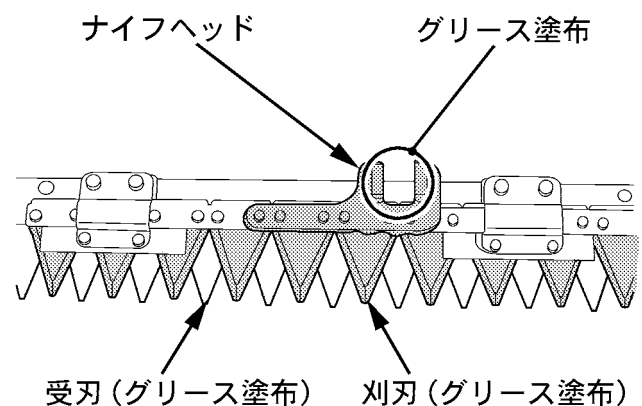
調整は刈刃アッシの右側又は，左側のどちらかを行なってからもう片方を行なってください。また，すき間を測定するときは，すき間ゲージを使用してください。

1. ボルト・ナットを取外して各ナイフクリップを受刃台から外します。

1ARADBOAP100A

1ARADBOAP101A

補　足

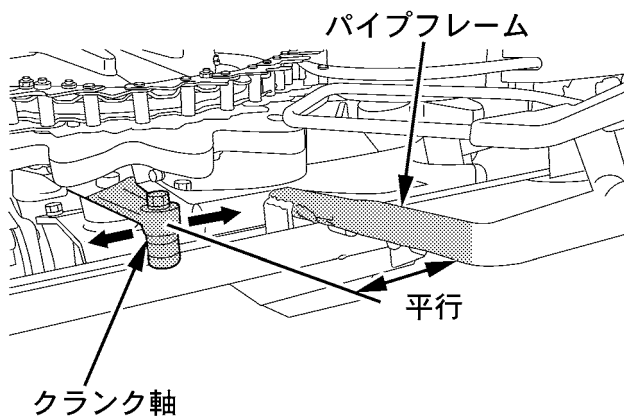
＊ 刈刃や受刃台上面に付着している泥（土）を掃除して取除いてください。

2. ナイフクリップとスライドプレート２の間にあるシムを増減して調整したあと，ボルト・ナットを締付けたときの刈刃と受刃のすき間を０～0.5㎜に調整します。

1ARADAFAP319C

1ARADAFAP320D

3. ナイフヘッドを持ち，刈刃を左，右に動かします。動かないときや軽く動くときは再調整を行ない，異常がなければ受刃，ナイフヘッドのローラガイドにグリースを塗布します。

1ARADBOAP101B

◆ **取付け**

1. クランク軸とパイプのフレームを平行状態に調整します。調整は，クランク軸を右又は，左に動かして行ないます。

パイプフレーム
平行
クランク軸

1ARADAFAP330B

2. 取外しの逆の手順で刈刃完備を本機側に取付けます。

(1) 刈刃完備を持上げて，ナイフヘッドにローラをはめ込みます。
(2) 本機側の刈刃フレームに刈刃完備をボルト３本で左，右は上から，中央は下からそれぞれ取付けます。
(3) 刈刃ガイド左，右を刈取りフレームに取付けボルト各２本でそれぞれ取付けます。このとき，刈刃ガイドが受刃の先端に対して，下方向になるように締付けます。
(4) 刈刃完備を取付けたあと，各部のすき間・刈刃の反りや作動状態を確認し，異常があるときは再調整を行ないます。

■こぎ歯の点検･交換

警 告

＊ **中でこぎ歯が高速で回転しているので接触するとケガをします。こぎ胴を開くときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。**

注 意

＊ **平たんな場所でこぎ歯の点検・交換を行なってください。**

こぎ歯の歯先が摩耗してくると，受あみとのすき間が大きくなり，こぎ残しが発生する原因となりますので歯先の線径が 2.5mm 以下になったときは，こぎ歯の交換を行なってください。

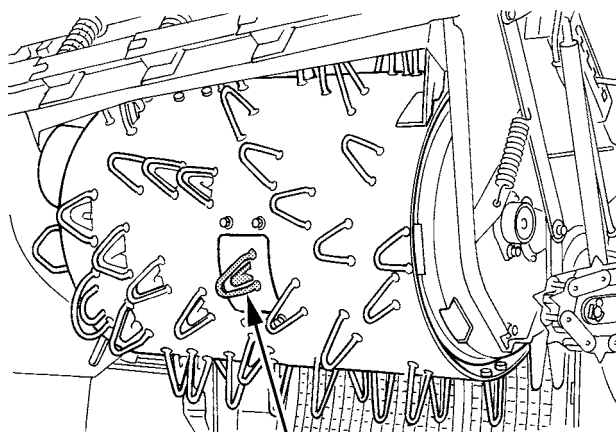
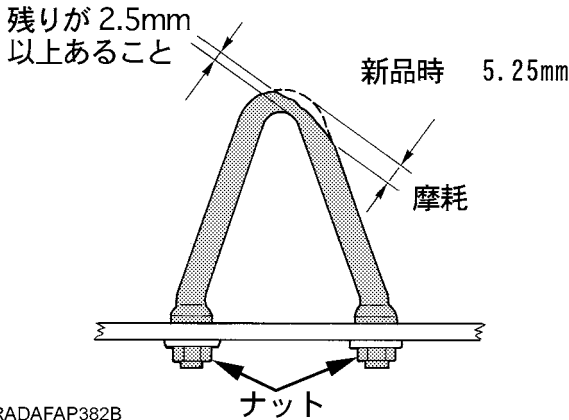
重 要

＊ 歯先の線径が 2.5mm 以下になると，こぎ歯が変形したり，歯先が割れて故障の原因となります。

◆ **点検**

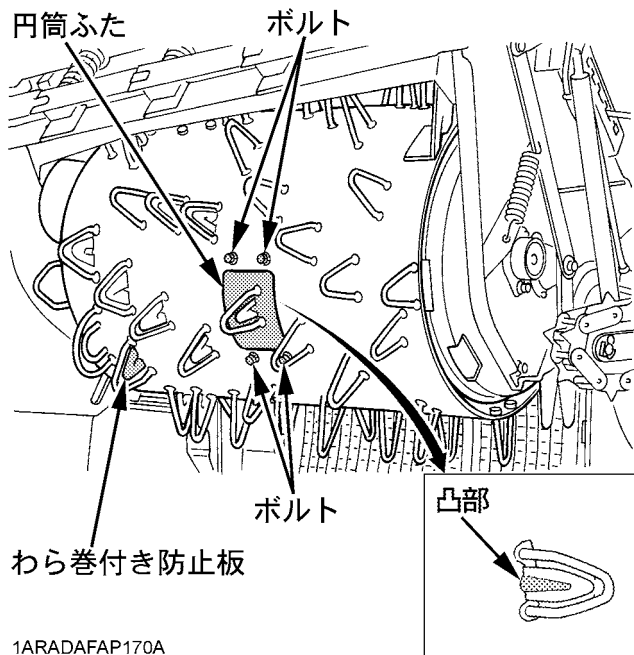
1. こぎ胴を開きます。
2. こぎ歯の歯先の摩耗量を測定し，線径が 2.5mm 以下のときは交換します。

1ARADAFAP170B
こぎ歯

残りが 2.5mm 以上あること
新品時　5.25mm
摩耗
ナット

1ARADAFAP382B

◆ **交換**

1. 六角レンチでボルト 4 本を取外し，円筒ふたを取外します。
2. 円筒ふたから手を入れて，こぎ胴の内側からナット 2 個を取外し，こぎ歯を取外します。
3. 新しいこぎ歯をナット 2 個で取付けます。
4. 円筒ふたを取付けます。

円筒ふた
ボルト
ボルト
わら巻付き防止板
凸部

1ARADAFAP170A

補　足

＊ 円筒ふたは 2 箇所あります。
＊ わら巻付防止板を取付けるときは，凹凸部の凸部を左側に向けた状態で取付けてください。
＊ 六角レンチは購入先にご相談ください。

■わら切刃の点検·交換

注　意

＊ 刃部に手を掛けないでください。
＊ 危険ですので，手袋をして，脱着作業をしてください。

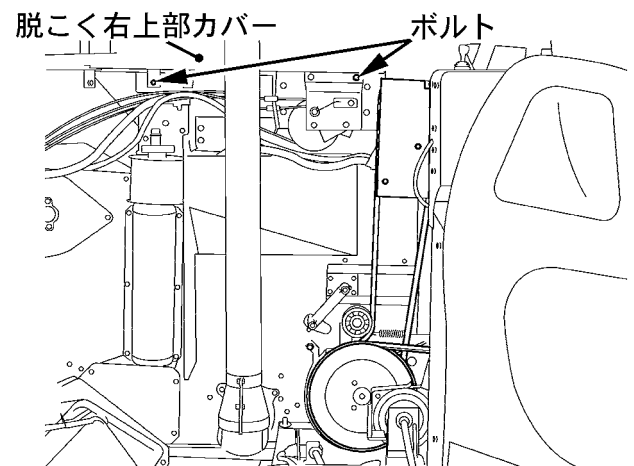
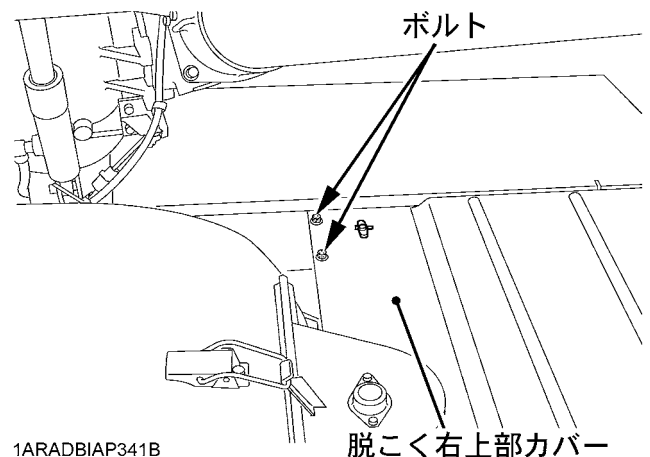
わら切刃が切れなくなると，こぎ胴室内に発生するわらくずを細かく切断できなくなるため，わらくずの移動が悪くなります。また，必要以上の動力を消費するばかりでなく，排じん選別室に送られたわらくずが 2 番スクリュに巻きついたり，2 番処理胴に詰まったりします。

◆ **点検**

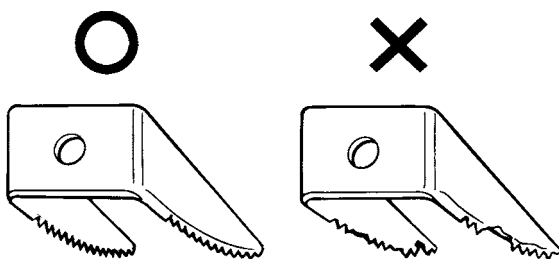
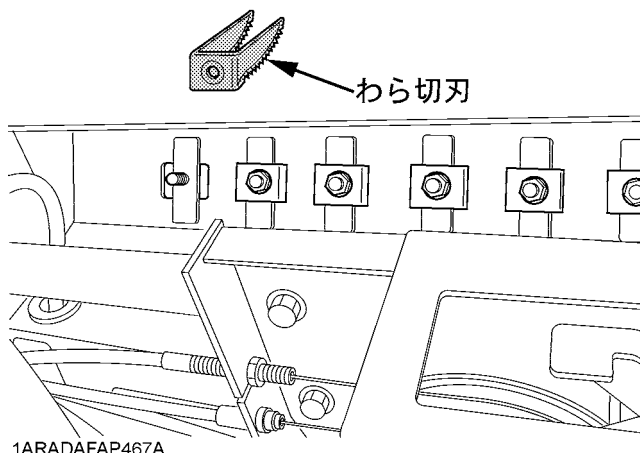
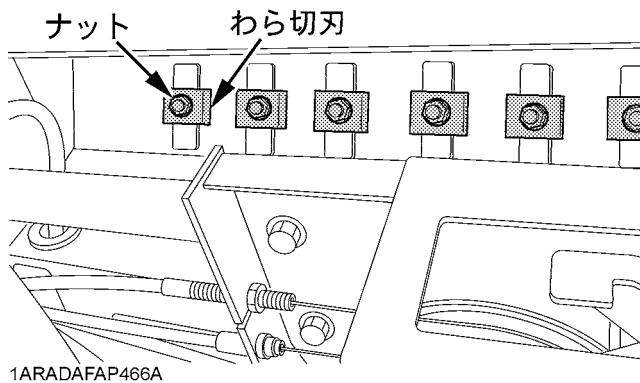
1. グレンタンクを開きます。(90 ページ参照)
2. こぎ胴を閉じた状態で，脱こく右上部カバーを取付けているボルト 4 本を取外します。

脱こく右上部カバー
ボルト

1ARADBIAP122D

ボルト
脱こく右上部カバー

1ARADBIAP341B

3. わら切刃を取付けているナットを取外して，わら切刃を抜取ったあと，わら切刃の刃先を確認します。刃先が摩耗したり，欠けているときは，交換してください。

1ARADAFAP466A

1ARADAFAP467A

1ARADAFAP455A

4. 同じ要領で各わら切刃の点検又は，交換を行ないます。

◆ **交換・取付け**

1. 刃先を**下側**にして各わら切刃を差込みます。
2. ナットをボルト部に取付けます。
3. 脱こく右上部カバーを取付けます。

重　要

＊ わら切刃を取付けるときは，取付方向や傾きの出ないように注意して取付けてください。

■カッタ部の点検･調整

警 告

- **＊ 平たんな場所でエンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。**
- **＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。**

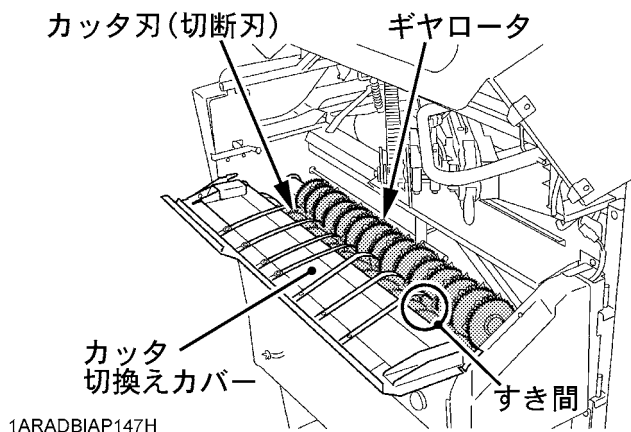
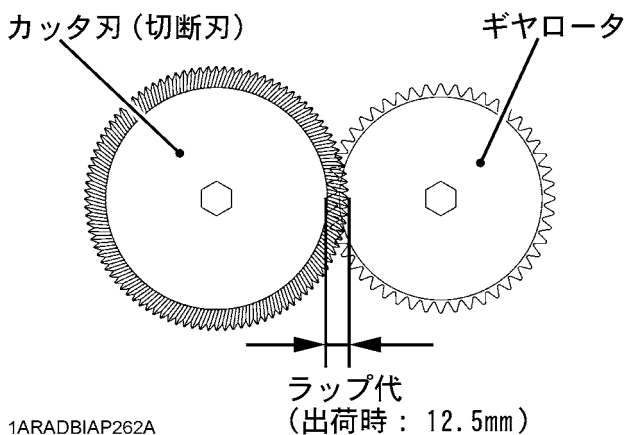
補 足

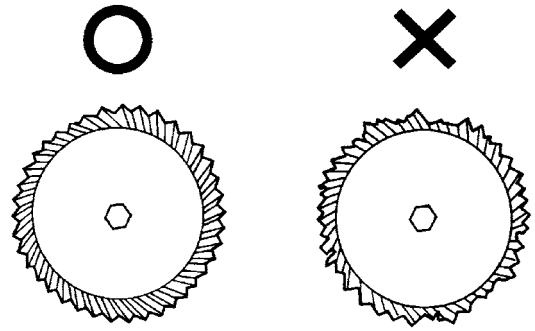
＊ わらくずなどは取除いてください。

カバーロックレバーを引き，カッタ切換えカバーを開いてカッタ刃（切断刃）とギヤロータのラップ代とすき間を確認します。刃先が摩耗してラップ代が少なくなったり，欠けているときは交換してください。また ，カッタ刃（切断刃）とギヤロータのラップ代やすき間が大きかったり，小さかったりする場合は調整してください。

カッタ刃（切断刃）
ギヤロータ
カッタ切換えカバー
すき間

1ARADBIAP147H

カッタ刃（切断刃）
ギヤロータ
ラップ代
（出荷時： 12.5mm）

1ARADBIAP262A

○
×

1ARADAFAP225A

重 要

＊ ラップ代が少なくなると，わらの切断長さが長くなったり，わらのブリッジにより排わら警報の発生の原因となりますので早目に交換してください。

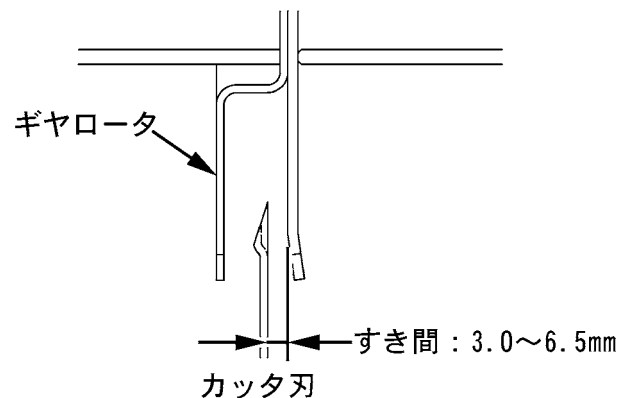
補 足

＊ カッタ切換えカバーをきちんと閉じないと，自動エンジン停止装置がはたらき，エンジンが始動しません。

◆ カッタ刃とギヤロータのすき間の点検・調整

ギヤロータとカッタ刃のすき間を確認し，すき間が 3.0 ～ 6.5mm の範囲から外れているときは，すき間調整を行ないます。

● 点検

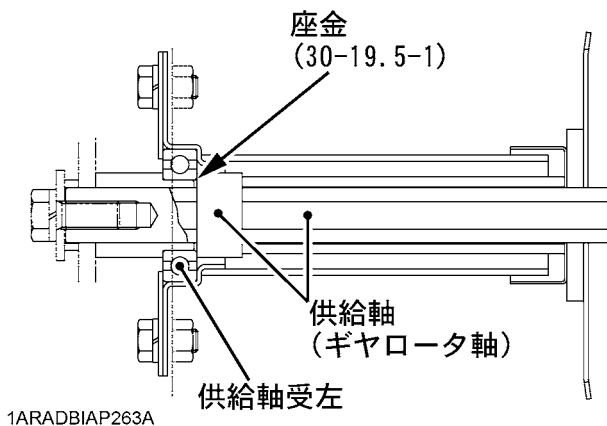
1. カッタ切換えカバーを開きます。
2. カッタ刃とギヤロータのすき間を確認し，3.0 ～ 6.5mm の範囲から外れているときは調整を行ないます。

ギヤロータ
すき間：3.0～6.5mm
カッタ刃

1ARADBLAP248B

● **調整**

カッタ刃とギヤロータがくっついていたり，離れているときはすきま調整を行ないます。

供給軸受左と供給軸の間に座金（30-19.5-5）を使用して，すき間を 3.0 ～ 6.5mm に調整します。

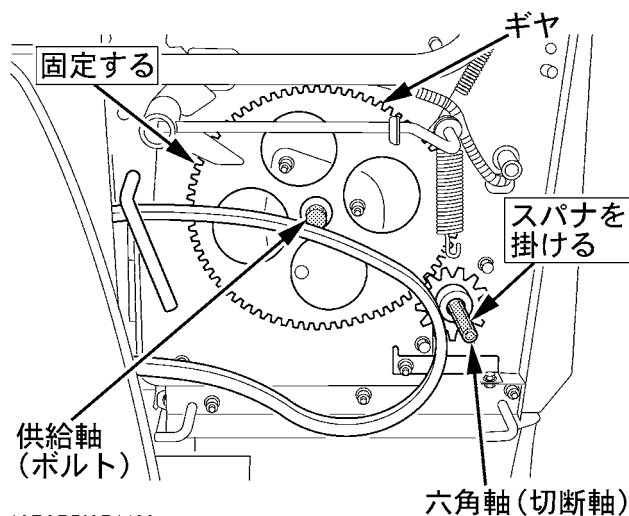
1ARADBIAP263A

重　要

＊ すき間が適正範囲（3.0 ～ 6.5mm）外になると，刃物の接触が発生し破損するおそれがあります。また，わらの切断精度が悪くなります。

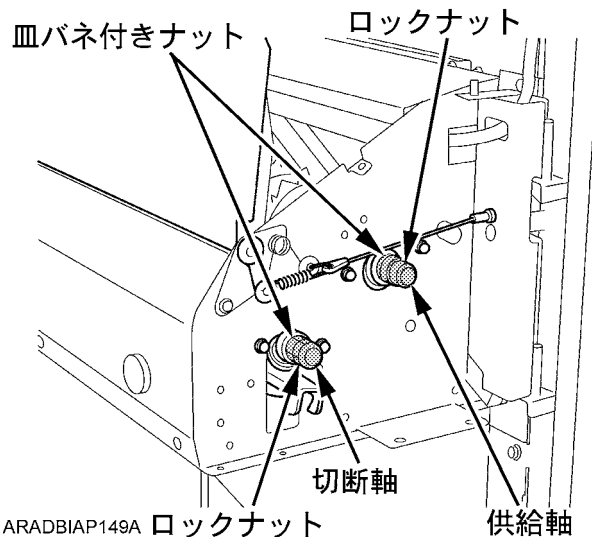
＊ すき間は，株元側と穂先側の両端部で測定してください。

◆ **切断刃（カッタ刃），ギヤロータの増締め**

1. **［カッタ刃の交換］**（151 ページ参照）の手順の 1. ～ 5. （テンションアームの取外しまで）を行ないます。
2. 切断軸の株元側は，1 人が六角軸にスパナを掛けます。また，供給軸の株元側は，ギヤを固定します。

1ARADBIAP148A

3. カッタ右サイドカバーを取外します。
4. もう 1 人の作業者が，穂先側の切断軸，供給軸のロックナットをゆるめたあと，皿バネ付きナットをスパナで締付けます。

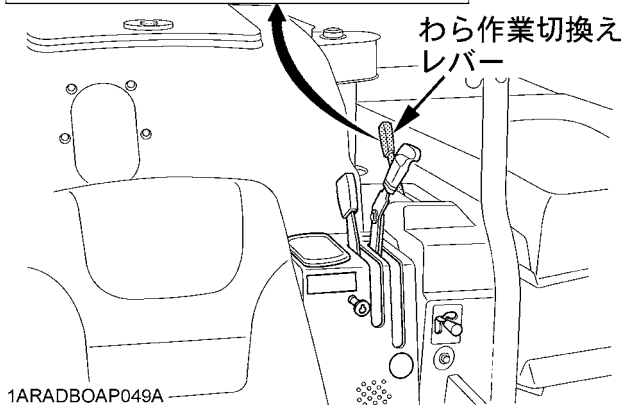
1ARADBIAP149A

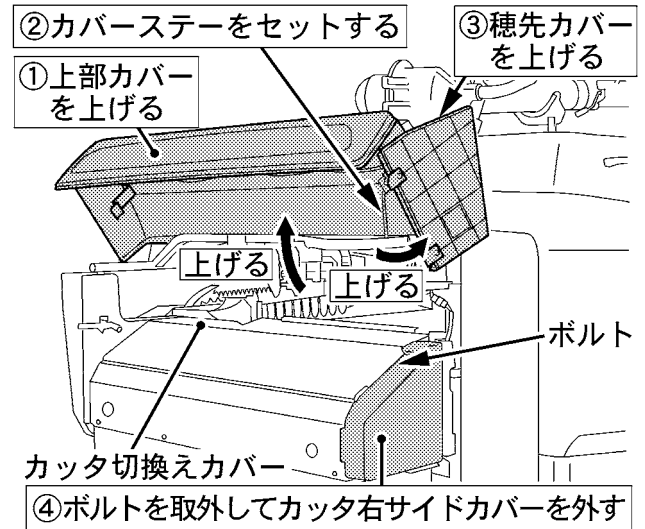
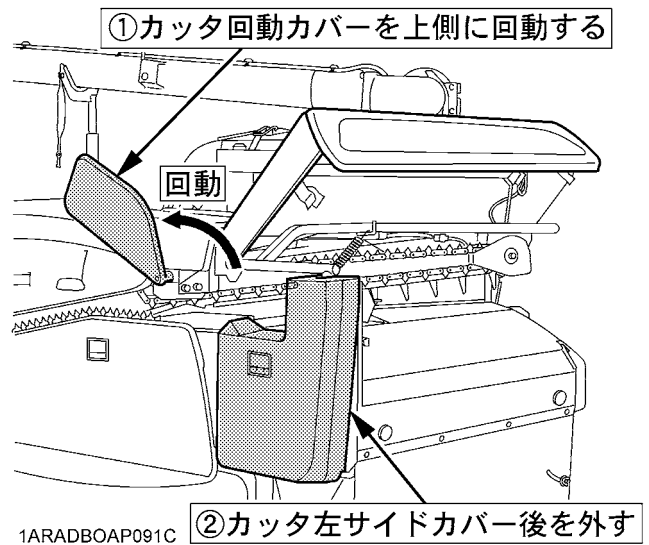
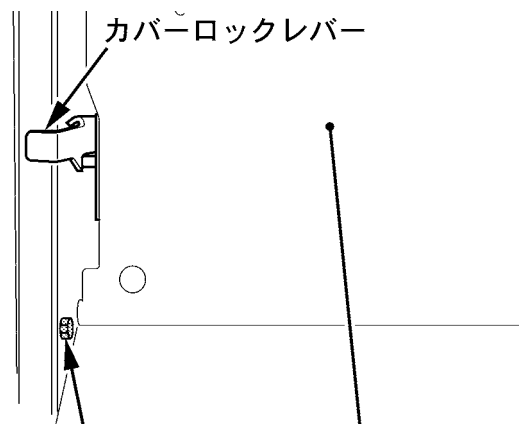
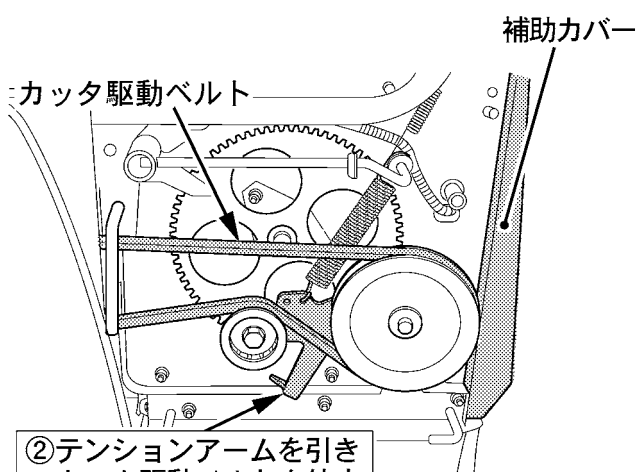
重　要

＊ 軸の締付けトルクは 4903 ～ 5884N･cm(500 ～ 600kgf・cm) です。確実に締付けてください。組付け時，刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと，刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。

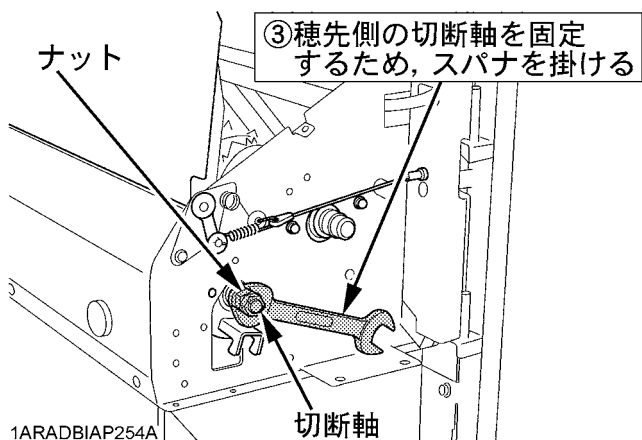
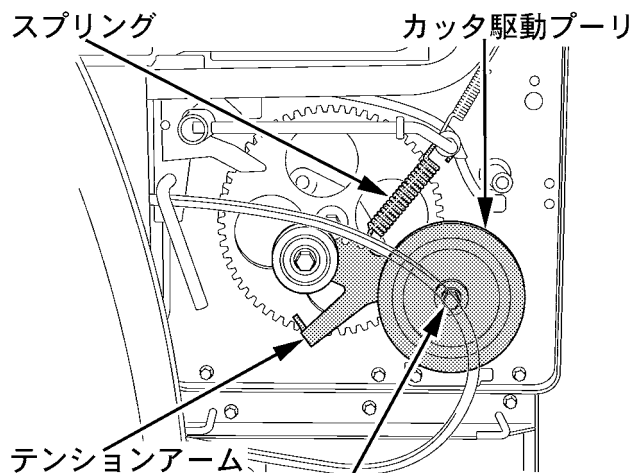
5. ロックナットを締付けたあと，カッタ右サイドカバーを取付けます。
6. **［カッタ刃の交換］**（151 ページ参照）の逆の手順で 5. ～ 1. を行ないます。

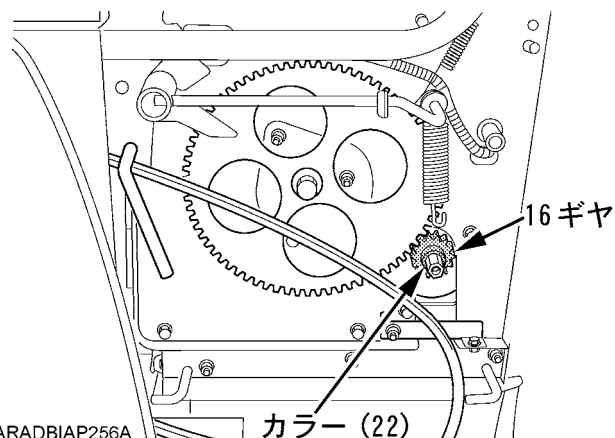
■カッタ刃の交換

警告

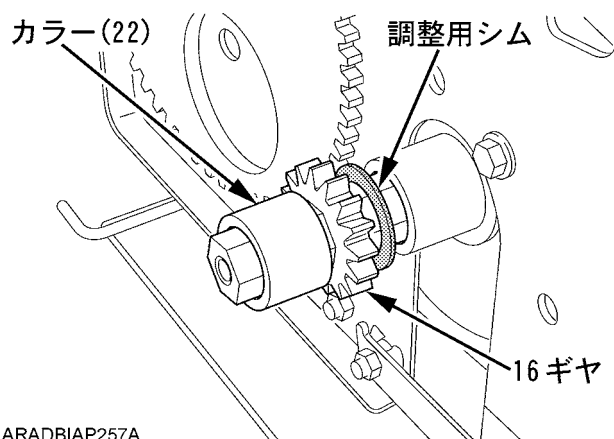
- **＊ カッタ刃を交換するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。**
- **＊ 手袋を使用し，直接カッタ刃に触れないでください。**
- **＊ 切断軸完備を外すときは，2 人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。**
- **＊ 切断軸完備の分解・組立て作業は 2 人作業で行なってください。**

1. わら作業切換えレバーを **［カッタ］** 作業位置にします。

2. 上部カバーを上げて，カバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。そのあと，ボルトを外してカッタ右サイドカバーを取外します。

3. カッタ回動カバーを上側に回動したあと，カッタ左サイドカバー後を外します。

4. カバーロックレバーの下側にあるボルトを取外して補助カバーを外します。
5. カッタ駆動ベルトをカッタ駆動プーリから外したあと，カッタ駆動プーリを外します。

カバーロックレバー
①ボルトを取外して補助カバーを外す
排わら切換えカバー
1ARADBIAP234A

補助カバー
カッタ駆動ベルト
②テンションアームを引きカッタ駆動ベルトを外す
1ARADBIAP081C

③穂先側の切断軸を固定するため，スパナを掛ける
ナット
切断軸
1ARADBIAP254A

スプリング
カッタ駆動プーリ
テンションアーム
④ボルト・平座金を取外してカッタ駆動プーリ，テンションアーム，スプリングを外す
1ARADBIAP255A

6. カラー（22），16 ギヤを取外します。

16 ギヤ
カラー（22）
1ARADBIAP256A

補　足

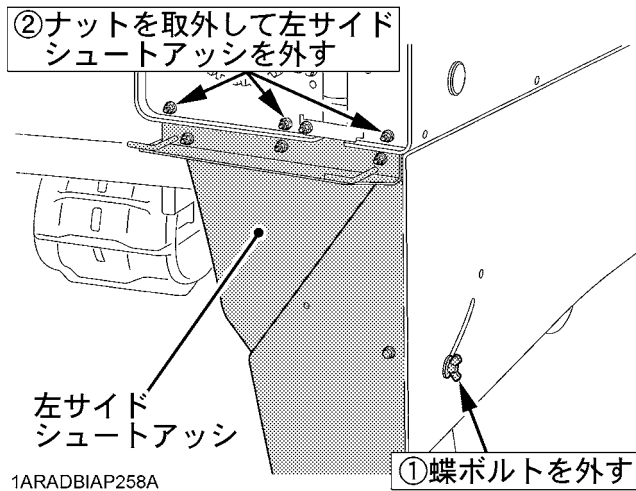
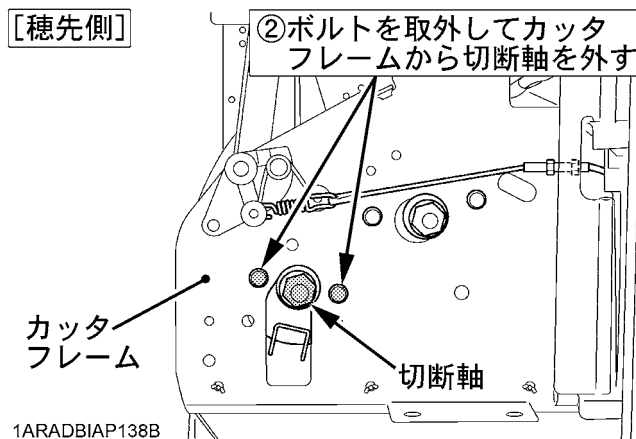
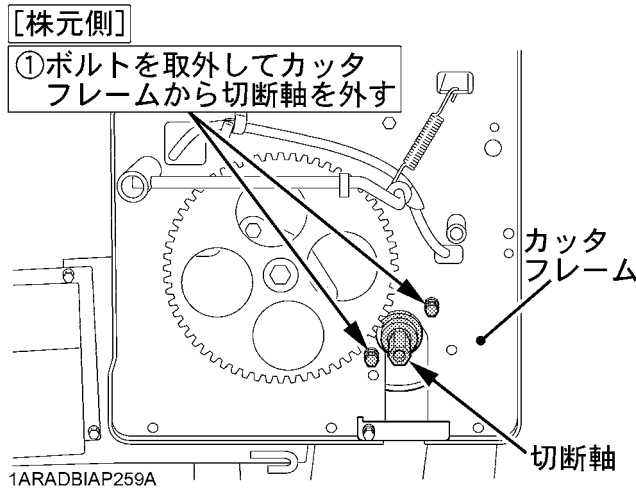
＊ 調整用シムが入っている場合は，カラー（22），16 ギヤと同じように取外してください。

カラー（22）
調整用シム
16 ギヤ
1ARADBIAP257A

7. カッタを開いたあと，左サイドシュートアッシを取外します。

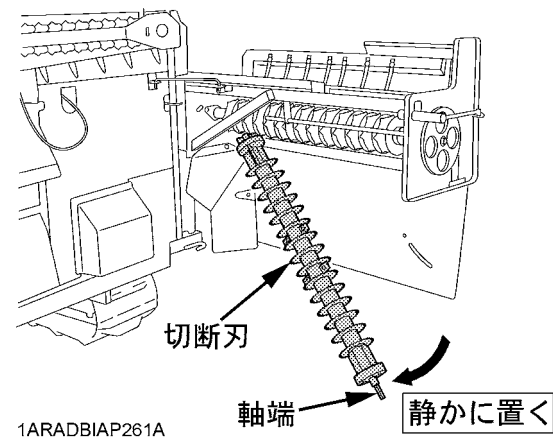
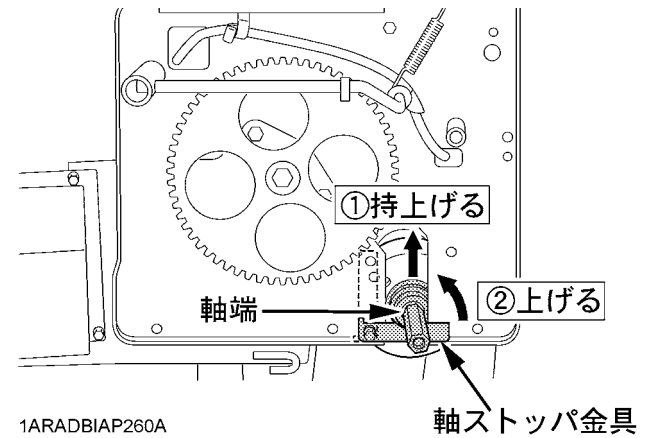
1ARADBIAP258A

8. 切断軸をカッタフレームから外します。

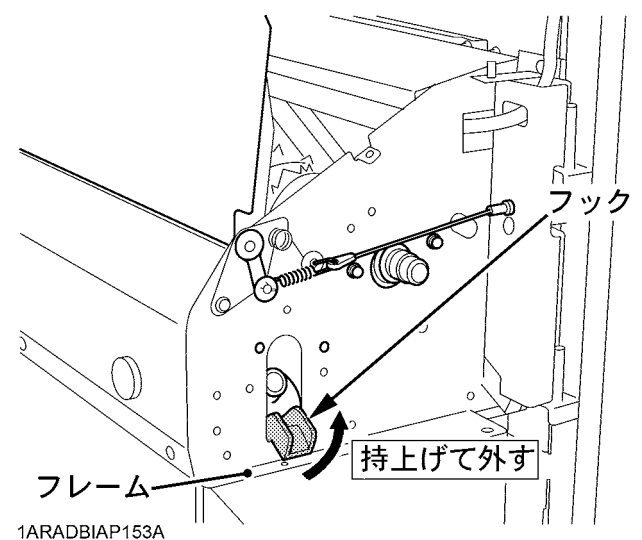
1ARADBIAP259A

1ARADBIAP138B

9. 株元側の軸端を少し持上げて，軸ストッパ金具を上に回動して，切断軸アッシの軸端を静かに地面に置きます。

1ARADBIAP260A

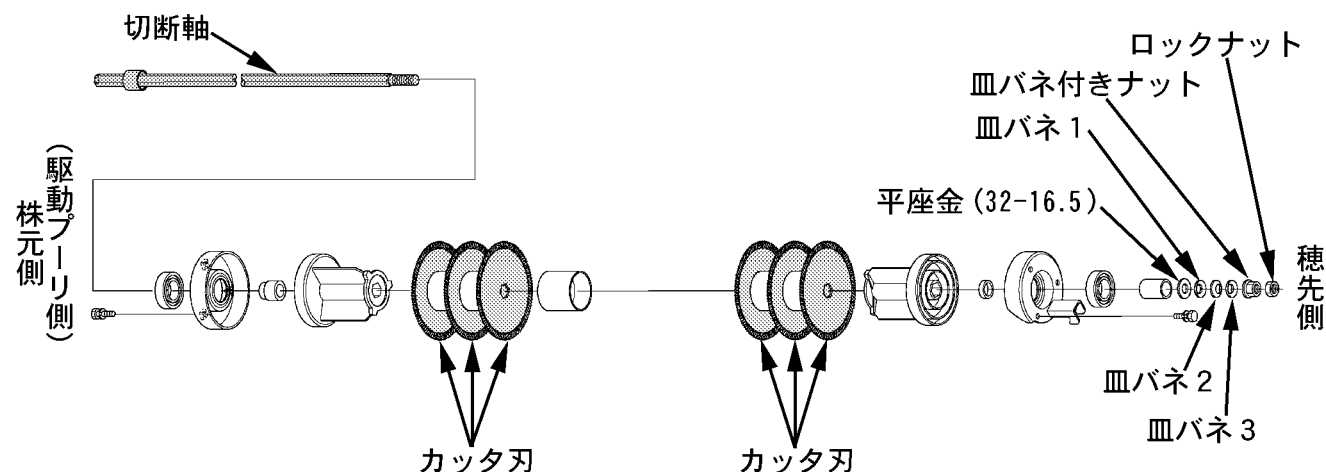
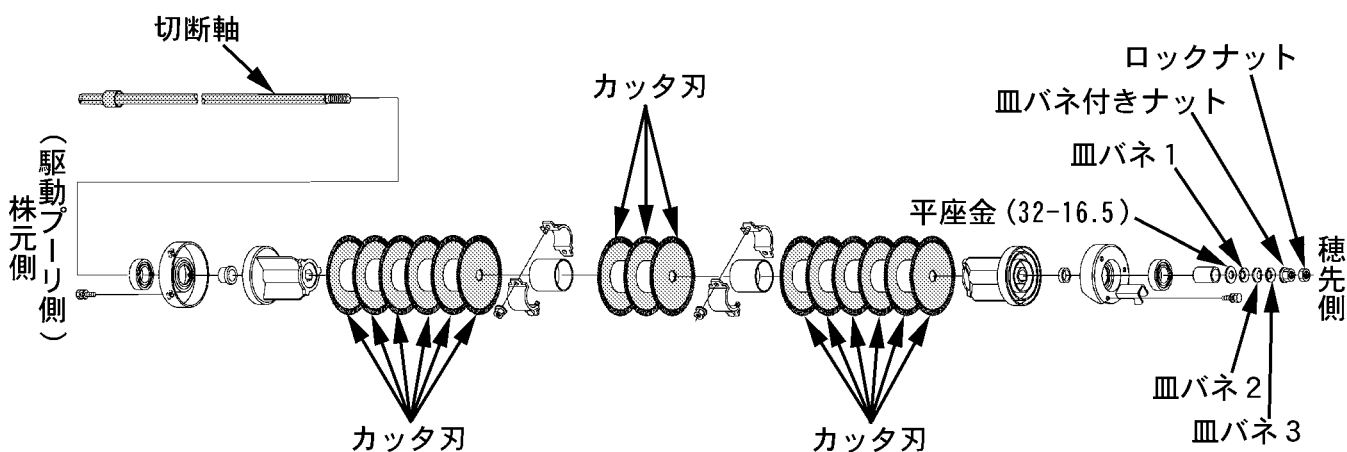
1ARADBIAP261A

10. 穂先側の軸受けフックをフレームから外し，切断軸を取外します。

1ARADBIAP153A

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

11. カッタ刃（切断刃）の交換を行ないます。交換作業を行なうときは，必ず補助者と共に 2 人作業で行なってください。
 (1) 切断軸アッシを安定した場所に置き，穂先側のロックナット，皿バネ付きナットと順番に取外して分解します。
 (2) 切断軸の穂先側を上向きにして垂直に立てた状態でカッタ刃の取付方向（刃先の向き）に注意しながら交換を行ないます。

[SC（38 ㎜切断）カッタ]

[SC（38 ㎜切断）カッタ]

[C（60 ㎜切断）カッタ]

[C（60 ㎜切断）カッタ]

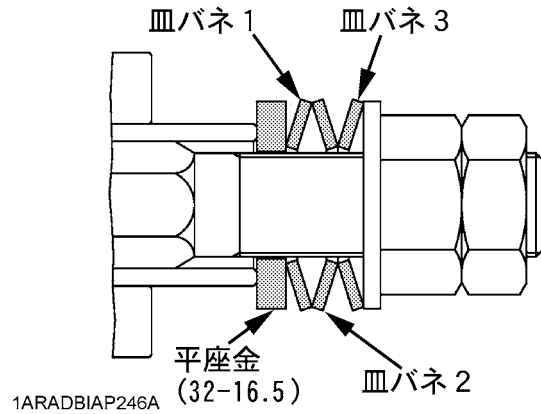
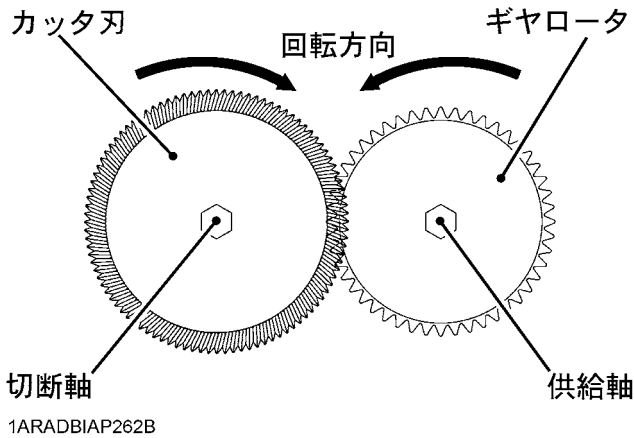
重 要

＊ 組付け後にカッタ刃が切断軸の垂直方向に対して傾いていると，切断軸が軸振れを起して異音が発生したり破損する原因となります。
＊ 組付け時にカッタ刃やパイプの端面に砂などの異物が付着すると，カッタ刃とギヤロータのすき間及びカッタ刃両端の寸法が規定値の範囲から外れ，上記の軸振れを起こすことやわらの切断性能が悪くなるおそれがあります。

補　足

＊ 取付方向（刃先の向き）や大きさを間違うとわらの切断性能が悪くなります。
＊ 刃の向きと回転方向は下図のようになります。
＊ 皿バネ 3 枚は下図のように組付けてください。

カッタ刃
回転方向
ギヤロータ
切断軸
供給軸
1ARADBIAP262B

皿バネ 1
皿バネ 3
平座金
(32-16.5)
皿バネ 2
1ARADBIAP246A

(3) カッタ刃の交換が終わると，分解と逆の手順で切断軸アッシを組立てます。
(4) 切断軸アッシを垂直に立てた状態で皿バネ付きナットをスパナで締付けたあと，ロックナットを締付けます。

12. 切断軸アッシをカッタフレームに取付けます。（手順 7 ～ 10 の逆に取付けます。）

重　要

＊ 軸の締付けトルクは 4903 ～ 5884N・cm（500 ～ 600kgf・cm）です。確実に締付けてください。
カッタ刃とギヤロータが接触していないか，手で切断軸を軽く回して確かめてください。

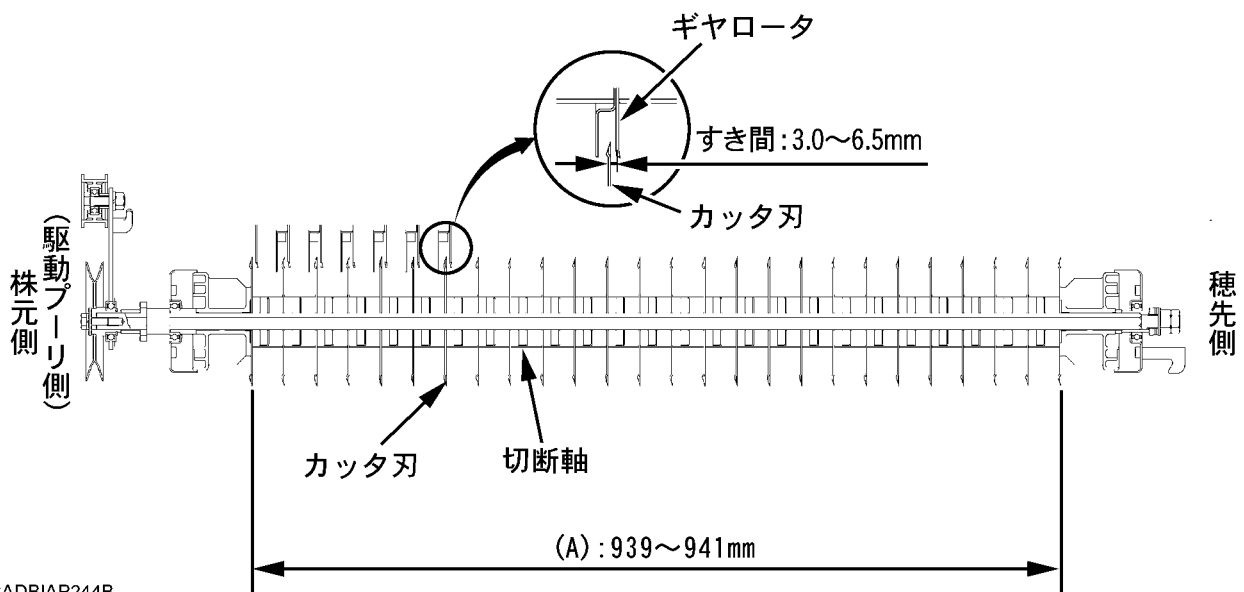
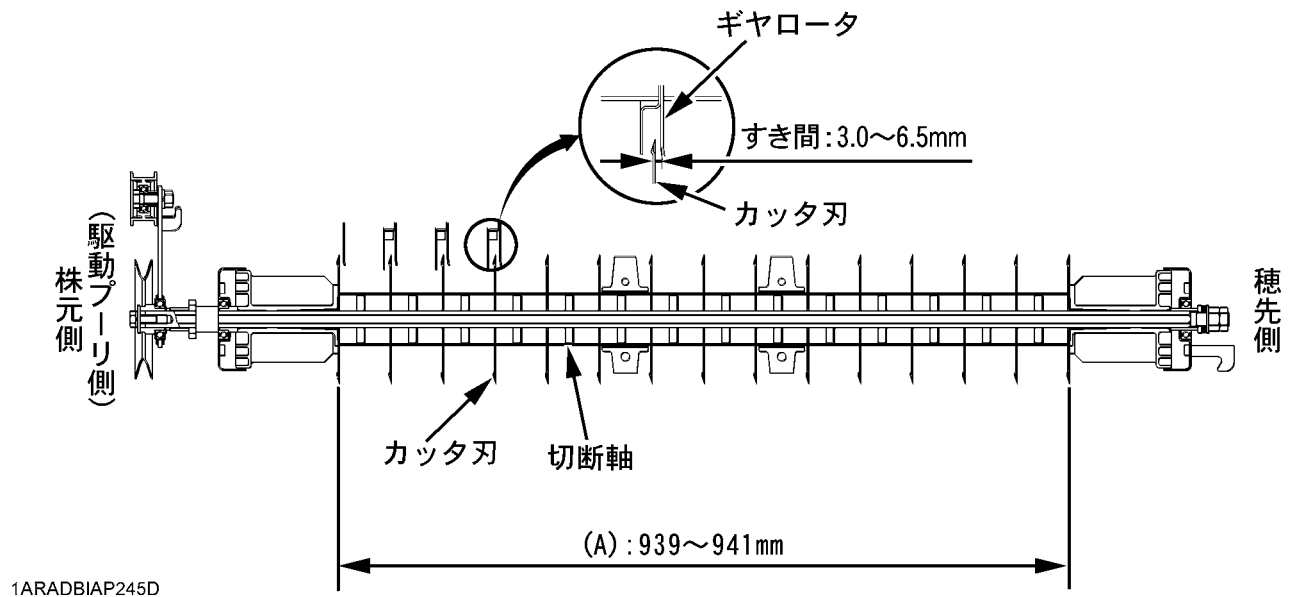
13. 下図のようにカッタ刃の両端の寸法（A）が 939 ～ 941mm の範囲から外れているときは再度分解し，正しい組立てを行ないます。カッタ刃とギヤロータのすき間が 3.0 ～ 6.5mm の範囲から外れているときは，供給軸（ギヤロータ取付け軸）の座金（30-19.5-1）で調節します。

［SC（38 ㎜切断）カッタ］

ギヤロータ
すき間：3.0～6.5mm
カッタ刃
株元側（駆動プーリ側）
穂先側
カッタ刃
切断軸
(A)：939～941mm
1ARADBIAP244B

［SC（38 ㎜切断）カッタ］

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

[C（60㎜切断）カッタ]

[C（60㎜切断）カッタ]

補 足

＊ 供給軸（ギヤロータ取付け軸）の座金（30-19.5-1）が必要な場合は，購入先に連絡してください。

重 要

＊ 再組立てを行なっても範囲から外れるときは，購入先に連絡して修理を依頼してください。

14.カッタを閉じます。
15.取外した逆の手順で各部品の取付けを行ないます。

■吐出口ブーツの点検･交換

吐出口ブーツが破損したときは交換してください。

◆ 交換

1. ブーツを取付けている樹脂ファスナーを外します。
2. 破損したブーツを取外し，新しいブーツを取付けます。

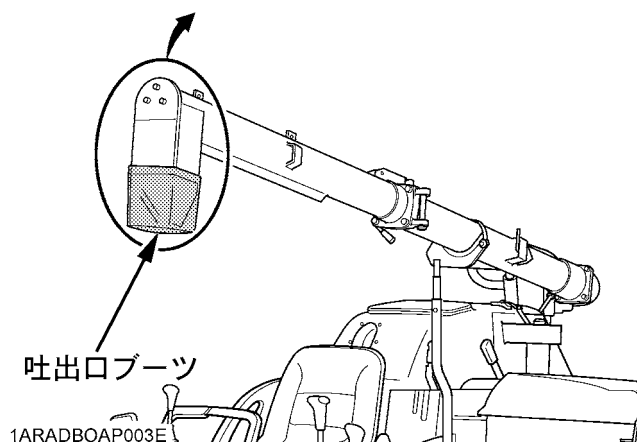
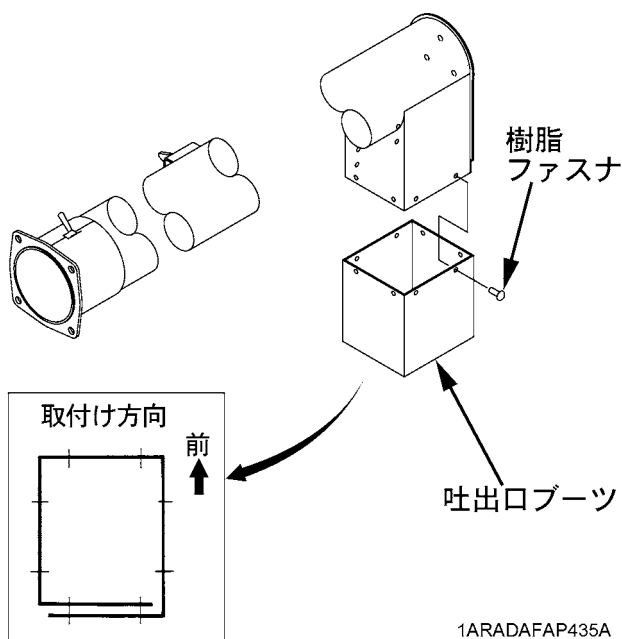
補 足

＊ ブーツを取付けるとき，ブーツの重なりの方向を間違えないでください。

樹脂ファスナ
取付け方向
前
吐出口ブーツ

1ARADAFAP435A

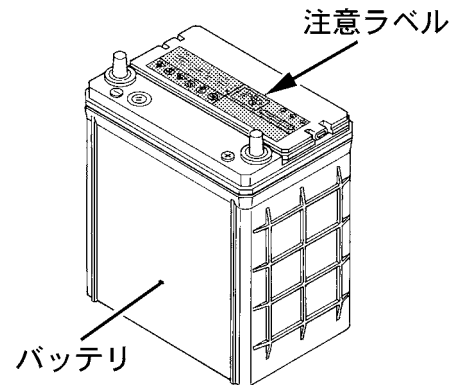
吐出口ブーツ

1ARADBOAP003E

重 要

＊ 吐出口ブーツは必ずクボタ純正品を使用してください。

■バッテリの点検･交換

バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

注意ラベル
バッテリ

1ARADAFAP388A

危 険

＊ バッテリの近くに裸火（マッチ，ライター，タバコの火など）を近づけたり，（＋）端子と（－）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。
＊ バッテリを取扱うときは，必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となります。
＊ 充電器やブースターケーブルを使用するときの取扱いは，それぞれの取扱説明書に従って行なってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。
＊ この 12V バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ 急速充電は厳禁です。
＊ 開封は厳禁です。（密封タイプ）

警 告

＊ バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

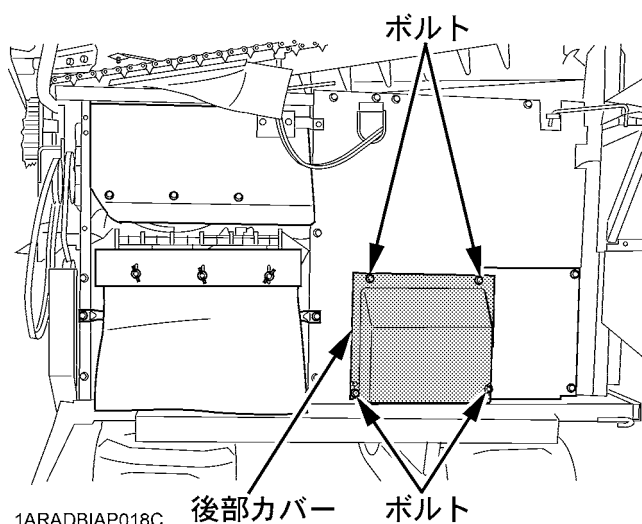
補 足

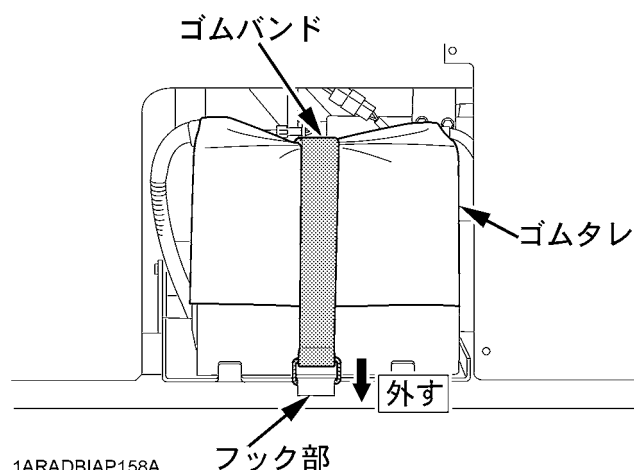
＊ 出荷時は，補水不要のバッテリです。

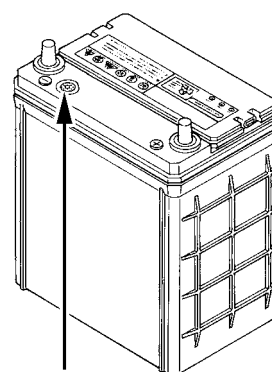
◆ 点検

> **警 告**
>
> **バッテリが破損や傾いたりして，液もれが発生しているとき………**
> **＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**
> **＊ バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は，ただちに多量の清水で洗浄したあと，速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。**

1. カッタを開きます。
2. ボルトを取外して，バッテリ後部カバーを取外します。

1ARADBIAP018C

3. ゴムバンドをフックから外して，ゴムタレをめくります。

1ARADBIAP158A

4. バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。
   (1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行なってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

1ARADAFAP389A

補 足

＊ インジケータは真上から確認してください。

   (2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

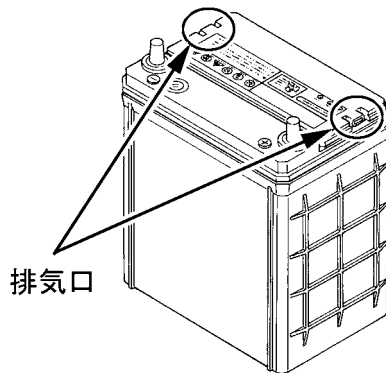
重 要

＊ 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

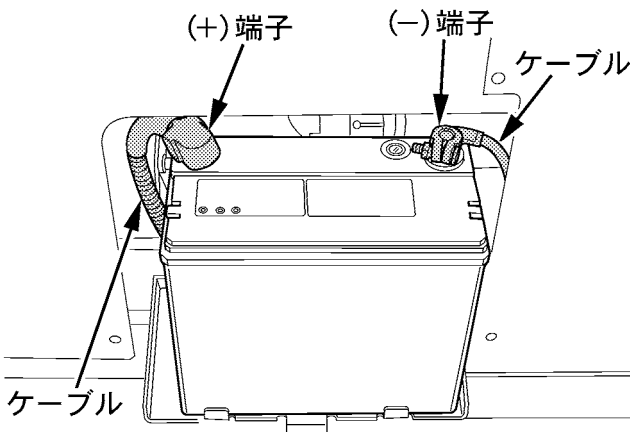
(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。

排気口

1ARADAFAP390A

(4) バッテリケーブルの破損や（＋）端子，（－）端子にゆるみや腐食がないか確認し，ケーブルの交換や端子の増締めや掃除を行ないます。

(＋)端子　(－)端子　ケーブル　ケーブル

1ARADBIAP159A

◆ 補充電・交換

危　険

＊ **バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤まると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。**
- **取外し…（－）端子側（アース側）から外す。**
- **取付け…（－）端子側（アース側）を最後に接続する。**

警　告

＊ **バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。**

＊ **バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。**

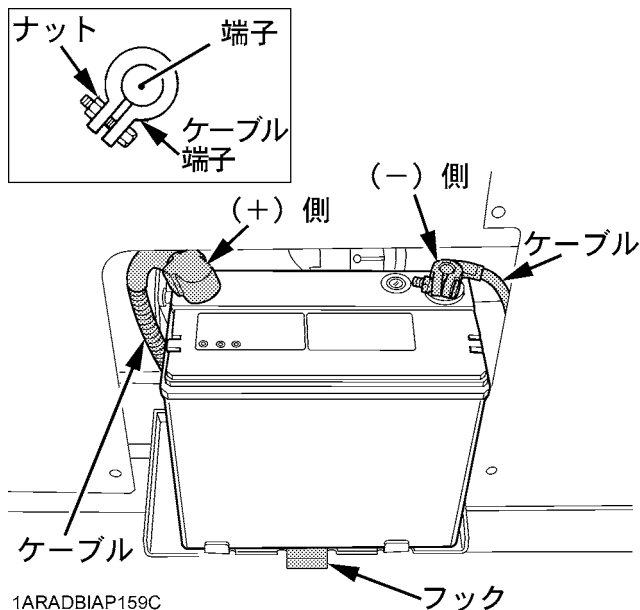
＊ **バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（－）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。**

＊ **バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。**

次のような状態が発生したときは補充電を行なってください。また，補充電を行なっても短時間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行なってください。
- スタータモータの回転が，いつもより弱い。
- アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音が，いつもより低い。

1. バッテリを機体から取外します。
   (1) ゴムバンドの端部金具をフックから外し，ゴムタレをめくり上げます。
   (2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。

ナット
端子
ケーブル端子
（－）側
（＋）側
ケーブル
ケーブル
フック
1ARADBIAP159C

重 要

＊ バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで行ないます。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

重 要

＊ バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
  バッテリ形式：**50B24L-MF**
＊ バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使用しないでください。
＊ バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補 足

＊ 端子にグリースを塗布してからケーブル端子を取付けてください。

補水が必要なバッテリの場合

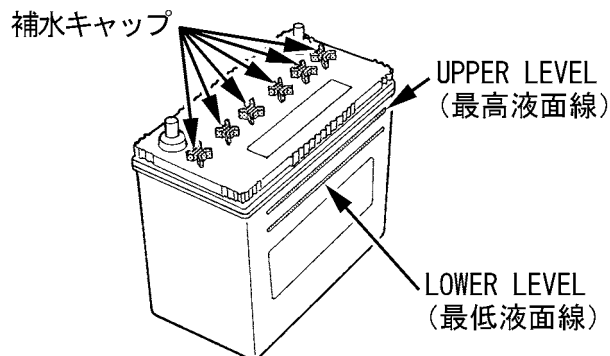
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

◆ 点検・補水

警 告

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐに UPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。
＊ バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは，すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，**[UPPER LEVEL]**（最高液面線）と **[LOWER LEVEL]**（最低液面線）の間に液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。

補水キャップ
UPPER LEVEL
（最高液面線）
LOWER LEVEL
（最低液面線）
1ARADAFAP391A

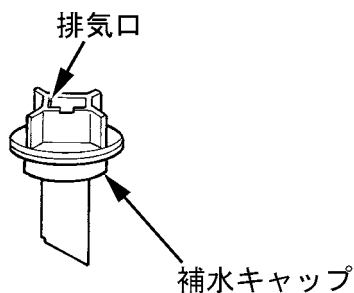
重　要

＊ バッテリ液が不足して極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。
＊ バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
＊ バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

重　要

＊ 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。

排気口
補水キャップ

1ARADAFAP392A

◆ 補充電・交換

危　険

＊ **補充電中は補水キャップ全てを取外して行ないますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。**

1. 補充電を行なうときは，平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行ないます。
また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行なってください。
2. 補充電が終ると補水キャップを全て取付けてください。

■電気の各配線コード，各ヒューズの点検・交換

警　告

＊ **配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。**

◆ 各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し，ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また，被覆の損傷状態を点検し，被覆が破れているときは，購入先へ連絡して修理を依頼してください。

◆ 各ヒューズの交換

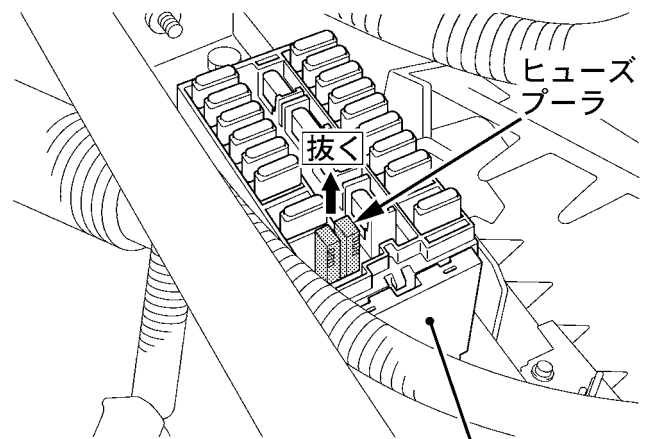
ヒューズ切れによる異常が発生したときは，ヒューズを交換してください。

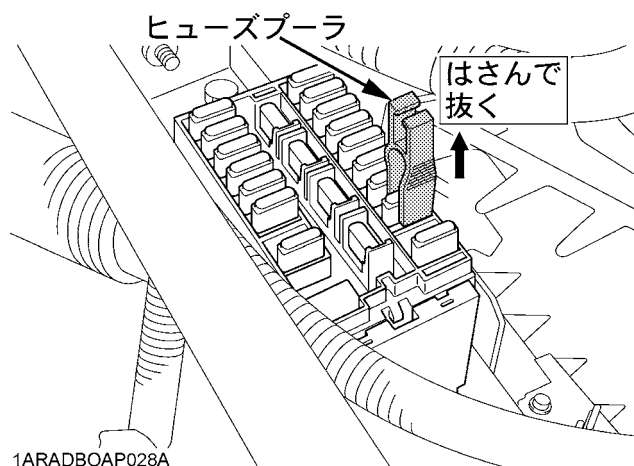
重　要

＊ 新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
＊ ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，購入先に連絡して修理を依頼してください。

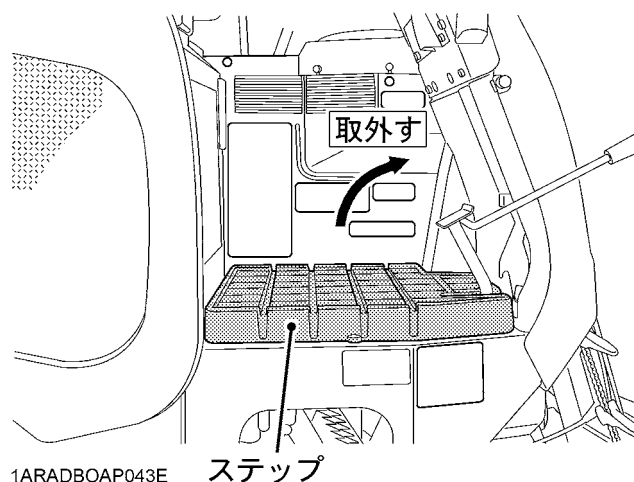
補　足

＊ ヒューズを交換するときは，ヒューズボックスのカバーに設置しているヒューズプーラ（ヒューズ抜き）を使用してください。

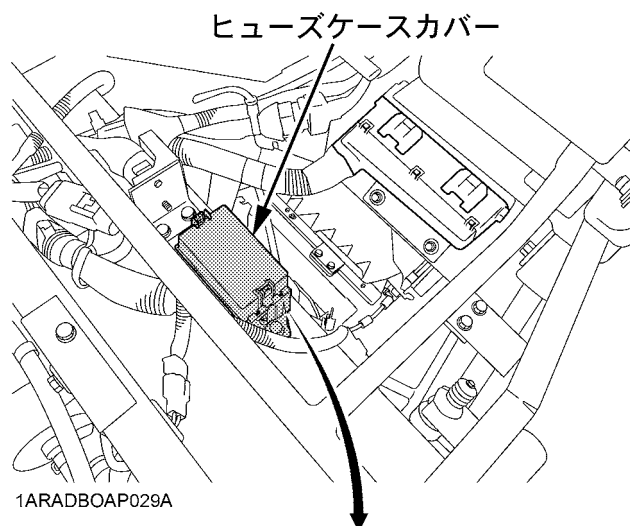
ヒューズ
プーラ
抜く
ヒューズボックス

1ARADBOAP027A

ヒューズプーラ
はさんで抜く

1ARADBOAP028A

1. 刈取部を地面に接地させエンジンを止めます。
2. 運転席足元のステップを取外します。

取外す
ステップ

1ARADBOAP043E

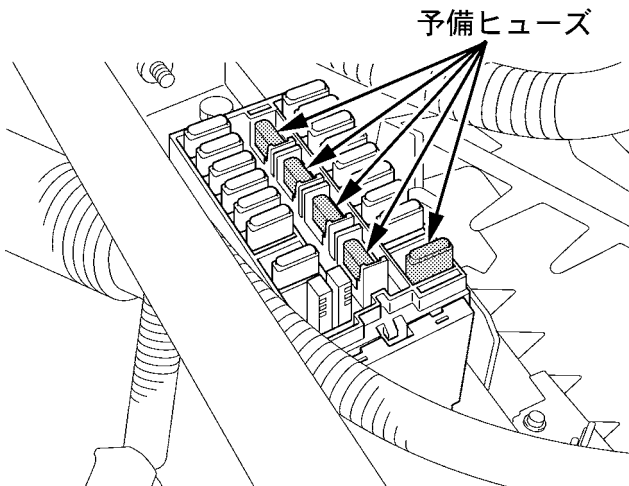
3. ヒューズケースのカバーを取外します。
4. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズと交換します。
5. カバーを取付けます。

ヒューズケースカバー

1ARADBOAP029A

A	B	C	D	E	F	G	H	-	P
	T		S		R		Q		
I	J	K	L	M	N	-	O	ヒューズ抜き	

1ARADBOAP071A

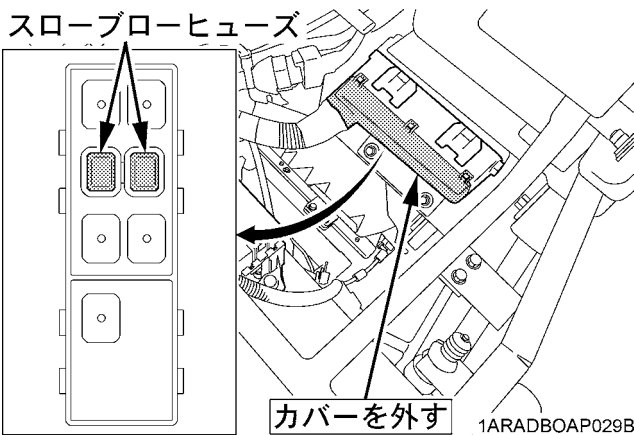
	回　　　路	容量(A)
A	ウィンカ，前照灯	15
B	ホーン，燃料ポンプ，オルタネータ	10
C	油圧バルブ	15
D	メータ	5
E	ハイサイドSW	5
F	マイコン，センサ，チェッカ	5
G	スタータSW	5
H	マイコン（直B）	5
I	モミクラッチモータ	20
J	モミシャッタモータ	20
K	結束機	15
L	アンローダ旋回モータ	25
M	作業クラッチモータ	20
N	こぎ深さモータ	20
O	作業灯（直B）	20
P	予備	25
Q	予備	20
R	予備	15
S	予備	10
T	予備	5

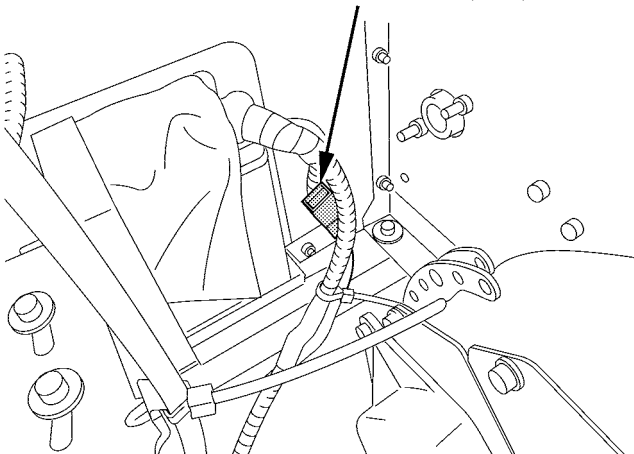
予備ヒューズ

1ARADBOAP027B

● **スローブローヒューズの点検・交換**

スローブローヒューズは，過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンが掛からないときはカバーを外して点検し，切れているときは新しいヒューズと交換してください。点検又は，交換したあとはカバーを取付けてください。

スローブローヒューズ

カバーを外す

1ARADBOAP029B

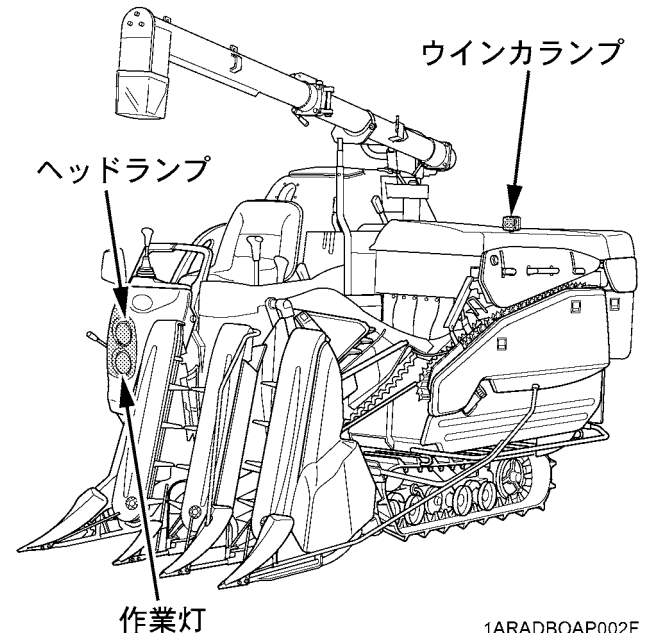
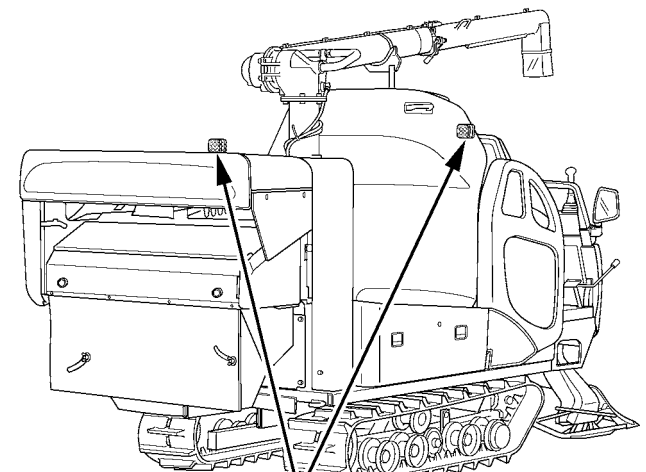
スローブローヒューズ（40A）

1ARADBOAP026A

■ランプ（電球）の点検·交換，ホーンスイッチの点検

ランプ（電球）切れがないか点検し，切れているときは交換してください。また，ホーンスイッチを押して点検し，鳴らないときは，配線やヒューズを確認してください。

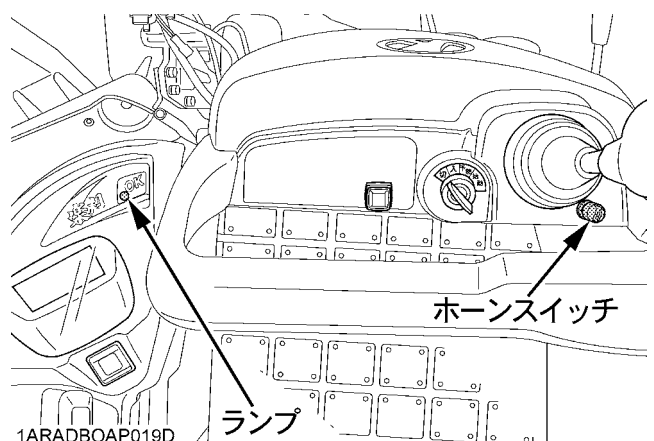
ウインカランプ

ヘッドランプ

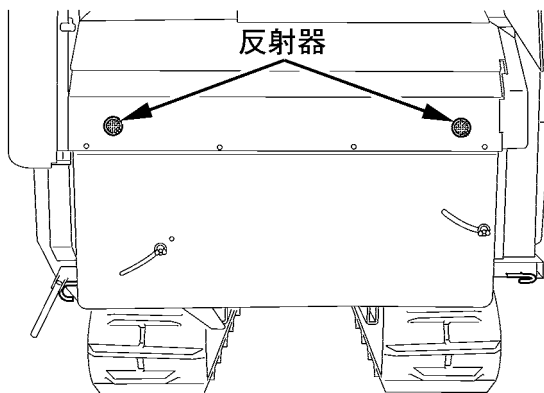
作業灯

1ARADBOAP002F

1ARADBOAP011G　ウインカランプ

ホーンスイッチ

ランプ

1ARADBOAP019D

■反射器の点検・交換

汚れや破損がないか点検し，掃除又は，交換を行なってください。

1ARADBIAP039B

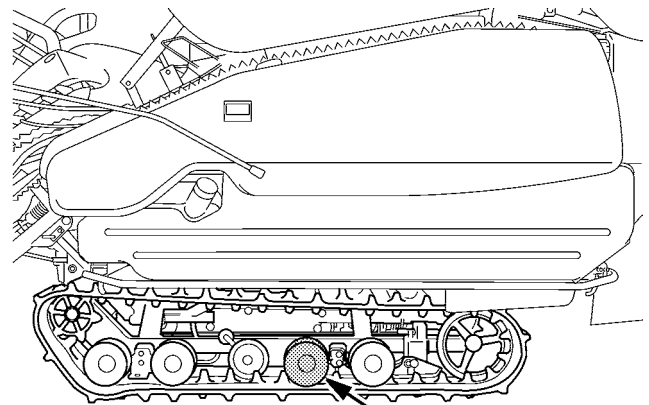
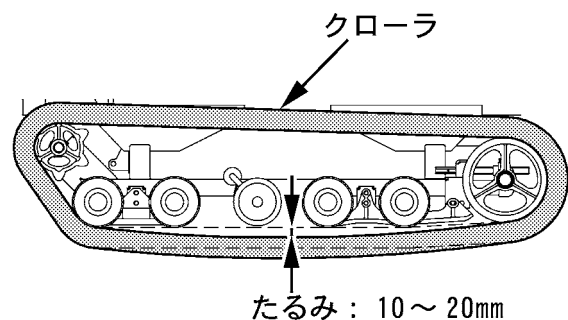
■クローラの点検･調整

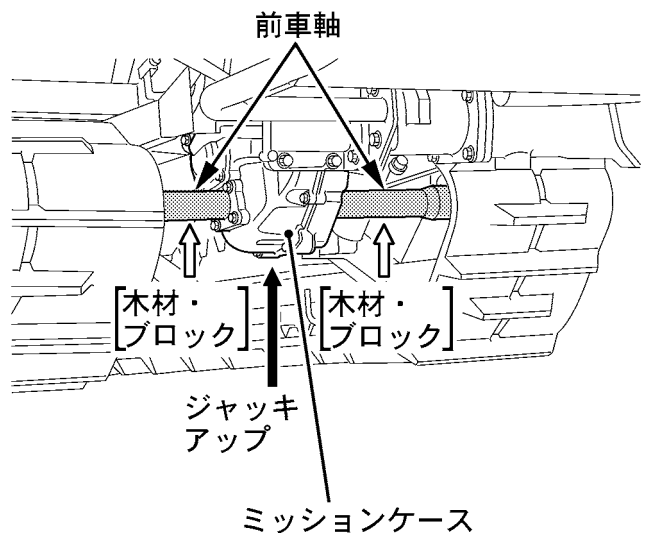
警 告

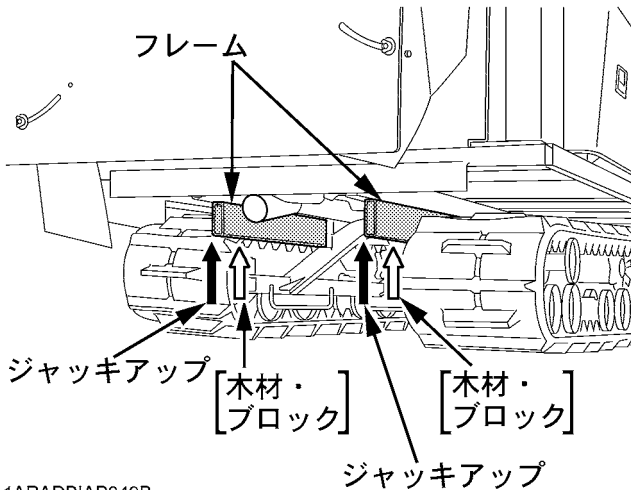
＊ 点検・調整を行なうときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてから行なってください。

注 意

＊ 平たんな場所で刈取部を上げて，刈取下降ロックスイッチを［ロック］位置にして刈取部の下降防止を行なってください。さらに，枕木などを使用して，落下防止の歯止めをしてください。
＊ ジャッキアップを行なうときは，コンクリートなど地面の固い場所でバランスのとれた位置にして作業してください。
＊ ジャッキは持上荷重が２トン以上の物を使用してください。
＊ 機体にセットする木材やブロックなどは，じゅうぶんな強度があるもので，セットするときは機体から外れないように注意しながら行なってください。

地面からクローラを約 10cm 浮かした状態で，第３転輪とクローラ下側のたるみを10～20mmに調整してください。また，調整は片側ずつ行なってください。

1ARADBIAP133B

1ARADAFAP234A

1. 機体をジャッキアップして，クローラを地面から 10cm 程度浮かせます。
   (1) 前側はミッションケース部の調整を行なう側の前車軸に木材やブロックをセットします。

1ARADBIAP164A

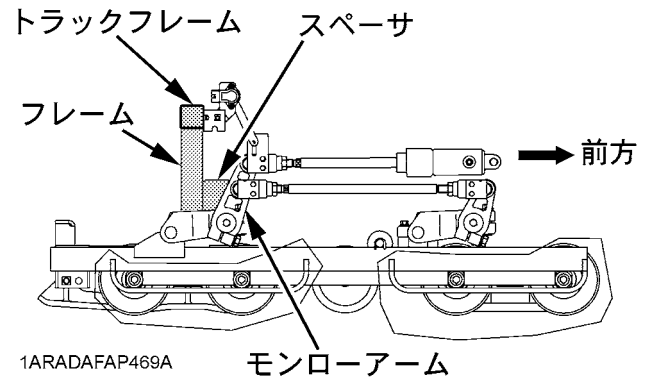
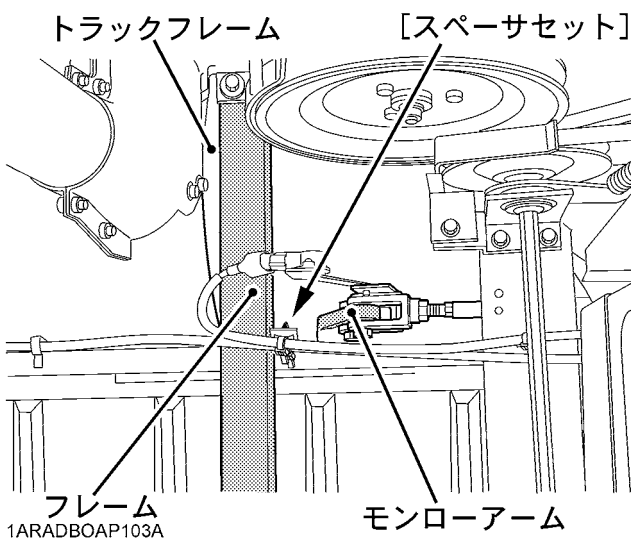
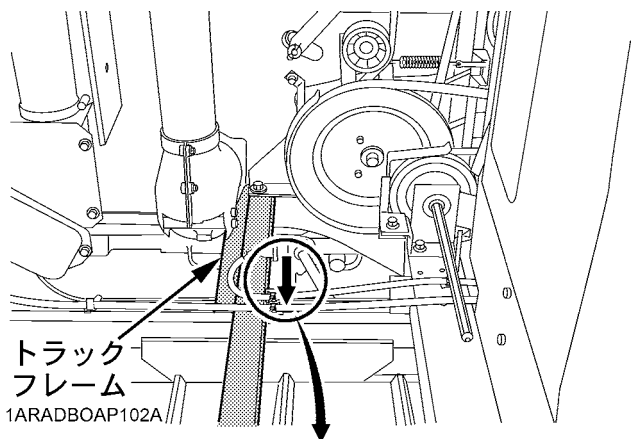
   (2) 後部は機体フレームの下図位置に調整を行なう側のフレームに木材やブロックをセットします。

1ARADBIAP049B

[M 仕様]

(3) グレンタンクを開いたあと，機体右側にあるフレームとモンローアームの間にトラックフレーム落下防止用のスペーサをセットします。

1ARADBOAP102A

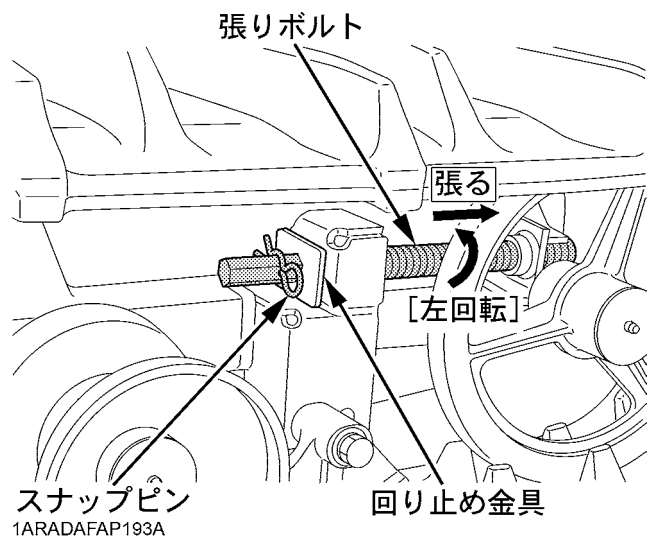
1ARADBOAP103A

1ARADAFAP469A

補　足

＊ スペーサは金属や固い木材片を使用してください。
＊ スペーサをセットしないと，機体を上昇したあと，トラックフレームが自然落下するため，クローラが下側に張り，正しい調整が行なえなくなります。

[M 仕様]

2. クローラ後部にある張りボルトの回り止め金具を，スナップピンを抜いて取外します。
3. 張りボルトを左に回してクローラを張りながら，すき間の調整を行ないます。

1ARADAFAP193A

4. 左，右両方共に行ない調整後は，回り止め金具を取付けてスナップピンを差込みます。
5. **[M 仕様]** はスペーサを取外し，ジャッキアップしてブロックや木材を取外します。
6. ジャッキを取外します。

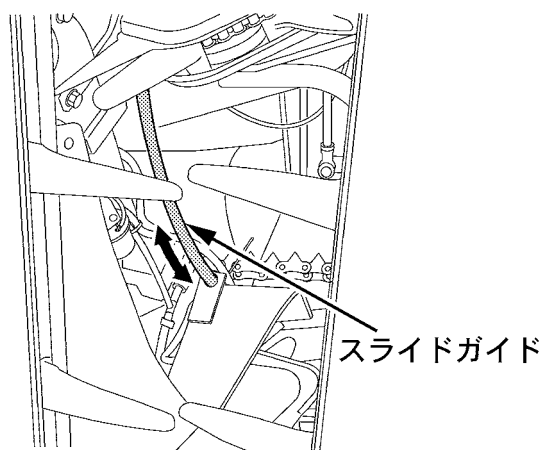
重　要

＊ クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。
＊ クローラがゆるみ過ぎると脱輪したりスプロケット及び芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期 20，及び 50 時間目に点検してください。
＊ クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため，下記事項を守ってください。
  - 日光や雨による劣化防止のため，屋外に長期保管しないでください。
  - オイルや燃料，農薬，肥料など油脂類の付着による劣化防止のため，クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。

■スライドガイドの点検･注油

◆ 点検

メインスイッチのキーを【入】位置にしたあと，手動こぎ深さスイッチを**浅⟷深**に動かすと，供給搬送部が**上⟷下**します。このとき，異音がするときはスライドガイドの作動範囲にグリースの塗布又は，注油をしてください。

◆ 注油個所

刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは，機械の点検・整備を怠らず翌日又は，翌年の刈取作業に備えてください。

■毎日の作業後

注　意

＊ 機体に本機カバーをかけるときは，エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

1. 平たんな場所にコンバインを停めます。
2. 機体各部のわらくずを取除いたあと，必要なときは各部に注油を行ないます。
   （97 ページ参照）
3. アンローダを収納します。
4. 刈取部を地面に接地させます。
5. メインスイッチのキーを抜取ります。
6. 本機カバーをかけます。

■長期格納時

刈取のシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき，格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

◆ 各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて下記事項を行なってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で水分をふき取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを，完全に取除いてください。

重 要

＊ 機体を洗う場合は，電装部品に水が掛からないようにしてください。
＊ 各グリースニップルには，高圧水を直接かけないでください。水が浸入し，故障の原因となります。
＊ 作業シーズン終了後及び長期格納する前には，メンテナンスの **［給・注油（水）一覧表］**（112 ページ）を参照して，各部の給・注油（水）を行なってください。

補 足

＊ 各部にもみやわらくずが残っていると，ネズミに配線部をかじられて，故障の原因となるのできれいに取除いてください。
＊ 各チェーン，各回転部分や摩擦しゅう動部分には，さびが発生しないように洗車後にじゅうぶん注油してください。
＊ 塗料のはがれた所には補修塗料を塗って，さびが発生しないようにしてください。

◆ ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため，排水又は，不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。

1. ラジエータ及びリザーブタンクの冷却水を排水します。(121 ページ参照)
2. ラジエータキャップに**水なし**と書いた札を掛けておいてください。

● 不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行なって，ラジエータ及びリザーブタンクには，不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。(121 ページ参照)

重 要

＊ 冷却水には，不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比は最高でも 50% 以下），よく水と混ぜ合せてからお使いください。(冷却水容量……3.3L)
＊ 不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
＊ 不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
＊ クボタ不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は２年間です。必ず２年で交換してください。

◆ バッテリ

危 険

＊ 保管や持運びの際にバッテリに火気を近付けたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

注 意

＊ バッテリを点検するときは，エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。

長期間使用しない場合は，できるだけバッテリを機体から取外してください。また，以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し，必要に応じて補充電を行なってください。（バッテリ液補水タイプは，補水してから補充電を行なってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は１カ月，冬は２カ月に１回それぞれ点検し，必要に応じて補充電を行なってください。
- 次のような場所に保管してください。
  (1) 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  (2) 雨露が少なく，水没のおそれがない場所
  (3) バッテリの有害なガスや液，粉じんの発生が起こらない場所

機体に取付けている場合は，（−）側のケーブルを必ず取外してください。

◆ 各レバー・その他

点検・整備が終わったあと，納屋などに停めておくときは刈取部を地面に接地させて，下記事項を行なってください。

- デバイダキャップを取付けたあと，分草かんを収納します。
- アンローダ受けを下げてアンローダを折りたたみ収納します。
- アクセルレバーをいっぱい戻して（**[🐢]** 位置）止めておきます。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- 作業スイッチは **[切]**（消灯）位置にします。
- 車体水平制御は，機体いっぱいまで下げます。
- メインスイッチのキーは，必ず抜取って保管します。
- 本機カバーを掛けます。

警　告

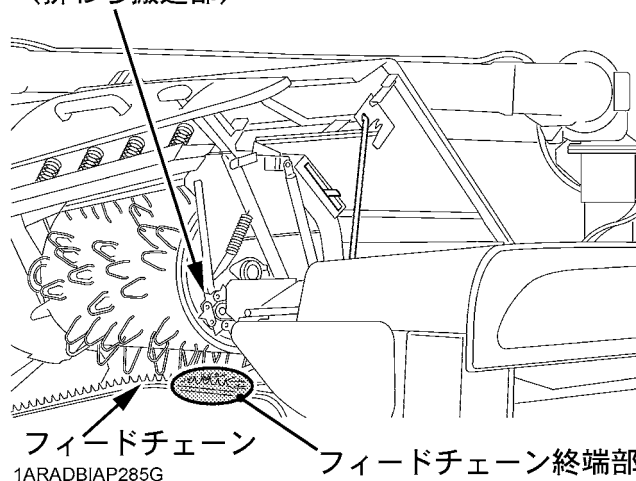
- ＊ エンジンを必ず止めて，メインスイッチのキーを抜いてください。
- ＊ 取外したり，開いた回転部のカバー類は衣類などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。
- ＊ 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
- ＊ 刃先に直接手を触れないでください。

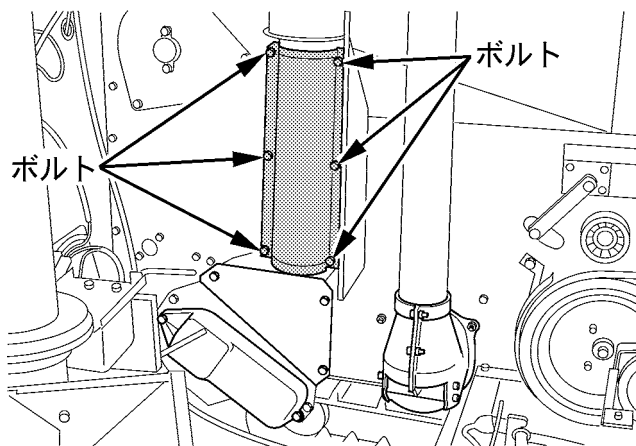
わらが詰まる

■自動エンジン停止装置がはたらいたとき

◆ フィードチェーン終端部・排わら搬送部

自動エンジン停止装置がはたらき，警報パネルの排ワラランプが点灯したときには，掃除してください。

1ARADBIAP285G

◆ 2 番縦スクリュ掃除口

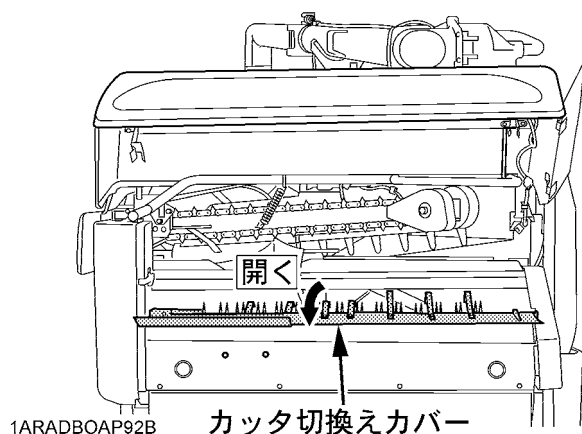
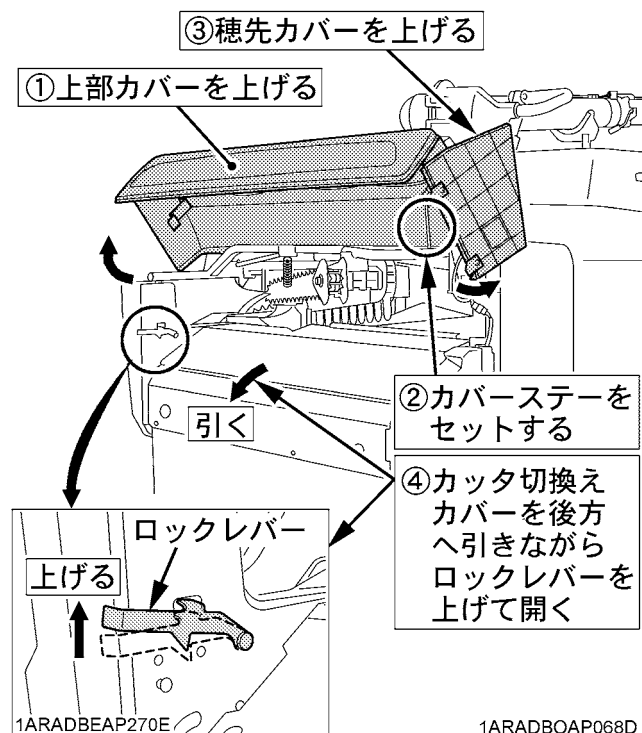
警報パネルの２番ランプが点灯したときには，縦スクリュ掃除口のボルト６本を取外して脱着カバーを外してください。

1ARADBIAP016E

◆ カッタ部・排わらチェーン部

自動エンジン停止装置がはたらき，警報パネルの排ワラランプが点灯したときには，次の手順で掃除してください。

1. カッタ切換えカバーを開きます。
   (1) 上部カバーを上げてカバーステーをセットしたあと，穂先カバーを上げます。
   (2) カバーロックレバーを引き，カッタ切換えカバーを後方へ倒します。

③穂先カバーを上げる
①上部カバーを上げる
引く
②カバーステーをセットする
④カッタ切換えカバーを後方へ引きながらロックレバーを上げて開く
ロックレバー
上げる
1ARADBEAP270E
1ARADBOAP068D

開く
カッタ切換えカバー
1ARADBOAP92B

補　足

＊ 必要に応じて，このあとカッタ開いて掃除を行なってください。
＊ カッタ切換えカバーを開けたままでは，エンジンをかけても作業スイッチ【入】にするとエンジンが止まります。

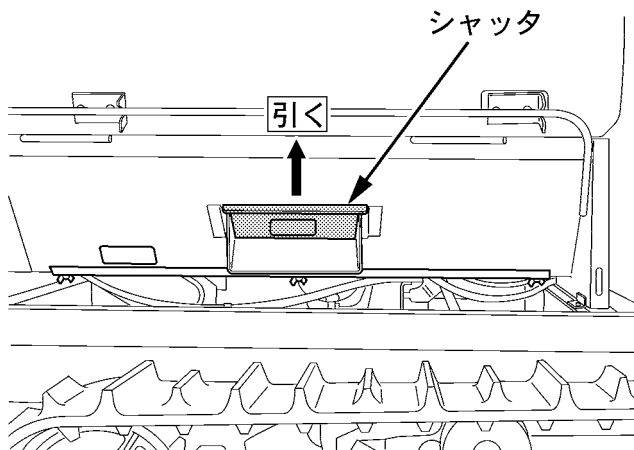
2. カッタ切換えカバーを前方に倒して閉じます。そのあと，カッタ切換えカバーを軽く引き，カバーロックレバーでロックされていることを確認します。

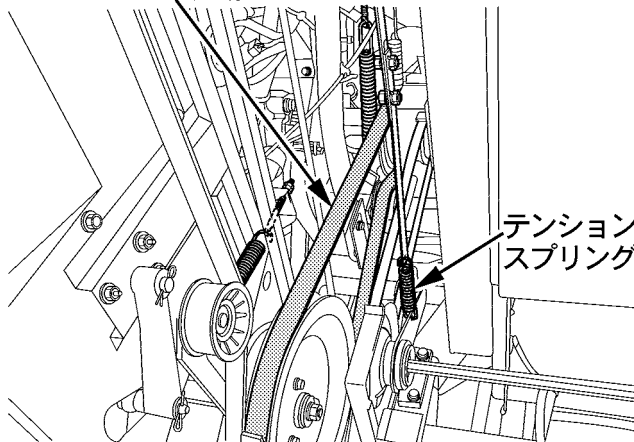
もみが詰まる

■アンローダからもみが排出されないとき

下記事項を点検し，もみ排出クラッチを【切】位置にしたあと，エンジンを必ず止めてから処置してください。

1. 異物がかみ込んでいるときは，アンローダの各掃除口を点検（92 ページ参照）し，異物を取除きます。
2. グレンタンク駆動ベルトがスリップしているときは，シャッタを引きもみを排出したあと，グレンタンクを開いて（90　ページ参照），グレンタンク駆動ベルトのテンションスプリングの調整（139　ページ参照）をします。調整を行なってもスリップが止まらないときは，ベルト交換を行なってください。

シャッタ
引く

1ARADBIAP017C

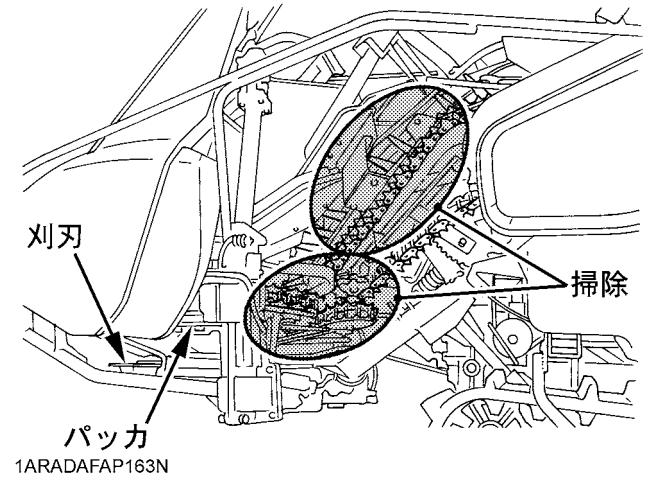
グレンタンク駆動ベルト
テンション
スプリング

1ARADAFAP221A

泥やわらが詰まる

■株元搬送通路の泥やわらの取除きかた

湿田や倒伏作物，雑草の多いほ場で刈取り作業を行なったとき，刈取部の搬送通路が泥やわらくずでふさがったときは，取除いてください。

1. エンジンを停止します。
2. 刈刃後方やパッカ下部などの搬送通路を掃除します。

刈刃
掃除
パッカ

1ARADAFAP163N

目次
安全
サービスと保証について
装置名称と取扱い
運転のしかた
収穫作業のしかた
メンテナンス
コンバインの不調と処置
付表
索引

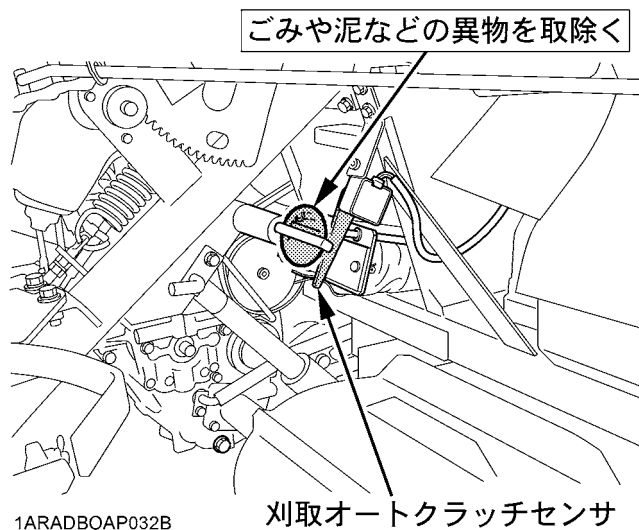
■刈取オートクラッチセンサ部のゴミや泥の取除きかた

刈取作業中に刈取部を上昇しても刈取部及び刈取搬送が停止しないときは，刈取オートクラッチセンサのセンサ部にわらくずなどのゴミや泥などが溜まってセンサが作動不良の状態になっている場合がありますので，センサ部に溜まっているゴミや泥などを掃除して取除いてください。

1. エンジンを停止します。
2. 刈取オートクラッチセンサに溜まっているゴミや泥などを取除きます。
3. エンジンを始動したあと，刈取部を最上昇位置にします。
4. エンジンを停止したあと，刈取オートクラッチセンサが戻っている（上がっている）ことを確認します。

ごみや泥などの異物を取除く

刈取オートクラッチセンサ

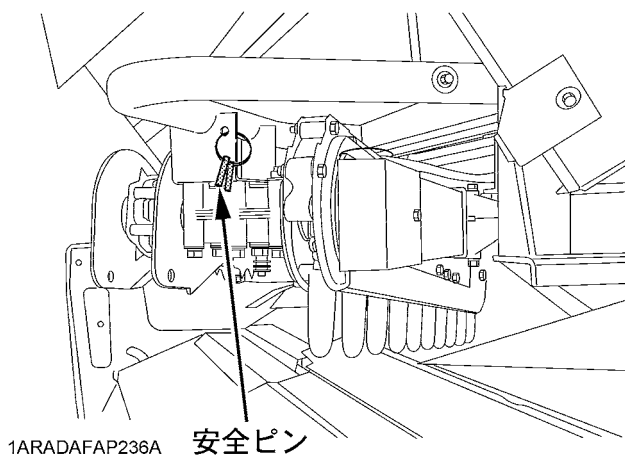
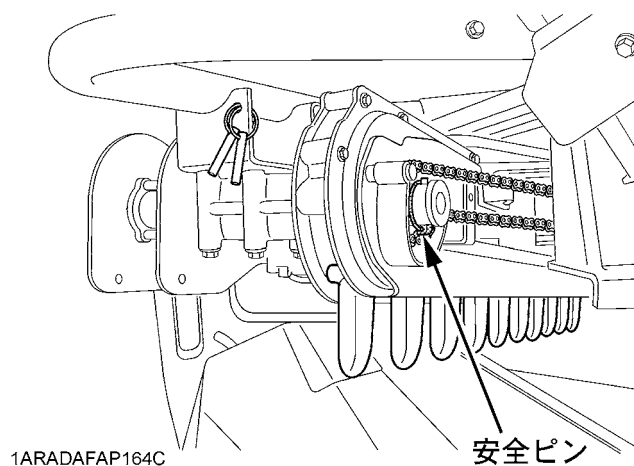
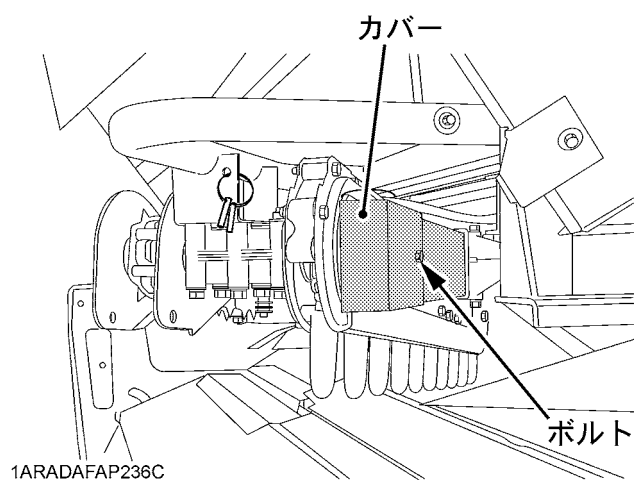
1ARADBOAP032B

その他

■安全ピンについて

排わら処理を行なっているとき，排わら穂先・株元各チェーンに負荷が掛かると，チェーンの駆動部に入っている安全ピンが切れてチェーンが動かなくなりますので，刈取り作業状態で排わら穂先・株元各チェーンが動かないときは購入先に連絡してください。

補　足

＊ 予備の安全ピンを出荷時は下記のところに設置しています。

1ARADAFAP236A　安全ピン

＊ 安全ピンはボルト１本を取外してカバーを取外すと，下図の位置に取付けています。

＊ 排わら穂先・株元各チェーンが動かなくなるとフィードチェーン終端部がわら詰まりにより，自動エンジン停止がはたらき，エンジンが停止しますので，わら詰まりを取除いたあと，脱こく部を動かしてチェーンの作動状態を確認してください。

付表

主要諸元

<table>
<tr><td colspan="2">農機型式名</td><td colspan="2">クボタ　R1003</td></tr>
<tr><td colspan="2">商品名</td><td colspan="2">ER320G</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td><td>W［W2］</td><td>MW［W2］</td></tr>
<tr><td rowspan="3">機体寸法</td><td>全長 (mm)</td><td colspan="2">3470</td></tr>
<tr><td>全幅 (mm)</td><td colspan="2">1690</td></tr>
<tr><td>全高 (mm)</td><td colspan="2">1980</td></tr>
<tr><td colspan="2">機体質量 (kg)</td><td>1275［1295］</td><td>1325［1345］</td></tr>
<tr><td rowspan="8">エンジン</td><td>型式名</td><td colspan="2">D1105-E3-C-16</td></tr>
<tr><td>種類</td><td colspan="2">水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル</td></tr>
<tr><td>総排気量 (L{cc})</td><td colspan="2">1.123{1123}</td></tr>
<tr><td>出力／回転速度 (kW{PS}/n/min{rpm})</td><td colspan="2">14.7{20.0}/2500{2500}</td></tr>
<tr><td>使用燃料</td><td colspan="2">ディーゼル軽油</td></tr>
<tr><td>燃料タンク容量 (L)</td><td colspan="2">24</td></tr>
<tr><td>始動方式</td><td colspan="2">セルモータ式</td></tr>
<tr><td>バッテリ (V・Ah)</td><td colspan="2">12・36〔50B24L-MF〕</td></tr>
<tr><td rowspan="9">走行部</td><td>クローラ 中心距離 (mm)</td><td colspan="2">890［910］</td></tr>
<tr><td>クローラ 幅×接地長 (mm)</td><td colspan="2">360×1250［400×1250］</td></tr>
<tr><td>クローラ 平均接地圧 (kPa{kgf/cm²})</td><td>13.9{0.14}
［12.7{0.13}］</td><td>14.4{0.15}
［13.2{0.13}］</td></tr>
<tr><td>最低地上高 (mm)</td><td colspan="2">205［210］</td></tr>
<tr><td>変速方式</td><td colspan="2">油圧モータ式〔HST〕</td></tr>
<tr><td>変速段数</td><td colspan="2">前進無段・後進無段〔副変速各２段〕</td></tr>
<tr><td>走行速度 (m/s)〔エンジン定格回転速度時〕 前進</td><td colspan="2">〔副変速〕移動：0～1.44　作業：0.15～0.80</td></tr>
<tr><td>走行速度 (m/s)〔エンジン定格回転速度時〕 後進</td><td colspan="2">〔副変速〕移動：0～1.01　作業：0～0.56</td></tr>
<tr><td>旋回方式</td><td colspan="2">BCT〔ブレーキ・クラッチコントロール・ターン〕</td></tr>
<tr><td rowspan="7">刈取部</td><td>刈取り条数 (条)</td><td colspan="2">3</td></tr>
<tr><td>刈幅〔デバイダ先端間隔〕 (mm)</td><td colspan="2">1225</td></tr>
<tr><td>刈取装置形式</td><td colspan="2">往復動刃式</td></tr>
<tr><td>刃幅 (mm)</td><td colspan="2">1150</td></tr>
<tr><td>変速段数 (段)</td><td colspan="2">〔定速〕２</td></tr>
<tr><td>刈高さ範囲 (mm)</td><td colspan="2">35～150</td></tr>
<tr><td>こぎ深さ調節方式</td><td colspan="2">電動モータ式</td></tr>
<tr><td rowspan="8">脱こく部</td><td>脱こく方式</td><td colspan="2">下こぎ・単胴・軸流式</td></tr>
<tr><td>こぎ胴 径×幅 (mm)</td><td colspan="2">390×600</td></tr>
<tr><td>こぎ胴 回転速度 (rpm)</td><td colspan="2">540</td></tr>
<tr><td>処理胴 径×幅 (mm)</td><td colspan="2">190×100〔ツースバー処理方式〕</td></tr>
<tr><td>処理胴 回転速度 (rpm)</td><td colspan="2">1200</td></tr>
<tr><td>２番還元方式</td><td colspan="2">スクリュ式</td></tr>
<tr><td>揺動板 幅×長さ (mm)</td><td colspan="2">510×1140</td></tr>
<tr><td>選別方式</td><td colspan="2">揺動・圧風・全幅吸引</td></tr>
</table>

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

項目			W〔W2〕	MW〔W2〕
農機型式名			クボタ　R1003	
商品名			ER320G	
区分			W〔W2〕	MW〔W2〕
こく粒処理部	排出方式		スクリュコンベア式	
こく粒処理部	タンク容量（L{袋}）		650{約13}〔1袋約50L〕	
こく粒処理部	旋回範囲（度）・旋回方式		255〔アンローダ収納位置から左回り〕・電動モータ式	
こく粒処理部	昇降範囲（度）・昇降方式		0〔水平〕～45・油圧式	
こく粒処理部	排出高さ〔作業時〕(mm)		1820～4335	
こく粒処理部	排出長さ〔作業時〕(mm)		2235～3295	
わら処理部	工場出荷仕様		●カッタ又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：38mm又は，60mm〔切断刃：標準切断刃〕	
わら処理部	オプション		●カッタ後部標準結束機　●カッタ後部ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロッパ　●簡易拡散装置	
諸装置	自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○
諸装置	自動化装置	刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕	○	○
諸装置	自動化装置	自動車体水平制御	−	○
諸装置	自動化装置	自動脱こく制御	○	○
諸装置	自動化装置	アンローダ　自動旋回装置	○	○
諸装置	自動化装置	アンローダ　排出位置選択	○	○
諸装置	自動化装置	自動エンジン停止装置	○	○
諸装置	刈取突込み防止装置		○	○
諸装置	左分草かん開閉装置		○	○
諸装置	枕こぎオートプレート		○	○
諸装置	パワークラッチ〔刈取・脱こく〕		○	○
諸装置	集中注油装置		○	○
諸装置	もみシャッタ		△	△
諸装置	アンローダリモコン		△	△
諸装置	パワークラッチ〔もみ排出〕		△	△
諸装置	防じんカバー		△	△
諸装置	警報装置		燃料，充電，オイル，水温（オーバーヒート），もみ満杯，負荷，2番詰まり， シーブ詰まり，排わら詰まり〔結束機わら詰まり/ひも切れ［結束機付き仕様］〕	
適応作物範囲〔全長〕(mm)			550～1300	
倒伏適応性（度）			追刈り：85以下・向刈り：70以下	
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})			24～9{25～67}	

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　○：標準装備　−：非装備（後付け不可）△：オプション（後付け可）

付表

農機型式名			クボタ　R1002	
商品名			ER323G	
区分			W［W2］	MW［W2］
機体寸法	全長(mm)		3470	
機体寸法	全幅(mm)		1690	
機体寸法	全高(mm)		1980	
機体質量(kg)			1295［1315］	1345［1365］
エンジン	型式名		D1105-E3-C-17ARN	
エンジン	種類		水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル	
エンジン	総排気量(L{cc})		1.123{1123}	
エンジン	出力／回転速度 (kW{PS}/n/min{rpm})		16.9{23.0}/2800{2800}	
エンジン	使用燃料		ディーゼル軽油	
エンジン	燃料タンク容量(L)		24	
エンジン	始動方式		セルモータ式	
エンジン	バッテリ(V・Ah)		12・36〔50B24L-MF〕	
走行部	クローラ	中心距離(mm)	890［910］	
走行部	クローラ	幅×接地長(mm)	360×1250［400×1250］	
走行部	クローラ	平均接地圧 (kPa{kgf/cm^2})	14.1{0.14} [12.9{0.13}]	14.7{0.15} [13.4{0.14}]
走行部	最低地上高(mm)		205［210］	
走行部	変速方式		油圧モータ式〔HST〕	
走行部	変速段数		前進無段・後進無段〔副変速各２段〕	
走行部	走行速度(m/s)〔エンジン定格回転速度時〕	前進	〔副変速〕移動：0～1.62　　作業：0.17～0.90	
走行部	走行速度(m/s)〔エンジン定格回転速度時〕	後進	〔副変速〕移動：0～1.13　　作業：0～0.63	
走行部	旋回方式		BCT〔ブレーキ・クラッチコントロール・ターン〕	
刈取部	刈取り条数(条)		3	
刈取部	刈幅〔デバイダ先端間隔〕(mm)		1225	
刈取部	刈取装置形式		往復動刃式	
刈取部	刃幅(mm)		1150	
刈取部	変速段数(段)		〔定速〕２	
刈取部	刈高さ範囲(mm)		35～150	
刈取部	こぎ深さ調節方式		電動モータ式	
脱こく部	脱こく方式		下こぎ・単胴・軸流式	
脱こく部	こぎ胴	径×幅(mm)	390×600	
脱こく部	こぎ胴	回転速度(rpm)	540	
脱こく部	処理胴	径×幅(mm)	190×100〔ツースバー処理方式〕	
脱こく部	処理胴	回転速度(rpm)	1200	
脱こく部	2番還元方式		スクリュ式	
脱こく部	揺動板	幅×長さ(mm)	510×1140	
脱こく部	選別方式		揺動・圧風・全幅吸引	

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

項目		W［W2］	MW［W2］
農機型式名		クボタ　R1002	
商品名		ER323G	
区分		W［W2］	MW［W2］
こく粒処理部	排出方式	スクリュコンベア式	
こく粒処理部	タンク容量 (L{袋})	650{約13}〔1袋約50L〕	
こく粒処理部	旋回範囲（度）・旋回方式	255〔アンローダ収納位置から左回り〕・電動モータ式	
こく粒処理部	昇降範囲（度）・昇降方式	0〔水平〕～45・油圧式	
こく粒処理部	排出高さ〔作業時〕(mm)	1820～4335	
こく粒処理部	排出長さ〔作業時〕(mm)	2235～3295	
わら処理部	工場出荷仕様	●カッタ又は，●カッタ＋標準結束機 カッタ切断長さ：38mm又は，60mm〔切断刃：標準切断刃〕	
わら処理部	オプション	●カッタ後部標準結束機　●カッタ後部ストンパ結束機 ●カッタ後部ドロッパ　●簡易拡散装置	
諸装置・自動化装置	自動こぎ深さ制御	○	○
諸装置・自動化装置	刈取オートクラッチ〔刈取部上昇時搬送駆動停止装置〕	○	○
諸装置・自動化装置	自動車体水平制御	－	○
諸装置・自動化装置	自動脱こく制御	○	○
諸装置・自動化装置	アンローダ　自動旋回装置	○	○
諸装置・自動化装置	アンローダ　排出位置選択	○	○
諸装置・自動化装置	自動エンジン停止装置	○	○
諸装置	刈取突込み防止装置	○	○
諸装置	左分草かん開閉装置	○	○
諸装置	枕こぎオートプレート	○	○
諸装置	パワークラッチ〔刈取・脱こく〕	○	○
諸装置	集中注油装置	○	○
諸装置	もみシャッタ	△	△
諸装置	アンローダリモコン	△	△
諸装置	パワークラッチ〔もみ排出〕	△	△
諸装置	防じんカバー	△	△
諸装置	警報装置	燃料，充電，オイル，水温（オーバーヒート），もみ満杯，負荷，2番詰まり， シーブ詰まり，排わら詰まり〔結束機わら詰まり/ひも切れ［結束機付き仕様］〕	
適応作物範囲〔全長〕(mm)		550～1300	
倒伏適応性 (度)		追刈り：85以下・向刈り：70以下	
作業能率〔計算値〕(a/hr{分/10a})		27～9{23～67}	

※この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。
※諸装置について　○：標準装備　－：非装備（後付け不可）△：オプション（後付け可）

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊	保証書	1
＊	メンテナンスブック	1
＊	取扱説明確認カード	1
＊	取扱説明書	1
＊	本機カバー	1
＊	デバイダ	1 式
＊	デバイダキャップ	1 式
＊	前分草ガイド	1

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

◆ 刈取部

■スイスイデバイダ

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

品　番	品　名	対象型式
5H564-00000	ARNM323 スイスイデバイダ	全型式

■刈取り防じんカバー

運転席側へ飛散してくるごみやちりを防ぐカバーです。

品　番	品　名	対象型式
5K250-9130-0	オプション, アッシ（ボウジン）	全型式

◆ 脱こく部

■種子用交換部品

品　番	品　名	対象型式
5K250-9110-0	コウカンブヒン, アッシ（シュシヨウ）	全型式

■キャノピ

グレンタンク装着型の雨よけ，日よけです。

品　番	品　名	対象型式
5H577-00000	CPN323 キャノピ	全型式

◆ こく粒処理部

■無線アンローダリモコン

アンローダの昇降，旋回やもみの排出の操作が無線で行なえます。

品　番	品　名	対象型式
5H540-95100	パワーユニット，キット (GPK)	全型式

■無線アンローダリモコン・もみシャッタ

無線アンローダリモコンはアンローダの昇降，旋回やもみの排出の操作が無線で行なえます。
また，もみシャッタはアンローダ先端の吐出口からのもみこぼれを防止できます。

品　番	品　名	対象型式
5H540-95200	パワーユニット，キット（モミシャッタ）	全型式

■作業灯

- アンローダ先端部から照らします。

品　番	品　名	対象型式
5H540-9610-0	ランプ，アッシ（G，サギョウトウ）	全型式

- 脱こく部入口を照らします。

品　番	品　名	対象型式
5H550-9210-0	ランプ，アッシ（サギョウトウ）	全型式

◆ 排わら処理部

■ 38mm・60mm切断カッタ

品　番	品　名	対象型式
5F575-00000	S-ER323 カッタ（60mm 切断）	全型式
5F577-00000	SS-ER323 スーパカッタ（38mm 切断）	

■セラミック切断刃

品　番	品　名	個数／台	
		60mm切断	38mm切断
57748-91110	セツダンバ（150×17セラミック）	15	26

■カッタ後部標準結束機

品　番	品　名	対象型式
57960-00000	K-N323SY	全型式

■カッタ後部ストンパ結束機

品　番	品　名	対象型式
57970-00000	K-N323SR	全型式

■カッタ後部ドロッパ

品　番	品　名	対象型式
5F906-00000	DARN323	全型式

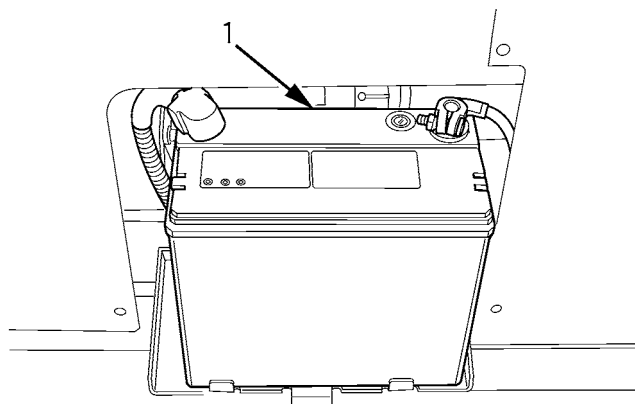
■簡易拡散装置

わら処理部で切わらの拡散と条散布の作業が行なえます。

品　番	品　名	対象型式
5F531-9120-0	カクサン，アッシ（カンイ）	全型式

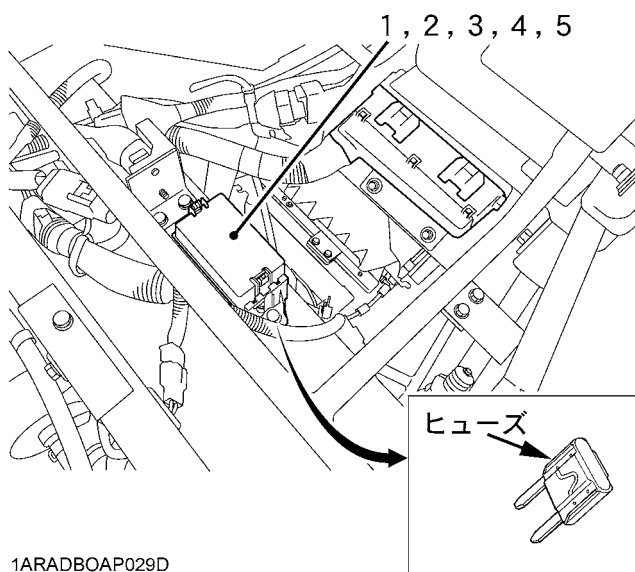
消耗部品（純正部品を使いましょう）

◆ バッテリ

1

1ARADBIAP159D

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	バッテリ	07908-25040	全型式

◆ ヒューズ

1，2，3，4，5

ヒューズ

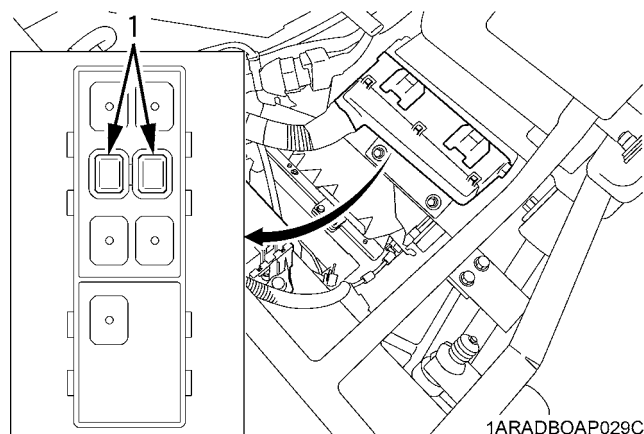
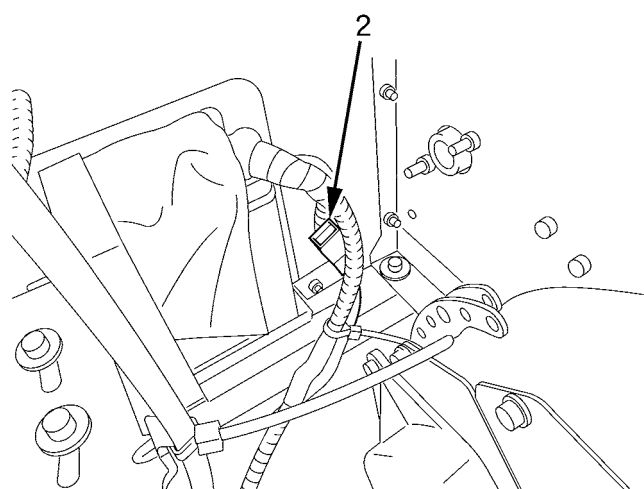
1ARADBOAP029D

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ヒューズ（ミニ 5A）	T1060-3043-0	全型式
2	ヒューズ（10A，オート）	5H050-4162-0	
3	ヒューズ（15A，オート）	5H050-4163-0	
4	ヒューズ（20A，オート）	5H050-4164-0	
5	ヒューズ（25A，オート）	5H050-4165-0	

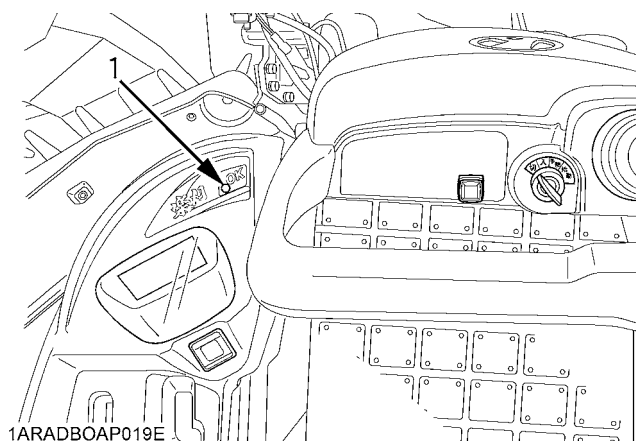
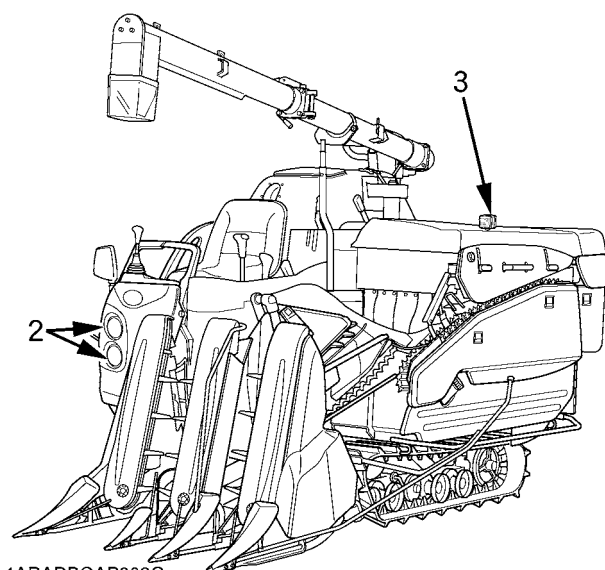
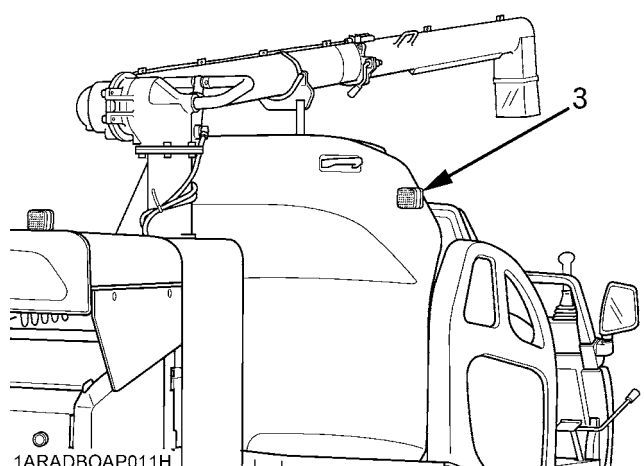
◆ スローブローヒューズ

1

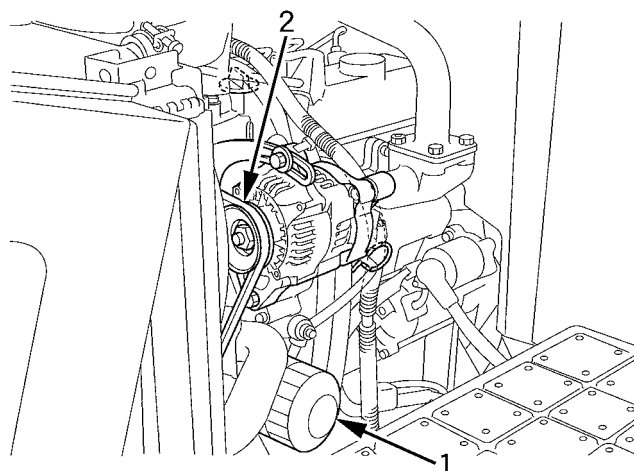
1ARADBOAP029C

2

1ARADBOAP026B

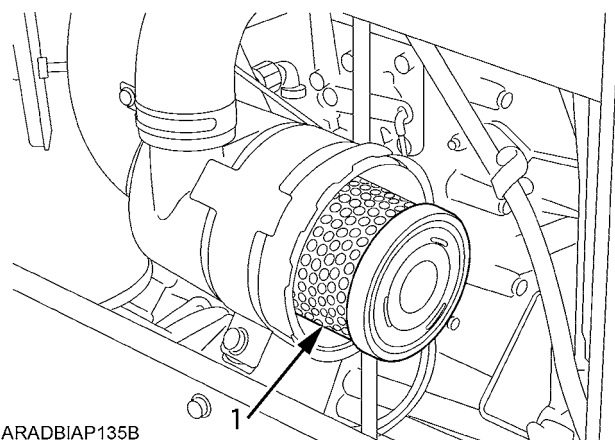
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	スローブローヒューズ（ミニ，40A）	3C581-7717-0	全型式
2	スローブローヒューズ（40A）	PJ402-6873-0	

◆ ランプ（電球・LED）

1ARADBOAP019E

1ARADBOAP002G

1ARADBOAP011H

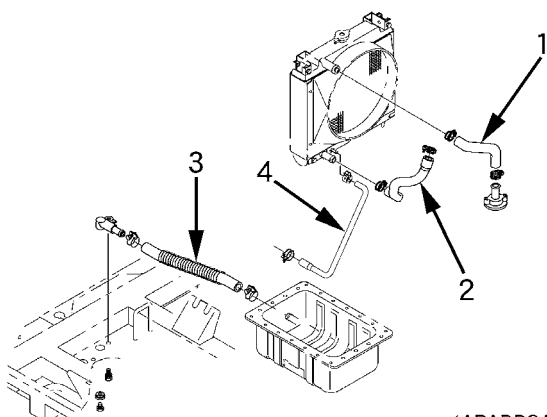
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ランプ（インジケータ）	5H540-4155-3	全型式
2	バルブ （ヘッドライト 55W）	K3611-5515-0	
5	バルブ（12V,21W）	T2255-9912-0	

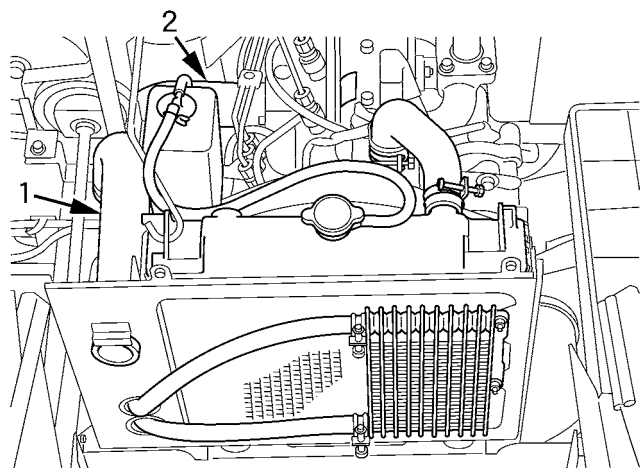
◆ オイルフィルタカートリッジ
◆ ファン駆動ベルト（37 ブイベルト）

1ARADBOAP048E

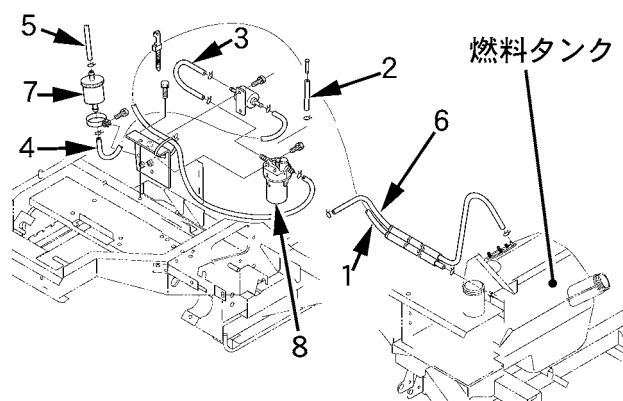
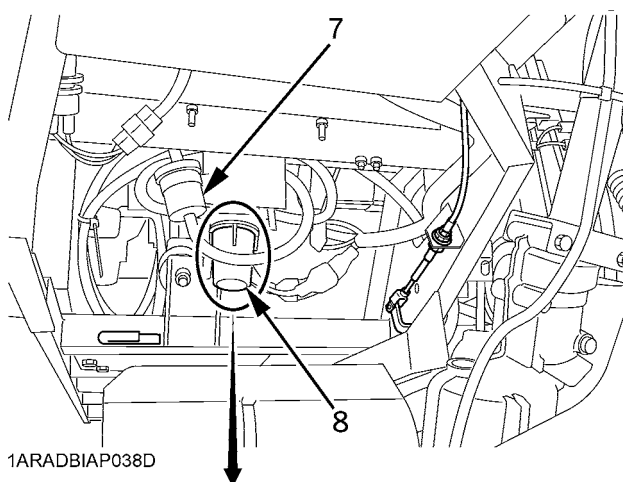
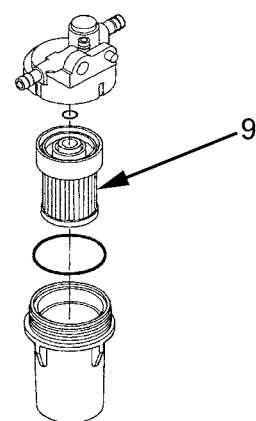
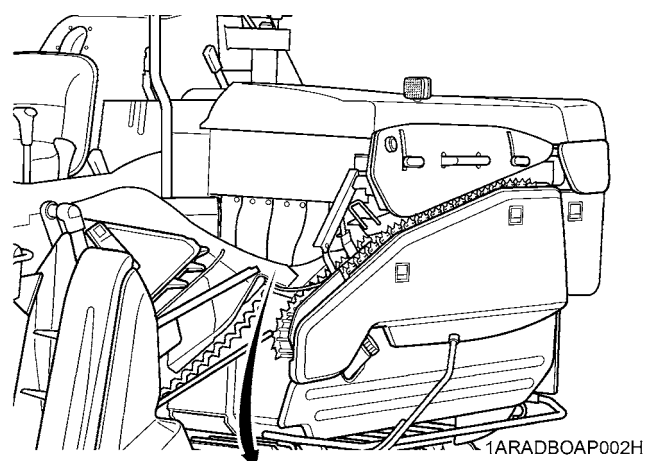
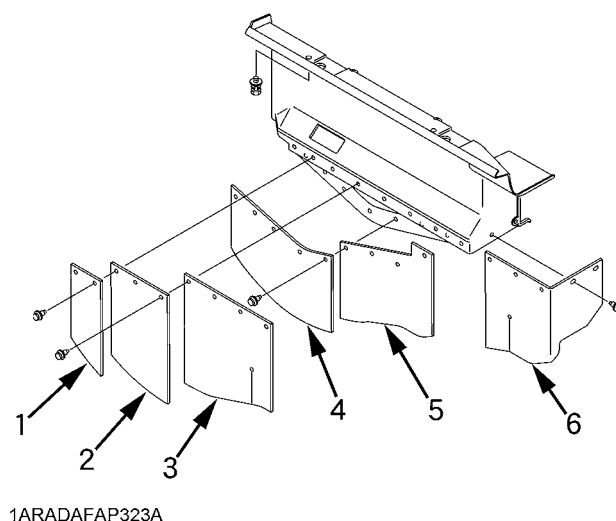
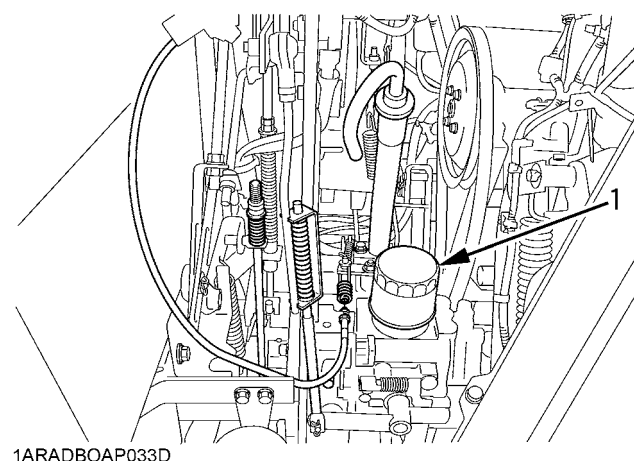
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタ，アッシ （オイル，カートリッジ）	16271-3209-2	全型式
2	37V ベルト	16356-9701-0	

◆ エアクリーナエレメント

1ARADBIAP135B

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	エレメントアッシ	K7311-8239-0	全型式

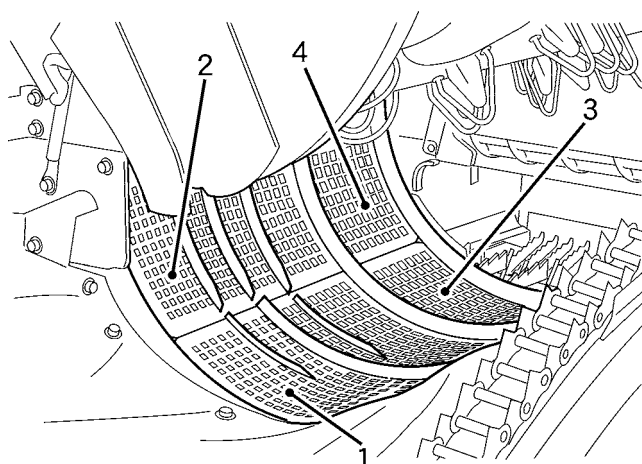
◆ ラジエータホース，
オイルドレーンゴムホース

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ウォータパイプ 2	52300-2544-0	全型式
2	ホース（2，ウォータ）	52320-2539-2	
3	ハイユチューブ	56900-2591-0	
4	チューブ（ハイスイ）	5H522-2592-0	

◆ インレットパイプ
◆ オイルクーラーホース

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チューブ（インレットパイプ）	5H550-2542-4	全型式
2	チューブ（インレットパイプ，2）	5H550-2543-0	

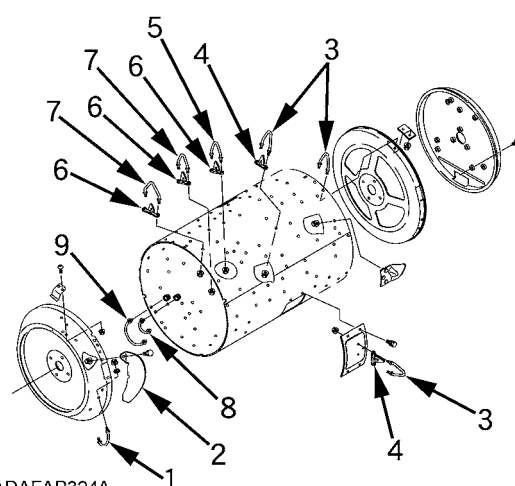
◆ 燃料パイプ
◆ 燃料フィルタアッシ，
フィルタエレメント

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フューエルチューブ	09661-72000	全型式
2	フューエルパイプ	09661-40040	
3	フューエルホース	09661-70200	
4	フューエルチューブ	09661-70300	
5	フューエルチューブ	09661-71000	
6	フューエルチューブ	09661-41400	
7	フューエルフィルタアッシ	12581-4301-2	
8	フィルタ，アッシ（フューエル）	6A320-5886-2	
9	フィルタ	6A320-5993-0	

◆ ミッション・HSTオイルフィルタカートリッジ

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	フィルタ（オイル）カートリッジ	6A600-3901-2	全型式

◆ 脱こくフロントハンプ

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ハンプ（3，フロント）	5K250-6124-2	全型式
2	ハンプ（2，フロント）	5K250-6123-0	
3	ハンプ（1-1，フロント）	5K250-6121-0	
4	ハンプ（4，フロント）	5K250-6125-0	
5	ハンプ（5，フロント）	5K250-6126-0	
6	ハンプ（1-2，フロント）	5K250-6122-0	

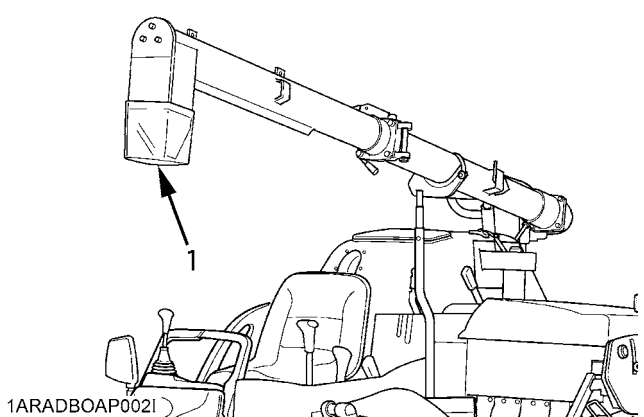
◆ 受あみ

1ARADBIAP086B

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	コンケーブ (10+11.5，1)	5K255-2111-0	全型式
2	コンケーブ (10+11.5，2)	5K255-2112-0	
3	コンケーブ (1，ウチヌキ10)	5K250-2113-5	
4	コンケーブ (2，ウチヌキ10)	5K250-2115-5	

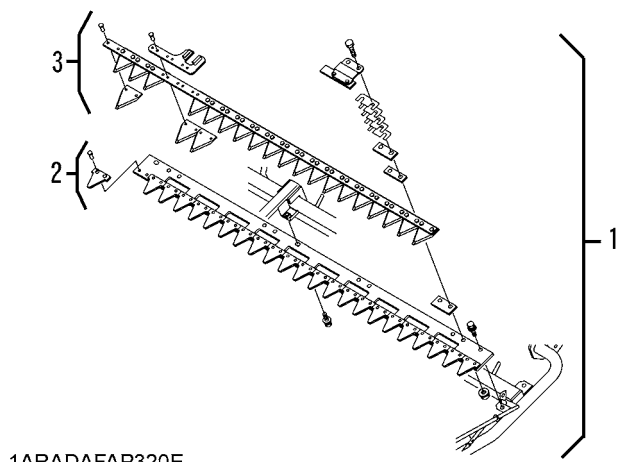
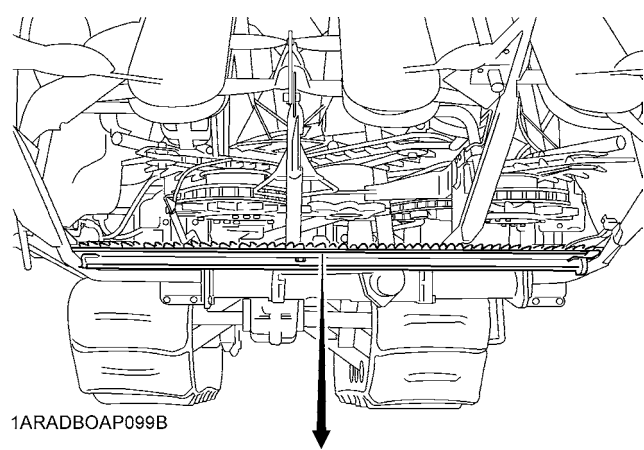
◆ こぎ歯

1ARADAFAP324A

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ダイ１セイソシ	53582-7221-0	全型式
2	イタセイソシ	5K262-2415-0	
3	ナミハ	53582-7219-0	
4	イタコキハ	53567-2147-0	
5	ダイ１ホキョウシ	53582-7216-0	
6	イタホキョウシ	53567-2146-0	
7	ダイ１ホキョウシ	53582-7216-0	
8	ダイ３セイソシシヨウ	53514-7215-0	
9	ダイ３セイソシ	53582-7214-0	

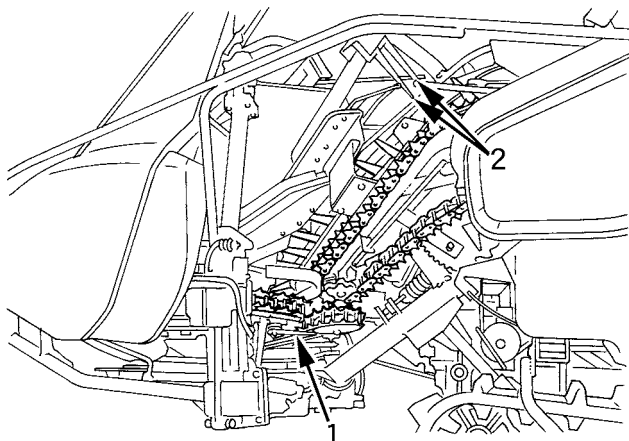
◆ 吐出口ブーツ

1ARADBOAP002I

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	ブーツ	5G030-5124-0	全型式

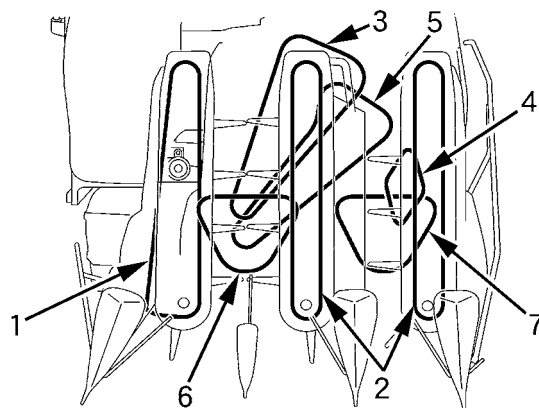
◆ 刈刃

1ARADBOAP099B

1ARADAFAP320E

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	刈刃アッシ	5H540-5801-0	全型式
2	受刃コンプ	5H540-5820-0	
3	刈刃コンプ	5H540-5810-0	

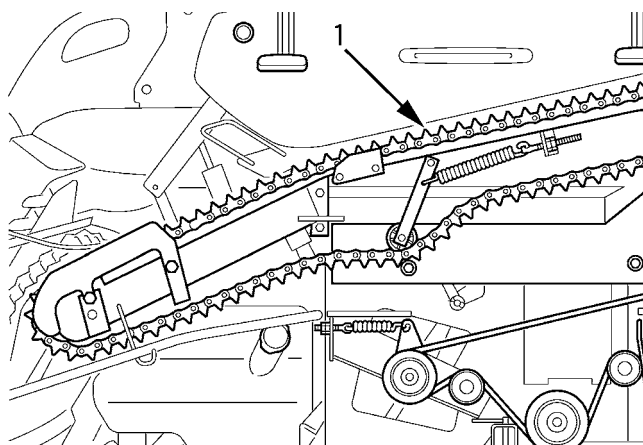
◆ 株元センサ
◆ 穂先センサ

1ARADAFAP163M

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	スイッチ，アッシ（カブモト 100）	5H601-7503-0	全型式
2	センサ，アッシ（ホサキ）	5H550-7534-0	

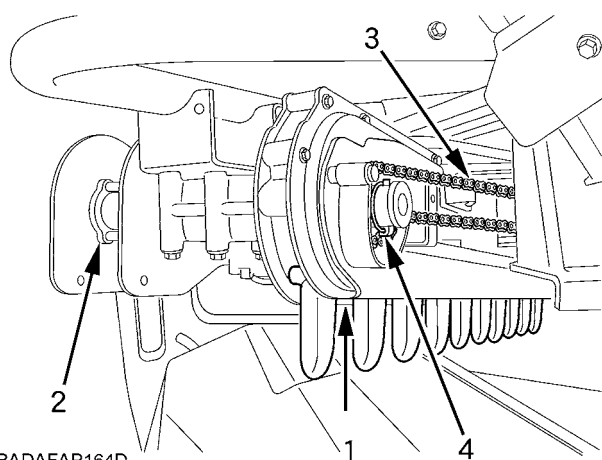
◆ 引起しチェーン
◆ 穂先供給チェーン
◆ 右株元・左株元チェーン

1ARADBOAP055C

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン，アッシ（ヒキオコシ，ミギ）	5H545-5301-0	全型式
2	チェーン，アッシ（ヒキオコシ）	5H235-5301-0	
3	チェーン，アッシ（ホサキ）	5H550-6670-0	
4	チェーン，アッシ（L，ホサキ）	5H550-6801-0	
5	チェーン，アッシ（キョウキュウ）	5H550-6620-0	
6	チェーン，（ミギカブモト）	5H550-6135-0	
7	チェーン，（ヒダリカブモト）	5H550-6159-0	

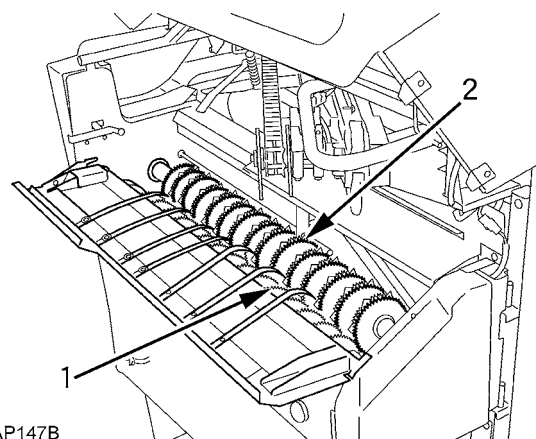
◆ 各チェーン

● フィードチェーン

1ARADAFAP142A

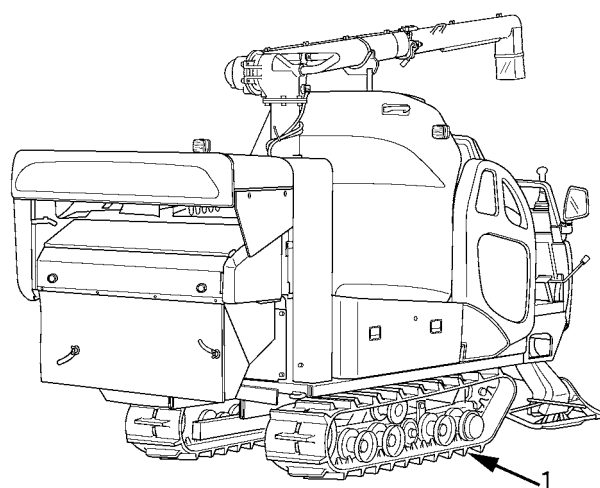
図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン（フィード，104L）	5K250-4215-0	全型式

● 排わら穂先・株元チェーン
● 安全ピン

1ARADAFAP164D

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	チェーン，アッシ（ハイワラホサキ）	5K200-4340-0	全型式
2	チェーン（ハイワラ）	5K250-4311-0	
3	チェーン（ハイワラニュウリョク）	5K250-4366-0	
4	ピン，アッシ	5A000-1780-0	

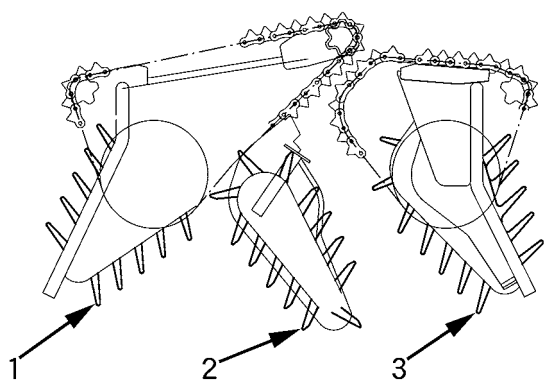
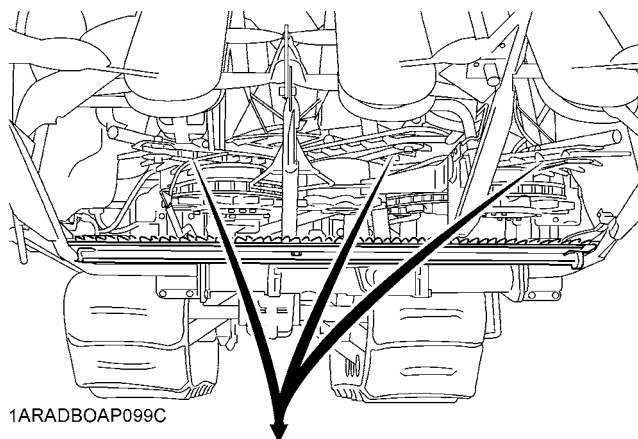
◆ カッタ刃・ギヤロータ

1ARADBIAP147B

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	150 セツダンバ	57783-2121-0	全型式
2	130 ギヤロータ	57783-2138-0	

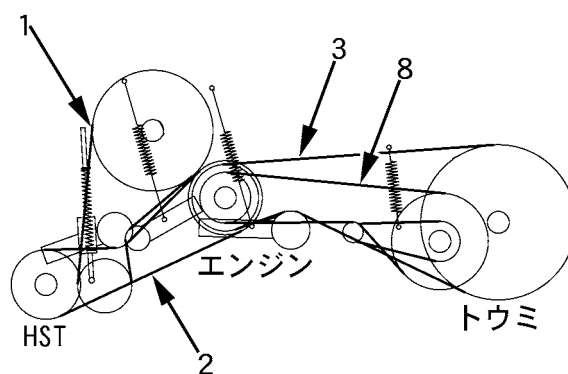
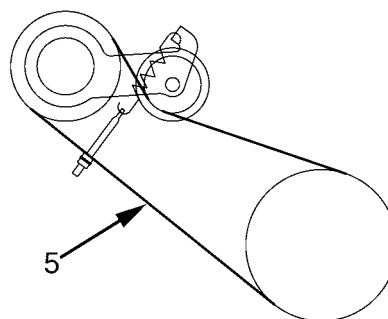
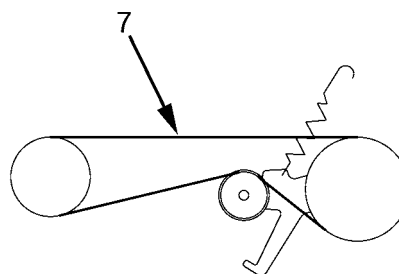
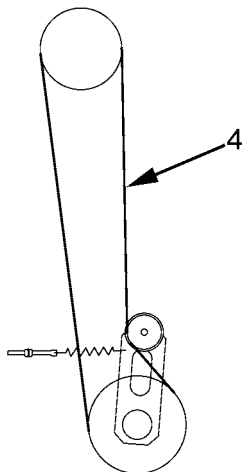
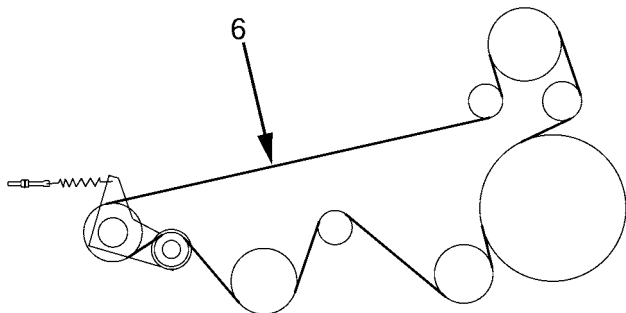
◆ クローラ

1ARADBOAP011I

図番	品　　名	品　番	対象型式
1	クローラ（360-39-90）	5H550-2251-0	W 仕様
	クローラ（400-39-90）	5H550-2252-0	W2 仕様

◆ 突起付ベルト

1ARADBOAP099C

1ARADAFAP247E

図番	品　　名	品　　番	対象型式
1	ベルト（32，トッキ）	5H215-6181-0	全型式
2	ベルト（29，トッキ）	5H550-6181-0	
3	ベルト（35，トッキ）	5H545-6181-0	

◆ 各ベルト

1ARADAFAP245B

1ARADAFAP249B

1ARADAFAP315B

1ARADAFAP248B

1ARADAFAP250B

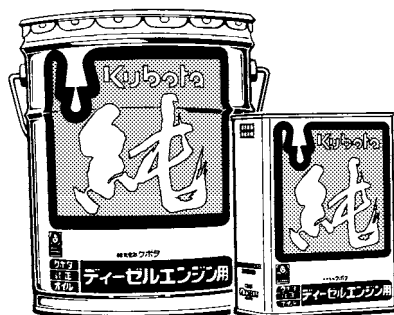
	図番	品　　名	品　番	対象型式
本機	1	Vベルト（B44）	5H550-1275-0	全型式
	2	Vベルト（B45）	5H550-1153-0	全型式
	3	Vベルト（C67）	5H551-1216-0	320
		Vベルト（C66）	5H551-1215-0	323
脱こく	4	Vベルト（C84）	5K250-1581-0	全型式
	5	Vベルト（B50）	5K250-1571-0	全型式
	6	Vベルト（B120）	5K250-2591-0	全型式
カッタ	7	Vベルト（B-47）	5F565-3121-0	全型式
グレンタンク	8	Vベルト（A47）	5H550-1257-2	全型式

クボタ純オイル

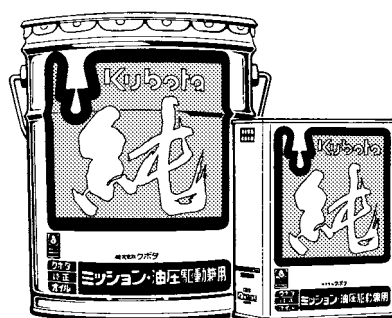
■オイルはクボタ純オイルをお使いください。

オイルは，コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを，必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと，あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

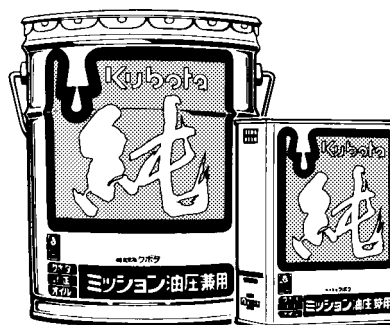
お買求めは，購入先へご用命ください。

● **D10W-30（ディーゼルエンジン用）**

20L　4L

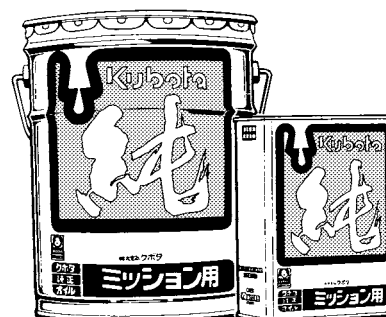
1ARADAFAP393A

● **スーパー UDT-2（油圧駆動・ミッション油圧・各ギヤ兼用）**

20L　4L

1ARADAFAP394A

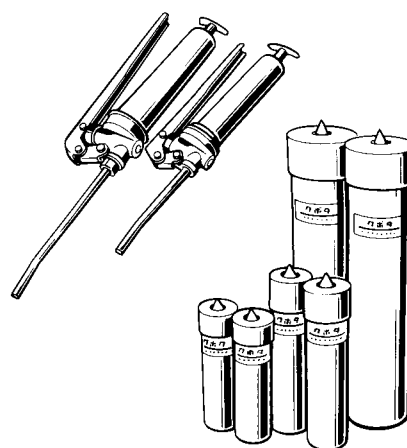
● **M80B（ミッション油圧兼用）**

20L　4L

1ARADAFAP395A

● **M90（一般ミッション・各ギヤ用）**

20L　4L

1ARADAFAP396A

■クボタ純グリース

● **No.2**

60　100　400

1ARADAFAP397A

索引

英数字

あ

い

う

え

お

か

き

く

索引

こ

さ

し

す

せ

そ

た

ち

て

と

な

に

ね

は

ひ

ふ

ほ

ま

み

む

め

も

ゆ

ら

れ

わ

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，該当する項目に記入されると便利です

<table>
<tr><td rowspan="4">購入先名

担当

電話番号（　　　）　　－</td><td colspan="2">型式名</td></tr>
<tr><td colspan="2">区分</td></tr>
<tr><td colspan="2">車台番号（製造番号）</td></tr>
<tr><td colspan="2">エンジン型式

エンジン番号</td></tr>
<tr><td>ご購入日</td><td>キーナンバー</td><td rowspan="2">その他装着型式

機械番号</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
　なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

事務所	電話	郵便番号	住所
秋田事務所	電（018）845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事務所	電（022）384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182-1
東京事務所	電（048）862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５-２-36
新潟事務所	電（025）285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上１-14-15
金沢事務所	電（076）275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956-1
名古屋事務所	電（0586）24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町１-１
大阪事務所	電（06）6470-5850	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜１-１-１
岡山事務所	電（086）279-4511	〒703-8216	岡山市東区宍甘275
米子事務所	電（0859）39-3181	〒689-3547	鳥取県米子市流通町430-12
福岡事務所	電（092）606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１-７-３
熊本事務所	電（096）357-6181	〒861-4147	熊本市南区富合町廻江846-1
株式会社北海道クボタ本社	電（011）661-2491	〒063-0061	北海道札幌市西区西町北16-１-１
株式会社四国クボタ本社	電（087）874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタ

事務所	電話	郵便番号	住所
国内農機カスタマーセンター	電（0570）091313	〒590-0823	大阪府堺市堺区石津北町64

ER320/323
AT. I. 15-16. 3. K

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

LEMA
陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関
協会排出ガス自主規制適合エンジン」
であることを示しています。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　5H540-8611-3